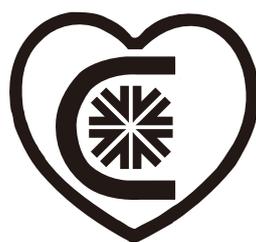


令和4年度
(2022年度)

履修要綱

《14期生》



那覇市医師会那覇看護専門学校
看護学科

〒901-0222 沖縄県豊見城市字渡橋名289番地23
電話 事務部 (098)850-8050
看護学科 (098)840-5574
FAX 事務部 (098)850-6073

目 次

I. 教育理念・教育目的・教育目標	1
1. 教育理念・教育目的・教育目標	
2. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）	
3. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）	
4. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）	
II. 教育課程	5
III. カリキュラムの主要概念	7
IV. 科目体系	11
V. 科目進度計画	14
VI. 各分野の目的・目標	17
VII. 教育内容	25
1. 基礎分野	
1) 科学的思考の基盤	
(1) 情報科学	25
(2) 論理学	27
(3) 心の仕組みの科学	29
(4) 環境科学	31
(5) 文章表現法	33
2) 人間と人間生活・社会の理解	
(1) 教育学	35
(2) 社会学	36
(3) 人間関係論	37
(4) 倫理学	39
(5) 人間と文化	41
(6) 英語 I	42
(7) 英語 II	43
(8) 看護情報論	44
2. 専門基礎分野	
1) 人体の構造と機能	
(1) 人体の構造と機能 I	47
(2) 人体の構造と機能 II	49
(3) 看護形態機能論	51
(4) 看護形態機能論演習	53
(5) 生化学	55
(6) 栄養学	57

2) 疾病の成り立ちと回復の促進	
(1) 微生物学	59
(2) 薬理学	61
(3) 病態学概論	62
(4) 臨床病態学 I	64
(5) 臨床病態学 II	66
(6) 臨床病態学 III	68
(7) 臨床病態学 IV	70
(8) 臨床病態学 V	71
(9) 臨床病態学 VI	73

3) 健康支援と社会保障制度	
(1) 総合医療論	74
(2) 保健学	75
(3) 健康科学	77
(4) 社会福祉	78
(5) 看護と法	81

3. 専門分野

1) 基礎看護学	83
2) 地域・在宅看護論	106
3) 成人看護学	119
4) 老年看護学	133
5) 小児看護学	142
6) 母性看護学	150
7) 精神看護学	160
8) 看護の統合と実践	168
9) 臨地実習	
(1) 基礎看護学	183
(2) 地域・在宅看護論	195
(3) 成人看護学	213
(4) 老年看護学	253
(5) 小児看護学	269
(6) 母性看護学	304
(7) 精神看護学	322
(8) 看護の統合と実践	334

I. 教育の理念・目的・目標

1. 教育理念・目的・目標



教育理念

本校は、人間への深い関心を示す豊かな感性と幅広い教養で、生命の尊厳と人権の尊重ができる倫理観を育み、人々の健康生活を支援し、社会に貢献できる自律した看護師を育成する。その教育は、学習者の主体性を大切に学習者と教師が共に学問を探究し築かれる。

教育目的

本校は、看護師に必要な知識、技術、態度を養い、人間力、判断力、基礎的な看護実践能力を育み、地域医療に貢献できる人材を育成する。

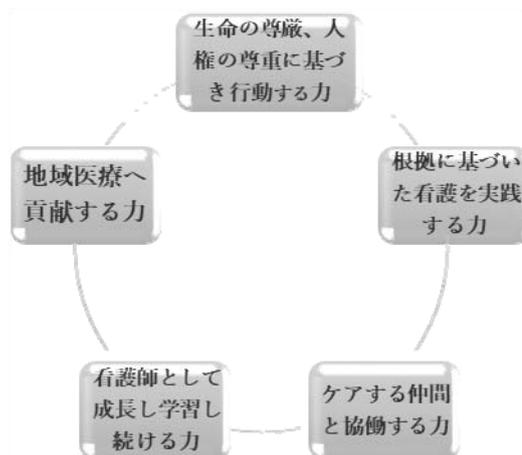
教育目標

1. 人間の生命を尊び、一人ひとりの権利を守る倫理的な行動をとることができる。
2. 他者とのより良い人間関係を築くことができる。
3. あらゆる発達段階、あらゆる人々の健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる。
4. 科学的根拠に基づいた安全・安楽・自立に向けた看護が実践できる基礎的能力を身につける。
5. 看護の役割を理解し、保健・医療・福祉における多職種と連携・協働する基礎的能力を身につける。
6. 看護師としての自覚と責任を持ち、自己を振り返り生涯にわたり自己研鑽し続ける姿勢を身につける。
7. 看護師としての役割を認識し、地域における保健・医療・福祉の発展について考える基礎的能力を身につける。

2. ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）

本校は、「自律した看護師」を育成することを教育理念に掲げた。その教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシー（卒業の認定に関する方針）として「期待する卒業生像」5つの力（人権の尊重に基づき行動する力、根拠に基づき看護を実践する力、仲間と協働する力、学習し続ける力、地域医療へ貢献する力）を設定した。これを基に、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）およびアドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）の関連性を明確化した。

期待する卒業生像（ディプロマ・ポリシー）5つの力



I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

- ・生命の尊厳と人権の意味を説明することができる
- ・多様な価値観をもつ対象の思いに寄り添い倫理に基づいた行動をとることができる
- ・身体的・精神的・社会的側面から統合された存在、生活者として捉えることができる
- ・対象との信頼関係形成に必要なコミュニケーションを展開できる
- ・その人らしい生活（暮らし）が営めるような関わり方ができる

II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

- ・健康状態に応じた状況や現象に気づくことができる
- ・実践する看護の根拠について説明することができる
- ・対象の持つ力を活かして実践することができる
- ・自らの看護実践を振り返り評価することができる

III. ケアする仲間と協働する力

- ・対象を中心とした多職種との連携と協働のあり方について説明できる
- ・多職種連携の場に参加することができる
- ・看護職や多職種とコミュニケーションを通して関係性を築くことができる
- ・多職種との情報交換やカンファレンスを通して多職種の役割を説明できる

IV. 看護師として成長し学習し続ける力

- ・自己の看護を振り返り、自己の課題に取り組むことができる
- ・自己の看護観について説明できる
- ・看護師として成長し学習し続けていく重要性について説明できる

V. 地域医療へ貢献する力

- ・多様な場における看護師としての役割について説明できる
- ・沖縄県および地域医療の現状を知り地域で暮らす人々の健康生活について考えることができる
- ・地域の多文化共生社会におけるグローバルヘルスの視点で健康課題について考えることができる
- ・国内外の動向に関心を持つことの重要性について説明できる

3. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

本校のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーを踏まえた教育目標を達成するため、教育課程の編成に当たっては、学年進行とともに、段階的に知識や技術の習得を積み上げていけるよう漸進型のカリキュラムデザインとし、以下の方針にしたがって、体系的に編成した。

1. 看護師としての基礎的知識・技術・態度を修得するために、3つの分野「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」とし体系的に編成し、講義、演習、校内実習、臨地実習へと段階的に学習を深められるような授業を展開する。
2. 主体的に学ぶことができるように、授業ではプロジェクト学習、協同学習、グループワーク等を中心とするアクティブ・ラーニングを取り入れ、協調性、リーダーシップ、倫理的態度、自己研鑽する態度を身に付けることができるよう編成している。
3. 看護技術教育においては、実習施設の臨床看護師と連携しティーチングアシスタント（TA）として教育に参画してもらい、学生の看護技術実践能力の強化に努めている。
4. 学修成果の評価は、授業科目の目標にあわせ筆記試験・レポート課題等で適正な評価を行っていく。臨地実習においては、社会人基礎力の能力枠組みを活用した「看護師として必要な基礎力」step up スケール（評価表）によるルーブリック評価を用いることで到達度を可視化し、自己教育力を育むとともに総合的な評価を行っていく。

4. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

本校は教育理念のもと、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに示す看護教育を行っている。その教育に理解、共感し看護師を志す入学者を受け入れる。

その入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を以下に示す。

- ・入学後の学修に必要な基礎学力が身に付いている人
- ・人に興味をもち人との関係性を大切にコミュニケーションの素地をもっている人
- ・人間の生命と健康に関心がある人
- ・感性豊かで誠実な人
- ・何事にも興味・関心をもち主体的に考え努力ができる人
- ・他者と協働し柔軟に行動できる人
- ・看護学を学びたいという強い意欲を持った人

看護師として必要な基礎力の評価スケール

評価は、1:あてはまらない 2:あまりあてはまらない 3:かなりあてはまる 4:非常にあてはまるの四段階で評価

能力	能力要素・定義		行動指標	入学時	1年	2年	3年
考え抜く力（シンキング）	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	1. 自己の考えや行動を振り返り課題を見出すことができる				
			2. 課題を明らかにするために、他者の意見を積極的に聞くことができる				
	計画力	課題解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力	3. 目標達成に向けて自己の課題を説明できる				
	創造力	新しい価値を生み出す力（既存の発想にとらわれない）	4. 課題に応じた目標を立てることができる				
5. 目標達成のために優先順位をつけ、計画を立てることができる							
前に踏み出す力（アクション）	主体性	物事に進んで取り組む力（指示待ちでは無く自らやるべきことを見つける力）	6. 進捗状況や不測の事態に合わせて柔軟に計画を修正できる				
			7. 教科外活動を通して視野を広げ、従来の常識や発想を転換し、新たな介入方法を提案することができる				
			8. 複数のもの（物、考え方、技術など）を組み合わせて新しいものを作り出すことができる				
	働きかけ力	他人に働きかけて巻き込む力（やろうと呼びかけ目的に向かう力）	9. 学習シラバス（道しるべ）に示されている目標に向かって自ら積極的に学習できる				
			10. 自分のやるべきことは何かを見極め計画的に取り組むことができる				
			11. 技術経験録を活用し自ら技術習得に取り組むことができる				
実行力	目的を設定し、確実に行動する力（失敗を恐れず行動に移し粘りつよい）	12. 専門書の活用や研修会への参加など、自分の能力を高める行動をとることができる					
		13. 相手の協力を得るために、その必要性（意義、理由、内容など）を伝えることができる					
		14. 協力を得るためのアサーションスキルを活用することができる アサーションスキルとは：相手の意見や考えを尊重しつつ、自己主張し結論を押し付けないスキル					
チームで働く力（チームワーク）	発信力	自分の意思を解りやすく伝える力	15. 目標を達成するために周囲の人に働きかけができる				
			16. 目標達成に向けて積極的に取り組むことができる				
	傾聴力	相手の意見をていねいに聴く力	17. 小さな成果に喜びを感じ、ポジティブに取り組む続けることができる				
			18. 自らの行動に責任を持つことができる				
			19. 自己の考えや意見を筋道を立てて伝えることができる				
			20. 自己の言葉に責任をもち、発言することができる				
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力（自分のやり方に固執しない）	21. 相手の協力を得るためのアサーションスキルを活用することができる アサーションスキルとは：相手の意見や考えを尊重しつつ、自己主張し結論を押し付けないスキル				
			22. 自らの表情や聴く姿勢に配慮して、相手が話しやすい状況をつくることができる				
			23. 内容の確認や質問などを行いながら、相手の意見を正確に理解することができる				
	状況把握力	自分の周囲の人々や物事との関係性を理解する力	24. 自らの行動に責任を持つことができる				
			25. 自己の考えを持ちながら、他人の考えを共感を持って受け入れることができる				
			26. 相手がなぜそのような気持ちになるかを相手の立場に立って理解することができる				
規律性	社会のルールや人との約束を守る力	27. 指導を謙虚に受け止め自己の成長に活かすことができる					
		28. 周囲から期待されている自分の役割を把握して行動できる					
ストレスコ	ストレスの発生源に対応する力（ポジティブシンキング）	29. 常に自分にできること、他人にできることを判断して行動することができる					
		30. 周囲の人の状況（人間関係、忙しさなど）に配慮して良い方向へ向かうよう行動することができる					
倫理	倫理性	看護職者としての倫理に則って行動する力	31. 組織の一員として適切な時期、相手に報告・連絡・相談をすることができる				
			32. 相手に迷惑をかけないよう、ルール、約束、マナーを理解し行動できる				
			33. 相手に迷惑をかけたとき、自己責任のもとに適切な行動を取ることができる				
学習	自ら学ぶ力	主体的に学習に取り組むとともに、自分自身を価値ある存在として認める力	34. 規律や礼儀が特に求められる場面では粗相のないように正しく振舞う事ができる				
			35. 自分なりのストレス対処法を持ちストレスを緩和できる				
			36. ストレスの原因を見つけて、自分で又、他人の力を借りて取り除くことができる				
			37. わたしの健康ノートを活用し自己の健康管理ができる				
			38. 守秘義務を遵守し、個人情報の保護することができる				
			39. 相手の考えを尊重した行動（思いやり、謙虚で礼儀正しい、適切な言葉使い）をとることができる				
			40. 自分に非がある場合は報告し、その状況を説明することができる（ヒヤリハット・アクシデント報告など）				
			41. 自ら学習に対して常に目標を設定することができる				
			42. 自分で自分の成果を褒め、表現することができる				
			43. スケールや評価表などを用いて自分を客観的に評価し課題を見つけることができる				

II. 教育課程

教 育 課 程(別表1)

教育内容		科 目 名	単位 (数)	時間 (数)	教育内容	科 目 名	単位 (数)	時間 (数)	
基礎分野	科学的 基盤 思考の	情報科学	2	45	専門分野	地域・ 在宅看護論	地域の暮らしと看護	1	30
		論理学	1	30			地域・在宅看護論概論	1	30
		心の仕組みの科学	1	30			地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30
		環境科学	1	30			地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30
		文章表現法	1	30			地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30
				地域・在宅看護方法論Ⅳ			1	15	
	人間と 社会の 理解 生活・	教育学	1	30		成人 看護学	成人看護学概論	1	30
		社会学	1	30			成人看護学方法論Ⅰ	1	15
		人間関係論	1	30			成人看護学方法論Ⅱ	1	30
		倫理学	1	30			成人看護学方法論Ⅲ	1	30
		人間と文化	1	30			成人看護学方法論Ⅳ	1	30
		英語Ⅰ	1	30			成人看護学方法論Ⅴ	1	30
		英語Ⅱ	1	30		老年 看護学	老年看護学概論	1	30
	看護情報論	1	30	老年看護学方法論Ⅰ			2	45	
小 計			14	405					
専門基礎分野	人体の 構造と 機能	人体の構造と機能Ⅰ	1	30	小児 看護学	小児看護学概論	1	30	
		人体の構造と機能Ⅱ	1	30		小児看護学方法論Ⅰ	2	45	
		看護形態機能論	1	30		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	
		看護形態機能論演習	1	30	母性 看護学	母性看護学概論	1	30	
		生化学	1	30		母性看護学方法論Ⅰ	2	45	
		栄養学	2	45		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	
	疾病の 成り立ちと 回復の 促進	微生物学	1	30	精神 看護学	精神看護学概論	1	30	
		薬理学	1	30		精神看護学方法論Ⅰ	2	45	
		病態学概論	1	15		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	
		臨床病態学Ⅰ	1	30	看護の 統合と 実践	看護マネジメント	1	30	
		臨床病態学Ⅱ	1	30		医療安全と看護	1	15	
		臨床病態学Ⅲ	1	15		災害看護学・国際看護学	1	15	
		臨床病態学Ⅳ	1	15		臨床看護の実践演習Ⅰ	1	30	
	臨床病態学Ⅴ	1	15	臨床看護の実践演習Ⅱ	1	15			
	臨床病態学Ⅵ	1	15	看護研究	1	30			
	健康 支援と 社会 保障 制度	総合医療論	1	15	臨地実習 基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	
		保健学	1	15		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	
		健康科学	2	45	臨地実習 地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習	2	90	
		社会福祉	1	30		成人看護学実習Ⅰ	2	90	
		看護と法	1	15	成人看護学実習Ⅱ	2	90		
	小 計			22	510				
	専門分野	基礎 看護学	看護学概論	1	30	臨地実習 老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90
看護理論			1	15	老年看護学実習Ⅱ		2	90	
基礎看護学方法論Ⅰ			1	30	臨地実習 小児看護学	小児看護学実習	2	90	
基礎看護学方法論Ⅱ			1	30		臨地実習 母性看護学	2	90	
基礎看護学方法論Ⅲ			2	45	臨地実習 精神看護学	精神看護学実習	2	90	
基礎看護学方法論Ⅳ			1	30		臨地実習 看護の統合と実践	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	30
基礎看護学方法論Ⅴ			1	30	看護の統合と実践実習Ⅱ		3	90	
基礎看護学方法論Ⅵ			1	30	小 計			69	2190
基礎看護学方法論Ⅶ			2	45	総 計			105	3075
基礎看護学方法論Ⅷ			1	15					

Ⅲ. カリキュラムの主要概念

カリキュラムの主要概念

《人間》

- ・人間は受胎から死までのいずれかの成長発達段階にあり、成長発達し続ける存在である。
- ・人間は自然及び社会環境の中で相互に影響を受けながら生活し、絶えず変化している存在である。
- ・人間は身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された生活者である。
- ・人間は社会的・文化的背景の中で、個々の感性や価値観・役割を持ち生活者として存在している。
- ・人間は個人として尊重され、自分の生き方を自己選択・自己決定する権利を持っている。
- ・人間は基本的ニーズを持ち、自己実現に向け生きていく可能性を持った存在である。

《健康》

- ・健康は人間の可能性が最大に実現されている状態であり、その人の置かれた立場、生き方、価値観と密接に関連している。
- ・健康とは生活の質の向上にむかう進行過程である。
- ・健康状態は環境との相互作用により絶えず変化している。
- ・健康には最良の健康状態から死までの連続的な段階があり、その中には病気、リハビリテーションなどが含まれる。
- ・望ましい健康状態とは、環境に適応し、その人の身体的、精神的、社会的機能が十分に発揮されている状態をいう。
- ・健康は人間の基本的な権利である。

《環境》

- ・環境は人間を取り巻くすべてをさし、内的環境（個体内の生理的状态）と外的環境（自然・社会・文化）の総体である。
- ・内的環境とは生体内部環境であり、人間の生命現象に深く関与する。
- ・外的環境は内的環境の恒常性の維持に関与する。
- ・社会環境は個人・家族・地域から構成された生活の場であり、それぞれ特有の文化を持ち、人間との相互作用によって変化している。
- ・社会環境は人間がより良く生きるために、法律・政治・経済・文化・教育・医療・福祉などの組織化された機能を有している。
- ・生活環境はグローバル化により拡大し、常に変化している。

《生活》

- ・生活とは生存してゆくための活動であり、社会生活の基本的欲求（健康・教育・経済・職業・家庭・社会参加の機会・文化娯楽の機会）の充足をめざす営みである。
- ・生活はその人が生きていく選択と決定を繰り返す学習の過程であり、その決定はその人の価値観に影響される。
- ・生活とは個々の人間がその人らしく生きるための活動である。
（生活を満足させ、意味あるものとして過ごす様々な行動である。）
- ・生活者とはその人の生きてきた歴史の中で培われた生活習慣や生活信条を持ちながら生きている人である。
- ・健康で文化的な生活を営む権利は憲法で保障されている。

《看護》

- ・看護は対象の反応に焦点をあて支援する活動である。
- ・看護は対象の健康生活に対して人間の環境に働きかけ、より良い健康状態を支援することである。
- ・看護の対象とは個人・家族・集団・地域社会および諸外国などで暮らす人間をさす。
- ・看護はその人らしく生活できるように専門的知識・技術を活用し対象を支援することである。
- ・看護支援とは対象の健康課題を明らかにし、その課題を解決するために系統的に働きかけることである。
- ・看護は対象と看護者との人間関係を基盤として行うものである。
- ・看護は対象に応じた教育指導機能・相談支持的機能・調整的機能を果たすものである。
- ・看護は対象の生きる権利を尊重し、擁護・支援していく役割を担う。
- ・看護は実践の中で、その価値が明らかにされる。
- ・看護は独自の機能を有し保健医療福祉チームの中で多職種と連携・協働しながら役割を担う。

《学習・教育》

- ・学習は生きる力を持つために必要な知識・技術・態度を習得していく生涯活動である。
- ・学習は人間が人間らしく生きるための基本的権利である。
- ・学習とはよりよい自分になる（自己実現）ために学習者が主体となって意図的に取り組む活動である。
- ・学習者は自らの成長を自らの力で獲得していく教育の主体である。
- ・教育とは学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセスである。
- ・教育とは学習者と教育者がともに学び、影響し合い成長する過程である。
- ・教師とは看護を学ぶ過程において出会う全ての人を指す。

《看護教育》

- ・看護教育とは看護という営みの学習を要望する人々に提供される看護の内容に焦点を当てた教育である。
- ・看護教育は看護実践を科学していくプロセスであり、ヒューマンケアリング（人権の擁護、行動・意思決定を支える、対象の尊厳を守る、倫理的行動決定をする）を目指す教育である。
- ・看護教育は看護者のアイデンティティの育成と看護専門職として必要な知識・技術・態度を教授する過程である。
- ・看護教育は看護の対象である人間を生活者として捉え、対象のセルフケアを基本に健康生活に向けて環境を調整する能力、実践能力と感情ワーク（相手を思いやり・患者との深いかわり情動的ふれあい）能力を重視する教育である。
- ・看護教育は看護実践能力を有する看護職者を育成するプロセスである。
- ・実践の科学である看護を学ぶ看護教育は、学習者の体験を通した学びを重視する教育である。

《地域》

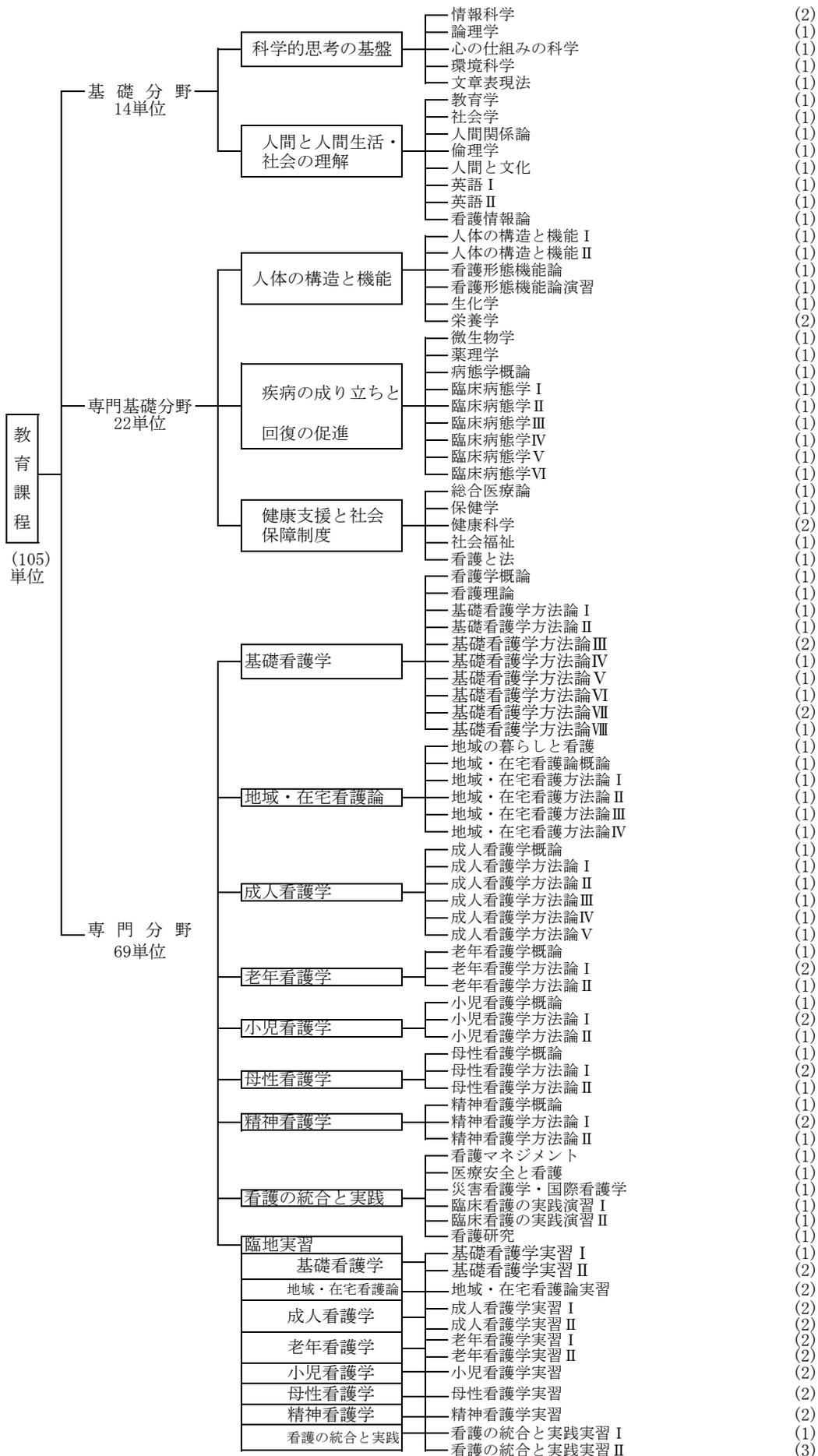
- ・地域は生活する個人と家族、集団を対象とする。
- ・地域とは対象特性を超えた場であり様々な発達段階の人々がいる。
- ・地域とは近隣、地区、市町村といった空間的広がりとしての場であり、一定の地理的範囲において成り立っている共同生活のシステム（地域性）をいう。
- ・地域とは人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがいにつながる場である。
- ・人々が生活の楽しみや生きがいを見出し、様々な困難を抱えた場合でも社会から孤立せず、安心してその人らしい生活を送る場である。
- ・健康づくりに取り組むために住民相互が交流できる居場所であり共助の輪を広げる場である。

《暮らし》

- ・暮らしとは基本的な衣食住を支えるために必要な経済的側面が反映される。
- ・暮らしとはその人がその人らしく生きる基盤となる生活様式（生活の仕方）をいう。
- ・暮らしにはその人が住み慣れた環境で自分らしく生きる生き方（価値観）が反映される。
- ・暮らしとは人間社会（地域社会）の中で相互に支え合い生きていくことである（互助・共助）。
- ・暮らしの場で地域・在宅看護（在宅医療）が提供される。
- ・多文化共生社会における暮らしの場でグローバルヘルスな視点で看護が提供される。

IV. 科目体系

科目体系



V. 科目進度計画

科目進度計画

進度表1

科目進度計画

授業科目		単位	学年 学期 時間	1 学年														
				前期 (令和4年4月 ~ 9月)						後期 (10月 ~ 令和5年3月)								
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
基礎分野	科学的 盤的思考	情報科学	2	45														
		論理学	1	30														
		心の仕組みの科学	1	30														
		環境科学	1	30														
		文章表現法	1	30														
	人間と 社会の 理解	教育学	1	30														
		社会学	1	30														
		人間関係論	1	30														
		倫理学	1	30														
		人間と文化	1	30														
	専門 基礎 分野	人体の 構造と 機能	英語 I	1	30													
			英語 II	1	30													
			看護情報論	1	30													
			人体の構造と機能 I	1	30													
人体の構造と機能 II			1	30														
疾病の 成り立ち と回復		看護形態機能論	1	30														
		看護形態機能論演習	1	30														
		生化学	1	30														
		栄養学	2	45														
		微生物学	1	30														
		薬理学	1	30														
		病態学概論	1	15														
		臨床病態学 I	1	30														
		臨床病態学 II	1	30														
	臨床病態学 III	1	15															
健康 支援と 社会	臨床病態学 IV	1	15															
	臨床病態学 V	1	15															
	臨床病態学 VI	1	15															
	総合医療論	1	15															
	保健学	1	15															
基礎 看護 学	健康科学	2	45															
	社会福祉	1	30															
	看護と法	1	15															
	看護学概論	1	30															
	看護理論	1	15															
	看護 学	基礎看護学方法論 I	1	30														
		基礎看護学方法論 II	1	30														
		基礎看護学方法論 III	2	45														
		基礎看護学方法論 IV	1	30														
		基礎看護学方法論 V	1	30														
		基礎看護学方法論 VI	1	30														
		基礎看護学方法論 VII	2	45														
		基礎看護学方法論 VIII	1	15														
		地域・在宅看護論概論	1	30														
地域・在宅看護方法論 I		1	30															
地域・在宅看護方法論 II		1	30															
地域・在宅看護方法論 III		1	30															
地域・在宅看護方法論 IV		1	15															
看護 学 実 践 の 統 合 と 実 践 実 習		成人看護学概論	1	30														
	成人看護学方法論 I	1	15															
	成人看護学方法論 II	1	30															
	成人看護学方法論 III	1	30															
	成人看護学方法論 IV	1	30															
	成人看護学方法論 V	1	30															
	老年看護学概論	1	30															
	老年看護学方法論 I	2	45															
	老年看護学方法論 II	1	30															
	小児看護学概論	1	30															
	小児看護学方法論 I	2	45															
	小児看護学方法論 II	1	30															
	母性看護学概論	1	30															
	母性看護学方法論 I	2	45															
母性看護学方法論 II	1	30																
精神看護学概論	1	30																
精神看護学方法論 I	2	45																
精神看護学方法論 II	1	30																
看護マネジメント	1	30																
医療安全と看護	1	15																
災害看護学・国際看護学	1	15																
臨床看護の実践演習 I	1	30																
臨床看護の実践演習 II	1	15																
看護研究	1	30																
基礎看護学実習 I	1	45																
基礎看護学実習 II	2	90																
地域・在宅看護論実習	2	90																
成人看護学実習 I	2	90																
成人看護学実習 II	2	90																
老年看護学実習 I	2	90																
老年看護学実習 II	2	90																
小児看護学実習	2	90																
母性看護学実習	2	90																
精神看護学実習	2	90																
看護の統合と実践実習 I	1	30																
看護の統合と実践実習 II	3	90																

基礎看護学実習

VI. 各分野の目的・目標

分野の目的・目標

1. 基礎分野

- 目的
- 1 科学的・論理的思考を基盤に看護が提供できるための基礎的知識を学ぶ。
 - 2 豊かな感性を育み主体的な判断力や行動力を育むための基礎的知識を学ぶ。
 - 3 生命の尊厳や人権を基盤とした人間と社会、生活者としての対象理解を深めるための基礎的知識を学ぶ
 - 4 看護活動の場の拡大に伴い国際化への対応や情報通信技術(ICT)を活用するための基礎的知識を学ぶ。

【 科学的思考の基盤 】

科目名	単位	時間	科目の目標
情報科学	2	45	1. 情報処理の基本的な考え方や情報化社会において国際的な視野で物事をとらえる必要性について説明できる。 2. パソコンの基本操作ができ、インターネットによる文献検索ができる。 3. データの見方、統計処理、表・グラフの作成ができる。 4. 基本的な医療・看護のデータ処理ができる。
論理学	1	30	1. 論理的に考えることができる。 2. 論理的なつながりを見つけるのに役立つ技術が実践できる。
心の仕組みの科学	1	30	1. ひとの心の仕組み及び行動がどのように形成されるかについて理解を深めることができる。 2. ひとの心理や行動の多面的理解を通じて医療場面における看護対象の理解や人間関係作りに資することができる。
環境科学	1	30	1. 前半部分では、「地球環境問題」「環境とエネルギー・食糧問題」「環境と生活」について考える。 2. 環境への負荷と環境基本法、私たちの生活について考える。 3. 少子高齢化・人口減少社会の到来の課題と、SOCEITY5.0などの新しい社会システムと生活への影響、SDGsの課題について考察する。 4. 私達の健康や日々の生活活動（生産・運輸・消費・廃棄）の解決法策を探る 5. CO VID19（SARS-COV-2）新型コロナウイルスなどの感染症や医療廃棄物の処理や、廃棄物処理法について理解する。
文章表現法	1	30	1. 観察したこと、感じたこと、体験したこと、考えたことを文章として表現できる。 2. 文章表現の基礎的能力を身につけてレポートや論文を書く記述力を身につける

【 人間と人間生活・社会の理解 】

科目名	単位	時間	科目の目標
教育学	1	30	1. 自己教育力を高めることができる。 2. 教育方法の学習においては教える者と教わる者の双方の立場から教育を理解することで、看護実践における教育・指導活動に活かせるようにする。
社会学	1	30	1. 人間生活の基盤である社会について理解を深めることができる。 2. 家族・地域・社会・職場といった日常生活に関する領域をとりあげ、現代社会の直面する問題を社会学的視点から考えることができる。
人間関係論	1	30	1. ソーシャルサポートの担い手である看護職者として、人間関係形成の基盤となる思いやりや、豊かな人間性を培い自分も他者も生き生きと生かされる人間関係を築く能力を身につける。 2. 看護介入場面の事例をサイコドラマを通して感情体験し、対人援助の対処方略を探究する。 3. 対人関係形成に必要な基礎的知識を習得する。
倫理学	1	30	1. 生命の尊厳、生命の質についての理解を深めることができる。 2. 先端医療、患者の権利、自己決定権、医療者の説明責任等、医療現場で起きている倫理的諸問題を考えることができる。 3. 看護師として、倫理的自覚を高め、人権を尊重し擁護するとはどのようなアプローチなのかについて具体的に考えることができる。
人間と文化	1	30	1. 人間の営みに影響を与える「文化」について理解を深める。 2. 生活の拠り所である地域に着目して地域固有の文化の生成とそこで生活する人々の価値観や生き方について思考することができる。
英語 I	1	30	1. 基礎的な日常英会話ができる。 2. 主体的、積極的に英会話コミュニケーションをとることができる。 3. ディベートを行うことにより中立な立場にたち人々の気持ちが理解できる
英語 II	1	30	1. 英語で問診・病歴聴取がとれる。 2. バイタルサイン測定、体位変換や検査・処置について英語で会話・説明できる 3. 英文を読むことで専門用語を習得あるいは看護/医療の中の多様性・異文化について知る
看護情報論	1	30	1. 医療、看護の情報化、情報倫理の必要性を説明できる。 2. インターネットなどを活用し、信頼できる情報の収集・選択ができる。 3. 看護実践における医療・看護情報（電子カルテ）の基本的な操作ができる。

分野の目的・目標

2. 専門基礎分野

- 目的
- 1 看護実践の基盤となる疾病を持つ対象の身体的アセスメントに必要な基礎的知識を学ぶ。
 - 2 健康や障がいの状態に応じて、社会資源を活用できるように必要な基礎的知識を学ぶ。
 - 3 保健医療福祉に関する概念、社会保障制度、関係する職種の役割について学ぶ。

【 人体の構造と機能 】

科目名	単位	時間	科目の目標
人体の構造と機能Ⅰ	1	30	1. 人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に説明できる。 2. 人間に対する観察力、洞察力をフィジカルアセスメントに活かすことができる。
人体の構造と機能Ⅱ	1	30	1. 人体全体の位置関係がわかり、機能と関連性を結びつけることができる。 2. 人間の生命現象がどのようなメカニズムについて説明できる。
看護形態機能論	1	30	1. 生きることを支える日常生活行動の意味を述べるができる 2. 日常生活行動の身体の仕組みを述べるができる
看護形態機能論演習	1	30	1. 看護形態機能（人体の構造と機能）についてアセスメントできるよう、日常生活行動を営んでいる身体の仕組みを説明できる。 2. 看護の視点から臨床判断につなげるために作成した成果物を発表することができる。
生化学	1	30	1. 人間が生物として生きていく生命現象について説明できる。 2. 現代のバイオテクノロジーとの関連でより実践的な看護学や治療の技術と結びつけて、生理学、薬理学、栄養学の学習の基礎的知識として役立てることができる。
栄養学	2	45	1. 栄養的要因の疾病や食事療法についての基本的な知識を学び、生活指導や食事指導に活かす。 2. 治療食として、献立の作成、食材選択、調理までの一連の実践を体験する。 3. 栄養と食行動を関連付けて考えることができる。

【 疾病の成り立ちと回復の促進 】

科目名	単位	時間	科目の目標
微生物学	1	30	1. 病原微生物が人体に進入した後、生体内でどのような感染防御機構（免疫の仕組み）が発揮されるのか理解できる。 2. 細菌、真菌、原虫、ウイルスが引き起こす感染症について理解を深めることができる。
薬理学	1	30	1. 薬務法に基づく薬物管理のあり方がわかる。 2. 薬物の性質、作用機序、人体への影響及び薬品の管理がわかる。
病態学概論	1	15	1. 看護にとって病態学を学ぶ意義とは何か述べるができる。 2. 疾患に生じる臓器や組織、細胞の基礎的な形態的变化について説明できる 3. 病態学で使用する専門用語を看護実践を行う上で正確に使うことができる
臨床病態学Ⅰ	1	30	臨床病態学Ⅰは、循環器・呼吸器・消化器に津9位手の内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べるができる 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べるができる。
臨床病態学Ⅱ	1	30	臨床病態学Ⅱは脳神経系・運動器・腎泌尿器・女性生殖器・内分泌についての内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べるができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅲ	1	15	臨床病態学Ⅲは膠原病・アレルギー・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・血液疾患についての内容を学ぶ。 1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅳ	1	15	臨床病態学Ⅳは小児期にある対象の疾患についての内容を学ぶ。 1. 小児期にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅴ	1	15	臨床病態学Ⅴは母性疾患についての内容を学ぶ。 1. 周産期及にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。
臨床病態学Ⅵ	1	15	臨床病態学Ⅵは精神疾患についての内容を学ぶ。 1. すべての発達段階にある人々の健康を守り心の病から回復を見守ることをめざす。 2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

【 健康支援と社会保障制度 】

科目名	単位	時間	科目の目標
総合医療論	1	15	1. 看護が効果的に実施するために必要な総合医療論の基礎的知識について学ぶ。
保健学	1	15	1. 病気の予防、「健康にとって有害な環境や、行動、社会的要因を取り除く」ことにより、人々の健康状態と生活の質（QOL）を維持向上させることについて理解を深める。 2. 疫学的指標を用いて、人々の健康課題や保健対策について理解できる。 3. 健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深める。
健康科学	2	45	1. 他者への健康教育・健康管理、健康について科学的な視点から考えることができる。 2. 健康へのアプローチのできる力を身につける。 3. 実技を通して現在持っている自分の身体能力や精神・社会的能力を確認することができる 4. スポーツを通して人間関係の基礎作りに必要なルールや協調性の必要性を体験する。
社会福祉	1	30	1. 人々のよりよい健康生活・地域における自立支援のあり方や社会福祉サービス・社会福祉システムなど地球規模で考えるノーマライゼーションや人権について理解を深める。 2. 社会福祉と医療、保健との関連、医療サービス支援のなかで他職種の役割、看護の果たす役割について理解できる。 3. 健康障がい状態に応じて社会資源を活用できる知識を習得する。
看護と法	1	15	1. 他職種との関係性・職業アイデンティティとは何かを説明できる。 2. 倫理的行動決定を行うための基礎的知識とは何か説明できる。 3. 憲法、看護師の資格や看護業務に関係の深い保健衛生法規について説明できる。

分野の目的・目標

3. 専門分野

- 目的 1 人間理解、人間尊重を基盤とし各看護学における基礎的知識を学ぶ。
 2 事例等を活用し、看護実践に必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。
 3 看護師として倫理的に判断をするための基礎的知識を学ぶ。
 4 看護実践を看護研究としてまとめ発表するための基礎的知識を学ぶ。

教育内容	科目名	単位	時間	科目の目標
基礎看護学	看護学概論	1	30	1. 看護学を構成する主要概念について説明できる。 2. 看護の目的、看護の本質について説明できる。 3. 看護専門職としての役割・看護独自の機能について説明できる。 4. 保健医療福祉等、多職種における調整、連携・協働の必要性を説明できる。 5. 今後の看護のあり方について考えることができる。
	看護理論	1	15	1. 理論とは何かを知ることができる。 2. 看護理論の発展過程がわかる。 3. 看護理論の構造がわかる。 4. 看護理論と看護実践の関連性について知ることができる。
	基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	1. 看護技術の基本概念を説明できる。 2. 看護技術を支える要素が説明できる。 3. 人間関係を構築するためのコミュニケーションの基本が説明できる。 4. 効果的なコミュニケーションを実施できる。 5. 感染防止策の意義や基礎的な知識を説明し、感染防止の適切な方法が実施できる。 6. 医療安全の基本的な考え方を説明でき安全対策を適切な方法で実施できる 7. 看護における学習支援に基礎的知識が理解できる。
	基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	1. 生活環境について理解し、療養環境を整えることができる。 2. 活動の基礎的知識を理解し、活動と休息を整えることができる。 3. 対象に応じた安全・安楽な姿勢・活動を整えることができる。 4. 衣生活支援の基礎的知識を理解し衣生活を整えることができる。 5. メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる 6. 実践後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる
	基礎看護学方法論Ⅲ	2	45	1. 清潔支援の基礎的知識を理解し、清潔の支援方法が実施できる。 2. 苦痛の緩和・安楽の確保技術の基礎的知識を理解し、安楽への支援方法が実施できる。 3. 食事支援の基礎的知識を理解し実施することができる。 4. 排泄支援の基礎的知識を理解し、実施することができる。 5. 日常生活支援技術を安全・安楽・倫理的配慮を考慮した方法で実施できる 6. メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる 7. 実践後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる。
	基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	1. 看護におけるフィジカルアセスメントを学習する意義を述べるすることができる 2. フィジカルアセスメントの概念と目的、必要性が説明できる 3. 身体計測の意義と目的を理解し、身体計測が実施できる 4. バイタルサインの正確な測定方法を理解し、実施できる 5. 系統別フィジカルイグザミネーションが実施できる
	基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	1. 看護過程の意義、構成要素について説明できる 2. 対象理解のための主観的・客観的情報について説明できる 3. 得た情報を科学的根拠に基づいてアセスメントできる 4. 看護上の課題を明確にし、優先順位を決定できる 5. 看護目標を設定し、個別性のある看護計画を立案できる 6. 実践した看護の評価方法を説明できる 7. 看護実践向上に必要なリフレクションについて説明できる
	基礎看護学方法論Ⅵ	1	30	1. 臨床看護における看護師の役割が説明できる 2. 健康段階における看護の方法が説明できる 3. 主要症状を示す対象の看護の方法を説明できる 4. 治療・処置を受ける対象者の看護の実際・支援技術の方法を説明できる
	基礎看護学方法論Ⅶ	2	45	1. 与薬における看護師の役割を説明できる。 2. 薬物の特徴、正しい与薬、薬剤の管理方法を説明できる。 3. 適切な方法で与薬を実践する基礎的技術が実施できる。 4. 適切な方法で検体検査や身体侵襲を伴う検査が実施できる。 5. 呼吸を整えるために必要な看護の実際・支援技術の方法を実施できる
	基礎看護学方法論Ⅷ	1	15	1. 医療機器の利用目的、医療器具の原理と実際を説明できる。 2. 臨終の場に臨む看護師の姿勢と終末を迎えた対象者への支援方法を説明できる 3. 創傷管理に必要な基礎的知識を説明できる。
地域・在宅看護論	地域の暮らしと看護	1	30	1. 地域で暮らす人々の生活環境・地域特性について説明できる。 2. 地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていることを説明できる。
	地域・在宅看護論概論	1	30	1. 地域・在宅看護論の特徴について説明できる 2. 地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源について説明できる 3. 訪問看護の制度について調べることができる 4. 健康生活支援方法をロールプレイで表現する

地域・在宅看護論	地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 療養生活を支える継続看護の特徴と役割について説明できる 療養上のリスクマネジメントも考えた暮らしの場の環境づくりを説明できる 平時の防災力に備える支援と災害時の支援方法について理解できる 療養生活において医療的管理を必要とする人と家族への看護実践方法が説明できる 臨床判断とICFを活用した支援方法の実践ができる
	地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 行政（地域包括支援センター）との連携を体験できる 認知症カフェを開催し地域とのつながりを体験できる
	地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 地域における多職種連携の考え方と必要性について説明できる 保健医療福祉の連携に関わる主な職種と各職種の役割が説明できる 事例を通して課題解決のために必要な職種と遠隔カンファレンスを体験できる
	地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 人間の尊厳とは何かを考え、人生の最終段階にある人を支えるケアの意義を説明できる 看取りをする家族および遺族ケア（グリーフケア）のあり方について説明できる 死を巡る倫理的課題を理解し、看護の役割、包括的指示、プロトコルに基づく看護の責任、職業倫理に基づく行動決定の方法がわかる。
成人看護学	成人看護学概論	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 成人各期の成長発達および発達課題について述べるができる。 成人をとりまく環境から成人の生活を説明することができる。 成人期にみられる健康障害について成人期の特徴と関連させ述べるができる。 成人期にある対象を看護するための目的と役割を述べるができる。
	成人看護学方法論Ⅰ	1	15	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの定義がわかり、活動のプロセスと方法を述べるができる。 成人看護の活動の場と看護活動について述べるができる。 産業看護の定義と役割について述べるができる。 職場で働く成人にみられる健康障害と健康管理の実際について述べるができる。
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 内部環境調節機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる。 疾患の症状、検査、治療及び看護の方法を理解し基本的支援技術の方法を述べるができる。 糖代謝機能障害に応じた改善、調整、悪化防止のための支援方法を述べるができる。 個別性を考慮した学習支援の方法を実施することができる。
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 不可逆性の腎機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる。 がんを患っている対象の看護の特徴と課題について述べるができる 化学療法に伴う看護の方法を述べるができる。 乳がんを患っている対象の看護の方法を述べるができる。 がん対象者と家族の社会資源の活用について述べるができる。 生と死について考え、疾病を持ちながら生きる対象者の看護の役割を述べるができる。
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べるができる。 循環機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる 循環機能障害時の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べるができる。 循環機能障害を来している対象の看護の方法を述べるができる。 一次救命処置の正しい方法を実践することができる。
	成人看護学方法論Ⅴ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べるができる。 消化機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる 消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べることができる。 胃がんの対象に応じた看護の展開方法を述べるができる。 術後合併症予防と術後清潔ケアの支援を実践することができる。 ドレーン類の原理を知り、ドレーン挿入中の看護について述べるができる。
老年看護学	老年看護学概論	1	30	<ol style="list-style-type: none"> ライフサイクルにおける老年期の位置づけと老年期の発達課題を説明できる。 高齢者の身体的、精神的、社会的変化や特徴について説明できる 保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響と今後の課題を説明できる。 老年期にある対象を看護するための基本的な考え方を説明できる。
	老年看護学方法論Ⅰ	2	45	<ol style="list-style-type: none"> 高齢者をアセスメントするための視点と方法について説明できる 高齢者の生活を整える看護について説明できる。 高齢者に特有な症状に応じた看護について説明できる。 高齢者の健康増進を支える方法について説明できる。 リハビリテーションを受ける高齢者への看護について説明できる 老年看護の特性と医療事故予防について説明できる。
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護について理解する。 事例を用いて看護過程を展開し、対象の特性を考え看護計画を立案できる
小児看護学	小児看護学概論	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 小児看護の対象、めざすものを説明することができる。 子ども概念の変遷から子どもの考え方に影響する因子を述べることができる。 小児を取り巻く環境と社会状況から小児看護の役割と課題を知ることができる。 小児各期の身体的・精神的・社会的特徴をグループワークで学習し発表することができる。 小児各期の栄養の特徴を述べることができる。 小児の遊びの意義と発達段階に合わせたおもちゃづくりができる。 小児各期の子ども理解とアセスメントの視点を述べることができる。
	小児看護学方法論Ⅰ	2	45	<ol style="list-style-type: none"> 小児と家族をめぐる法律と政策から諸制度と社会的支援を理解し、今後の課題を述べることができる 小児保健活動のための保健指導案を作成しグループで学内発表ができる 小児の事故の傾向と安全対策を工夫できる。 子どもにとっての家族の意義と家族看護の特徴とアセスメントのポイントが述べられる。 小児の症状の観察と看護のポイントを述べることができる。 小児看護技術の特徴がわかる。 小児に多い系統別疾患看護のポイントを述べることができる。
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 看護過程を応用展開し、事例から一連の技術展開ができる。 校内実習から、小児及び家族の健康と安全を守るための看護技術が実施できる。 小児に多い系統別疾患看護のポイントを述べることができる。

母性看護学	母性看護学概論	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命誕生について感じたことを表現することができる。 2. 女性の心と身体の仕組みを理解し、女性の健康課題を説明することができる 3. 母性看護における倫理的課題について調べ、女性の意思決定への支援を説明することができる 4. 女性・子ども・家族が暮らす多様な場を理解し、リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に与える影響を表現することができる。 5. リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に関する動向を理解し、母子の健康課題を述べるすることができる 6. 母子保健の変遷を理解し、日本における母子保健行政と母性看護の現状を述べるすることができる
	母性看護学方法論Ⅰ	2	45	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期を健やかに過ごすためのケアの必要性を述べるすることができる。 2. 分娩期にある対象者のニーズを理解しケアの必要性を述べるすることができる 3. 産褥期にある対象者のニーズを理解しケアの必要性を述べるすることができる 4. 新生児期にある対象者のアセスメントの方法を理解しケアの必要性を述べるすることができる。
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. ウェルネスの視点をういた看護の展開方法を学び、看護計画を立案することができる。 2. 周産期にある母子を支える支援方法について学び、理解できる。 3. 周産各期における異常及び特殊なニーズを理解し、必要な看護を考えることができる。
精神看護学	精神看護学概論	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の目的と意義・対象・役割を理解できる。 2. こころの健康と精神保健について理解し、こころの意義と構造について述べるができる。 3. 精神医療の歴史の変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について理解できる 4. こころの健康の保持・増進の支援のために必要な知識を理解し述べるができる。 5. さまざまな危機（クライシス）とこころの反応を理解し支援を考え説明できる。
	精神看護学方法論Ⅰ	2	45	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神障害の看護の基盤となる倫理的思考に基づいた実践方法を習得することができる。 2. 精神障がいをもつ対象者の治療的環境の意味と特性について理解できる 3. 精神に障がいをもつ人とその家族の地域生活を支える制度と多職種連携を理解できる。 4. 精神の健康とマネジメントの基本的な考え方と看護の実際について説明できる。 5. 精神看護学の構造と精神の機能と人間のこころの諸活動を分類し、感情と思考と行動の意味を考え説明することができる。 6. こころを病む人との対人関係の構築の必要性とその方法を理解し、患者－看護師関係の発展過程に活用することができる。
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な治療および健康回復の過程や検査処置を受ける対象の基本的な看護の方法について説明できる。 2. 精神科における薬物療法の効果と副作用について調べ、薬理作用の効果や副作用が生活に与える影響について説明できる。 3. 精神科医療における薬剤師の役割と看護の連携について説明できる。 4. 疾患・症状別看護を理解し、看護過程の分析に活用できる 5. 看護の展開方法を理解し、課題解決するための看護支援を実施できる。
看護の統合と実践	看護マネジメント	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学を取り巻く要素を説明できる。 2. 看護職のキャリアマネジメントについて説明できる 3. 看護マネジメントと看護サービス提供のしくみを説明できる 4. 組織の構造と組織のマネジメントについて説明できる 5. 医療サービスの質の評価の視点を説明できる 6. 地域での連携システムとマネジメントシステムについて説明できる 7. チーム医療の要素と協働の実際を理解し看護師の役割を説明できる。 8. 多職種と連携・協働し、その人らしく生活していくのに必要な支援を立案できる。
	医療安全と看護	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全における報告・連絡・相談・確認と安全文化醸成について説明できる。 2. 医療事故の定義を述べ、医療事故と医療過誤の違いを説明できる。 3. 看護職の法的責任の種類と法的責任の範囲を説明できる。 4. 事故を分析する意義と安全に看護を提供する防止策を説明できる。 5. 患者・家族を一員として参画した医療安全の方法を説明できる。
看護の統合と実践	災害看護学・国際看護学	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が与える被災者への影響を理解し、災害看護の役割と倫理的な関わりが説明できる。 2. 災害時の医療や対応の整備を理解し、多職種連携を含めた災害医療活動が説明できる。 3. 各災害サイクルにおける対象者の健康問題を理解し、看護活動内容が説明できる。 4. 被災者および救済者の心理的变化を理解し、こころのケアに必要な知識が説明できる。 5. 国際看護についての基本的な考え方や世界における健康問題の現状について表現できる。 6. 国際的な視野で文化的・社会的背景を考慮した看護の在り方について述べることができる。
	臨床看護の実践演習Ⅰ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 業務遂行のための看護マネジメントの在り方を説明できる 2. 看護実践に必要な臨床判断の方法を実施することができる 3. 看護業務に多く関わる医療機器のトラブル対応を説明することができる 4. 複数患者の安全・安楽・自立・個別性を考えた、1日のケア計画立案ができる。
	臨床看護の実践演習Ⅱ	1	15	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己のキャリアイメージを記述することができる 2. 看護師の臨床判断能力について説明できる 3. 卒業到達度にむけて、計画的に学習を進め準備する 4. 3年間で身に付けた技術の到達度評価を受けて、自己の課題を明確にすることができる
	看護研究	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義や目的を述べるができる。 2. 臨地実習で体験した看護実践を事例研究・ケーススタディの構成でまとめることができる 3. ケーススタディをまとめる中で自己の看護観に気づき考えを深めることができる。 4. 実践した看護をケーススタディとして発表することができる。

【臨地実習】

教育内容	科目名	単位	時間	科目の目標
臨地実習基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる 2. 看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。 3. 対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。 4. 対象者の日常生活上の課題を解決するための看護支援を原理・原則に基づいて安全・安楽に実践することができる 5. 対象者への支援を通して看護専門職者としての基本的な態度を学ぶ 6. 看護の魅力を発見し、看護について考えることができる 7. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる
	基礎看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の療養環境について生活者の視点から述べるができる 2. 対象者の日常生活上のニーズを把握し必要な支援を考えることができる 3. 対象へ科学的根拠に基づいた看護技術を安全・安楽に実施することができる 4. 看護チームの一員として自覚を持ち、連絡・報告・相談しながら看護を実践できる 5. 自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる。
地域・在宅実習	地域・在宅看護論実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 訪問看護制度や訪問看護ステーションの役割、活動の実際について説明できる 2. 訪問看護に同行し、臨床判断に基づいた看護ケアを実践し、その内容と根拠について説明できる 3. 退院調整や退院前カンファレンスを通し、継続看護の意義とその必要性について説明できる 4. 地域で暮らす生活者を支える地域包括ケアシステムを理解し、多職種連携における看護の役割について説明できる 5. 地域で安心して生活や療養できるための保健・医療・福祉システムを理解し、生活を維持するための社会資源活用方法について理解できる 6. 疾病や障がいをもちながらも地域で自分らしく暮らす人々の自立生活について考え、それを支援する施設役割について理解できる
臨地実習成人看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階と発達課題をふまえ、ヘルスプロモーションを視座に生活者としてとらえることができる。 2. 慢性疾患（健康障害）（機能障害）を有した対象の基礎的な看護の展開方法を習得する。 3. 対象の健康課題がわかり、セルフケア行動をとれる基礎的な看護支援を理解できる。 4. 家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する活動の場と看護の役割を理解できる。 5. 対象の健康観を尊重し意思決定を支援する方法が理解できる。 6. 家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する保健医療チームの役割が理解できる。 7. 看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。
	成人看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の発達段階・発達課題をふまえ、急性期から回復期にある対象を生活者としてとらえることができる。 2. 生命の危機に不安を持つ対象との関係を構築するためのコミュニケーションを図ることができる。 3. 急性期から回復期にある対象の看護上の課題を明らかにし、課題解決に向けた看護の展開ができる。 4. 急性期から回復期にある対象がセルフケアの再獲得ができるように支援技術を安全安楽に指導者のもとで実施できる。 5. 急性期から回復期の治療によって異なる療養の場と看護の役割を理解できる 6. 保健医療チームの一員として継続看護の必要性が理解できる。 7. 急性期から回復期にある対象の意思決定を支援する方法が理解できる。 8. 看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。
臨地実習老年看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を、身体的、精神的、社会的側面から統合された生活者として捉えることができる。 2. 対象を尊重した共感的行動がとれ、人間関係を築くことができる。 3. 対象の健康課題や生活課題について、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。 4. 対象のQOL向上・個別性を考慮した支援技術を、安全・安楽に実施できる 5. 老年期にある対象の、療養の場や生活の場における看護の役割を理解できる 6. 保健医療福祉の各専門職の連携を知り、チームの一員としての看護師の役割を理解できる。 7. 倫理に基づき、対象の人権を尊重した態度を身につける。 8. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。
	老年看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害のある高齢者の身体的、精神的、社会的側面を理解し、統合された高齢者像を捉えることができる。 2. 高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、家族を含め人間関係を築くことができる。 3. 対象の健康上の課題達成に向けて、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。 4. 対象の健康段階、機能障害に応じた支援技術を、指導者のもと安全・安楽に実施できる。 5. 療養生活（治療）の場における看護の役割や継続看護について理解できる。 6. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、自覚をもって行動できる 7. 倫理に基づき、高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。 8. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。
小児看護学	小児看護学実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。 2. 小児及び家族をとりまく環境と健康生活に向けたアセスメントができる 3. 小児の発達段階、健康段階に応じて家族を含めた個別的な看護過程の展開ができる。 4. 小児の臨床看護について知識を深め、看護技術を安全に実践できる。 5. 小児看護の役割について考え子ども観を育むことができる。 6. 小児の継続看護の必要性を理解できる。

母性看護学 臨地実習	母性看護学実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の変化を総合的に捉え、基本的支援の実践ができる。 2. 妊娠・分娩・産褥期における母子関係及び、家族の役割獲得の支援について理解を深める。 3. 生命誕生への畏敬の念、自己の母性・父性意識を發展させ、看護職としての自己の成長につなげる。 4. 妊産褥婦および新生児の安全・事故予防に配慮した技術の実践ができる 5. 保健医療福祉チームの支援体制を理解し、チームの一員としての役割を理解することができる。
精神看護学 臨地実習	精神看護学実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療の治療的環境の意味や精神看護の特徴についての理解し説明できる 2. 精神看護の対象者と治療的関わりのプロセスを振り返り自己洞察を深めるとともに治療的援助関係の構築ができる。 3. 精神看護が必要な対象者の健康状態をアセスメントし、対象者に必要なセルフケア支援が展開できる。 4. 精神保健医療福祉チームの中で看護の役割と対象者の地域生活を支える地域包括ケアシステムについて説明できる。
臨地実習 統合と実践の看護	看護の統合と実践実習Ⅰ	1	30	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織の理念や概要をマネジメントの視点で理解することができる。 2. 看護部組織を理解し、看護マネジメントに必要な要素を説明することができる。 3. 病棟組織を理解し、病棟管理者及び病棟リーダーの働きから安全な看護実践に必要な連携・協働の在り方を述べる事ができる。
	看護の統合と実践実習Ⅱ	3	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数受け持ちの対象の一勤務帯の日常生活の援助を実施することができる。 2. 専門チームと退院支援の働きを理解しチーム医療の役割を述べる事ができる 3. 保健・医療・介護を視野に入れて地域でその人らしく生活していくための支援を述べる事ができる。

VII. 教育内容

1 基礎分野

1) 科学的思考の基盤

- (1) 情報科学
- (2) 論理学
- (3) 心の仕組みの科学
- (4) 環境科学
- (5) 文章表現法

2) 人間と人間生活の理解・社会の理解

- (1) 教育学
- (2) 社会学
- (3) 人間関係論
- (4) 倫理学
- (5) 人間と文化
- (6) 英語 I
- (7) 英語 II
- (8) 看護情報論

科目名：情報科学 2 単位 45 時間

受講年次： 2 学年 後期 担当：羹 東植、笹澤 吉明

目的

情報処理の基本的な考え方や方法、情報化社会において国際的な視野で物事を捉える必要性について学ぶ。また、パソコンの基本操作を習得して、インターネットによる文献検索、データの見方、統計処理や表・グラフの作成等、研究を進めるための基礎的能力を身につけ、さらに、医療・看護のデータ処理の実際について学ぶ。

目標

- 1.情報処理の基本的な考え方を説明できる。
- 2.情報化社会において国際的な視野で物事をとらえる必要性について説明できる。
- 3.パソコンの基本操作ができる。
- 4.インターネットによる文献検索ができる。
- 5.データの見方、統計処理、表・グラフの作成ができる。
- 6.基本的な医療・看護のデータ処理ができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回	単 元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	情報社会	1.コンピューターの概要 2.インターネットと情報活用	講義 演習	4
3 ～ 7	コンピューターの活用 (1)	1.文書の作成と編集 2.表の作成 3.表現力アップ 4.長文作成 5.課題作成とまとめ (1)	講義 演習	10
8 ～ 13	統計学の基礎	1.表計算の基礎 2.関数の利活用 3.高度な関数と計算式 4.グラフと図形の作成 5.データベースの利活用 6.課題作成とまとめ (2)	講義 演習	12
14 ～ 18	統計学の活用	1.看護統計学の基礎 2.相関、クロス集計及び χ^2 乗検定 3.t 検定、U 検定 4.元配置分散分析、平均値の多重比較、符号順位検定 5.課題作成とまとめ (3)	講義 演習	10

回	単 元	学習内容	授業形態	時間
19 ～ 21	マルチメディアの 基礎	1.マルチメディアとは？2.音声データの基礎 3.画像データの基礎	講義 演習	6
22	コンピューターの 活用 (2)	1.プレゼンテーションの資料作成 2.プレゼンテーションの実践活用	講義 演習	2
23	総括・まとめ 試験	筆記試験・解答解説		1

テキスト： Word・Excel・PowrPoint ステップアップラーニング(基本マスター編)技術論社

参考書：授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、課題作成、出席状況を総合して行う。

科目名： 論理学 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 後 期

担当：赤井 清

目的

論理学の基本的用語、「前提」「結論」「議論」「妥当」など物事を筋道立て思考する方法を学ぶ。

目標

1. 論理的に考えることができる。
2. 論理的なつながりを見つけるのに役立つ技術が実践できる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	

授業計画

回	単 元	学習内容	授業形態	時間
1 回	論理学とは	1.オリエンテーション 2.論理学の概要	講義	2
2 回	議論を識別する	1.議論とは何か 2.日常の議論の特徴	講義	2
3 回	議論を分析する	1.議論の構造 2.分析の指針	講義	2
4 回	演繹的な議論を 評価する	1.演繹的な議論 2.妥当性をチェックする	講義	2
5 回 ～ 9 回	妥当な議論の形式	1.議論の形式 2.妥当な議論の形式 3.非妥当な議論の形式 4.複雑な議論の妥当性を示す 5.条件文 6.同値形式 7.同値規則を利用する	講義	10
10 回	実際の議論を分析 してみよう	1.標準形への整理と図式化 2.分析にチャレンジ	講義	2
11 回	非演繹的な議論	1.非演繹的な議論の特徴 2.代表的な非演繹的な議論 3.非演繹的な議論の評価	講義	2

回	単 元	学習内容	授業形態	時間
12 回	議論の進行パターンに合わせた評価	1.議論の進行パターン 2.議論全体の評価	講義	2
13 回	特殊な話題	1.因果的な議論 2.論理的な虚偽 3.優しさと公平さを求めて	講義	2
14 回	発表	1.グループ発表・プレゼンテーション	演習	2
15 回	総括・まとめ 試験	筆記試験・解答解説		2

テキスト：「正しく」考える方法、晃洋書房

参考書：適宜紹介する

評価方法：論述形式による筆記試験

科目名：心の仕組みの科学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：金城 亮

目的

知覚、学習・記憶、感情、社会的行動といった心理学の基礎的な知識を学ぶ。

目標

- 1.ひとの心の仕組み、および行動がどのように形成されるかについて理解を深めることができる。
- 2.ひとの心理や行動の多面的理解を通じて、医療場面における看護対象の理解や人間関係作りに資することができる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	心理学とは	オリエンテーション 行動科学としての心理学	講義	2
2回	”人間性”のモデル	精神力動的・行動主義的・認知的・人間学的	講義 演習	2
3回	心理学の研究法 I	観察法・実験法・調査法	講義 演習	2
4回	心理学の研究法 II	面接法・事例研究法・検査法	講義 演習	2
5回	”わたし”の成り立ち I	自己認知	講義 演習	2
6回 ～ 7回	”わたし”の成り立ち II	・性格の捉え方 (類型論・特性論) ・性格の測定法と自己分析	講義 演習	4
8回	”わたし”の成り立ち III	発達 (認知的発達・発達課題)	講義 演習	2
9回	こころのシステム I	感覚・知覚	講義 演習	2
10回 ～ 11回	こころのシステム II	・記憶のメカニズム ・記憶の変容と忘却、効果的な記憶法	講義 演習	4
12回	こころのシステム III	学習 (古典的条件づけと道具的条件づけ) 学習 (社会的学習)	講義 演習	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
13回	適応のメカニズムⅠ	欲求・動因と動機づけ	講義 演習	2
14回	適応のメカニズムⅡ	葛藤・欲求不満・ストレス	講義 演習	2
15回	終了試験	終了試験・まとめ・解答解説		2

テキスト：長田久雄 編（2016）看護学生のための心理学 第2版 医学書院

参考書：適宜紹介する

評価方法：①授業への参加：10%、②課題：10%、③期末試験：80% 計100%

科目名：環境科学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：稲福 純夫

目的

地球上で起こっている様々な環境の変化の原因やその仕組みについて、科学的に考察するための基礎的知識を学ぶ。また、科学の発展と大量生産、大量消費、大量廃棄を生み出した経済システムの影の部分、地球環境のメカニズム、解決の方策について環境科学的な視点から考察するための基礎的知識を学ぶ。

目標

- 1.前半部分では、「地球環境問題」「環境とエネルギー・食糧問題」「環境と生活」について考える。
- 2.環境への負荷」と環境基本法、私たちの生活について考える。
- 3.少子高齢化・人口減少社会の到来の課題と、SOCEITY5.0 などの新しい社会システムと生活への影響、SDGs の課題について考察する。
- 4.私たちの健康や日々の生活活動（生産・運輸・消費・廃棄）の解決法策を探る。
- 5.CO VID19 (SARS-COV-2)新型コロナウイルスなどの感染症や医療廃棄物の処理や、廃棄物処理法について理解する。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	環境科学の概要	1. 環境とは society5.0 と私たちの生活 コロナ禍の生活	講義	2
2回	人間を取り巻く環境	1. 人間活動の変化 エネルギー消費と食糧問題・環境問題	講義	2
3回 ～ 5回	地球環境	1. 地球環境問題の派生のメカニズムと その影響 2. 地球環境問題温暖化 環境トピックス 重金属の毒性 3. 酸性雨 有害廃棄物の越境移動 有害化学物質	講義	6
6回 ～ 8回	環境と人間	1. 環境と人間 2. 私たちの衣・食・住の環境 3. 環境負荷と SDGs の課題	講義	6
9回 ～ 10回	環境と健康	1. 新型コロナウイルス (SARS-COVID19) と私たちの生活 2. 幸福感、健康、生きがい、きずな	講義	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
11回 ～ 13回	環境負荷の軽減	1. 医療廃棄物・一般廃棄物と産業廃棄物 特別管理廃棄物 2. リサイクル4R 持続可能な発展と私たちの生活 3. 水循環 上水道 下水道	講義	6
14回	環境負荷の軽減	1. 環境科学まとめ	講義	2
15回	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：【生活と環境】（東京教学社）

参考書：環境企画調整局 【環境基本法の解説】 行政

化学物質安全情報研究会編 【環境ホルモンの問題とその対策】（オーム社）

評価方法：演習（課題提出・発表） 30p + 筆記試験 70p

科目名：文章表現法 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：大城 貞俊

目的

言語による表現活動は思考や感情・意思などを他者に伝えるのに有効な手段であることを理解し、文章表現法の基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 観察したこと、感じたこと、体験したこと、考えたことを文章として表現できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	文章表現法概要	オリエンテーション はじめに。 国語力を確かめよう。自己紹介文を書こう。	講義	2
2回 ～ 3回	実用文の書き方	1. 実用文の書き方1 (手紙・往復はがき・メールの書き方) 2. 実用文の書き方2 (自己推薦文・履歴書の書き方)	講義	4
4回	表現の基本	1. 表現の基本と原稿用紙の使い方	講義	2
5回	様々な表現法	1. 様々な表現法と表記の留意点	講義	2
6回 ～ 8回	日本語の知識	1. 日本語の知識1 (漢字の知識・四字熟語など) 2. 日本語の知識2 (ことわざ・故事成語・慣用句など) 3. 日本語の知識3 (敬語・十二支・月の異名など)	講義	6
9回	修辞法	1. 文章を豊かにする修辞法 医療用語の読み・外来語など	講義	2
10回	様々な文章	1. 相手に応じた様々な文章 2. 目的に応じた様々な文章 (記書きの連絡文など)	講義	2
11回	レポート・小論文の基本	1. 論理的な文章とは 2. レポートの書き方・文章構成 3. 小論文の書き方	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
12回	エッセイの文体	1. エッセイの書き方 2. 意見分の書き方	講義	2
13回	公用文の書き方	1. 公用文の書き方 2. 言葉の力 (励ますことばなど)	講義	2
14回	詩・短歌・俳句を作ろう	1. 詩・短歌・俳句を作ろう	講義	2
15回	認定評価	試験・解答・解説		2

テキスト：授業ごとにレジュメを配布する。

参考書：特になし

評価方法：第15回講座で筆記試験を実施する。その他、授業への取り組み姿勢、授業時の小課題の提出、出席状況などを勘案して総合的に評価する。

科目名：教育学 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：西本 裕輝

目的

教育と学習の概念を理解し、人間の可能性を引き出す教育の意義とその方法について学ぶ。

目標

- 1.自己教育力を高めることができる。
- 2.教育方法の学習においては教える者と教わる者の双方の立場から教育を理解することで、看護実践における教育・指導活動に活かせるようにする。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	教育学概説	1. イントロダクション～なぜ看護で教育学が必要なのか？	講義	2
2回 ～ 3回	人間の成長と教育の意義	1. 人間の成長と教育の意義 遺伝と環境 2. 人間の成長と教育の意義 看護と教育	講義 演習	4
4回 ～ 11回	教育実践・教育方法	1. 家庭教育 2. 生涯教育 3. 社会教育 4. 学校教育の制度 5. 教育の目的 6. 学習指導 (1) 形式陶冶と実質陶冶 7. 学習指導 (2) 新しい学力観と生きる力 8. 生活指導	講義 演習	16
12回 ～14回	教育評価	1. 教育評価 (1) ～学力の測定 2. 教育評価 (2) ～絶対評価と相対評価 3. 心身障害者の評価	講義 演習	6
15回	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：教育学，編集 大浦壕 医学書院

参考書：講義資料集

評価方法：毎回、出欠確認、遅刻確認を行う。また小レポートを何度か書いてもらい、講義への参加度を加味し、それらをもって平常点をつける。また、講義最終日に試験 (100 点満点) を実施し、それらの合計得点を算出して成績をつける。

科目名：社会学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：具志堅 邦子

目的

人間と社会を幅広く理解するために、社会学の基本概念や社会学的な見方、考え方を学ぶ。

目標

- 1.人間生活の基盤である社会について理解を深めることができる。
- 2.家族・地域・社会・職場といった日常生活に関する領域をとりあげ、現代社会の直面する問題を社会的視点から考えることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	社会学概説	1. 社会学理論①	講義	2
2回	社会学理論	1. 社会学理論②	講義	2
3回 ～ 4回	社会変動	1. 日本の社会変動① 2. 日本の社会変動②	講義	4
5回	社会構造	1. 沖縄の社会構造	講義	2
6回 ～ 7回	社会変動	1. 沖縄の社会変動① 2. 沖縄の社会変動②	講義	4
8回	社会学	1. エイサーの社会学	講義	2
9回	社会構造	1. 沖縄の宗教構造	講義	2
10回	社会調査	1. 社会調査法	講義	2
11回	社会学	1. トピック	講義	2
12回	臨床の社会学	1. アディクションの社会学	講義	2
13回	文化社会学	1. 「千と千尋の神隠し」の社会学	講義	2
14回	臨床社会学	1. ケアの社会学、グリーフ	講義	2
15回	臨床社会学	1. シェアする社会へ (発表会)	演習	2

テキスト： 特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書： 講義時に適宜紹介する。

評価方法： 出席状況、受講態度、テストから総合的に評価する。

試験は課題に置き換えることもある。"

科目名：人間関係論 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：宮森 孝子

目的

良好な人間関係を発達させる為に必要な基礎知識やコミュニケーション・カウンセリング理論、自己理解・他者理解に役立つ行動科学の理論を学ぶ。

目標

1. ソーシャルサポートの担い手である看護職者として、人間関係形成の基盤となる思いやりや、豊かな人間性を培い自分も他者も生き生きと生かされる人間関係を築く能力を身につける。
2. 看護介入場面の事例をサイコドラマを通して感情体験し、対人援助の対処方略を探究する。
3. 対人関係形成に必要な基礎的知識を習得する。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V. 地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	人間関係論概説	科目目標、内容、評価の仕方	講義	2
2回 ～ 6回	人間関係論の基礎 知識	1. 人間関係論の基本視点 2. 自分と他者の関係 3. 自分と他者のコミュニケーション 4. 人間関係の生涯発達 5. 人間関係の諸相：家族、夫婦 6. 人間関係の諸相：親子、職場の人間関係	講義 演習	10
7回 ～ 10回	対人援助における 人間関係	1. 病者と援助専門職者の人間関係 患者領域を中心に 演習：対人拒否・治療拒否対象者への支援 2. 高齢者と支援専門職者の人間関係：ソ シヤルサポートと QOL 演習：高齢のパーキンソン病者の幻覚と家 族の精神衛生 3. 障がい者と支援専門職者の人間関係 演習：抑うつ的な脊髄損傷の対象者への支 援 4. 対人援助における人間関係ロールプレ イニング	講義 演習	8

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
11回 ～ 14回	スキルトレーニング	1. バーバルコミュニケーション 2. ノンバーバルコミュニケーション 3. 医療現場で役立つアロマセラピー 1) 精油の化学と薬理(分子の構造と作用、禁忌) 2) 精油の化学と薬理(分子の構造と作用、禁忌) 3) 看護・介護に役立つアロマセラピーの方法 4) 人に触れるということ マッサージの実技 ハンドマッサージ	講義 演習	8
15回	終了試験	終了試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト：人を育む人間関係論 援助専門職者として個人として，著者 服部祥子，医学書院

参考書：看護学生のための心理学，編集 永田久雄 医学書院

生涯人間発達論，著者 服部祥子 医学書院

評価方法：筆記試験、演習レポート、ロールプレイ、出席状況を総合して行う。

科目名：倫理学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：大城 信哉

目的

医療者に求められる倫理的態度の概略と同時に医療倫理や生命倫理の知識の基礎も学ぶ。

目標

1. 倫理とは何かを自覚的に考えることができる。
2. なぜ医療で特に倫理が問題となるかを当事者として具体的な場面に即して語ることができる。
3. 生命倫理の基礎的知識を身につけると同時にその問題点も把握することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 3回	医療と倫理の基礎的知識	1. イントロダクション ①なぜ倫理学を学ぶのか ②試験や講義形式について 2. 医療と倫理について 医療倫理学と生命倫理学 3. 背景的知識（近現代の倫理思想）	講義	6
4回 ～ 5回	医療倫理	1. 医療倫理 I ヒポクラテスの誓いから現代の看護倫理まで 2. 医療倫理 II 現代の看護倫理（看護職の倫理綱領など）と患者の権利	講義	4
6回 ～ 7回	医療倫理と意思決定	1. 医療倫理と意思決定 I インフォームド・コンセントとパートナーリズム（概略） 2. 医療倫理と意思決定 II インフォームド・コンセントとパートナーリズム補説	講義	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
8回 ～ 12回	生命倫理と技術・ 社会	1. 生命倫理と社会 I 生殖補助医療と人工妊娠中絶 2. 生命倫理と社会 II QOL と安楽死 (および尊厳死) 3. 生命倫理と社会 III 尊厳ある生と看取り 4. 生命倫理と社会 IV 脳死と臓器移植 概略 5. 生命倫理と社会 IV 脳死と臓器移植 問題点の指摘など	講義	10
13回		試験及び中間のまとめ ・筆記試験		2
14回 ～ 15回	ケアについて	1. ケアについて I ケアの倫理と正義の倫理 (看護職の倫理を軸に) 2. ケアについて II あらためて看護と医療 (看護と診療)	講義	4

テキスト： 使用しない。教室ではプリントを配布する。

参考書：大庭健他「現代倫理学事典」：弘文堂、2006年

酒井明夫他編「生命倫理事典 新版増補」：太陽出版、2010年

他は教室にて本学図書館に所蔵されている範囲で教室で指示。

評価方法：筆記試験 (70点)、講義内にて提出の小レポート (30点)

科目名：人間と文化 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：比嘉 悦子

目的

多様な文化とその背景にある価値や生活について学ぶ。

目標

- 1.人間の営みに影響を与える「文化」について理解を深める。
- 2.生活の拠り所である地域に着目して地域固有の文化の生成とそこで生活する人々の価値観や生き方について思考することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	文化と生活	1. 人間と文化（Introduction） 2. 文化人類学と民族音楽学	講義	4
3回	世界の文化と生活	1. 世界の中の日本 2. アジアの中の沖縄	講義	4
4回 ～ 8回	地域文化	1. 琉球・沖縄（歴史的背景） 2. 沖縄の民俗（共同体と祭祀） 3. 祈りの歌謡（おもろと神歌） 4. 地域の芸能（沖縄本島） 5. 島々の芸能（宮古、八重山）	講義	10
9回 ～ 14回	地域の文化と生活	1. 三線の話 2. 宮廷芸能① - 音楽・舞踊 3. 宮廷芸能② - 組踊り 4. 明治以降の芸能状況 5. 民謡からのオキナワン・ポップス	講義	10
15回		音楽のいやし（Music Therapy） （レポート回収）	講義・演習	2

テキスト：授業中に適宜紹介する。

参考書：沖縄音楽入門 著者：金城厚 発行者：堀内久美雄（音楽之友社）2006.7.10

評価方法：豆テスト、最終レポート、出席状況、授業態度を総合して行う。

科目名 英語 I 1単位 30時間

受講年次： 2学年 前期

担当： 宇座 徳祐

目的

国際社会に対応できるよう、英語力を高め日常英会話ができるための基礎的英会話を学ぶ。

目標

- 1.基礎的な日常英会話ができる。
- 2.主体的、積極的に英会話コミュニケーションをとることができる。
3. ディベートを行うことにより、中立な立場にたち、人々の気持ちが理解できる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. III.ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	英語 I 概説	オリエンテーション。 学生全員の自己紹介 1. 英語 I で学ぶ内容とは	講義	2
2回 ～ 5回	基礎英語	1. 基礎英語 2. 接頭語・接尾語 3. 理論に基づいてコミュニケーションを理解 4. 英会話及び異文化 5. 日常会話	講義 演習	8
6回 ～ 14回	英文読解	1. 課題の英文の予習・復習 2. 英文・日本語の筆記 3. 口頭によるテスト	講義 演習	18
15回	認定評価	筆記試験・解答・解説		2

テキスト： クリスティーンのやさしい看護英会話、医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法： 授業ごとの口頭テストの平均点と筆記試験で評価する

科目名：英語Ⅱ 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当： 宇座 玲子

目的

英語でコミュニケーションが取れるように、ベッドサイドで使える臨床英会話を中心に様々な看護場面の英会話を身につける。また、国内外で話題のトピックを英文で読むことで、専門用語を学び又看護・医療の「問題点」や「多様性」「異文化」について学ぶ。

目標

1. 英語で問診・病歴聴取がとれる。
2. バイタルサイン測定、体位変換や検査・処置について英語で会話・説明できる。
3. 英文を読むことで専門用語を習得あるいは看護/医療の中の多様性・異文化について知る

DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力

DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 2回	英語Ⅱ概説	オリエンテーション 1. 外来初診時の会話と診療科名 2. 個人情報収集と症状の訴え方	講義	4
3回 ～ 6回	臨床場面での英語	1. 入院時の説明と院内の部署名 2. 生活習慣の聞き取り 3. 痛みの訴え方と人体名称 4. 問診・病歴聴取と疾患名	講義	8
7回	看護・医療関連 長文読解	1. 看護・医療関連長文 1 グループワーク	講義	2
8回 ～ 12回	臨床英語用語	1. バイタルサイン測定 2. 体位変換・ベッド周辺の会話 3. 検査・手術の説明 4. 術後処置 5. 救急時・救急室の会話/略語/専門用語	講義 演習	10
13回 ～ 14回	看護・医療関連長文 読解	1. 看護・医療関連長文 II 2. 看護・医療関連長文 III	講義	4
15回	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト： 仁木久恵ほか「臨床看護英語」第5版，医学書院，2018年

参考書： 特になし。随時必要な講義資料を配布します。

評価方法： 提出物・活動状況（30点）、小テスト（10点）、終了筆記試験（60点）

科目名：看護情報論 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：仲里 康雄

目的

医療や看護における「情報」とは何か、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎知識を学ぶ。

目標

- 1.医療、看護の情報化、情報倫理の必要性を説明できる。
- 2.インターネットなどを活用し、信頼できる情報の収集・選択ができる。
- 3.看護実践における医療・看護情報（電子カルテ）の基本的な操作ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III.ケアする仲間と協働する力

DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	看護情報論概説	オリエンテーション(①シラバスの説明②看護情報論の内容③授業のねらい等) 1. 情報と情報社会 2. 情報の定義と特徴	講義	2
2回 ～ 3回	情報と情報社会	1. 情報とは 1) 情報の特性 2) 情報の認知と意思決定 3) 情報伝達とコミュニケーション 2. 社会と情報 1) 情報社会と成立と発展 2) 情報社会で求められること	講義	4
4回 ～ 6回	第2部：保健医療における情報	1. 保健医療と情報 1) 医療における情報 2) エビデンス情報に基づいた保健医療 3) ヘルスプロモーションと情報 2. 看護と情報 1) 看護における情報 2) 情報社会と看護 3. 医療における情報システム 1) 医療における情報の記録 2) 病院情報システムと記録の仕方 3) 地域医療福祉のネットワークと情報システム	講義 演習	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7回 ～ 9回	情報と倫理	1. 情報倫理と医療 2. 患者の権利と情報 1) 患者の権利と自己決定への支援 2) 医療情報の開示 3. 個人情報の保護 1) 医療・看護における個人情報 2) 情報の利用の仕方 4. コンピュータリテラシーとセキュリティ 1) コンピュータに関する基礎知識 2) インターネットに関する基礎知識と 注意点	講義 演習	6
10回 ～ 13回	情報処理	1. 既存の情報の収集方法 1) 文献検索 2) インターネット上で役立つ情報への アクセス 3) データ検索と利用 2. 質問紙調査によるデータ収集 1) 調査とそのプロセス 2) 調査の計画・準備 3) 調査の実施とデータの収集 4) データ分析の準備 3. Excel による統計解析 1) Excel の基本操作～⑫多変量解析まで 4. 文字情報の整理 1) 対象と目的に応じた文字情報の整理の ポイント 2) ポートの書き方の基礎 3) ワードプロソフト (Microsoft Word) の使い方 ①ページ設定 ②文章の入力 ③挿入 ④参考資料⑤校閲	講義 演習	8
14回	情報の発表	1. 情報の発表とコミュニケーション 1) 口頭発表とポスター発表 2) インターネットにおける発表とコミュ ニケーション	講義 演習	2
15回	終了試験	試験・後期授業のまとめと 振り返り		2

テキスト： 系統看護学講座別巻『看護情報学』第3版第1印刷 著者代表：【中山和弘】

発行者：株式会社 医学書院

参考書： 【エッセンシャル看護情報学】太田勝正、前田樹海 編著、【医療情報システム】入門
2020 社会保健研究所

評価方法： 終了筆記試験 (40点)、レポート (60点)

2 専門基礎分野

- 1) 人体の構造と機能
 - (1) 人体の構造と機能 I
 - (2) 人体の構造と機能 II
 - (3) 看護形態機能論
 - (4) 看護形態機能論演習
 - (5) 生化学
 - (6) 栄養学

- 2) 疾病の成り立ちと回復の促進
 - (1) 微生物学
 - (2) 薬理学
 - (3) 病態学概論
 - (4) 臨床病態学 I
 - (5) 臨床病態学 II
 - (6) 臨床病態学 III
 - (7) 臨床病態学 IV
 - (8) 臨床病態学 V
 - (9) 臨床病態学 VI

- 3) 健康支援と社会保障制度
 - (1) 総合医療論
 - (2) 保健学
 - (3) 健康科学
 - (4) 社会福祉
 - (5) 看護と法

科目名：人体の構造と機能 I 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：大倉 信彦

目的

人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に学習し、生物体としての人間を系統的に観察するフィジカルアセスメント能力を身につけるための基礎的知識を学ぶ。

(概論、細胞、筋、骨格系、体液と血液、免疫、生殖と発生)

目標

1. 人体の形態や正常な機能・仕組みを系統的に説明できる。
2. 人間に対する観察力、洞察力・観察力・観察力・観察力に活かすことができる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	人体の構造と機能概説	1. 講義ガイダンス 2. 解剖学、生理学とは	講義	2
2回	細胞	1. 細胞 1) 細胞の構造 2) 細胞の機能"	講義	2
3回 ～ 5回	遺伝とゲノム	1. 細胞分裂と遺伝情報 1) 遺伝子とゲノム 2. 細胞分裂と遺伝情報 2) クロマチン 3) 染色体 4) DNAの構造	講義	6
6回 ～ 7回	人体を構成する4種の組織	1. 人体を構成する4種の組織 1) 上皮組織 2) 支持組織 3) 筋組織 4) 神経組織	講義	4
8回 ～ 10回	体液と血液	1. 体液 1) 体液の区分と組織 2) 体液の恒常性維持 2. 血液の構成と役割 1) 血液の構成 2) 血漿、赤血球、白血球、血小板 3) 血液型	講義	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
11回 ～ 12回	免疫系	1. 免疫機能に関する器官 1) 胸腺 2) 骨髄、脾臓、リンパ節 3) 免疫担当細胞 2. 防護反応 1) 能動免疫、受動免疫 2) アレルギー 3) 自己免疫	講義	4
13回 ～ 14回	生命の継承	1. 生殖と発生 1) 生殖器官の分化と発達 2) 男性生殖機能 3) 女性生殖機能 4) 妊娠と発生	講義	4
15回	終了試験	まとめ終了試験 解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

参考書：体の仕組み生理学・分子生物学Ⅰ・Ⅱ，日本看護協会出版部，
 シリーズ看護の基礎化学Ⅰ・Ⅱ，エレインN. マリーブ著
 人体の構造と機能 医学書院

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名；人体の構造と機能Ⅱ 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：安谷屋 均

目的

人体を構成する細胞・組織・器官などの形態と構造を把握するための基礎的知識を学ぶ。
人間の生命現象がどのようなメカニズムで行われているかについて知るための基礎的知識を学ぶ。

目標

- 1.人体全体の位置関係がわかり、機能と関連性を結びつけることができる。
- 2.人間の生命現象がどのようなメカニズムについて説明できる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	骨格系	1. 全身の主な骨格と関節 1) 人体の骨格、関節 2) 骨格筋の種類と収縮機序 3) 主な骨格筋の運動	講義	2
2回 ～ 3回	循環器系	1. 循環器系 I 1) 心臓の構造と機能 2) 全身の血管系、 3) リンパ循環 全身の血液循環と胎児循環などについて 1. 循環器系 II 1) 心臓の機能 2) 血圧 3) 脈拍	講義	4
4回	呼吸器系	1. 呼吸器系 1) 気管、肺の構造 2) 呼吸調整・運動	講義	2
5回 ～ 6回	消化器系 I	1. 消化器系 I 1) 消化器系の構造と機能 2. 消化器系 II 1) 各消化腺と肝臓の機能	講義	4
7回	中間評価	試験・解答・解説	講義	2
8回 ～ 9回	内分泌系	1. 内分泌系 I 1) 全身の内分泌腺の構造 2. 内分泌系 II 1) 各内分泌腺の機能	講義	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
10回	泌尿器系	1. 泌尿器系 1) 腎臓の構造と機能、 2) 排尿の仕組み	講義	2
11回	体温	1. 体温 1) 体温調節と発汗	講義	2
12回 ～ 13回	神経系	1. 神経系 I 1) 神経の分類と神経細胞の機能 2. 神経系 II 1) 中枢神経と末梢神経の種類と機能	講義	4
14回	感覚器系	1. 感覚器系 I 1) 体性感覚と深部感覚 2) 特殊感覚（臭覚・味覚・視覚・聴覚）	講義	2
15回	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院
書いて覚える解剖生理学ワークブック 照林社

参考書：ぜんぶわかる人体解剖学図 成美堂出版

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名 看護形態機能論 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 前期

担当：専任教員

目的

日常生活行動を支える身体のしくみを看護の視点から学び、看護技術へ繋げる

目標

1. 生きることを支える日常生活行動の意味を述べることができる
2. 日常生活行動の身体の仕組みを述べるができる

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力・判断力)	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	生活行動の理解	生きるとは、何のための生活行動か 1. 内部環境と恒常性 2. 生命維持と生活行動	講義 演習	4
3回	話す・聴く	1. 話す・聞く 1) 声を出す 2) 聞く 3) 言葉	講義	2
4回 ～ 5回	動く (姿勢・移動)	1. 姿勢・ボディメカニズムの原理 2. 生活行動と骨格、筋との関係 1) 神経から筋への指令と収縮 2) 意図的でない運動・意図的な運動 3. 日常生活での基本的な動きとさまざまな原理 1) 立つ、座る、起きる、歩く 2) ベクトルの法則・トルクの法則 てこの原理	講義 演習	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
6回 ～ 7回	生きる (循環)	1. 恒常性維持のための調節機構 1) 神経性調節 2) 環境が人体に及ぼす影響 2. 恒常性を維持するための物質の流通 1) 流通の媒体：血液 2) 流通路：血管・リンパ管 3) 流通の原動力：心臓 3. 恒常性を維持するための物質の流通 —生きる— 1) 血圧 2) 血圧の調整	講義 演習	2 2
8回	息をする (呼吸)	1. 息をする—息を吸う・息を吐く— 1) 息を吸う・吐くしくみ 2) ガス交換 (内・外呼吸)	講義	2
9回 ～ 10回	食べる	1. 食べる—美味しく食べる— 1) 食欲 2) 食行動 3) 咀嚼し味わう 4) 飲み込む 2. 食べる—消化と吸収— 1) 食物の通り道 2) 食物の消化と吸収	講義 演習	2 2
11回	トイレに行く (排泄)	1. トイレに行く 1) 排泄行動 2) 尿の生成と排泄メカニズム：排尿 3) 便の生成と排泄メカニズム：排便	講義	2
12回 ～ 13回	入浴 (清潔・衣生活)	1. お風呂に入る① 1) 垢を落とす 2) 皮膚・粘膜と付属物 3) 発汗の仕組み 2. お風呂に入る② 1) 入浴と血液循環 (温まる) 2) 清潔行動	講義 演習	2 2
14回	眠る・休息	1. 睡眠欲求 2. 眠りのメカニズム 3. 体内リズム	講義	2
15回	終了試験	筆記試験・解答・解説		2

テキスト：菱沼典子：看護形態機能学第4版，日本看護協会出版会，2021.

参考書：人体の構造と機能，系統看護学講座，専門基礎分野，解剖生理学，医学書院

評価方法：終了筆記試験（100点）

目的

臨床判断能力の基盤を強化できるよう看護の視点である日常生活行動から見るからだの仕組みと機能を理解し、日常生活援助として看護ケアに結び付けるための基礎知識を学ぶ。

目標

1. 看護形態機能（人体の構造と機能）についてアセスメントできるよう、日常生活行動を営んでいるからだの仕組みと機能を説明できる。
2. 看護の視点から臨床判断につなげるために作成した成果物発表を行いディスカッションを通して学びの共有ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.ケアする仲間と協働する力
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	看護形態機能論演習概説	1. オリエンテーション 2. フィジカルアセスメントワークブックを用いた看護形態機能論演習の進め方 3. グループ編制、グループ顔合わせ 4. ビジョン・ゴールおよび演習計画の話し合い 5. 計画立案	講義 演習	2
2回	演習計画立案	1. ビジョン・ゴールおよび演習計画の話し合い、計画立案 2. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	2
3回 ～ 4回	「息をする」ためのフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	4
5回 ～ 6回	「生きる」ためのフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7回 ～ 8回	「食べる」ためのフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	4
9回	「見る・聴く」ためのフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	2
10回	「動く」ためのフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	2
11回	「恒常性維持のための調節機構」のフィジカルアセスメント	1. 演習計画に基づきグループワークの実施	演習	2
12回 ～ 13回	成果物の作成・まとめ	1. 各グループの成果物の作成・まとめをおこなう 2. 成果物の構成や内容をグループで話し合い作成する (必要物品、費用等予算の請求、購入) 3. 成果物を作成する	演習	4
14回	成果物のプレゼンテーション	1. 各グループ成果物のプレゼンテーションを行う 2. 質疑応答・ディスカッション	演習	2
15回	まとめ終了	1. リフレクション (成果物レポートの提出) 2. 他のグループ・教員からの総合評価をしレポートにまとめる	演習	2

テキスト：山内豊明,フィジカルアセスメントワークブック,医学書院,2014年

参考書：山内豊明,フィジカルアセスメントガイドブック第2版,医学書院,2011年

菱沼典子,看護形態機能学第4版,日本看護協会出版会,2017年

評価方法：グループの課題学習（50点）、成果物プレゼンテーション（40点）、
成果物レポート（10点）

科目名：生化学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：屋 宏典、梅村 正幸

目的

人体の構成成分である科学的物質の性状と代謝について学ぶ。

目標

- 1.人間が生物として生きていく生命現象について説明できる。
2. 現代のバイオテクノロジーとの関連でより実践的な看護学や治療の技術と結びつけて、生理学、薬理学、栄養学の学習の基礎的知識として役立てることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 5回	生命維持に必要な 栄養素の構造と性 質	1. 細胞 2. 糖類 3. 脂質 4. アミノ酸とタンパク質 5. 核酸とヌクレオチド	講義	10
6回	酵素	1. 酵素	講義	2
7回 ～ 8回	糖質代謝	1. 糖質代謝1 2. 糖質代謝2	講義	4
9回	脂質代謝	1. 脂質代	講義	2
10回	タンパク質とアミ ノ酸の代謝	1. タンパク質とアミノ酸の代謝	講義	2
11回	核酸とヌクレオチ ド	1. 核酸とヌクレオチド 2. ヌクレオチド代謝の役割 (合成と分解)	講義	2
12回	遺伝情報	1. 遺伝情報 (DNA複製、転写ならび に翻訳メカニズム)	講義	2
13回	遺伝子疾患とその 診断治療	1. 遺伝子疾患とその診断治療 2. 代謝と疾患 (先天性代謝異常を中心に)	講義	2
14回	エネルギー代謝	1. エネルギー代謝の統合と制御	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
15回	終了試験	終了試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト：ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 2 臨床生化学 (MCメディカ出版)

参考書：系統看護学講座【基礎分野】 生化学 (医学書院)

授業中に適宜資料（プリント）を配布する予定。

評価方法：出席状況、授業態度ならびに最終試験の結果をもとに総合的に評価する。

科目名：栄養学 2単位 45時間

受講年次： 2学年 前期

担当：山城 尚子、仲間 清美

目的

健康と栄養、食物栄養、日常生活と栄養、疾病と栄養について学習し、食事摂取基準、栄養状態評価など健康の保持、メタボリックシンドローム予防等、看護アセスメントの基礎知識を学ぶ。

目標

1. 栄養的要因の疾病や食事療法についての基本的な知識を学び、生活指導や食事指導に活かす。
2. 治療食として、献立の作成、食材選択、調理までの一連の実践を体験する。
3. 栄養と食行動を関連付けて考えることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	人間栄養学と看護	1. 栄養とは (1) 健康の3原則 (2) 栄養の定義 (3) 栄養素の種類 (4) 栄養学の歴史 (5) 看護と栄養	講義	4
3回 ～ 4回	栄養素の種類と働き	1. 炭水化物 2. 脂質 3. 蛋白質 4. ビタミン類 無機質 5. 栄養素の体内代謝 6. 栄養素の消化・吸収	講義	4
5回 ～ 6回	ライフステージと栄養	1. ライフステージと栄養・食物 1) 成人期 2) 妊娠期 3) 授乳期 4) 更年期 5) 高齢期	講義 演習	4
7回	中間評価	筆記試験・まとめ・解答・解説		1

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
8回 ～ 19回	疾病と栄養（臨床 栄養・食事療法）	1. 代謝性疾患患者の栄養食事療法 1) 糖尿病食の献立作成 第1回：糖尿病の食事療法実習 (粥食の調理法・カロリー調理食品) 2. 循環器系疾患患者の栄養食事療法 1) 高血圧食の献立作成 第2回：高血圧症の食事療法実習 (減塩食品・糖尿病+高血圧合併食) 3. 腎疾患患者の栄養食事療法 1) 慢性腎不全の献立作成 第3回：腎疾患の食事療法実習 4. 消化器疾患患者の食事療法 1) 血液疾患患者・精神・神経疾患患者の 食事療法 第4回：消化器疾患患者の献立	講義 調理実習	8 16
20回	沖縄の食生活	1. 沖縄の食生活 1) 沖縄の食文化 2) 沖縄の長寿食と現在のメタボリック シンドローム	講義	2
21回 ～ 22回	病院における食事 療法、栄養指導の実 際	1. 臨床栄養① 1) 病院における管理栄養士の役割 2) 病院食の意義・病院食の種類 ①一般食 ②治療食（濃厚流動食と検査食） 2. 臨床栄養② 1) 疾患別食事療法の実際 2) 患者の満足度評価	講義	4
23回	終了試験	終了試験・まとめ・解答・解説		2

テキスト： 栄養学（医学書院）、 食事療法（医学書院）

参考書： 食品成分表（女子栄養大学出版部）80 カロリーガイドブック（女子栄養大学出版部）

評価方法：筆記試験の得点、授業態度、実習態度、提出物、出席を総合し評価する。

科目名：微生物学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期

担当：梅村 正幸

目的

人間と共存している微生物の特徴・性質について学び、看護師として、人間の健康、感染管理の視点からアセスメントし対処する方法を考えるための基礎知識を学ぶ。

目標

- 1.病原微生物が人体に進入した後、生体内でどのような感染防御機構（免疫の仕組み）が発揮されるのか理解できる。
- 2.細菌、真菌、原虫、ウイルスが引き起こす感染症について理解を深めることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	微生物学の基礎	1. 細菌の性質 1) 形態と特徴、培養環境と栄養、細菌の遺伝	講義	2
2回 ～ 3回	細菌・真菌の性質 原虫・ウイルスの性質	1. 真菌の性質 1) 形態と特徴、増殖形態、栄養と培養 2. 原虫の性質 1) 特徴と基本構造、種類、栄養と培養 3. ウイルスの性質 1) 特徴、構造、増殖、分類	講義	4
4回	微生物感染メカニズム	1. 微生物の感染メカニズム（細菌、真菌、ウイルス） 2. 感染源、感染経路からみた感染症	講義	2
5回 ～ 6回	感染に対する生体防御メカニズム	1. 自然免疫レベル 2. 獲得免疫レベル	講義	4
7回	感染症の予防と治療	1. 感染症の予防（ワクチン、血清治療） 2. 感染症の治療（特に化学療法を中心に）	講義	2
8回	感染症の現状と対策	1. 感染症の現状とその対策 2. 感染症予防（バイオハザード、バイオセーフティー）	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
9回	細菌感染症 各論1"	1. グラム陽性球菌 2. グラム陰性球菌 3. グラム陽性桿菌、他"	講義	2
10回	細菌感染症 各論2"	1. 抗酸菌 2. 嫌気性菌、他	講義	2
11回	"細菌感染症 各論3"	1. スピロヘータ 2. マイコプラズマ 3. リケッチア、他	講義	2
12回	真菌感染症	1. 深在性、深部皮膚、表在性真菌症、他	講義	2
13回	原虫感染症及び蠕 虫感染症" ウイルス感染症 各論1	1. 根足虫類、鞭毛虫類、孢子虫類、絨毛虫 類他 2. "DNA ウィルス、腫瘍ウィルス、プリオ ン	講義	2
14回	ウイルス感染症 各論2"	1. RNA ウィルス、他に肝炎ウィルスにつ いて	講義	2
15回	終了試験	まとめ終了試験・解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 【微生物学】 (医学書院)

参考書：講義の時に適宜資料（プリント）を配布する予定

評価方法：筆記試験、授業態度、出席状況を総合して行う。

科目名：薬理学 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：名嘉 紀勝

目的

疾病からの回復を促進する看護ケアにつなげるために薬物の成分やメカニズムについて薬理学の基礎的知識を学ぶ。

目標

- 1.薬務法に基づく薬物管理のあり方がわかる。
- 2.薬物の性質、作用機序、人体への影響及び薬品の管理がわかる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	薬理学概説	イントロダクション (薬理学で何を勉強するのか) 薬物の作用機序と人体への影響 総論 (その1)	講義	2
2回 ～ 4回	薬物の作用機序と 人体への影響	1. 薬物治療、薬物と薬剤 2. 薬物に対する生体の反応、薬物の体内動態 (吸収・分布・代謝・排泄) 3. 投与方法と薬物作用 4. 薬物の有害作用	講義	6
5回 ～ 14回	薬理学各論 各論	1. 中枢神経系、末梢神経系薬 2. 消化器疾患治療薬 3. 呼吸器疾患治療薬 4. 循環器系作用薬 5. 内分泌・代謝疾患治療薬 (1) 6. 内分泌・代謝疾患治療薬 (2) 7. 物質代謝に作用する薬 (ホルモン系) 8. 抗アレルギー・抗炎症薬 9. 抗感染症薬、抗がん薬 10. 救急の時に使用される薬物、消毒薬、輸液等	講義	20
15回	終了試験	まとめ・修了試験・解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 基礎分野【疾病の成り立ちと回復の促進[3]】 薬理学 医学書院
看護学生のための薬理学 ワークブック 医学書院 著：食見忠弘

参考書：系統看護学講座 別巻[11] 臨床薬理学 医学書院

評価方法：筆記試験等、出席状況等を総合的に評価する。

科目名：病態学概論 1単位 15時間

受講年次： 1学年 前期

担当：外来講師

目的

看護に必要な疾病の発生機序を知り、健康状態に応じた状況や現象に気づき、看護アセスメントを行い看護実践ができるための基礎知識を学ぶ。

目標

- 1.看護にとって病態学を学ぶ意義とは何か述べることができる。
- 2.疾患に生じる臓器や組織、細胞の基礎的な形態的变化について説明できる。
- 3.病態学で使用する専門用語を看護実践を行う上で正確に使うことができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	病態学概説	1. オリエンテーション・ 2. 病態学 I の進め方：病因論 3. 病理検査 4. 疾病の分類老化と死、 1) 細胞の老化と固体の老化 2) 個体の死	講義	2
2回	先天異常と遺伝子異常	1. 先天異常とは 2. 遺伝子異常、遺伝性疾患、 3. 染色体異常による疾患 4. 胎児の異常、先天異常 5. 遺伝性疾患の診断	講義	2
3回	代謝異常	1. 細胞の障害と適応 2. 細胞障がいの結果としての物質沈着 3. 蛋白代謝異常と疾患 4. 糖代謝異常と疾患 5. その他の有機質代謝異常	講義	2
4回	循環器障害	1. 局所性循環器障害 2. 全身性循環器障害 3. リンパ循環障害	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
5回	炎症と免疫	1. 炎症 1) 炎症の各型 2. 免疫とアレルギー) 免疫不全 3. 膠原病 4. 移植と自己免疫	講義	2
6回	感染症	1. 病原体と感染症 1) 宿主の防御機構 2) 主な病原体と感染症 3) 感染症の治療、予防	講義	2
7回	腫瘍	1. 定義と分類 2. 腫瘍の発生病理 3. 悪性腫瘍の転移と進行度 4. 腫瘍の診断と治療	講義	2
8回	終了試験	まとめ終了試験		1

テキスト： 系統看護学講座【疾病の成り立ちと回復の促進（1）】 ,医学書院

参考書：授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅰ（循環器・呼吸器・消化器） 1単位 30時間

受講年次： 1学年 前期 担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。
2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力） DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力） DP. III. ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	臨床病態学Ⅰ概説	1. オリエンテーション・病理学で学ぶこと 1) 看護にとっての臨床病態学とは 2) 循環器系の主な疾患とは	講義	2
2回 ～ 5回	循環器系の主な 症状と病態生理	1. 循環器系の主な病態生理 1) 血性心疾患：狭心症・心筋梗塞 2) 心不全、血圧異常、不整脈 3) 大動脈瘤、弁膜症、心筋症 4) 静脈性疾患 リンパ系疾患 5) 各々の疾患の症状、検査、治療	講義	8
6回	呼吸器系の主な 症状と病態生理	1. 主な症状 1) 呼吸困難 2) 呼吸不全、 3) 呼吸異常 4) 胸痛	講義	2
7回 ～ 9回	呼吸器系の主な 疾病と症状、検 査、治療	1. 気管支喘息、気管支拡張症 1) 症状、検査、治療 2. 肺腫瘍、 1) 症状、検査、治療、 3. 新型コロナウイルス 1) 症状、検査、治療 4. インフルエンザウイルス 1) 症状、検査、治療	講義	6

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
10回	中間試験	筆記試験 解答・解説		1
11回	消化器系の主な症状と病態生理	1. 消化器系の主な症状と病態生理 1) 嚥下困難 2) 腹痛 3) 嘔吐 4) 吐血 5) 腹膨満感 6) 黄疸	講義	2
12回 ～ 14回	消化器系の主な疾病と検査、治療	2. 消化器系の主な疾病と検査、治療 1) (食道・胃の異常) (1) 食道癌、胃炎、食道アカラシア (2) 食道・胃静脈瘤 (3) 胃・十二指腸潰瘍、 (4) 胃癌 2) (胆嚢・膵臓の異常) (1) 胆嚢炎、胆石症、胆のうがん、 (2) 膵炎(急性・慢性) (3) 糖尿病 (4) 膵癌	講義	6
15回	歯・口腔系の主な疾患と検査、治療	1. 歯・口腔系の主な症状と病態生理 1) 口腔症状 2) 顎口腔機能障害 2. 主な疾患、症状、検査、治療 1) 齲蝕 2) 歯髄疾患 3) 口腔領域の悪性疾患	講義	2
16回	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト： 系統看護学講座【疾病の成り立ちと回復の促進(1)】，医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅱ（脳神経系・運動器・腎泌尿器・女性生殖器・内分泌） 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べるができる。
2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III. ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	臨床病態学Ⅱ 脳神経系の主な症状と病態生理	1. 主な症状と病態生理 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 髄膜刺激症状	講義	2
2回 ～ 5回	主な疾病と検査、治療 (外科系) (神経内科系)	1. 主な疾病と症状、検査、治療 (外科系) 1) 脳腫瘍 2) 脳血管障害 (神経内科系) 1) 神経変性疾患（認知症） 2) パーキンソン病 3) 脊髄小脳変性症	講義	8
6回	運動器系の主な症状と病態生理	1. 運動器系の主な症状と病態生理 1) 疼痛 2) しびれ 3) 変形 4) 麻痺 5) 筋力低下 6) 筋萎縮	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7回 ～ 8回	運動器系の主な疾病、症状、検査、治療	1. 主な疾病と症状、検査、治療 1) 骨折 2) 椎間板ヘルニア 3) 脊柱管狭窄症	講義	4
9回	中間試験	筆記試験 解答・解説		1
10回 ～ 11回	腎泌尿器系の主な疾病、症状、検査、治療、	1. 主な疾病と症状、検査、治療 1) 腎不全 (1) 透析療法 2) 膀胱腫瘍 3) 前立腺腫瘍 4) 尿路結石	講義	4
12回 ～ 13回	女性生殖器系の主な症状と病態生理	1. 主な症状と病態生理 1) 帯下 2) 性器出血 2. 主な疾病と症状、検査、治療 1) 子宮筋腫 2) 子宮がん 3) 卵巣がん 4) 乳がん	講義	4
14回 ～ 15回	内分泌系の主な疾病、症状、検査、治療、	1. 主な疾病、症状、検査、治療 1) 糖尿病 2) 脂質異常症 3) 高尿酸血症 4) 甲状腺疾患 5) 副腎疾患 6) バセドウ病	講義	4
16回	終了試験	まとめ終了試験 解答・解説		1

テキスト： 系統看護学講座【疾病の成り立ちと回復の促進（1）】，医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅲ（膠原病・アレルギー・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・血液疾患）1単位 15時間

受講年次： 1学年 後期

担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1. 主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。
2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べるることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	臨床病態学Ⅲ 膠原病・アレルギー 疾患	1. 膠原病の主な症状と病態生理 1) 自己免疫疾患 2. 主な疾患と症状、検査、治療 1) 膠原病 2) 全身性エリテマトーデス 3) 関節リウマチ 3. アレルギーの主な症状と病態生理 1) 呼吸器症状、皮膚症状 4) 主な検査、治療	講義	4
3回	耳鼻咽喉科の主な 疾患、症状、検査、 治療	1. 耳鼻科の主な症状と病態生理 1) めまい 2) 耳鳴 3) 鼻閉塞感 2. 主な疾患、症状、検査、治療 1) 中耳炎 2) 副鼻腔炎 3) メニエール病	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
4回	皮膚科の主な疾病 症状、検査、治療、	1. 皮膚科の主な症状と病態生理 1) 湿疹 2) 掻痒感 2. 主な疾病、症状、検査、治療 1) アトピー性皮膚炎 2) 脂漏性湿疹	講義	2
5回	眼科の主な疾病、疾 患、症状、検査、治 療	1. 眼科の主な症状と病態生理 1) 視力異常 2) 視野狭窄 3) 複視 2. 主な疾病、症状、検査、治療 1) 緑内障 2) 白内障 3) 結膜炎	講義	2
6回 ～ 7回	血液疾患の主な疾 病、症状、検査、治 療	1. 血液疾患の主な症状と病態生理 1) 貧血 2) 出血傾向 3) リンパ節腫脹 2. 主な疾病、症状、検査、治療 1) 白血病 2) 再生不良性貧血 3) 血小板機能異常症	講義	4
8回	終了試験	まとめ終了試験		1

テキスト： 系統看護学講座【疾病の成り立ちと回復の促進（1）】 ,医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法： 筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅳ 1単位 15時間

受講年次： 2学年 前期

担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

- 1.小児期にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。
- 2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. III.ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	臨床病態Ⅳ (小児病態)	1. 小児期の特徴と主な疾病の診断・治療 1) 小児期の主な疾患とは 2) 遺伝子・染色体異常 3) 新生児の異常	講義	2
2回	代謝性疾患の主な疾病、症状、検査、治療	1. 先天性代謝異常 2. 内分泌系疾患	講義	2
3回	免疫疾患の主な疾病、症状、検査、治療	1. 原発性免疫不全症 2. 食物アレルギー 3. リウマチ性疾患	講義	2
4回	呼吸器系の主な疾病、症状、検査、治療	1. 上気道疾患 (急性咽頭炎) 2. 気管支炎 3. 気管支肺炎	講義	2
5回	循環器系の主な疾病、症状、検査、治療	1. 先天性心疾患 2) 後天性心疾患	講義	2
6回	消化器系の主な疾病、症状、検査、治療	1. 口腔疾患 (口唇・口蓋裂) 2. 食道閉鎖疾患	講義	2
7回	血液・造血器系疾患の主な疾病 症状、検査、治療	1. 再生不良性貧血 2. 白血病	講義	2
8回	終了試験	まとめ終了試験		1

テキスト： 系統看護学講座【小児臨床看護各論 小児看護学②】 ,医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験

科目名：臨床病態学Ⅴ 1単位 15時間

受講年次： 2学年 前期

担当：外来講師

目的

根拠に基づいた看護実践に必要なアセスメント力を身につけるため、健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後等について臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

1. 周産期及にある対象の主な疾病の成り立ちや回復過程、回復の促進に関する基礎知識について述べることができる。
2. 看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べるることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP: ディプロマポリシー) との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. III. ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	臨床病態学Ⅴ (母性病態) 周産期の特徴と主な疾病の診断・治療	1. 周産期の主な疾患とは 2. 生殖器能異常	講義	2
2回	リプロダクティブ ヘルスケアの必要性	1. 遺伝相談 2. 出生前診断 3. 着床前診断 4. 胎児治療と遺伝子治療	講義	2
3回	主な治療	1. 不妊治療 2. 不妊検査 3. 不妊治療	講義	2
4回	妊娠期の異常	1. ハイリスク妊娠 2. 合併する全身疾患 3. 妊娠期の合併症 4. 多胎妊娠 5. 異所性妊娠	講義	2
5回	分娩期の異常	1. 産道異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常、 4. 分娩障がい	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
6回	分娩の異常	1. 分娩時損傷 2. 分娩第3期及び分娩直後の異常 3. 分娩時異常出血 4. 産科処置と産科手術	講義	2
7回	産褥の異常	1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥血栓症 4. 精神障害	講義	2
8回	終了試験	まとめ終了試験		1

テキスト： 系統看護学講座【女性生殖器（成人看護学9、母性看護学各論）】，医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法： 筆記試験

科目名：臨床病態学VI 1 単位 15 時間

受講年次： 2 学年 前期

担当：外来講師

目的

生命の尊厳と人権を尊重した精神看護を実践できる人材を育成することを目的とする。

健康状態に応じた疾病の成り立ちについて疾病の原因、症状、診断、治療、予後の視点から臨床病態学の基礎知識を学ぶ。

目標

- 1.すべての発達段階にある人々の健康を守り心の病から回復を見守ることをめざす。
- 2.看護アセスメントに必要な対象者に現れている主な疾病の症状・検査・治療について述べることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1 回	臨床病態学VI (精神病態学)	1. 精神に健康障害をもつ対象の主な症状 1) 総論 2) 認知症	講義	2
2 回	主な精神疾患	1. てんかん 2. 器質性精神病	講義	2
3 回	主な精神疾患	1. アルコール 2. 気分障害	講義	2
4 回	主な精神疾患	1. 神経症	講義	2
5 回	主な精神疾患	1. 児童精神医学	講義	2
6 回	主な精神疾患	1. 統合失調症	講義	2
7 回	主な精神疾患	1. 人統合失調症の実際	講義	2
8 回	終了試験	まとめ終了試験		1

テキスト： 系統看護学講座【精神看護の基礎 精神看護学 (1)】,医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法：筆記試験・マークシート試験

科目名：総合医療論 1単位 15時間

受講年次： 1学年 前期

担当：松山 壮一郎

目的

看護を実施にあたり医学の知識に加えて、それ以上に対象者の生命の尊厳及び人権尊重を常に考え行動することの大切さを学ぶ。更に、看護を実施にあたり常に考慮しなければならぬに諸事情について学ぶ。

目標

1. 看護が効果的に実施できるために必要な総合医療論の基礎的知識について説明できる。

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	総合医療論概説	オリエンテーション 1. 医学と医療・健康	講義	2
2回	医療の原点と看護	1. 医療の原点と看護と患者	講義	2
3回	医学と医療の発展の歴史	1. 医学と医療の発展の歴史 2. 医療と看護を取り巻く諸問題	講義	2
4回	保健・医療の新しい展開	1. 患者の人権の保護とインフォームドコンセント 2. QOLについて	講義	2
5回	医療を見つめなおす視点	1. 患者との信頼関係及び医療事故	講義	2
6回	現代医療の新しい課題	1. 最近の延命治療 2. 自己決定権および死について	講義	2
7回	保健・医療・福祉の新しい展開	1. 医療の経済と諸制度	講義	2
8回	試験	終了試験		1

テキスト： 医療概論， 康永秀生著、医学書院

参考書：

評価方法：終了試験ならびに出席状況

科目名：保健学 1単位 15時間

受講年次： 1学年 前期

担当：譜久山 民子

目的

人びとの健康を社会集団として維持増進することを目的とした保健学の概念、方法論を学ぶ。

目標

- 1.病気の予防、「健康にとって有害な環境や、行動、社会的要因を取り除く」ことにより、人々の健康状態と生活の質（QOL）を維持向上させることについて理解を深めることができる。
- 2.疫学的指標を用いて、人々の健康課題や保健対策について理解できる。
- 3.健康を守るための組織、機関および医療従事者の役割や機能への理解を深めることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	保健学の意義と概要	1. 公衆衛生・保健とは 2. 保健学の概要	講義	2
2回	健康と環境	1.環境とは 2. 生活環境の保全	講義	2
3回 ～ 4回	公衆衛生の技術 保健対策（疫学健康指標）	1. 公衆衛生技術（疫学・健康指標・その他） 1) 保健対策の動向 ①保健の課題 ②保健福祉対策 ・地域保健・母子保健・学校保健 ・成人・老年保健・産業保健・精神保健 2) 健康増進 ①健康増進対策 ・ヘルスプロモーション・プライマリー・ヘルスケア ②健康に関連する問題	講義	4
5回	日本の社会保障制度と医療制度改革	1. 社会保障制度及び医療制度をめぐる動向 2. 日本の社会保障制度と医療制度改革	講義	2
6回	公衆衛生の実践	1. 地域保健と母子保健及び学校保健 対象別公衆衛生の実践 感染症対策	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7回	グローバル化する公衆衛生及び産業保健	1. 公衆衛生とグローバル化 2. 国際協力	講義	2
8回	終了試験	まとめ 終了試験・解答・解説		1

テキスト： 系統看護学講座 社会保障制度と生活者の健康（2）公衆衛生 医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、出席状況を総合して評価する。

科目名：健康科学 2単位 45時間

受講年次： 2学年 前期

担当：宮城 政也

目的

自己の健康を保持増進するために必要な自らの身体に関心を持ち、健康へのアプローチ、他者への健康教育・健康管理、健康について科学的に考えるための基礎的知識およびスポーツを通して人間関係作りや協調性について学ぶ。

目標

1. 他者への健康教育・健康管理、健康について科学的な視点から考えることができる。
2. 健康へのアプローチのできる力を身につける。
3. 実技を通して現在持っている自分の身体能力や精神・社会的能力を確認することができる。
4. スポーツを通して人間関係の基礎作りに必要なルールや協調性の必要性を体験する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III.ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	運動と身体の変化	1. 筋繊維の種類・組成、運動による変化 2. 運動エネルギー源、ATP産生機構 3. 運動による循環・呼吸に起こる変化 4. 運動と疲労 5. 運動と代謝 6. 運動と老化	講義	4
3回 ～ 6回	健康と運動	1. 健康と運動の関連 2. 運動の意義 1) 運動の生理学を学び、心身への効果 ①健康と運動 ・運動の身体への影響 ・運動生理学 2) 運動と心の健康 ①運動の心理的効果 ②運動による心の健康作り 3) 健康生活と運動 ①健康生活とスポーツ②生活習慣と運動 ③運動と体重調整 4) 健康・体力作り ①健康作りのための運動 ②スポーツ医学の基礎知識 ③運動障害と予防	講義	8

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
7回	中間評価	試験（筆記・実技）	実技	2
8回 ～ 18回	運動実技	1. 実技 1) 体力評価 2) 球技 2. リラクゼーション運動 1) 健康体操 2) ヨガ	講義 実技	8 14
19回 ～ 22回	レクリエーション	1. レクリエーションの意義 2. レクリエーション計画と指導 3. レクリエーションの実際	講義 実技	6 2
23回	終了試験	まとめ 終了試験 ・解答・解説		1

テキスト：なし

参考書：授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、実技、出席や授業態度を総合して行う

科目名：社会福祉 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：小林 学美

目的

社会福祉についての基本概念、生活者の視点から社会保障制度の全体像を把握し、生活保障・安定・向上のための制度・活動についての基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 人々のよりよい健康生活・地域における自立支援のあり方や社会福祉サービス・社会福祉システムなど地球規模で考えるノーマライゼーションや人権について理解を深める。
2. 社会福祉と医療、保健との関連、医療サービス支援のなかで他職種の役割、看護の果たす役割について理解できる。
3. 健康障がい状態に応じて社会資源を活用できる知識を習得する。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III. ケアする仲間と協働する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回	社会福祉概説	オリエンテーション 1. 対人援助 2. 主体性の尊重とストレスマネジメント	講義	2
2回	社会保障	1. 社会保障とは	講義	2
3回	現代社会の変化	1. 社会福祉の歴史と現在の動向	講義	2
4回	医療保障制度と介護保障制度	1. 医療保障と介護保障	講義	2
5回	所得保障制度と公的扶助制度	1. 所得保障と公的扶助	講義	2
6回	社会福祉の分野とサービス	1. 障害福祉サービス	講義	2
7回 ～ 8回	障害平等研修	1. 障害平等研修とは 演習：障害平等研修 前半 演習：障害平等研修 後半	講義 演習	4
9回	高麗者福祉と児童家庭福祉	1. 高齢者福祉サービスと児童福祉サービス	講義	2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
10回 ～ 14回	社会福祉の実践	1. 社会福祉援助の基本姿勢 2. 社会福祉援助技術 3. 他職種との連携 4. 地域と医療の連携 5. 社会福祉の援助 演習：社会福祉援助演習（グループワーク）	講義	10
15回	終了試験	まとめ終了試験 解答・解説		2

テキスト： 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度(3) 医学書院

参考書： 授業中に適宜紹介する

評価方法： 筆記試験、演習レポート、出席状況を総合して行う。

科目名：看護と法 1単位 15時間

受講年次： 3学年 前期

担当：外来講師

目的

社会における法の意味を知り、変化する医療制度に伴う看護の役割や責任について学ぶ。

目標

- 1.他職種との関係性・職業アイデンティティとは何かを説明できる。
- 2.倫理的行動決定を行うための基礎的知識とは何か説明できる。
- 3.憲法、看護師の資格や看護業務に関係の深い保健衛生法規について説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間数
1回 ～ 2回	社会と法	1. 法規の概念 1) 法規とは 2) 法規の種類 3) 不文法 4) 公法と私法 5) 実体法と手続法 6) 法規の効力の優劣 2. 日本国憲法	講義	4
3回	看護に必要な法令	1. 看護の基本法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保補足に関する法律 看護に必要な法令	講義	2
4回 ～ 7回	看護の関連法規	1. 関係法規 1) 医療法 2) 医師法 3) 地域保健法 4) 健康増進法 5) 分野別保健法 (1)母子保健法 6) 感染症に関する法 7) 感染症に関する法 8) その他労働安全衛生法など関係法規	講義	8
8回	終了試験	まとめ終了試験		1

* 薬務法は薬理学、社会福祉関係法は社会福祉、地域保健法は保健学、母子保健法は母性看護学、精神保健法は精神看護学でも教授される。

テキスト： 1)系統看護学講座 10 関係法規 医学書院

参考書： 1)私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法 第2版日本看護協会出版会 田村やよひ

2) 国民衛生の動向、厚生労働白書他、授業中に適宜紹介する。

評価方法：筆記試験、演習レポート、出席状況を総合して行う。

3 専門分野

- 1) 基礎看護学
- 2) 地域・在宅看護論
- 3) 成人看護学
- 4) 老年看護学
- 5) 小児看護学
- 6) 母性看護学
- 7) 精神看護学
- 8) 看護の統合と実践
- 9) 臨地実習
 - (1) 基礎看護学
 - (2) 地域・在宅看護論
 - (3) 成人看護学
 - (4) 老年看護学
 - (5) 小児看護学
 - (6) 母性看護学
 - (7) 精神看護学
 - (8) 看護の統合と実践

基礎看護学

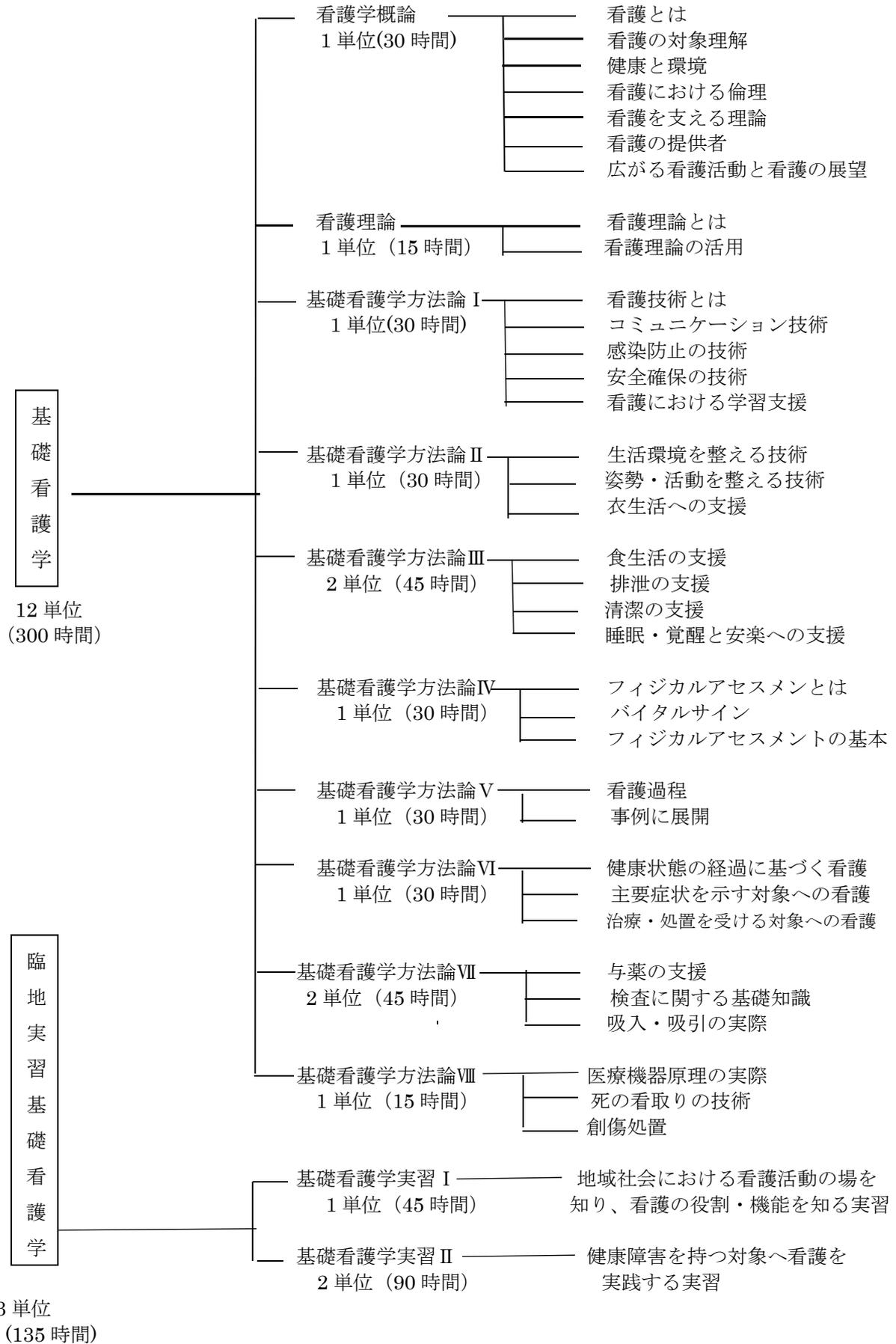
目 的

基礎看護学においては、対象となる人間を理解し、人間のライフサイクルにおける健康と健康の意義、保健医療福祉における看護の役割・責任について理解する。またチーム医療及び多職種との協働を図りながら効果的な看護活動ができることについて理解し、看護行為の基礎となる知識、技術、態度を習得し、包括的な看護の基本について学ぶ。

目 標

- 1 看護の基本概念と看護理論を学び、看護の対象である「人間」と看護の目的である「健康」について基礎的知識を深め、社会の変化と看護の歴史的変遷から「看護の役割と機能」について理解する。
- 2 看護の対象を人権意識に基づいて総合的に理解し、看護師として倫理に基づく判断と行動決定が責務であることを理解する。
- 3 看護実践の基盤となる基本技術を科学的根拠に基づく安全・安楽な技術として習得し、事故防止のための行動がとれる。
- 4 人間関係を成長発展させるための技術としてコミュニケーション技法や健康状態を把握するための技術としてフィジカルアセスメントの基本を習得する。
- 5 人間の日常生活行動を理解し、科学的根拠に基づいた基礎的な支援技術を習得する。
- 6 健康障害をもつ対象とその家族に対する基本的な支援を学び、健康状態・症状別の根拠に基づいた支援の選択、安全・安楽な支援の方法を習得する。
- 7 治療処置に伴う看護支援を安全・安楽に実施する方法を習得する。
- 8 看護過程を学び、対象のもつ看護ニーズの明確化、看護の目標達成への支援計画立案、評価について習得する。
- 9 多職種との連携、協働に必要な基本を理解する。
- 10 対象者の療養生活環境を理解し、対象者のニーズに応じた基本技術を根拠に基づき実施し、看護過程の展開方法まで理解できる。

科目構成



科目名：看護学概論 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 前 期

担当：専任教員；

目的

看護学を構成する主要概念の「人間」「健康」「環境」「看護」について学習し、看護の対象、目的、看護の本質や看護師としての役割、看護独自の機能、看護倫理など看護学の基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 看護学を構成する主要概念について説明できる。
2. 看護の目的、看護の本質について説明できる。
3. 看護師としての役割・看護独自の機能について説明できる。
4. 保健・医療・福祉等、多職種における調整、連携・協働の必要性を説明できる。
5. 今後の看護のあり方について考えることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V. 地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 2 回	看護とは	1. 看護の定義 2. 看護の本質 3. 歴史的変遷 4. 看護の目的 4. 看護の役割と機能 5. 沖縄の看護の歴史	講義	4
3 回 ～ 4 回	看護の対象理解	1. 看護の対象とは 2. 人間の基本的欲求 3. 環境に適応する存在としての人間 4. 人間の成長・発達 5. 人間のこころと体 6. 統合体としての人間 7. 地域における生活者としての人間	講義	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
5 回 ～ 9 回	健康と環境	1. 健康の定義 2. 健康障害とその影響 3. 健康観 4. 国際生活機能分類 (ICF) 5. データから見る国民の健康 6. 健康の保持増進と疾病の予防 7. ヘルスプロモーション 8. ホメオスターシス 9. 環境の変化に対応して存在する対象 10. 環境と適応 11. 地域特性と健康	講義 演習	8 2
10 回 ～ 11 回	看護における倫理	1. 看護倫理とは 2. 看護倫理に関する基礎知識 3. 倫理的意思決定 4. 看護の倫理原則 5. 看護者の倫理綱領 6. 看護上の倫理的問題 7. 倫理的ジレンマ	講義 演習	2 2
12 回	看護を支える理論	1. 看護理論とは 2. 看護理論を学ぶ意義 3. 看護理論の分類 4. 主な理論家とその理論	講義	2
13 回	看護の提供者	1. 看護専門職とは 2. 看護基礎教育 3. 継続教育と卒後教育 4. 多職種との連携・協働の必要性	講義	2
14 回	広がる看護活動と看護の展望	1. 現代の医療・看護に求められるもの 2. 看護業務の特性と医療事故 3. 地域包括ケアシステム 4. 国際看護 5. 災害看護 6. 今後の課題と展望	講義	2
15 回	終了試験	筆記試験 解答・解説	解答・解説	2

テキスト：基礎看護学（看護学概論）医学書院

参考書：看護覚え書き, フローレンスナイチングール, 現代社、

国民衛生の動向, 厚生労働省, 沖縄の看護教育 75年のあゆみ

評価方法：終了試験 70 点、課題レポート 30 点

看護学概論レポート課題	
時期	タイトル
①事後学習課題 (第1回目講義終了後)	「私のめざす看護師像」(1200字程度)
②夏季休業中の課題	「看護覚え書き」を読んで(1200字程度)

科目名 看護理論 1 単位 15 時間

受講年次： 1 学年 前期

担当：専任教員

目的

1. 看護の知の生成過程 及び看護理論の構造を学び実践の科学としての看護学の構造と特徴について理解を深める。また、看護における主要な理論と概念を検討し、看護実践と理論の関連性について理解を深める。

目標

1. 理論とは何かを知ることができる。
2. 看護理論の発展過程がわかる。
3. 看護理論の構造がわかる。
4. 看護理論と看護実践の関連性について知ることができる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V. 地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	看護理論とは	オリエンテーション 看護理論とは 1) 理論を学習することの意義・目的 2) 看護理論の発展 3) 看護理論の特徴と分類	講義	2
2 回	看護理論の枠組みと看護実践	看護理論の枠組みと看護実践 1) 理論の評価・評価の意義 2) 看護理論をわかりやすく読むための枠組み 3) 看護理論と看護実践の関係性	講義	2
3 回	演習課題 I ヘンダーソンの看護理論の理解に向けて	ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論 演習課題 I 「脳梗塞患者の看護」紙上事例を用いる ヘンダーソンの「基本的ニーズの構成要素 (14 項目) に基づき対象のニーズをとらえる」に基づきグループ学習する。 対象の情報⇒情報の持つ意味⇒ニーズの充足状況、未充足状況⇒どのような看護が必要か考える	講義 演習	2

4回	演習課題Ⅰのグループ発表	課題の成果をグループで発表する 質疑、応答で学びを深める	講義 演習	2
5回	演習課題Ⅱ 5名の看護理論家の理論の理解に向けて	看護実践に看護理論を活用 演習課題Ⅱ 主要な理論家の理論を活用し、事例（脳梗塞患者）の看護を考える。 1) 5名の看護理論家の紹介 1グループ1名の理論家の学習	講義 演習	2
6回	演習課題Ⅱの発表に向けて	演習課題Ⅱの発表に向けてオリエンテーション 集録の提出、運営役割の決定、発表の方法 質疑・応答について	講義 演習	2
		発表会（10グループ編成）		
7回	看護理論の活用 発表を終えて	演習課題Ⅱの発表を終えてまとめ	講義	2
8回	終了試験	筆記試験		1

テキスト：「看護学概論」医学書院

参考書：「看護の基本となるもの」ヴァージニア ヘンダーソン
各理論家の著書

評価方法：終了筆記試験（60点）。課題提出（40点）

看護理論 レポート 課題	
時期	タイトル
第3回授業前課題	レポート課題 「看護の基本となるもの」

科目名 **基礎看護学方法論 I** 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 前期

担当：専任教員；

基礎看護学方法論 I は看護の共通基本技術について学ぶ内容である。

目的

1. 看護を実践するための基盤となる基本技術の知識・技術・態度を学ぶ

目標

1. 看護技術の基本概念を説明できる
2. 看護技術を支える要素が説明できる
3. 人間関係を構築するためのコミュニケーションの基本が説明できる
4. 効果的なコミュニケーションを実施できる
5. 感染防止策の意義や基礎的な知識を説明し、感染防止の適切な方法が実施できる
6. 医療安全の基本的な考え方を説明でき、安全対策を適切な方法で実施できる
7. 看護における学習支援に基礎的知識が理解できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1回	看護技術とは	1. 看護技術とは 2. 看護技術の構成要素 3. 看護技術の特徴 4. 看護技術の原則・構成	講義・演習	2
2回 ～ 3回	安全を守る技術	1. 医療安全の概念（歴史的背景・言葉の定義） 2. ヒューマンエラーとヒューマンファクター 3. インシデントレポート意義と活用 4. 医療安全への組織的取り組み 5. 医療現場における業務上の危険 1) 対象者誤認防止 2) 転倒・転落防止の実際 3) 誤薬防止の実際	講義・演習	4
4回 ～ 8回	人間関係成立し、発展させるための技術	1. 基本的なコミュニケーション 1) コミュニケーションの意義と目的 2) 看護・医療におけるコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 視線・距離、表情づくり 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの原理・基本的態度	講義・演習	10

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		7. 無菌操作の基礎知識 1) 滅菌物を取り扱いの基本 2) 無菌操作の実際 8. 無菌操作の実際 1) 滅菌包装の開き方 2) 滅菌撮子の取り出し方 3) 滅菌ガーゼの取り出し方 4) 鉗子・撮子の取り扱い 5) 滅菌手袋の着用 9. 感染性廃棄物の取り扱いの実際	演習	4
15回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：茂野香おるほか：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ
 参考書：任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、2019年、医学書院
 評価方法：筆記試験は2回の平均点とする。

試験（70点）、レポート提出（20点）、ポートフォリオ（10点）

基礎看護学方法論Ⅰの事前課題・レポート課題	
時期	課題内容
第5回授業後課題	レポート課題 「聴いてください看護婦さん」
第7回授業後課題	レポート課題 「口にする言葉」
第8回授業後課題	レポート課題 「人間関係関連図」
第11回授業前課題	レポート課題 「コミュニケーション障害への対応」
第13回授業前課題	レポート課題 「学習理論について」
第15回授業前課題	レポート課題 「感染症を成立させる要素について」 「日常的手洗いと衛生的手洗いの違い」
第16回授業前課題	レポート課題 「流水による手洗いの手順」

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
9回 ～ 14回	姿勢・活動を整える技術	1. 基本的活動の基礎知識 1) 体位変換 2) 安楽な体位 3) 体位保持 2. 安全・安楽な姿勢の整え方の実際 3. 移乗・移送の実際 (補助具の安全な使用方法 歩行の支援) 4. 活動・休息支援の実際 1) 車椅子での移乗・移送 2) 体位変換 3) 安楽な体位 5. 体位変換・移乗移送・安楽な姿勢の実際	講義 演習 校内実習	4 2 6
15回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：任和子ほか：系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
 参考書：任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、2019年、医学書院
 評価方法：試験（70点）、レポート提出（20点）、ポートフォリオ（10点）

基礎看護学方法論Ⅱの事前課題・レポート課題	
時期	課題内容
第3回授業前課題	DVDを視聴しリネン類のたたみ方について学習して臨む
第4回授業前課題	DVDを視聴しクローズドベッドの作成方法について学習して臨む
第5.6回授業前課題	レポート課題 「臥床対象者のリネン交換の手順と根拠」

基礎看護学方法論Ⅲは生活過程を整える技術を学ぶ内容である。

目的

1. 対象の日常生活を支援するために必要な日常生活支援技術を科学的根拠に基づき安全・安楽に実践するための基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1. 清潔支援の基礎的知識を理解し、清潔の支援方法が実施できる。
2. 苦痛の緩和・安楽の確保技術の基礎的知識を理解し、安楽の支援方法が実施できる。
3. 食事支援の基礎的知識を理解し実施することができる。
4. 排泄支援の基礎的知識を理解し、実施することができる。
5. 日常生活支援技術を安全・安楽・倫理的配慮を考慮した方法で実施できる。
6. メンバーと協力しながら、主体的に課題・校内実習を行うことができる。
7. 実践後の看護技術を振り返り、自己の課題を記述することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III ケアする仲間と協働する力	
DP. IV 看護師として成長し学習し続ける力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1回 ～ 4回	食生活の支援	1. 食事支援の基礎知識・食生活への支援技術① 1) 栄養状態及び摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2. 食生活への支援技術② 1) 非経口的栄養摂取の支援方法（経鼻経管栄養法の実際） 3. 事例を用いての食事支援の実際 1) 麻痺のある対象者への食事支援 2) 視覚障害のある対象者への食事支援	講義 演習 校内実習	2 2 4
5回 ～ 10回	排泄の支援	1. 排泄支援の意義 2. 自然排尿および自然排便の基礎知識（排尿・排便のアセスメント） 3. 自然排尿および自然排便の実際 1) 腹部マッサージ 2) 腰背部の温罨法 3) 排泄用具の使用	講義 演習	4 2

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		4. 排泄障害（排便）のある対象者への支援の 1) 床上排泄 2) 摘便・浣腸の実際	演習	2
		5. 排泄障害（排尿）のある対象者への支援 1) 導尿の実際		
		6. 排泄障害のある対象者への支援の実際（導尿の技術）	校内実習	4
11回	中間試験	筆記試験 解答・解説		1
12回 ～ 20回	清潔の支援	1. 清潔の支援の意義・目的 2. 清潔の支援の実際①（清拭・シャワー浴） 3. 清潔の支援の実際②（手浴・足浴） 4. 清潔の支援の実際③（洗髪・整容） 5. 清潔の支援の実際④（口腔ケア）の実際 6. 清潔の支援の実際⑤（陰部洗浄） 7. 清潔支援への実際⑥ —清拭と寝衣交換— 8. 清潔支援への実際⑦—陰部洗浄おむつ交換—	講義 演習 校内実習	2 8 8
21回 ～ 22回	睡眠・覚醒と 安楽の支援	1. 苦痛の緩和・安楽への支援技術 2. 苦痛緩和・安楽への支援の実際（冷・温罨法）	講義 演習	2 2
23回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：任和子ほか：系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ

参考書：任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、2019年、医学書院

評価方法：筆記試験2回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（70点）、レポート提出（20点）、ポートフォリオ（10点）

基礎看護学方法論Ⅲの事前課題・レポート課題	
時期	課題内容
第2回授業前課題	レポート課題 「経鼻経管栄養法の方法手順と根拠」

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		10. バイタルサイン測定—血圧測定— 1) 血圧測定の意義 2) 血圧調節のメカニズムと影響因子 3) 血圧測定の方法 ①血圧測定の実際（触診法・聴診法） 4) 事例を通じたバイタルサイン測定の実際 11. 看護記録について 1) 主観・客観的情報 2) 看護記録の種類 3) 看護記録の書き方	校内実習 講義	4 2
8回 ～ 14回	系統別フィジカルアセスメント	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 基礎知識 3) 呼吸器系の問診・視診・触診・打診・聴診 4) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 基礎知識 3) 心臓・血管系の問診・視診・触診・打診・聴診 4) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際 3. 消化器系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 基礎知識 3) 消化器系の問診・視診・触診・打診・聴診 4) 消化器系のフィジカルアセスメントの実際 4. 運動・神経系のフィジカルアセスメント 1) 目的 2) 基礎知識 3) 運動・神経系の問診・視診・触診・打診・聴診 4) 運動・神経系のフィジカルアセスメントの実際	講義 演習 講義 演習 講義 校内実習	2 2 2 2 2 4
15回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：任和子ほか：系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ
山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる、
2017、医学書院

参考書：岡庭豊ほか：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント第1版 2019年
メディックメディア

評価方法：筆記試験2回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（70点）、レポート提出（20点）、ポートフォリオ（10点）

科目名 **基礎看護学方法論V** 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 後期

担当：専任教員；

基礎看護学方法論Vは看護過程について学ぶ内容である。

目的

看護実践を科学的に実践するための看護過程の一連のプロセスを理解し、看護実践に活用する方法を学ぶ。また、看護実践した後に、「看護実践力向上」のためのリフレクションについて学ぶ

目標

1. 看護過程の意義、構成要素について説明できる
2. 対象理解のための主観的・客観的情報について説明できる
3. 得た情報を科学的根拠に基づいてアセスメントできる
4. 看護上の課題を明確にし、優先順位を決定できる
5. 看護目標を設定し、個別性のある看護計画を立案できる
6. 実践した看護の評価方法を説明できる
7. 看護実践向上に必要なリフレクションについて説明できる

卒業の認定に関する方針 (DP：ディプロマポリシー) との関連
I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力・判断力)
II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1回 ～ 2回	看護過程とは	1. 看護過程とは 2. 看護過程の構成要素について 3. 問題解決過程、クリティカルシンキングについて 4. V. ヘンダーソンの看護論に基づく 看護過程の考え方 5. 対象者の情報の気づき	講義	4
3回 ～ 12回	構成要素	1. V. ヘンダーソンの枠組みを活用した情報の整理 2. 14 基本的欲求の充足・未充足のアセスメント 3. 看護上の課題 (看護問題) について 1) 関連図 2) 看護上の課題 (看護問題) の優先順位について 4. 看護計画について 1) 期待される効果の明確化 2) 目標設定について 3) 観察項目・直接ケア計画・指導計画について 5. 看護実践と評価 1) 看護計画の評価について 2) 看護実践向上のためのリフレクションについて	講義 演習	20

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
13回 ～ 14回	事例の展開	1. 看護過程の実際 事例を用いた情報収集からアセスメントまで	校内実習	4
15回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト： 茂野香おるほか：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2]基礎看護技術 I

参考書： 秋葉公子ほか：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版

江崎 フサ子ほか：ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リス 第4版
スーヴェルヒロカワ

評価方法：終了筆記試験（40点）

課題（情報収集、アセスメント、関連図、看護計画）（60点）

科目名 基礎看護学方法論VI 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 後期

担当：専任教員

基礎看護学方法論VIは臨床看護総論について学ぶ内容である。

目的

1. 健康状態をもつ対象者とその家族に対する基本的な看護支援の方法について学ぶ。

目標

1. 臨床看護における看護師の役割が説明できる
2. 健康状態における看護の方法が説明できる
3. 主要症状を示す対象の看護の方法を説明できる
4. 治療・処置を受ける対象者の看護の実際・支援技術の方法を説明できる

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力・判断力)
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. III. ケアする仲間と協働する力
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力
DP. V. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1回 ～ 4回	健康状態の経過に基づく看護	1. 健康状態の経過とは (ライフサイクルも含む) 2. 経過別看護 1) 急性期の看護 2) 慢性期・リハビリテーション期の看護 3) 終末期の看護	講義	8
5回 ～ 9回	主要な症状を示す対象の看護	1. 呼吸に関する症状を示す対象への看護 1) メカニズムとアセスメントの視点 2) 看護の実際 2. 循環に関する症状を示す対象への看護 1) メカニズムとアセスメントの視点 2) 看護の実際 3. 栄養に関する症状を示す対象への看護 1) メカニズムとアセスメントの視点 2) 看護の実際 4. 活動や休息に関する症状を示す対象への看護 1) メカニズムとアセスメントの視点 2) 看護の実際 5. 「主要症状を示す対象の看護」グループ発表	講義 演習	10

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
10回 ～ 14回	処置・治療を受ける対象の看護	1. 手術療法を受ける対象者への看護 2. 集中治療を受ける対象者への看護 3. 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 4. 輸液療法を受ける対象者への看護 5. 放射線療法を受ける対象者への看護	講義	10
15回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：香春知永ほか：系統看護学講座 専門分野 I 『臨床看護総論』2021、医学書院

評価方法：筆記試験 1 回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（70 点）、レポート提出（20 点）、ポートフォリオ（10 点）

科目名 基礎看護学方法論VII 2単位 45 時間

受講年次： 1学年 後期

担当：専任教員

基礎看護学方法論VIIは診療の補助技術について学ぶ内容である。

目的

診察、検査・治療・処置を受ける対象への支援技術を科学的根拠に基づいた方法を学ぶ。

目標

1. 与薬における看護師の役割を説明できる。
2. 薬物の特徴、正しい与薬、薬剤の管理方法を説明できる。
3. 適切な方法で与薬を実践する基礎的技術が実施できる。
4. 適切な方法で検体検査や身体侵襲を伴う検査が実施できる。
5. 呼吸を整えるために必要な看護の実際・支援技術の方法を実施できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1回 ～ 9回	与薬の支援	1. 与薬の技術の基礎知識 2. 与薬における看護師の役割 3. 与薬のアセスメント 薬剤の種類と取り扱い 4. 薬方法と効果の観察 5. 与薬の技術① 経口薬・経皮・坐薬・外用薬 6. 与薬の技術② 注射法 （筋肉注射・皮下注射・静脈注射・点滴静脈注射） 7. 与薬の技術の実際 1) 経口薬の投与 8. 輸血管理 1) 種類 2) 製剤の保管 3) 投与中の管理	講義・演習 校内実習	14 4
10回	中間試験	筆記試験 解答・解説		2
11回 ～ 16回	検査介助に関する基礎知識	1. 生体機能の観察とは 2. 診察・検査時の看護師の役割 3. 検体検査の基礎知識と取り扱い 1) 血液検査の基礎知識 2) 静脈血採血 3) 尿・便検査 4) 喀痰 4. 静脈血採血・検体の取り扱いの実際 5. 身体侵襲を伴う検査 1) 胸水・腹水・骨髄液、生体検査の特徴	講義・演習 校内実習	8 4

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
		2) 胸水・腹水・髄液、生体検査をうける対象者への看護		
17回 ～ 22回	吸入・吸引の実際	1. 酸素療法の基礎知識 2. 酸素療法の実際 1) 排痰ケアの基礎知識 2) 排痰ケアの実際 ①一時的吸引②体位ドレナージ 3. 排痰ケアの実際 4. 口腔内・鼻腔内吸引	講義・演習 校内実習	8 4
23回	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト：任和子ほか：系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ
香春知永ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅰ『臨床看護総論』2021、医学書院
参考書：任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、2019年、医学書院

評価方法：筆記試験2回、演習・実習課題、総合して評価する。

試験（70点）、レポート提出（20点）、ポートフォリオ（10点）

科目名 基礎看護学方法論Ⅶ 1 単位 15 時間

受講年次： 1 学年 後期

担当：専任教員；・外来講師

基礎看護学方法Ⅶは医療機器の基礎的知識、看取りの看護や創傷管理について学ぶ内容である。

目的

医療機器・処置を受ける対象への支援技術を科学的根拠に基づいた方法を学ぶ。

目標

1. 医療機器の利用目的、医療器具の原理と実際を説明できる。
2. 臨終の場に臨む看護師の姿勢と終末を迎えた対象者への支援方法を説明できる。
3. 創傷管理に必要な基礎的知識を説明できる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

- DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力・判断力）
- DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
- DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力
- DP. V. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 2 回	医療機器の原理 と実際	1. 医療機器を安全に使うために 2. 医療機器の原理と実際 3. 診断・観察に用いる医療機器 4. 医療機器を必要とする対象の看護 5. 医療機器を安全に使用するために	講義	4
3 回 ～ 4 回	死の看取りへの 支援	1. 人生最後の時を支える看護師の役割と機能 2. 死にゆく心理プロセス 3. 臨終後の身体的変化 4. 死亡後の処置	講義・演習	4
5 回 ～ 7 回	創傷管理技術	1. 創傷管理 1) 創傷管理の意義と目的 2) 創傷管理の基礎知識 3) テープによる皮膚障害 2. 創傷管理 1) 創洗浄と創保護 2) 包帯法	講義・演習	6
8 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト：任和子ほか：系統別看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ
香春知永ほか：系統看護学講座 専門分野 I 『臨床看護総論』2021、医学書院
参考書：任和子ほか：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術、2019 年、医学書院
評価方法：筆記試験 1 回、演習・実習課題、総合して評価する。
試験（70 点）、レポート提出（20 点）、ポートフォリオ（10 点）

地域・在宅看護論

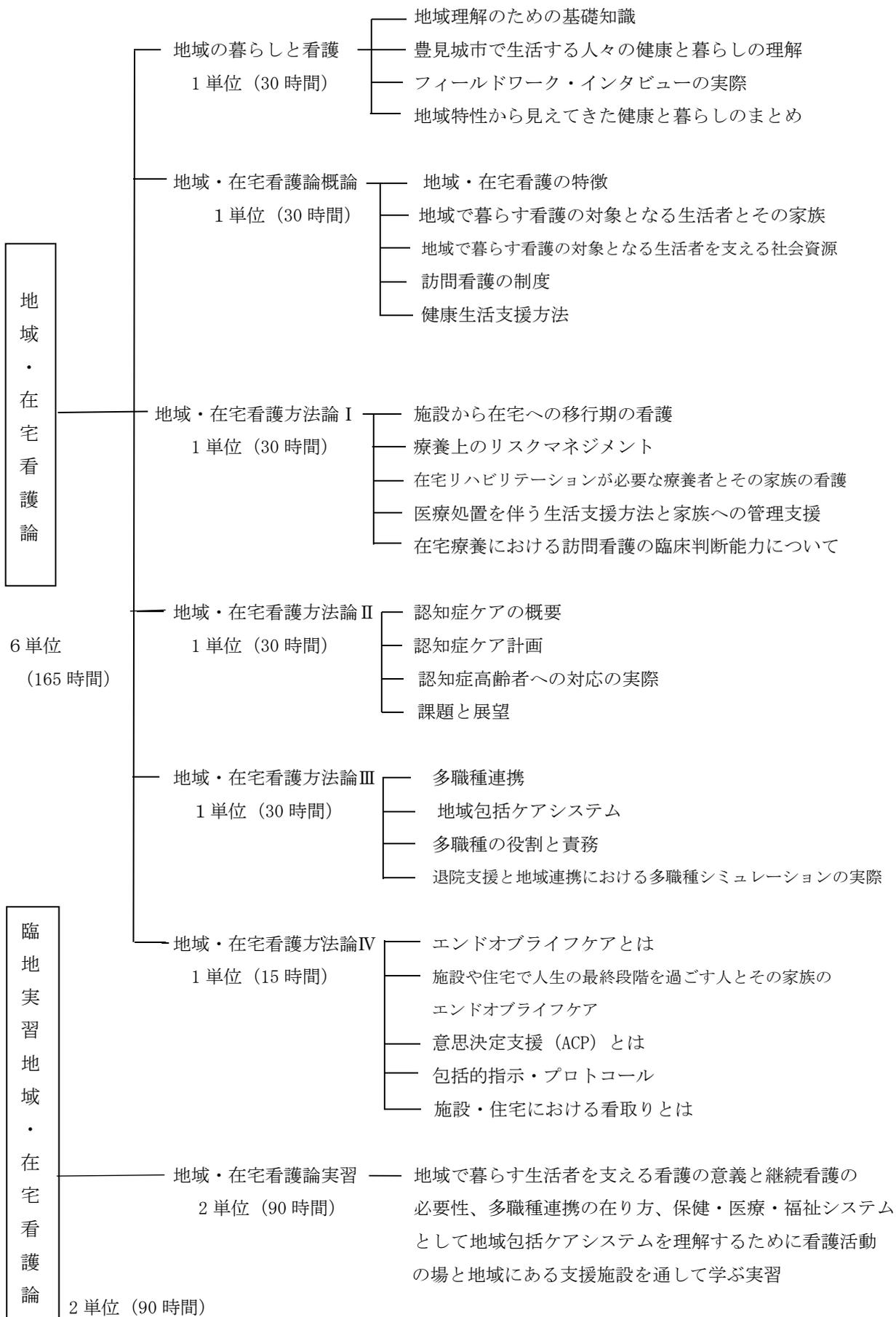
目 的

地域のあらゆる場で生活している人々を理解し、多職種と連携しながら在宅看護活動に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する

目 標

- 1 地域で暮らす人々の生活環境、文化、医療体制、社会経済、地域防災など地域特性と健康生活との関連について理解できる
- 2 地域・在宅看護論の目的やその対象、看護の基礎となる概念について理解できる
- 3 地域で生活しながら、医療的管理を必要とする人の看護の実際について学ぶ
- 4 臨床判断を用いた在宅療養者に必要な看護について演習を通して学ぶ
- 5 地域交流や行政との連携の中から地域で生活する人々の健康課題に気づき、その支援方法を学ぶ
- 6 国内外の地域づくりのための動向に関心をもち、地域の発展について考えることができる
- 7 生活者中心の支援を実現するため、多職種との連携・協働の必要性について演習を通して学ぶ
- 8 地域における終末期看護について理解できる

科目構成



科目名： 地域の暮らしと看護 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年前期

担当：専任教員；

目的：

1. 地域で暮らす人々の生活環境・地域特性が健康に与える影響を理解するためにフィールドワークを通して学ぶ

目標：

1. 地域で暮らす人々の生活環境・地域特性について説明できる。
2. 地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていることを説明できる。

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連
DP: I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP: II. 根拠に基づいた看護を实践する力 (実践力・判断力)
DP: IV. 看護師として成長し学習し続ける力
DP: V. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	地域理解のための基礎知識	オリエンテーション 1. 地域を知る 1) 地域を知る意義・目的 2) 調査計画と調査法 ・フィールドワークとは ・ヒアリング ・インタビューの作法	講義	6
4 ～ 6	豊見城市で生活する人々の健康と暮らしの理解	2. 「豊見城市で生活する人々の健康と暮らしの特性を調べる」 1) 豊見城市の歴史・文化 2) 地域で暮らす人々の生活環境 3) 地域特性が健康に与える影響 ・グループでの予備調査(インターネット等)	講義 演習	2 4
7 ～ 12	フィールドワーク・インタビューの実際	3. 地域へ GO! 1) グループでインタビューの実施 2) データを整理する 3) データをまとめ意見交換 4) 報告会の準備と報告書の作成	講義 演習	2 10
13 14	地域特性から見えてきた健康と暮らしのまとめ	4. 報告会 「地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていること」のテーマでプレゼンテーション	演習	4
15	健康と暮らしのあり方	5. 「地域特性が地域で暮らす人々の健康と暮らしに影響を与えていること」を通して学んだ内容のレポート作成	講義 演習	1 1

テキストはないが、随時資料を配布する

参考書：フィールドワークの技法 佐藤郁哉 新曜社

調査されるという迷惑 ―フィールドに出る前に読んでおく本― 宮本常一・安溪遊地
みずのわ出版

環境のモデルロジー 中村 完 北大路書房

社会調査の基礎 社会福祉士養成講座編集委員会（編） 中央法規

現場で育むフィールドワーク教育 増田 研・椎名 若菜（編） 古今書院

評価方法：レポート（60点） プレゼンテーション（グループ発表）ルーブリック評価（40点）

課題

回	課題内容	
2回目	事前課題 「フィールドワークとは」 参考書を活用し、事前課題を行う	所定の用紙を 1回目に配布

目的

1. 地域・在宅看護論の特徴を理解し、地域で暮らす生活者を支えるための看護の基本を学ぶ
目標

1. 地域・在宅看護論の特徴について説明できる
2. 地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源について説明できる
3. 訪問看護の制度について調べることができる
4. 健康生活支援方法をロールプレイで表現する

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III. ケアする仲間と協働する力
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力
DP. V. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	ビジョン・ゴールの設定	オリエンテーション ビジョン・ゴール設定	講義	2
2	地域・在宅看護論の特徴	1. 地域・在宅看護論の特徴 1) 地域・在宅看護論の社会的背景	講義	4
3		2) 地域・在宅看護論の基本となる考え方 (自己決定支援)		
4		3) 国際生活機能分類を活用した在宅療養支援		
5	地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族	2. 地域で暮らす看護の対象となる生活者とその家族	講義	2
6		1) 地域で暮らす看護の対象となる生活者の特徴	演習	2
		2) 地域で暮らす看護の対象となる生活者としての家族 3) 家族を支える看護とアセスメント		
7	地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源	3. 地域で暮らす看護の対象となる生活者を支える社会資源	講義	4
8		1) 自助、互助、共助、公助の意義と役割		
		2) 社会資源の活用		
		3) 医療保険制度 4) 後期高齢者保険制度、障がい者、子ども		

9		に関する制度 5) 介護保険制度 6) 地域包括ケアシステムの概要 7) 居宅介護支援事業所の役割	演習	2
10	訪問看護制度	4. 訪問看護の制度 1) 訪問看護の変遷	講義	2
11		2) 訪問看護サービスの仕組みと提供 3) 訪問看護の実際	演習	2
12	健康生活支援方法	5. 健康生活支援方法 1) 地域特性を踏まえた健康生活支援とは	講義	4
13		2) 「地域の相談室」をつくる	演習	2
14		3) 地域で暮らす人々を支える支援		
15	終了試験	筆記試験・解答・解説		2

テキスト：河原加代子ほか：系統看護学講座 専門分野『地域・在宅看護論Ⅰ』

『地域・在宅看護論Ⅱ』，医学書院，2020.

参考書：上田敏：ICF（国際生活機能分類）の理解と活用、きょうされん、2009

評価方法：終了筆記試験（50%）。課題レポート（40%）。ポートフォリオ（10%）

課題：

回	課題内容	
12	課題レポート 「地域で暮らす人々を支える支援について地域相談室から考えたこと」	

目的

1. 地域で療養する人とその家族の生活を支える看護を学ぶ

目標

1. 療養生活を支える継続看護の特徴と役割について説明できる
2. 療養上のリスクマネジメントも考えた暮らしの場の環境づくりを説明できる
3. 平時の防災力に備える支援と災害時の支援方法について理解できる
4. 療養生活において医療的管理を必要とする人と家族への看護実践方法が説明できる
5. 臨床判断と ICF を活用した支援方法の実践ができる

卒業の認定に関する方針 (DP:ディプロマポリシー) との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力 (人間力・実践力)
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力 (実践力・判断力)
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	施設から在宅への移行期の看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援と調整 (住宅環境と社会資源) 2. 退院後の快適な暮らしを支える環境づくり 3. 意思決定支援と生活支援 	講義	2
2 ～ 3	療養上のリスクマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしの場の環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理・感染予防支援・窒息予防 ・誤薬予防・火災予防・熱中症予防・防犯 2. 平時の防災力に備える生活支援と災害時支援 	講義	4
4 ～ 10	医療処置を伴う生活支援方法と家族への管理支援	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅リハビリテーションが必要な療養者とその家族の看護 2. 呼吸器疾患療養者の呼吸器管理と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅酸素・非侵襲的陽圧換気療法 ・在宅人工呼吸器管理・排痰補助装置 3. 呼吸器疾患療養者と家族への生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ・排痰のケアと家族指導 (吸引・ガーゼ交換・気管切開チューブ交換と管理) 4. 栄養摂取方法と家族への管理支援 <ul style="list-style-type: none"> ・経鼻経管栄養法・胃瘻からの栄養方法 ・家族への管理支援 5. 栄養摂取方法と家族への管理支援 <ul style="list-style-type: none"> ・在宅中心静脈栄養法 (HPN) ・家族への管理支援 6. 排泄管理支援方法と家族への管理支援 <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱留置カテーテルの管理・自己導尿支援方法と管理 	講義 演習	12

11 ～ 14	在宅療養における訪問看護の臨床判断能力について	1. 訪問看護師の考え方を学ぶ 2. 事例を通して ICF の活用方法と情報整理 3. 事例を通して生活を継続するための支援方法を考える 4. グループワークと発表 まとめ	講義 演習	8 2
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：河原加代子ほか「系統看護学講座」＜専門分野＞『地域・在宅看護論Ⅰ』『地域・在宅看護論Ⅱ』医学書院，2022.

参考書：押川眞喜子他 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ（新訂版）
地域療養を支えるケア：ナーシンググラフィカ（第5版第3刷）
篠崎恵美子ほか『事例から学ぶ地域・在宅看護論』医学書院，2021.
高橋恵子 まんが『家出の事』医学書院，2021.

評価方法：筆記試験（60％）レポート課題（20％）在宅ノート提出（20％）

地域・在宅看護方法論Ⅰ 事前課題	
時期	課題内容
① 事前学習課題 (第1回目 講義前)	「意思決定支援とは」
② 事前学習課題 (第6回目 講義前)	「吸引手順」をノートに記入する
③ 事前学習課題 (第13回目 講義前)	「訪問マナー」について

目的

行政（地域包括支援センター）との連携を通し、地域で暮らす高齢者の健康生活支援方法（認知症カフェ）について学ぶ。

目標

1. 行政（地域包括支援センター）との連携を体験できる
2. 認知症カフェを開催し地域とのつながりを体験できる

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連
DP.Ⅰ. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP.Ⅱ. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP.Ⅲ. ケアする仲間と協働する力
DP.Ⅳ. 看護師として成長し学習し続ける力
DP.Ⅴ. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 3	認知症ケアの概要	1. 認知症ケアの概念および考え方 2. 地域とつながる意義 3. 新オレンジプランとは 4. オレンジキャラバン 5. 認知症高齢者への対応のポイント 6. 高齢者の居場所作りとは笑いヨガについて	講義	6
4 ～ 7	認知症ケア計画	1. 豊見城市における認知症カフェの取り組みの実際 2. 『那覇看・元気はつらつオレンジカフェ』の企画・運営作成 ①熱中症と脱水、ACP、血圧変動因子など ②笑いヨガ・体操・頭の体操等の企画	講義	8
8 ～ 11	認知症高齢者への対応の実際	1. 『那覇看・元気はつらつオレンジカフェ』の開催	演習	8
12 ～ 14	課題と展望	1. オレンジカフェ開催の振り返り 2. 認知症高齢者の健康課題と展望 3. 報告会・まとめ		6
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

参考書：老年看護学 医学書院 認知症ケアガイドブック 照林社

：ペコロスの母に会いに行く 西日本新聞社

評価方法：1. 筆記試験（50点） 課題レポート評価（40点）ポートフォリオ（10点）

地域・在宅看護論方法論Ⅱレポート課題	
時期	タイトル
① 事後学習課題 (第14回目講義終了後)	「認知症カフェを体験して」(1200字程度)

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅲ 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：専任教員；

目的：

多職種の役割、責務、専門性を理解し、多職種連携の基本的な考え方、協働を図る必要性、連携・協働方法について事例を通して学ぶ。

目標：

1. 地域における多職種連携の考え方と必要性について説明できる
2. 保健医療福祉の連携に関わる主な職種と各職種の役割が説明できる
3. 事例を通して課題解決のために必要な職種と遠隔カンファレンスを体験できる

卒業の認定に関する方針（DP:ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	地域包括ケアシステム	1. オリエンテーション 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護の役割	講義	2
2	多職種連携	1. 多職種連携の概念および考え方 2. 多職種連携の変遷・背景 3. 対象者志向の倫理観	講義	2
3 ～ 10	地域における多職種の役割と責務	1. 理学療法士の役割、責務、専門性、活動の特性 2. 作業療法士の役割、責務、専門性、活動の特性 3. 社会福祉士の役割、責務、専門性、活動の特性 4. 精神保健福祉士の役割、責務、専門性、活動の特性 5. 管理栄養士の役割、責務、専門性、活動の特性 6. 薬剤師の役割、責務、専門性、活動の特性 7. 退院支援調整看護師の役割、責務、専門性、活動の特性 8. 訪問診療医師の役割、責務、専門性、活動特性	講義	16

11 ～ 12	事例を用いた 退院支援と地域 連携における多 職種シミュレー ションの実際	1. 退院支援に向けた多職種連携シミュレーション 2. 多職種・地域連携の実際（模擬カンファレンス）	演習 演習	2 2
13 ～ 14	課題と展望	1. JICA を通した草の根協力事業について 2. 多職種連携の課題と展望 3. グローバル化を視野に入れた多職種連携の意義	講義 演習	2 2
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：河原加代子ほか「系統看護学講座」＜専門分野＞『地域・在宅看護論Ⅱ』医学書院 2022.

参考書：篠崎恵美子ほか 事例から学ぶ地域・在宅看護論 医学書院，2021.

評価方法： 1. 筆記試験（60点）。課題レポート評価（40点）

地域・在宅看護論Ⅲ レポ ー ト 課 題	
時 期	タ イ ト ル
① 事前学習課題 (第1回目講義前)	「地域包括ケアシステムと多職種連携」について (1200字程度)
② 事前学習課題 (第2回目講義前)	「多職種の定義及びその役割」について (1200字程度)

科目名： 地域・在宅看護方法論Ⅳ 1 単位 15 時間

受講年次： 3 学年前期

担当：専任教員・

地域・在宅看護方法論Ⅳは地域における終末期看護について学ぶ内容である

目的

1. 施設や在宅で人生の最終段階を過ごす人間のその人らしく生きる生き方とその家族へのケアについて事例を通して学ぶ。

目標

1. 人間の尊厳とは何かを考え、人生の最終段階にある人を支えるケアの意義を説明できる
2. 看取りをする家族および遺族ケア（グリーフケア）のあり方について説明できる
3. 死を巡る倫理的課題を理解し、看護の役割、包括的指示、プロトコールに基づく看護の責任、職業倫理に基づく行動決定の方法がわかる。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	死生観とは	1. オリエンテーション 2. 死生観について考える	講義	2
2	エンドオブライフケアとは	3. エンドオブライフケアとは 1) エンドオブライフケアと倫理 (1) 医療機関から在宅等への移行支援 (2) 生きるを考える（生きるとは） (3) スピリチュアルケア (4) 人生の最終期に共通する人間の自然経過	講義	2
3	施設・在宅における看取りとは	4. 施設・在宅における看取りとは 1) 施設・在宅での死 2) 臨終時のエンゼルケア 3) 家族へのケア（グリーフケア） 4) 終末期における倫理的問題	講義	2
4	意思決定支援とは	5. 意思決定支援（ACP）とは 1) アドバンス・ケア・プランニング 2) 尊厳死とリビングウェル（事前指示書） 3) グリーフケア	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
5	包括的指示・プロトコールとは	6. 包括的指示・プロトコール 1) プロトコール (1) 事前指示書、および死亡直前・臨終時のケア (事前指示書、危篤、臨終、エンゼルケア) 2) 死亡時の対応・医療機器への配慮 (1) 主治医への連絡	講義	2
6	人生の最終段階を過ごす人とその家族のエンドオブライフについて	7. 施設や住宅で人生の最終段階を過ごす人とその家族のエンドオブライフ 1) 住宅で疼痛コントロールを行う時の基本的な考え方 (1) 全人的苦痛と疼痛アセスメント (2) 症状緩和	講義	2
7		2) 人生の最終段階にある人とその家族 (1) スピリチュアルケア (2) 家族の心理状態 (3) 介護負担の軽減	演習	2
8	試験	筆記試験・レポート		1

テキスト：地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院

参考書：地域療養を支えるケア：ナーシンググラフィカ

生活を支える看護 日本看護協会出版

在宅での看取りのケア 日本看護協会出版

よくわかる在宅看護 Gakken

評価方法：1、筆記試験（60点）、2、課題レポート（40点）

課題

回	課題内容	
6	事例：「がんの末期で痛みのある在宅療養者の看護」 について個人の意見をノートに書く	
8	課題レポート「地域で最後まで生きるために大切なこと」 評価対象のため、レポートとして提出	

成人看護学

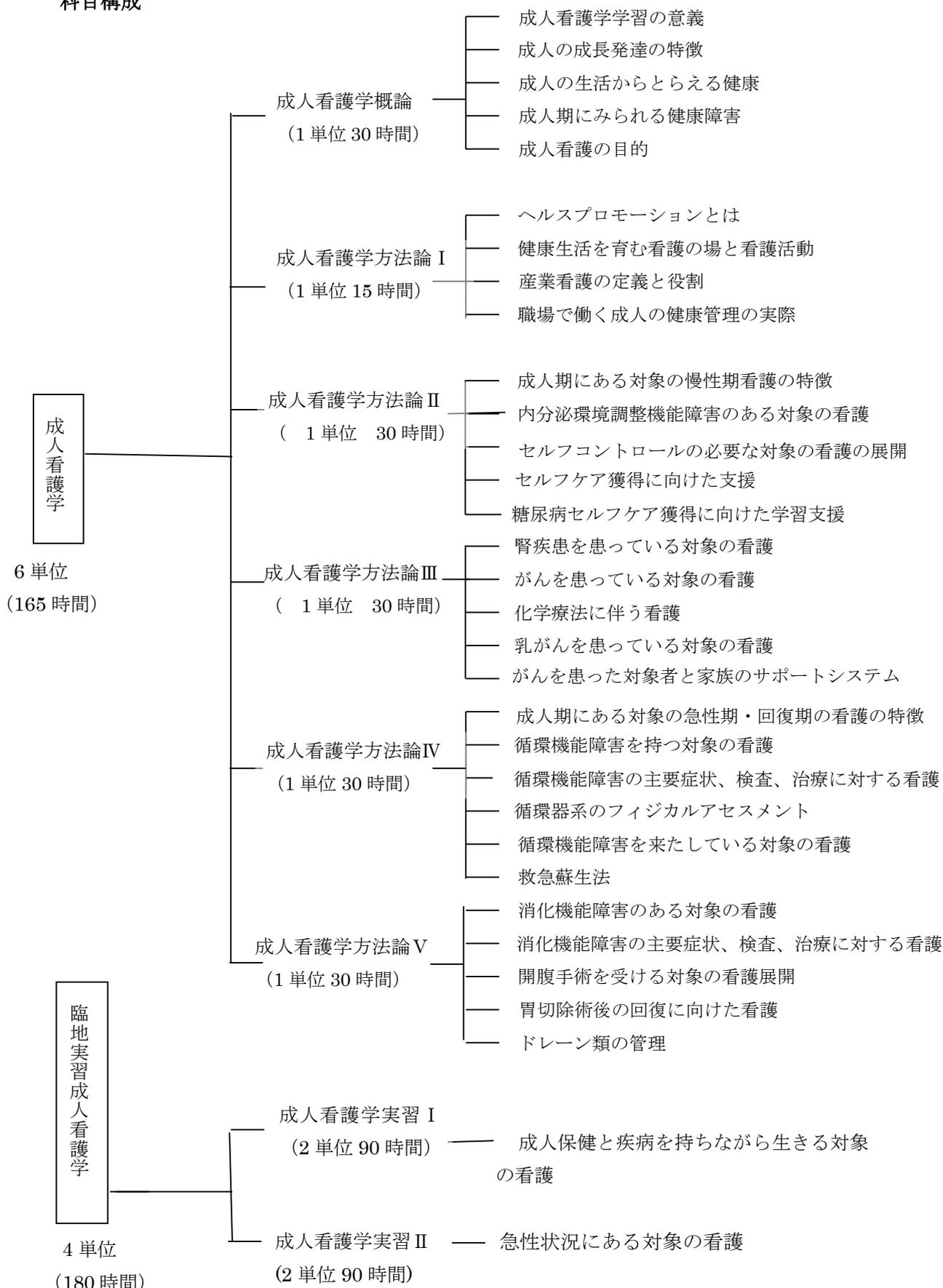
目 的

成人期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康段階にある対象に応じて健康上の課題を総合的に捉え、支援できる基礎的知識、技術、態度を習得する。

目 標

- 1 成人各期の対象の成長発達および発達課題を述べる。
- 2 成人保健の動向及び保健活動の実際を通して、健康生活の保持・増進活動を理解し述べる。
- 3 成人期にある対象を取り巻く環境によって健康に及ぼす要因がわかり、対象の健康課題について述べる。
- 4 保健医療福祉チームの一員としての自覚がもて、成人看護の役割を述べる。
- 5 あらゆる健康段階にある成人期の対象に応じた看護の展開を実践できる基礎的能力を身につける。
- 6 成人期に発症しやすい健康障害を予防し、健康の保持・増進等、健康課題達成に向けた学習支援が実践できる基礎的能力を身につける。
- 7 対象とのより良い人間関係を深め、個別に応じた看護を実践するとともに、対象の意思決定を尊重した倫理的行動がとれる。
- 8 対象者が受けている検査・治療・処置を理解し、インフォームドコンセントを重視した基礎的支援技術を行う。
- 9 自己の看護実践を振り返り評価し、看護実践の向上に向けた行動を行う。

科目構成



科目名 成人看護学概論 1 単位 30 時間

受講年次： 1 学年 後期

担当：専任教員・外来講師

目的

成人看護の対象となる人のニーズに合わせた看護を展開するために、成人期の対象の発達段階、生活と健康の視点からの健康課題、看護の目的・役割を学ぶ。

目 標

- 1 成人各期の成長発達および発達課題について述べることができる。
- 2 成人をとりまく環境から成人の生活を説明することができる。
- 3 成人期にみられる健康障害について成人期の特徴と関連させ述べるすることができる。
- 4 成人期にある対象を看護するための目的と役割を述べるすることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業方形態	時間
1	成人看護学学習の意義	1. 専門分野 I（基礎看護学）と成人看護学の関連 2. 成人看護学の学習の方向性	講義	2
2 ～ 4	成人の成長発達特徴	1. 成人の理解の視座 2. 成人の心身の特徴と変化 3. ライフサイクルからみた成人期の特徴と発達課題	講義・演習	6
5 ～ 7	成人の生活からとらえる健康	1. 成人の生活 2. 成人の生活状況の特徴 3. 成人期の健康観、生き方	講義・演習	6
8～ 9	成人期にみられる健康障害	1. 生活習慣と健康障害との関連 2. 職業に関連する健康障害 3. 生活ストレスに関する健康障害 4. 生活習慣と依存症	講義	4

10 ～ 14	成人看護の目的	1. 成人看護の目的とは 2. 成人の学習支援 3. セルフケア向上への支援 4. 危機的状況への支援 5. 人生最後のときを支える支援 6. 自己決定を支える支援	講義・演習	10
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：林直子ほか：成人看護学概論（改訂第3版），南江堂，2022.

参考書：安酸史子他：ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 2022年版

成小松浩子他：人看護学総論 成人看護学① 医学書院 2022年版

国民衛生の動向 2022年版

評価方法：終了筆記試験（85点）。レポート（5点）。

課題の提出状況（5点）。ポートフォリオ（5点）

科目名 成人看護学方法論Ⅰ 1 単位 15 時間

受講年次： 2 学年 前期

担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅰは健康生活と保健を学ぶ内容である。

目的

働く成人の健康障害と産業看護の役割を理解するために成人期にある人々の健康生活、保健・医療・福祉チームの連携・協働の必要性を学ぶ。

目標

- 1 ヘルスプロモーションの定義がわかり、活動のプロセスと方法を述べることができる。
- 2 成人看護の活動の場と看護活動について述べるができる。
- 3 産業看護の定義と役割について述べるができる。
- 4 職場で働く成人にみられる健康障害と健康管理の実際について述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

DP. V. 地域医療へ貢献する力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	ヘルスプロモーションとは	1. ヘルスプロモーションの定義 2. ヘルスプロモーションの目標 3. ヘルスプロモーションの活動と方法 4. 成人期における健康管理と地域包括ケアシステム	講義	2
2	健康生活を育む看護の場と看護活動	1. 地域における看護活動 2. 職場における看護活動 3. 社会福祉施設における看護活動 4. 医療機関における看護活動	講義・演習	2

3 ～ 4	産業看護の定義と役割	1. 労働衛生 2. 職業に関連する健康障害 1) 職業性疾病と予防 2) 作業関連疾患 3) メンタルヘルス・ストレスチェック 3. 産業看護の実際	講義	4
5 ～ 7	職場で働く成人の健康管理の 実際	1. 社会で働く成人期の人々の健康問題と健康管理方法を考える 1) グループ発表に向けての準備 2) グループ発表を行ない学びの共有をおこなう ・テーマ「職場環境と職業に関連する健康問題を考える」 2. 法的根拠に基づいた健康管理方法を考える	演習	6
8	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト： 林直子他：成人看護学概論（改訂第3版），南江堂，2022.

参考書： 安酸史子他：ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 メディカ出版 2022年版

小松浩子他：成人看護学総論 成人看護学① 医学書 2022年版

国民衛生の動向 2022年版

神馬征峰他：公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 2022年版

評価方法：終了筆記試験（80点）。レポート（10点）。

課題の提出状況（5点）。ポートフォリオ（5点）

科目名 成人看護学方法論Ⅱ 1単位 30時間

受講年次： 2学年 前期

担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅱは疾病を持ちながら生きる対象の看護を学ぶ内容である。

目的

疾病を持ちながら生きる対象者とその家族の思いや生活、治療過程を理解するために、セルフケアを伴う社会生活を支える看護支援方法を学ぶ。

目標

- 1 内部環境調節機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
- 2 疾患の症状、検査、治療及び看護の方法を理解し基本的支援技術の方法を述べるができる。
- 3 糖代謝機能障害に応じた改善、調整、悪化防止のための支援方法を述べるができる。
- 4 個別性を考慮した学習支援の方法を実施することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	成人期にある対象の慢性期の看護の特徴	1. 成人期にある対象の慢性期の看護	講義	2
2 ～ 3	内部環境調節機能障害のある対象の看護	1. 内部恒常性機能を保つ機能とは 2. 身体的課題 3. 精神的・社会的課題と特徴 4. 甲状腺機能亢進症患者の事例検討	講義・演習	4
4 ～ 8	セルフコントロールの必要な対象の看護の展開	1. 2型糖尿病を患っている対象の看護展開 1) アセスメント 2) 看護上の課題 3) 看護計画立案 4) 実施 5) 評価	講義・演習	10

9 ～ 12	セルフケア獲得に向けた支援	1. フットケア 1) 足の診察 2) フットケアの実際 2. インスリン自己注射法 1) インスリンの取り扱い 2) 注射器の取り扱い 3) 注射部位・注射方法 3. 自己血糖測定 1) 自己血糖測定器の取り扱い 2) 血糖測定の方法	演習	8
13 ～ 14	糖尿病セルフケア獲得に向けた学習支援	1. 学習支援 1) 指導計画立案 2) 指導計画書及び指導内容の発表 2. 看護過程のまとめ	演習	4
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：吉岡成人ほか：系統看護学講座，成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院，2022.

鈴木久美ほか：成人看護学、慢性期看護Ⅰ（改訂第3版），南江堂，2022.

林直子ほか：成人看護学概論（改訂第3版），南江堂，2022.

参考書：宮川晴妃：メディカルフットケアの技術 看護協会出版

上田千恵子監修：クリニカルガイド患者指導 学研

評価方法：終了試験 筆記試験（75点） 校内実習事後のまとめ（15点）

課題提出状況（5点） ポートフォリオ（5点）

科目名 成人看護学方法論Ⅲ 1 単位 30 時間

受講年次： 2 学年 前期

担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅲは疾病を持ちながら生きる対象の看護を学ぶ内容である。

目的

疾病を持ちながら生きる対象者とその家族の思いや生活、治療過程を理解するために、セルフケアを伴う社会生活を支える看護支援方法を学ぶ。

目 標

- 1 不可逆性の腎機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べることができる。
- 2 がんを患っている対象の看護の特徴と課題について述べるができる。
- 3 化学療法に伴う看護の方法を述べるができる。
- 4 乳がんを患っている対象の看護の方法を述べるができる。
- 5 がん対象者と家族の社会資源の活用について述べるができる。
- 6 生と死について考え、疾病を持ちながら生きる対象者の看護の役割を述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 7	腎疾患を患っている対象の看護	1. 慢性腎不全を来たした対象の看護 1) 看護展開 2. 外来通院をしている対象の看護 3. 透析導入期の看護 1) 治療選択期 4. 透析維持期の看護 1) 実際の透析療法 (1) 血液透析を受けている対象者の看護 (2) 腹膜透析を受ける対象の看護 2) 長期間透析を受けている対象の身体的、精神的、社会的特徴と支援	講義	14
8 ～ 9	がんを患っている対象の看護	1. がん看護の特殊性 2. QOL を高める支援 3. 治療経過の中での終末期にある対象の看護	講義	4

10	がん治療に伴う看護	1. 化学療法を受ける対象への看護	講義	2
11	乳がんを患っている対象の看護	1. 看護の実際	講義	2
12 ～ 14	10 がんを患った対象と家族のサポートシステム	1. 乳がん検診の普及啓発にむけて 2. 医療者チームのサポート活動 3. 当事者（乳がん）の体験談	講義	6
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：末岡 浩ほか：系統看護学講座，成人看護学⑨ 女性生殖器 医学書院，2022.

鈴木久美ほか：成人看護学、慢性期看護 I（改訂第 3 版），南江堂，2022.

林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第 3 版），南江堂，2022.

評価方法：終了試験 筆記試験（70 点）。死生観レポート（5 点）

授業 10 回～12 回の授業所感（15 点）

課題提出状況（5 点） ポートフォリオ（5 点）

科目名 成人看護学方法論Ⅳ 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅲは生命の危機的状況にある対象の看護を学ぶ内容である。

目的

急性期や周手術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のために看護支援方法を学ぶ。

目標

- 1 成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。
- 2 循環機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる。
- 3 循環機能障害時の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べるができる。
- 4 循環機能障害を来している対象の看護の方法を述べるができる。
- 5 一次救命処置の正しい方法を実践することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	成人期にある対象の急性期、回復期の看護の特徴	1. ガイダンス 2. 成人期にある対象の急性期から回復期にある看護の特徴	講義	2
2	循環機能障害をもつ対象の看護	1. 循環機能障害が対象に及ぼす影響	講義	2
3 ～ 9	3 循環機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護(1)(2)	1. 主要症状に対する看護 1) 心不全 2) 胸痛（心電図変化） 2. 事例検討 3. 検査に伴う看護 1) 心電図の基礎的知識 2) 致死的不整脈とその読み方 4. 心臓カテーテル法を受ける対象の看護 5. 治療・処置に伴う看護 1) ペースメーカーを装着した対象の看護 2) 冠状動脈インターベンション(PCI)の看護 6. 薬物療法時の看護 7. 心臓リハビリテーション	講義・演習	14

10	循環器系のフィジカルアセスメント	1. フィジカルイグザミネーション 1) 胸部（心臓・血管）のフィジカルイグザミネーション	講義・演習	2
11 ～ 12	循環機能障害を来している対象の看護	1. 心不全を来している対象の看護 2. 心筋梗塞を来している対象の看護 3. 狭心症を来している対象の看護 4. 冠動脈バイパス術を受ける対象の看護 1) 手術前後の看護	講義	4
13 ～ 14	6 救急蘇生法	1. 一次救命処置の実際（BLS、止血法）	演習	4
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：吉田俊子ほか：系統看護学講座，成人看護学③ 循環器 医学書院，2022.

林 直子ほか：成人看護学、急性期看護 I（改訂第 3 版），概論・周手術期看護 南江堂，2022.

林 直子ほか：成人看護学概論（改訂第 3 版），南江堂，2022.

評価方法：終了試験：筆記試験（85 点） 校内実習事後のまとめ（5 点）
課題提出状況（5 点） ポートフォリオ（5 点）

科目名 成人看護学方法論Ⅴ 1単位 30時間

受講年次： 2学年 後期

担当：専任教員・外来講師

成人看護学方法論Ⅵは生命の危機的状況にある対象の看護を学ぶ内容である。

目的

急性期や周手術期にある人の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のために看護支援方法を学ぶ。

目標

- 1 成人期にある対象の急性期から回復期の看護の特徴と看護の役割について述べることができる。
- 2 消化機能障害のある対象の看護の特徴と課題について述べるができる。
- 3 消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護の方法を述べるができる。
- 4 胃がんの対象に応じた看護の展開方法を述べるができる。
- 5 術後合併症予防と術後清潔ケアの支援を実践することができる。
- 6 ドレーン類の原理を知り、ドレーン挿入中の看護について述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

回	単元	授業内容	授業形態	時間
1	消化機能障害のある対象の看護	1. 消化機能障害が対象に与える影響	講義	2
2 ～ 5	消化機能障害の主要症状、検査、治療に対する看護	1. 主要症状に対する看護 2. 検査に伴う看護 3. 治療処置に伴う看護 4. 術後に起こりやすい合併症 5. 人工肛門の管理	講義・演習	8
6 ～ 8	開腹手術を受ける対象の看護展開	1. アセスメント 2. 看護上の課題 3. 計画立案 4. 実施 5. 評価	講義・演習	6

老年看護学

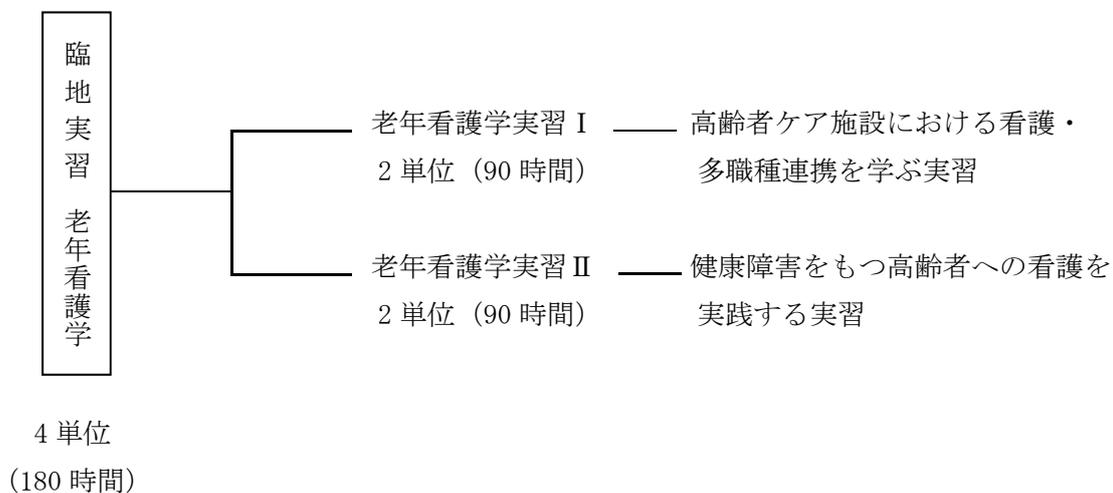
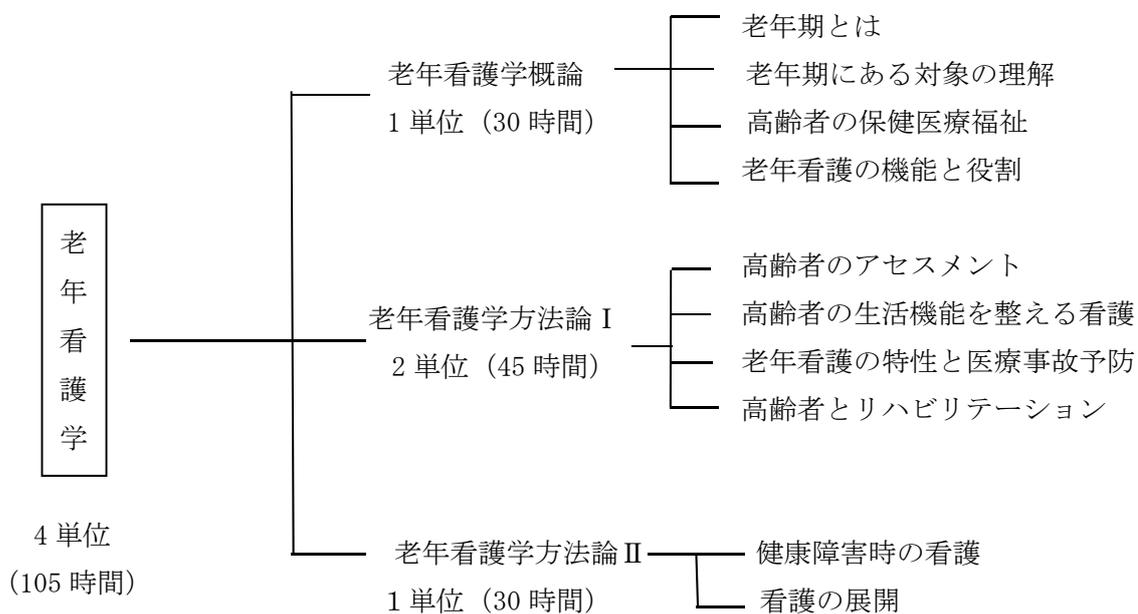
目 的

老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害の程度に応じた看護を実践できる基礎的な知識、技術、態度を習得する。

目 標

- 1 ライフサイクルのなかで老年期をとらえ、高齢者の特徴とその健康生活を理解する。
- 2 保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響や課題について理解する。
- 3 老年看護の機能と役割について理解する。
- 4 生活機能の観点からアセスメントし看護を展開できる方法を習得する。
- 5 高齢者の特徴をふまえた、日常生活支援方法の基礎的な知識、技術、態度を習得する。
- 6 高齢者の健康段階、健康障害に応じた看護の方法を理解する。
- 7 老年看護の特性と医療事故予防について理解し安全な技術を実践できる能力を養う。
- 8 高齢者の生活を支える多職種との連携や協働について理解する。
- 9 対象の生活史を理解し、人格、信条、価値観を尊重した行動をとることができる。
- 10 自己の行動を振り返り、課題を明確にして取り組むことができる。

科目構成



科目名：老年看護学概論 1単位 30時間

受講年次： 1学年 後期

担当：専任教員；

目的

老年看護の対象を理解するために、老年期の発達課題、高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を学ぶ。
また、介護保険をはじめ保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与る影響について考え、老年看護の役割と課題について学ぶ。

目標

- 1 ライフサイクルにおける老年期の位置づけと、老年期の発達課題を述べることができる。
- 2 高齢者の身体的、精神的、社会的変化や特徴について述べるができる。
- 3 保健医療福祉制度の変革を知り、老年看護に与える影響と今後の課題を述べるができる。
- 4 老年期にある対象を看護するための基本的な考え方を述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 3 回	老年期とは	1. 老いるということ 1) 老いをいきること (1) 老年期の発達と成熟 (2) 老年期の発達課題 エリクソン・ペック・ハビーガースト	講義 演習	6
4 回 ～ 8 回	老年期にある 対象の理解	1. 老年期を生きる人々の特徴 1) 高齢者の多様性 2. 加齢に伴う身体的側面の変化 1) 加齢に伴う身体的変化の特徴 恒常性を維持する4つの力の変化 2) 身体各機能の変化 3. 加齢に伴う心理的側面の変化 4. 加齢に伴う社会的側面の変化 5. 老年期の生きがい	演習 講義	2 8

回	単元	学習内容	授業形態	時間
9 回 ～ 11 回	高齢者の保健 医療福祉	1. 超高齢社会の統計的輪郭 1) 高齢者と家族 2) 高齢者の健康状態 3) 高齢者の暮らし 2. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) 保健医療福祉システムの構築 介護保険法制度について 介護保険サービス（施設サービス） 3. 高齢者の権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度	講義	6
12 回 ～ 14 回	老年看護の役割	1. 老年看護の基本的考え方 1) 老年看護の特徴 2) 老年看護における理論・概念の活用 2. 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 3. 生活・療養の場における看護 4. エンドオブライフケア	講義	6
15 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院

評価方法：筆記試験・・・70点 ポートフォリオ・・・20点 課題レポート10点

【事前課題】

時期	授業までの事前課題内容
第1回講義	「身近な高齢者のライフヒストリーインタビュー」
	高齢者を支える多様な職種について調べ学習する。

科目名：老年看護学方法論Ⅰ 2単位 45時間

受講年次：2学年 前期

担当：専任教員；、外来講師

目的

高齢者へ健やかな生活への支援ができるよう、高齢者の特徴をふまえ、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開できる基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 高齢者をアセスメントするための視点と方法について説明できる
2. 高齢者の生活を支える看護について説明できる。
3. 高齢者に特徴的な症状を支える看護技術が実施できる。
4. 高齢者の健康増進を支える方法について説明できる。
4. リハビリテーションを受ける高齢者への看護について説明できる
5. 老年看護の特性と医療事故予防について説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP.Ⅰ.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP.Ⅱ.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP.Ⅲ.ケアする仲間と協働する力	
DP.Ⅳ.看護師として成長し学習し続ける力	
DP.Ⅴ.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 2 回	高齢者の アセスメント	1. 高齢者のアセスメント 1) アセスメントの視点とは 2) 高齢者をアセスメントするときの特性 3) 高齢者のアセスメント方法 4) 高齢者理解に活用できる指標とツール	講義	4
3 回 ～ 15 回	高齢者の生活機 能を整える看護	1. コミュニケーション 1) 高齢者のコミュニケーションの特徴 2) コミュニケーション障害のアセスメント と看護 2. 食事・食生活 1) 高齢者にとっての食事の意義 2) 高齢者の栄養状態の査定 3) 嚥下機能低下している対象への支援 4) 義歯・口腔ケア	講義 演習	8 18

回	単元	学習内容	授業形態	時間
	高齢者の生活機能を整える看護	3. 生活リズム 1) 安眠への支援 2) 生活リズムの調整 3) 活動への支援 (アクティビィ) 4. 排泄 1) 高齢者の排泄ケアの基本 2) 排尿障害のアセスメントとケア 5. 高齢者のスキンケア・褥瘡予防ケア 6. 高齢者とヘルスプロモーション 1) 介護予防・認知症予防 7. 高齢者に必要なアセスメントと看護の実際 1) ADL 評価 2) 生活機能を整える看護		
16回～18回	老年看護の特性と医療事故予防	1. 高齢者と医療安全 1) 高齢者と医療事故 2) 高齢者特有のリスク要因 2. 高齢者における集団感染予防 1) インフルエンザ・ノロウイルス・疥癬	講義	6
19回	中間評価	筆記試験 解答・解説		1
20回～23回	高齢者とリハビリテーション	1. 呼吸機能低下への支援技術 1) 肺理学療法・体位ドレナージ 2) 人工呼吸療法を受ける対象への看護 3) NPPV 装着体験・気管内吸引 2. 高齢者と生活リハビリテーション 3. 身体可動性を高める支援技術 1) ROM・MMT 2) 高齢者の特徴に合わせた歩行介助と移乗	講義 演習	4 4

テキスト：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院
生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図

評価方法：筆記試験・・・80点 課題レポート 20点

【事前課題】

時期	授業までの事前課題内容
第2回講義	ADLの評価指標（基本的・手段的）についてまとめる。
第3回講義	補聴器の種類と利点・欠点についてまとめる。
第7回講義	<ul style="list-style-type: none">・加齢に伴う睡眠の変化についてまとめる。・アクティビティケアについて調べる。・高齢者への集団レクに関する資料を探す。
第14回講義	<ul style="list-style-type: none">・生活の中で起こる高齢者の事故について新聞やインターネットを用いて記事を探す。
第21回講義	<ul style="list-style-type: none">・関節可動域の正常値 (伸展・屈曲・外転・内転・外旋・内旋など用語の学習も含む)

目的

健康障害を有する高齢者とその家族に対する看護が展開できるよう、看護の基礎的な知識、技術、態度を学ぶ。また、事例を用いて看護過程の展開方法を学ぶ。

目標

1. 健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護について理解する。
2. 事例を用いて看護過程を展開し、対象の特性を考え看護計画を立案できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 8 回	健康障害時の 看護	1. 呼吸機能に障害をもつ高齢者の看護 1) 慢性閉塞性肺疾患の看護 2. 認知に障害をもつ高齢者の看護 3. 運動器に障害をもつ高齢者の看護 1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 4. 感覚器に障害をもつ高齢者の看護 1) 白内障患者の看護 5. 脳血管障害をもつ高齢者の看護 1) クモ膜下出血患者の看護	講義 演習	12 4
9 回 ～ 14 回	看護の展開	1. 老年看護学における看護過程の考え方 1) 気づき 2) 疾患・6つの生活行動によるアセスメント 3) 関連図 4) 看護計画立案 2. 高齢者へのコミュニケーション	講義 演習	4 8
15 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院
生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図

評価方法：筆記試験・・・60点 課題レポート 40点

【事前課題】

時期	授業までの事前課題内容
第1～8回講義	1. 講義内容に関連した臨床病態学の授業資料を読みかえす。 2. 講義内容に関連する疾患のテキストを読み、わからない用語について調べる。
第9～13回講義	看護過程の講義開始時に提示する

小児看護学

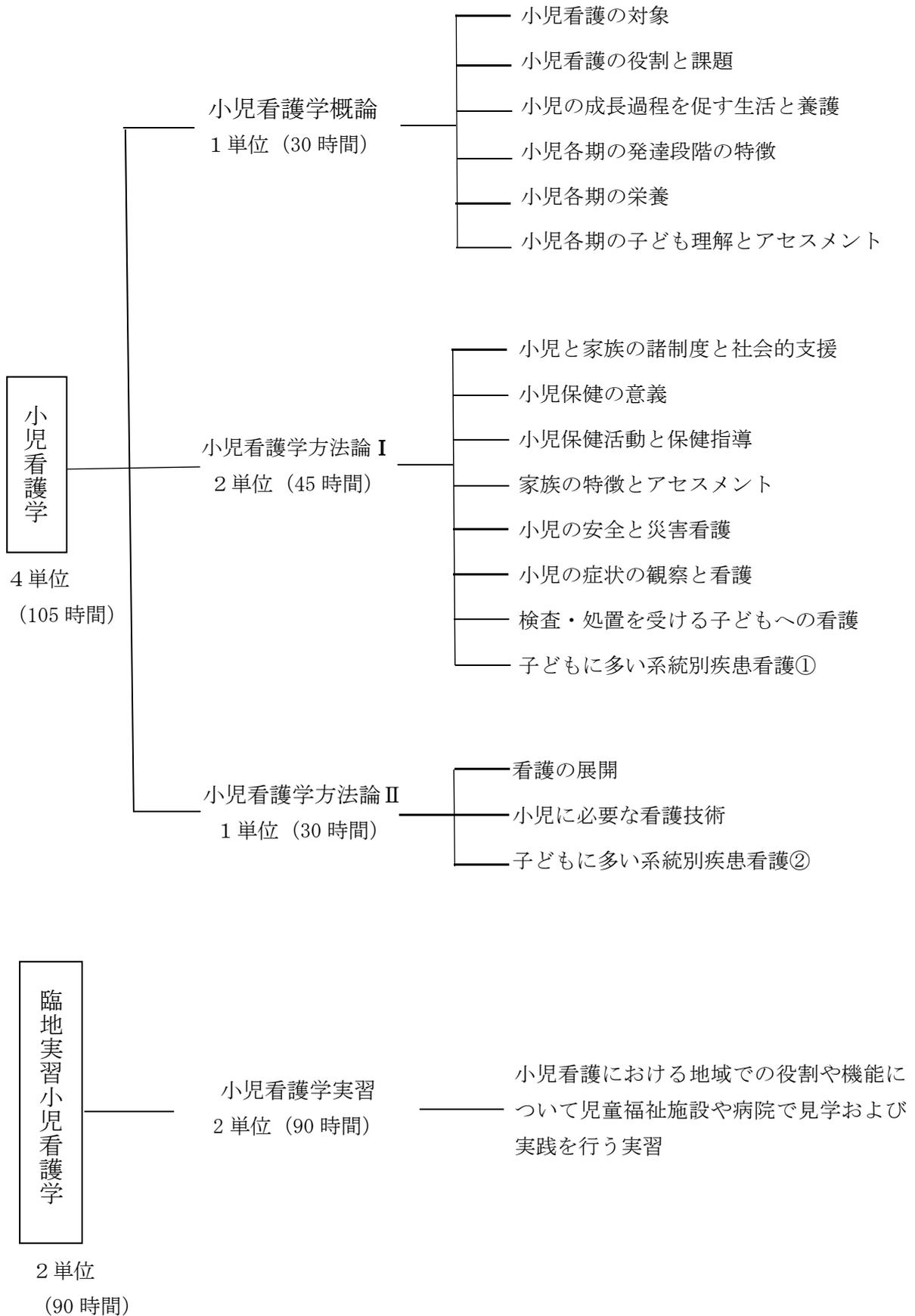
目 的

小児の特徴を理解し、小児を取り巻く環境や社会状況から、小児の発達段階、健康段階に応じた小児及び親、家族に対して健康生活をアセスメントし、個別的な看護を実践するために必要な知識、技術、態度を習得する。

目 標

- 1 小児看護の対象を理解し、小児を取り巻く環境や社会状況から小児看護の役割と課題を理解する。
- 2 小児の成長発達の意義を理解し、小児期の子ども理解のアセスメントから、発達段階、健康段階に応じた看護を実践できるための必要な基礎的能力を養う。
- 3 小児と家族をめぐる諸制度と社会的支援を学び、健康生活をアセスメントするための保健活動と保健指導について理解する。
- 4 健康上の課題をもつ小児および家族に対して、科学的根拠に基づき看護を展開し、応用するために必要な判断力、課題解決能力を養う。
- 5 子どもと家族へ関係性を築くためのコミュニケーション能力を養う。
- 6 子どもの意思を尊重し、意思決定のための行動を促進する子ども観を育み、看護実践から自己を評価的に振り返る能力を養う。

科目構成



科目名 小児看護学概論 1単位 30時間

受講年次： 2学年 前期

担当：専任教員，外来講師

目的

1. 小児看護の対象を理解し、小児を取り巻く環境や社会状況から小児看護の役割と課題を学ぶ。
2. 小児の成長発達の意義、小児各期の子ども理解のアセスメントから、発達段階、健康段階に応じた看護を実践できるためのスキルについて学ぶ。

目標

1. 小児看護の対象、めざすものを説明することができる。
2. 子ども概念の変遷から子どもの考え方に影響する因子を述べることができる。
3. 小児を取り巻く環境と社会状況から小児看護の役割と課題を知ることができる。
4. 小児各期の身体的・精神的・社会的特徴をグループワークで学習し発表することができる。
5. 小児各期の栄養の特徴を述べることができる。
6. 小児の遊びの意義と発達段階に合わせた玩具づくりができる。
7. 小児各期の子ども理解とアセスメントの視点を述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V. 地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	小児看護の対象	1. 子どもとは何か 2. 子ども概念の移り変わり 3. 小児看護学の考え方	講義	2
2	小児看護の役割と課題	1. 小児を取り巻く環境と社会 2. 小児看護の役割と課題 3. 小児看護における倫理	講義	2
3 ～ 6	小児の成長・発達の特徴	1. 乳児期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 幼児期の身体的・精神的・社会的特徴 3. 学童期の身体的・精神的・社会的特徴 4. 思春期の身体的・精神的・社会的特徴	演習	8
7	小児の成長・発達のまとめ	1. 成長の一般原則 2. 成熟と学習 3. 成長発達に影響する因子 4. 発育の評価（ローレル・カウプ指数）	講義	2

8	中間試験	筆記試験 解答・解説		2
9 ～ 10	小児の成長と遊びの支援	1. 子どもの遊びと活動の意義 2. 発達段階における遊びの特徴 3. 遊びへの工夫	講義・演習	4
11 ～ 12	小児栄養の特徴	1. 乳児期の栄養の特徴 2. 幼児期の栄養の特徴 3. 学童期の栄養の特徴 4. 思春期の栄養の特徴	講義	4
13 ～ 14	子ども理解とアセスメント	1. 乳幼児期の子ども理解 2. 学童・思春期の子ども理解	講義	4
15 回	最終試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト

小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院) . 2021

参考書

「親子関係の進化」L・ドモス 宮澤康人 第一版発行 1990年6月25日 海鳴社

「子どもはもういない」ニール・ポストマン 改訂一版 1995年10月20日 新樹社

「資料にみる近世教育の発展と展開」木村政信 1999年 東京法令出版株式会社

「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」筒井真優美 2007年12月28日

日総研出版

評価方法：筆記試験（80）事前・事後課題（10）ポートフォリオ（10）

科目名 小児看護学方法論Ⅰ 2単位 45時間

受講年次： 2学年 後期

担当：専任教員・外来講師

目的

1. 小児と家族をめぐる諸制度と社会的支援を理解し、小児と家族の健康生活をアセスメントするための保健活動と保健指導について学ぶ。
2. 健康上に課題を持つ小児と、障がいをもつ生活する小児と家族へその健康状態に応じた看護のポイントを述べることができる。

目標

1. 小児と家族をめぐる法律と政策から諸制度と社会的支援を理解し、今後の課題を述べるができる
2. 小児保健活動のための保健指導案を作成し、グループで学内発表ができる。
3. 小児の事故の傾向と安全対策を工夫できる。
4. 子どもにとっての家族の意義と家族看護の特徴とアセスメントのポイントが述べられる。
5. 小児の症状の観察と看護のポイントを述べるができる。
6. 小児看護技術の特徴がわかる。
7. 小児に多い系統別疾患看護のポイントを述べるができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	小児と家族の諸制度と社会的支援	1. 小児をめぐる法律と政策 2. 現代社会における小児の諸問題 3. 今後の課題	講義	2
2	小児保健	1. 小児保健と予防接種（概論）	講義	2
3	学校保健	1. 学校保健における感染予防	講義	2
4 ～ 6	小児保健活動	1. 予防接種の保健指導の実際	講義 演習	6
7	中間試験	筆記試験 解答・解説		1
8 ～ 9	家族の特徴とアセスメント	1. 子どもにとっての家族とは 2. 家族アセスメント	講義 演習	4

10	小児の安全	1. 子どもの環境と安全 2. 事故の実態と事故防止の実際 3. 事故防止と安全教育 4. 事故・外傷と看護 (誤飲、溺水、熱傷)	講義 演習	2
11	小児の災害看護	1. 災害時の子どもと家族の看護 2. 災害時による子どものストレス	講義	2
12 ～ 13	小児の症状と看護	1. 小児の症状の観察とアセスメント 2. 子どもの示す症状への対応 1) 不機嫌、啼泣 2) 発熱 3) 脱水 4) 嘔吐 5) 下痢 6) 呼吸困難	講義	4
14 ～ 15	検査・処置を受ける 子どもの看護	1. プレパレーションとは 2. プレパレーションの実際	講義 演習	4
16	新生児の看護	1. 新生児の健康問題に関する看護 2. 期新生児と家族への看護 3. 先天性奇形を持つ親の心的変化	講義	2
17	呼吸器疾患と看護	1. 主な疾患をもつ子どもの看護 気管支喘息、RS ウイルス	講義	2
18	小児の周手術期護	1. 子どもの手術前後への看護 2. 多職種との連携	講義	2
19	感染症と看護	1. 子どもの感染症 2. 感染症をもつ子どもの看護	講義	2
20	精神疾患と看護	1. 子どもの心と反応とその特徴 2. 発達障害 3. 主な疾患をもつ子どもの看護	講義	2
21	神経疾患と看護	1. 主な疾患をもつ子どもの看護 脳性麻痺、てんかん、水頭症	講義	2
22	循環器疾患と看護	1. 主な疾患をもつ子どもの看護 先天性心疾患	講義	2
23	最終試験	筆記試験 解答・解説・まとめ		2

テキスト

小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論 (医学書院) . 2021

小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 (医学書院) . 2021

参考書

国民衛生動向

3・11被災地子ども白書

厚生労働統計協会

2011年 明石出版

評価

筆記試験 (80) レポート課題 (10) ポートフォリオ (10)

科目名 小児看護学方法論Ⅱ 1単位 30時間

受講年次： 3学年 前期

担当：専任教員・外来講師

目的

健康上に課題をもつ小児および家族に対して、科学的根拠に基づき看護を展開し、応用するために必要な判断力、課題解決方法を学ぶ

目標

1. 看護過程を応用展開し、事例から一連の技術展開ができる。
2. 校内実習から、小児及び家族の健康と安全を守るための看護技術が実施できる。
3. 小児に多い系統別疾患看護のポイントを述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 8	看護の展開	1. 小児看護学における看護過程の考え方 2. 対象についての情報収集 3. アセスメント 4. 看護上の課題の明確化 5. 看護目標と看護計画 6. 実施と評価	講義 演習	16
9 ～ 10	アセスメントに必要な技術	1. 小児のバイタルサイン測定 2. 小児の身体計測	講義 演習	4
11	消化器疾患と看護	1. 小児に多い消化器疾患 2. 消化器疾患のある小児と家族への看護	講義 演習	2
12	小児の救急処置	1. 小児の心肺蘇生法（BLS）	講義 演習	2
13	血液・造血器疾患と看護	1. 小児に多い主な疾患 2. 疾患をもった子どもへの看護	講義	2

14	悪性新生物と看護	1. 小児に多い主な疾患 2. 疾患をもった子どもへの看護 3. 子どもの死の理解と反応 4. 終末期にある子どもと家族の看護	講義	2
15	最終試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト

小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）. 2021

小児看護学 [2] 小児臨床看護各論（医学書院）. 2021

参考書

「実習記録の書き方がわかる！看護過程展開ガイド」2007年 第2刷発行 高橋修一 照林社

「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」筒井真優美 2007年12月28日 日総研出版

「写真でわかる小児看護技術 アドバンス」 2017年3月10日 インターメディカ

「発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程」 2012年 医歯薬出版株式会社

評価方法

看護の展開（40）、筆記試験（50）、ポートフォリオ（10）。

母性看護学

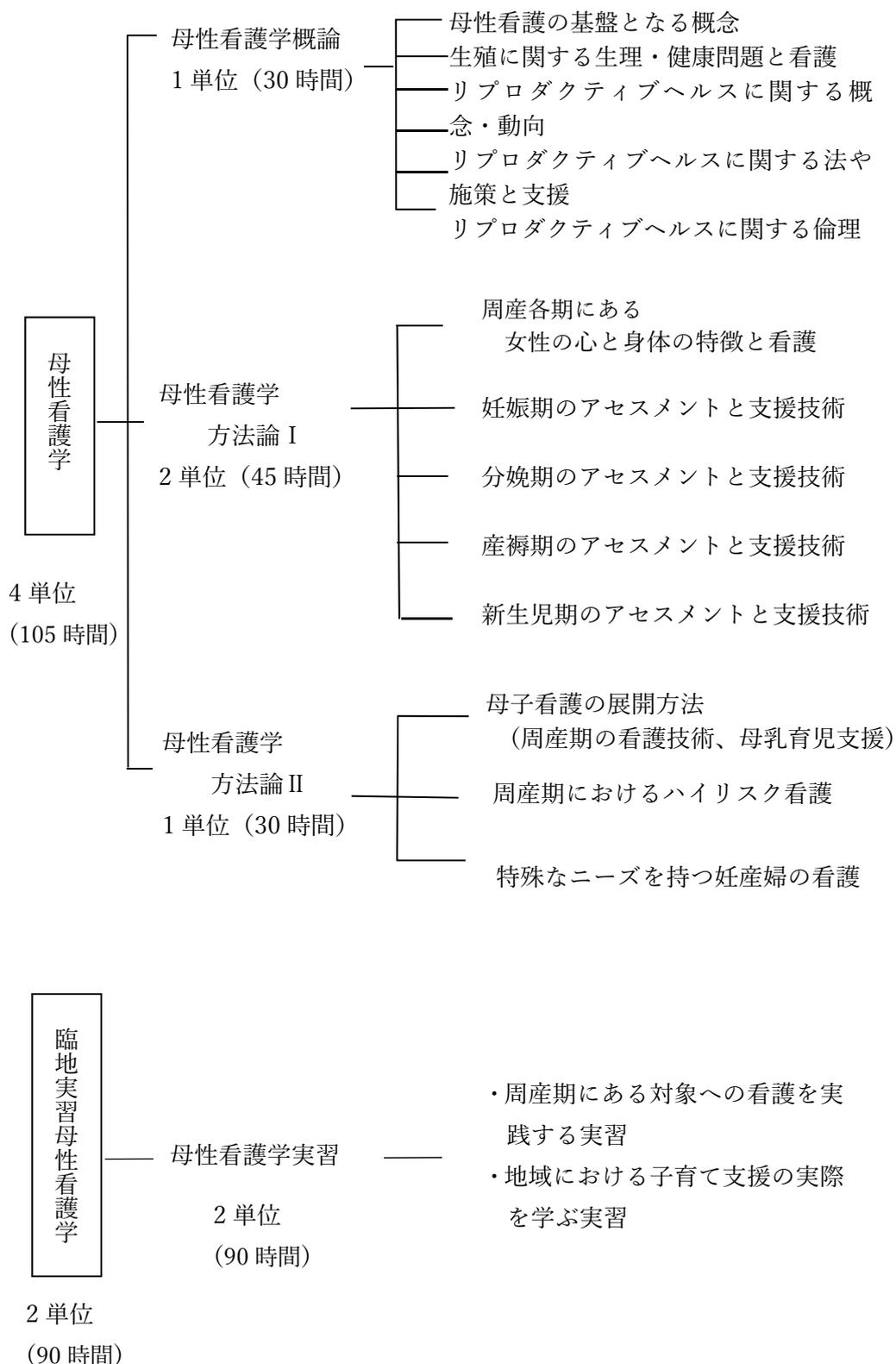
目的

母性看護学は、次世代を担う女性・母性の健全育成に向けて、あらゆる発達段階、あらゆる価値観・生活経験を持つ女性の生涯を通じた、健康生活支援に必要な知識を学ぶ。

目標

1. 母性看護の対象を人間の性と生殖、セクシュアリティをもとに、身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。
2. 女性の心と身体に現れる健康課題を理解し、意思決定を尊重した、健康生活支援を考えることができる。
3. 母性看護における保健医療福祉システムを理解し、女性・子ども・家族が暮らす多様な場における母性看護の役割・機能について理解できる。
4. 妊産褥婦及び新生児の生理的・心理的・社会的特徴や変化を踏まえ、原理・原則・科学的根拠に基づいた安全・安楽な看護実践ができる。
5. 看護倫理に基づき対象の意思決定を支え、受容・共感的態度で支援する方法を身につける。
6. 命を育むことへの尊厳を通して自己の大切さを知り、親となる過程について思考することができる。

I 科目構成



目的

1. 女性の生涯を通じた健康の保持・増進について学び、母性看護の意義および母性看護の対象を理解する。

目標

1. 生命誕生について感じたことを表現することができる。 DP 1
2. 女性の心と身体の仕組みを理解し、女性の健康課題を説明することができる DP 2
3. 母性看護における倫理的課題について調べ、女性の意思決定への支援を説明することができる DP 1・2・3・4・5
4. 女性・子ども・家族が暮らす多様な場を理解し、リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に与える影響を表現することができる。 DP 1・2・4
5. リプロダクティブヘルス（性と生殖の健康）に関する動向を理解し、母子の健康課題を述べることができる DP 2・5
6. 母子保健の変遷を理解し、日本における母子保健行政と母性看護の現状を述べることができる DP 2・5

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	母性看護の基盤となる概念	生命誕生 母性看護の基盤となる概念	講義	2

2 ～ 6	生殖に関する生理・健康問題と看護	1. 生殖に関する生理 2. 妊娠のメカニズム 3. 生殖における健康問題と看護 1) 思春期・性成熟期女性の健康問題と看護 2) 更年期・老年期女性の健康問題と看護 3) 不妊治療と看護	講義 演習	10
7 ～ 9	リプロダクティブヘルスに関する概念・動向	1. リプロダクティブヘルスに関する概念 リプロダクティブヘルス/ライツ セクシュアリティとジェンダー 性分化のメカニズムと性分化疾患 性意識の発達 2. リプロダクティブヘルスに関する動向 1) 出生に関する統計（出生率・合計特殊出生率） 2) 死亡に関する統計（妊産婦・死産・周産期死亡・乳児死亡） 3) 家族形成に関する統計（婚姻・離婚・初婚・出産）	講義 演習	6
10 ～ 12	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援	リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援 子ども・女性に関する法律 周産期医療システム	講義	6
13 ～ 14	リプロダクティブヘルスに関する倫理	母性看護実践における倫理的課題 代理懐胎 体外受精 人工妊娠中絶 出生前診断	講義 演習	4
15	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：中込さと子他：母性看護学① ナーシンググラフィカ概論・リプロダクティブヘルスと看護、メディカ出版、2019

参考書：病気がみえる Vol.10 MEDIC MEDIA

評価方法：終了筆記試験（40点）、最終課題（40点）、ポートフォリオ（20点）で総合的に成績評価する。

時 期	課題内容
第 1 回講義	動画を視聴し、生命誕生について考えたことをまとめる。自分が誕生したときの話も家族から聞きレポートに含める。
第 2 回講義	生殖器の解剖生理・性周期についてまとめておく。
第 4 回講義	月経異常・性感染症についてまとめる。
第 5 回講義	更年期・老年期女性の健康課題をまとめる。
第 7 回講義	「性分化疾患を持つ人々の物語」動画を視聴し、性分化疾患について考えたことをまとめる。
第 9 回講義	母子保健に関わる統計指標をまとめておく。
第 10 回講義	母子保健に関わる法律および施策をまとめておく。

目的

1. 妊産褥婦及び新生児の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、健康生活をささえる知識・技術を身につける。

目標

1. 妊産褥婦及び新生児の身体的、心理的、社会的変化を理解し、説明することができる。

DP I ,DP II

2. 健康生活を支援する方法について述べるができる。 DP I ～IV

- 1) 妊娠期を健やかに過ごすためのケアの必要性を述べるができる。
- 2) 分娩期にある対象者のニーズを理解し、ケアの必要性を述べるができる。
- 3) 産褥期にある対象者のニーズを理解し、ケアの必要性を述べるができる。
- 4) 新生児期にある対象のアセスメントの方法を理解し、ケアの必要性を述べるができる。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連

DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）

DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）

DP. III. ケアする仲間と協働する力

DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力

DP. V. 地域医療へ貢献する力

授業計画

回数	単元	学習内容	授業形態	時間
1	周産各期にある女性の心と身体の特徴と看護	1. 母性看護実践を支える概念 2. 妊娠の成立 3. 妊娠に関連する定義	講義	2
2 ～ 6	妊娠期のアセスメントと支援技術	1. 妊婦の生理と胎児の成長 妊娠期の生理的变化に伴う不快症状 妊婦体験 2. 妊婦と胎児のアセスメント 3. 出産を控えた妊婦と家族の心理・社会的変化と看護 4. 妊婦の看護に関わる技術 妊婦のヘルスアセスメント レオポルド触診法	講義 演習	10

7 ～ 11	分娩後のアセスメントと支援技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩の生理 分娩の定義 分娩期の生理的特徴 2. 産婦と胎児のアセスメント 3. 胎児の看護に関わる技術 4. 胎児のアセスメント ドプラ法 胎児心拍数モニタリング 胎盤の観察 5. 産婦の看護に関わる技術 出産が肯定的になるための看護 6. 産痛緩和のケア 呼吸法 補助動作 リラクゼーション 	講義 演習	10
12 ～ 17	新生児期のアセスメントと支援技術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の生理 2. 新生児の定義、新生児の生理的特徴 3. 新生児期のアセスメントとケア 出生直後のケア 出生後 24 時間以内のケア 24 時間以降から退院にむけたケア 4. 新生児の看護にかかわる技術 5. 身体計測、バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント 	講義 演習	12

18 ～ 22	産褥期のアセスメントと支援技術	産褥の生理 全身の変化 生殖器の変化 乳房の構造と機能・乳汁分泌のメカニズム 褥婦と家族の心理・社会的変化 母親になることへの適応過程、 マタニティーブルー、愛着形成、 家族の心理的变化、褥婦のアセスメントの実際 進行性変化・退行性変化の観察と支援方法 褥婦の看護にかかわる技術 褥婦のヘルスアセスメント 子宮復古のアセスメント 悪露のアセスメント 褥婦の日常生活とセルフケアを支える看護	講義 演習	10
23回	終了試験	筆記試験・解答・解説		1

テキスト：小林康江ほか：母性看護学②母性看護の実践、メディカ出版
小林康江ほか：母性看護学③母性看護技術、メディカ出版
堀内成子ほか：パーフェクト臨床実習ガイド母性看護、照林社

参考書：病気がみえる vol.10 産科、第4版、MEDIC MEDICA
根拠と事故防止からみた母性看護技術、第3版、医学書院、2020
カラー写真で学ぶ周産期の看護技術、第3版、医歯薬出版株式会社
豆ちょこポケットマニュアル母性小児ケア、照林社

評価方法：終了筆記試験(70点)、グループ学習への参加度(20点)、課題レポート(10点)を総合的に評価する。

時期	課題内容
夏季休暇中	妊婦経験者へのインタビューをレポートにまとめる。
第1回講義	生殖器の解剖生理・性周期についてまとめておく。 動画を視聴し、妊娠の成立について事前学習を行う。
第2～22回講義	課題：母性ノートをまとめる

目 的

妊産褥婦及び新生児期にある対象に必要な支援方法を理解し、看護を実践するために学ぶ。

目 標

- 1 ウェルネスの視点を用いた看護の展開方法を学び、看護計画を立案することができる。
(DP1・2)
- 2 周産期にある母子を支える支援方法について学び、理解できる。(DP1・2・3・4)
- 3 周産各期における異常及び特殊なニーズを理解し、必要な看護を考えることができる。
(DP1・2・3・4・5)

<p>卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連</p> <p>DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）</p> <p>DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）</p> <p>DP. III. ケアする仲間と協働する力</p> <p>DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力</p> <p>DP. V. 地域医療へ貢献する力</p>
--

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 5	母子看護の展開	1. 母性看護実践を支える概念 2. 看護展開方法① 情報収集、アセスメント、 関連図 3. 看護展開方法② 看護計画立案 4. 看護の展開方法③ 保健指導計画書 5. 看護の展開方法④ 産褥期・新生児期にある対象への看護	講義 演習	10
6 ～ 10	周産期の看護にかかわる技術	1. 褥婦の情報収集に必要なアセスメント技術 2. 新生児の情報収集に必要なアセスメント技術 3. 母乳育児支援 4. 技術試験(新生児の身体計測)	講義 演習	10

11 ～ 13	周産期における ハイリスク看護	1. 妊娠高血圧症候群 2. 妊娠糖尿病 3. 帝王切開 4. 分娩時の異常出血 5. 乳腺炎、産後うつ	講義	6
14	特殊なニーズを 持つ妊産婦の看 護	1. 不妊治療後の妊娠 2. 特定妊婦 3. 災害時の妊産婦への支援	講義	2
15		終了試験		2

テキスト：小林康江ほか：母性看護学②ナーシンググラフィカ母性看護学の実践,メディカ出版.
2020

小林康江ほか：母性看護学③ナーシンググラフィカ母性看護技術,メディカ出版. 2020

堀内成子ほか：パーフェクト臨床実習ガイド母性看護 第2版,2020

参考図書：日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断 第4版,2018

評価方法：終了筆記試験（30点）、最終課題（30点）グループ学習への参加度（20点）
技術試験（20点）

時 期	課題内容
第1回講義	産褥期・新生児期の母性ノートの学習内容を振り返っておく。

精神看護学

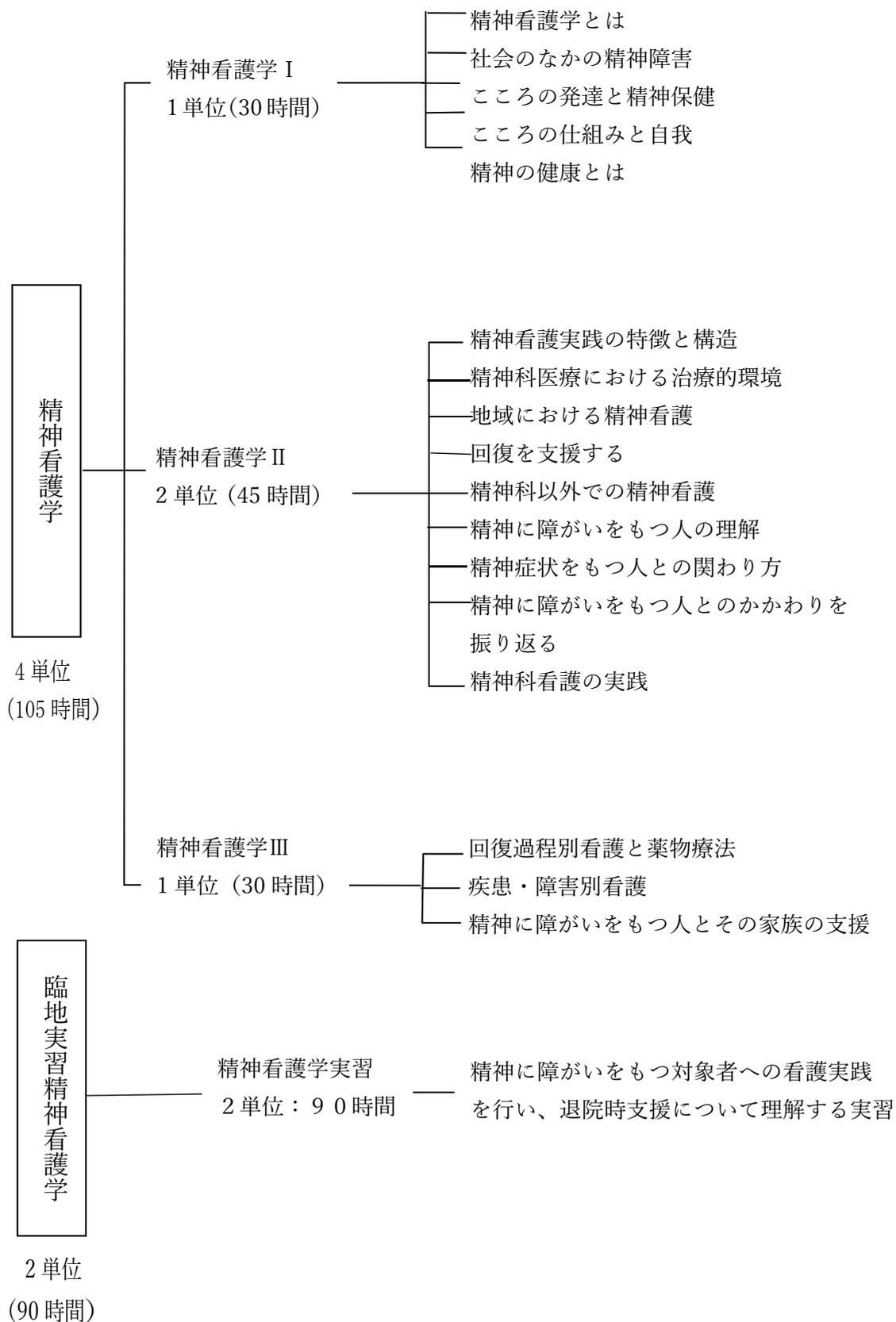
目 的

精神看護のあらゆる対象を理解し、こころの健康の保持増進、こころを障がいされた人々と家族も含めた健康回復への支援ができる基礎能力を学び、あわせて対人援助における人間関係を高め、治療的人間関係について理解を深める。

目 標

- 1 精神看護の意義、こころの健康について理解し、健康の保持・増進に必要な知識を理解する。
- 2 精神障がい者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解し、精神障がい者をひとりの人間として、その人権を尊重することの大切さを理解する。
- 3 こころを病んでいる人の理解と支援は、あらゆる領域における看護の基盤となることを理解し、そのための支援に必要な知識・技術・態度を身につける。
- 4 精神保健医療福祉の法律や制度の動向に目を向け、資源の活用方法を理解する。
- 5 自己理解・他者理解に務め、看護者としての自分自身をみつめることができる。
- 6 自己を支援の道具として活用し、対人関係を構築発展させる知識・技術・態度を理解する。
- 7 精神疾患や精神に障がいをもつ対象の症状や経過、治療・療法を踏まえた、対象のこころや生活に及ぼす影響を理解する。
- 8 精神に障がいを持つ対象の健康上の課題を明らかにし、看護実践できる方法を身につける。
- 9 家族を含め精神障がい者を取り巻く環境を理解し、保健医療福祉の視点から看護の役割と多職種連携の重要性を理解する。

科目構成



目的

1. 看護学における精神看護の位置づけ、精神看護の意義、目的、対象、機能・役割を理解しこころの健康の保持・増進の支援に必要な基礎的知識を学ぶ。
2. 精神に障がいを持つ人々の歴史的背景と変遷を知り、精神障がい者の権利擁護と倫理的配慮について学ぶ。

目標

1. 精神看護の意義と目的・対象・役割を理解できる。
2. こころの健康と精神保健について理解し、こころの意義と構造について述べるができる。
3. 精神医療の歴史的変遷を知り、精神障害者の権利擁護と倫理的配慮について理解できる
4. こころの健康の保持・増進の支援のために必要な知識を理解し述べるができる。
5. さまざまな危機（クライシス）とこころの反応を理解し支援を考え説明できる。

卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）との関連	
DP. I. 生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II. 根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III. ケアする仲間と協働する力	
DP. IV. 看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V. 地域へ貢献する力	

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1	精神看護学とは	1.精神看護学の基本的な考え方 2.精神看護学で学ぶこと 3.精神看護学の目的と構造、精神看護の場 4.精神障がい者が抱える「生きにくさ」 5.病いの苦しみと環境の不寛容	講義	2
2 ～ 4	社会のなかの精神障害	1. 精神医療・看護の歴史的背景と変遷（精神障がいと文化・多様性と普遍性） 2. 欧米・日本における精神医療・看護の変遷 3. 日本における精神医療保健福祉と課題 4. 精神障がい者の人権擁護 5. 精神障害と法制度 6. 「心のケア」の時代	講義 演習	6
5 ～ 9	こころの発達と精神保健	1. 地域精神保健活動 2. こころの健康とは 3. こころの発達と精神保健 4. 身体の成長と精神保健 5. 人間関係とこころのはたらき 6. 人間関係に育まれる個人の心 7. 環境とこころの働き	講義	10

		8. あらゆる場とところの健康 9. 精神保健福祉士と看護の連携		
10	こころの 仕組みと自我	1. 自我の構造 2. 自我の発達段階 3. 自我の防衛機制	講義	2
11 ～ 14	精神の健康とは	1. 精神の健康とは 2. 精神の健康の基準 3. 健康に及ぼすストレスの影響 4. 精神保健と危機の関係 5. 日常におけるこころの危機 6. 危機介入とストレスコーピング・予防 7. 心的外傷と成長発達への影響 8. 心的外傷と精神障がい 9. 回復（リカバリー）する力・予防概念 10. こころの健康の保持・増進のための支援	講義 演習	8
15	終了試験	筆記試験 解答 解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学(1)(2)武井麻子 医学書院

参考書：アクティブ・ナーシング実践オレムアンダーウッド理論 こころを癒す南祐子 講談社
2005年

標準看護学講座 精神看護学 監修 高橋照子 編集 水溪雅子 多喜田恵子 金原出版株式会社 2006年

精神看護学Ⅰ 精神保健学 「第6版」編集 吉松和哉 小泉典章 川野雅資 スーヴェールヒロカワ 2015年

精神看護学 監修：一般社団法人 日本精神科看護協会 遠藤淑美 末安民生 中央法規出版株式会社 2020年

包括的ストレスマネジメント 監訳 服部祥子 山田富美雄 医学書院 2006年

評価：筆記試験（70点）、課題レポート（20点）、ポートフォリオ（10点）

課題：①「精神看護学①基礎のP5~8を読んで」②「身近なこころの問題と思うこと」

③「精神保健福祉士の役割」と「活動の場」④「自我の構造と機能」

目的

1. 精神に障がいをもつ人々の人権と安全を守り、医療・福祉・地域での生活を支援するために必要な基礎的知識と倫理的態度について学ぶ。
2. 精神看護が必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、精神看護を実践するために必要な、治療的対人関係を育む基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

目標

1. 精神障害の看護の基盤となる倫理的思考に基づいた実践方法を習得することができる。
2. 精神に障がいをもつ対象者の治療的環境の意味と特性について理解できる。
3. 精神障がい者とその家族の地域生活を支える制度と多職種連携を理解できる。
4. 精神の健康とマネジメントの基本的な考え方と看護の実際について説明できる。
5. 精神看護学の構造と精神の機能と人間のこころの諸活動を分類し、感情と思考と行動の意味を考え説明することができる。
6. こころを病む人との対人関係の構築の必要性とその方法を理解し、患者－看護師関係の発展過程に活用することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）	
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）	
DP. III.ケアする仲間と協働する力	
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力	
DP. V.地域医療へ貢献する力	

授業計画

回	単元	授業内容・学習内容	授業形態	時間
1	精神看護実践の特徴と構造	1. 精神看護実践の特徴・ケアの前提 2. 精神看護実践の構造 3. 対象のとらえ方と援助の原則・ケアの原則 4. 精神看護実践における看護の役割	講義 演習	2
2 ～ 3	精神科医療における治療的環境	1. 精神保健福祉法の基本的考え方 2. 精神保健福祉法による入院形態・処遇 3. 精神科を受診するということ 4. リスクマネジメントと行動制限 5. 緊急事態に対処する	講義 演習	4
4 ～ 6	地域における精神看護	1. 地域精神医療への移行 2. 地域で支援する際の原則 3. 地域生活を支えるシステムと社会資源 4. 精神障がい者の家族の理解・役割 5. 看護の対象としての家族 6. 退院に向けての支援と実際	講義 演習	6

7 ～ 8	回復を支援する	1. 回復リカバリーの概念ということとは 2. 回復に意味：ビジョン 3. 治療の場におけるリカバリーと看護の視点 4. 回復を支えるプログラム 5. 支援者に求められること	講義 演習	4
9 ～ 10	精神科以外での精神看護	1. リエゾン精神看護 2. 看護における感情労働 3. 看護師のメンタルヘルス	講義	4
11	中間試験	筆記試験 解答 解説		1
12 ～ 15	精神に障がいをもつ人の理解	1. 当事者の語り 2. 人間のこころの諸活動の理解 3. 精神活動に関連する脳の構造と機能 4. 精神的機能に関連する神経伝達物質 5. 精神症状をもつ人の抱える症状 6. 精神症状とその分類、状態像と観察	講義 演習	8
16 ～ 17	精神症状をもつ人との関わり方	1. 看護における対人関係 2. 看護における相互作用 3. 患者 - 看護師関係の目指すこと、感情体験 4. 精神科看護場面における接触の技術 5. 対人支援技術と治療的コミュニケーションの技法	講義 演習	4
18 ～ 21	精神に障がいのもつ人と関わりを振り返る	1. プロセスレコードの意義と目的 2. プロセスレコード変遷, 3人の理論家 3. プロセスレコードの書き方, 分析 4. 精神症状のある人とのコミュニケーションの実際と場面記入, 分析 5. プロセスレコードの評価方法, 注意事項 7. プロセスレコード検討会	講義 演習	8
22	精神科看護の実践	1. 精神科看護を实践するうえで大切なこと	演習	2
23	終了試験	筆記試験 解答 解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学(1)(2)武井麻子 医学書院

参考書：オーランド「看護の探求ーダイナミックな人間関係をもとにした方法」

：ペプロウ「人間関係の看護論」：トラベルビー「人間対人間の看護」

：看護場面の再構成 宮本 真巳著 日本看護協会出版会 1995年

：精神科ナースのアセスメント&プランニング books 家族ケア 一般社団法人日本精神科看護協会 中央法規出版 2017年

参考ビデオ：「ビューティフルマインド」

評価：筆記試験（70点）課題（20点）ポートフォリオ（10点）

課題：中間①「精神保健福祉法に定められた入院形態」 ②「地域連携図作成」

終了①「症状分類一覧表冊子の作成」 ②「対人援助技術冊子の作成」

目的

1. 精神疾患や精神に障がいをもつ人の疾患や症状を理解し、その治療・療法の過程と健康の回復過程に沿った看護支援の方法を学ぶ。
2. 精神に障がいをもつ人の身体的・心理的・社会的側面を多角的にアセスメントするために必要な基礎的知識と課題解決の方法を学ぶ。

目標

1. 主な治療および健康回復の過程や検査処置を受ける対象の基本的な看護の方法について説明できる。
2. 精神科における薬物療法の効果と副作用について調べ、薬理作用の効果や副作用が生活に与える影響について説明できる。
3. 精神科医療における薬剤師の役割と看護の連携について説明できる。
4. 疾患・症状別看護を理解し、看護過程の分析に活用できる
5. 看護の展開方法を理解し、課題解決するための看護支援を実施できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連
DP. I.生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.ケアする仲間と協働する力
DP. IV.看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 ～ 2	回復過程別看護 と薬物療法	1. 回復過程別看護 2. 精神科における薬物療法の歴史 3. 精神科における薬物療法 4. 薬剤師と看護の連携	講義 演習	4
3 ～ 8	疾患・障害別看護	1. 神経症性ストレス関連および身体表現性障害患者の看護 2. 摂食障害患者と睡眠障害患者の看護 3. 統合失調症患者の看護 気分（感情）障害患者の看護 4. アルコール・薬物依存症患者の看護 てんかんのある患者の看護 5. パーソナリティ障害患者の看護 6. 神経発達障害患者の看護	講義 演習	12
9 ～ 14	精神に障がいをもつ人とその家族の支援	1. 統合失調症患者の看護 2. オレム－アンダーウッドのセルフケア理論 3. セルフケアの査定 4. MSE の査定 5. 看護計画の実践	講義 演習	12
15	終了試験	筆記試験 解答 解説		2

テキスト：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学(1)(2)武井麻子 医学書院

参考書：アクティブ・ナーシング実践オレム－アンダーウッド理論こころを癒す：南裕子
講談社 2005年

：オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開〔第2版〕宇佐美しおり
鈴木啓子 スーヴェルヒロカワ 平成18年

：精神科ナースのアセスメント&プランニング books 統合失調症の看護ケア
一般社団法人日本精神科看護協会 中央法規出版 2018年

評価：筆記試験（50点）課題レポート（10点）看護過程（30点）ポートフォリオ(10点)
課題レポート) ①「精神科でのさまざまな治療」について

②「オレムアンダー・ウッドの6つのセルフケア理論」について

看護の統合と実践

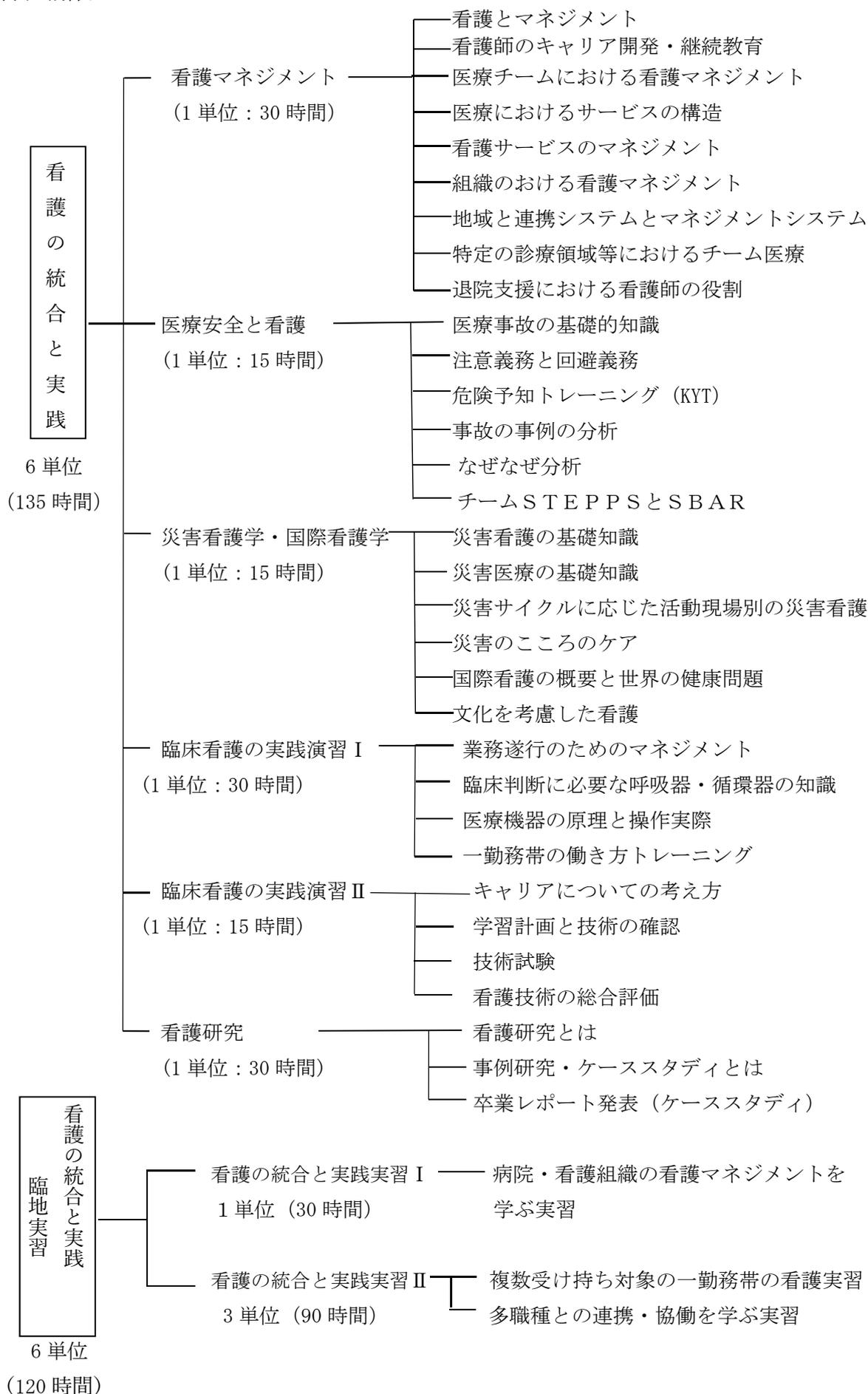
目 的

看護活動の広がりに伴い、医療施設だけでなく、災害現場や国内外等あらゆる場や保健・医療・福祉における多職種連携・協働の看護実践マネジメントの基礎的知識を養う。更に研究法を学ぶことで問題発見、問題分析、問題探求・調査、倫理的思考等の能力を身につける。

目 標

1. 地域包括ケアシステムの中で看護を行うために必要な看護マネジメントの基礎知識を得る。
2. 施設内や地域連携においてチーム医療が果たす役割を理解し、その人らしく生活していくために必要な看護を考えることができる。
3. 医療事故防止に向けて専門職として医療の質保障を如何になすべきか、個人の準備、組織の安全管理を理解する。また、医療・看護現場で起きている事件事例を分析することで「危険」と気付く感性と事故発生時の対処について考えることができる。
4. 国際看護の基本的な考え方について理解し、異文化を踏まえた保健医療福祉分野の国際的な看護活動について理解を深める。
5. 災害の概念と災害が社会や地域にもたらす影響や生命や生活に影響することを理解し、災害時という特殊な環境下での看護活動について理解することができる。
6. 臨床に近い場面を設定し、シナリオベースのシミュレーションで臨床判断能力を身に付ける事ができる。
7. 複数の患者を受け持つ一勤務帯の実習を通して、多重課題を経験し優先順位の決定や時間管理の必要性を認識することができ、臨床現場の看護実践することができる。
8. 卒業時到達度の技術を総合評価し、自己の技術の課題を明らかにすることができる。
9. 看護研究の必要性を理解し、実践した看護を研究的視点でまとめることができる。

科目構成



目的

チーム医療における看護の仕組みと看護マネジメントを理解し、対象に必要な医療と生活の視点を持ち、多職種との連携・協働が実践できる基礎的な知識を身につける。
また、チーム医療における協働の意義を理解し、安全で質の高い看護の提供と地域医療に貢献できる看護実践力の基礎を学ぶ。

目標

1. 看護管理学を取り巻く要素を説明できる。
2. 看護職のキャリアマネジメントについて説明できる
3. 看護マネジメントと看護サービス提供のしくみを説明できる
4. 組織の構造と組織のマネジメントについて説明できる
5. 医療サービスの質の評価の視点を説明できる
6. 地域での連携システムとマネジメントシステムについて説明できる
7. チーム医療の要素と協働の実際を理解し看護師の役割を説明できる。
8. 多職種と連携・協働し、その人らしく生活していくのに必要な支援を立案できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	看護とマネジメント	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2. マネジメントの概念と看護における実践 1) マネジメントとは 2) 看護におけるマネジメントとは	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
2 回	看護師のキャリア開発・継続教育	1. 看護師のキャリア開発・継続教育 1) キャリアのついでへの考え方 2) 生涯学習 3) ジェネラリストとスペシャリスト	講義	2
3 回	医療チームにおける看護マネジメント	1. 医療チームにおける看護マネジメント 1) 看護師のチームワークとコミュニケーション 2) 多職種のチームワークとコミュニケーション	講義	2
4 回	医療におけるサービスの構造	1. 医療におけるサービスの構造 1) サービスとは 2) サービスの基本的特性 3) サービスの3つの構造と顧客満足 4) 医療サービスの質評価	講義	2
5 回	看護サービスのマネジメント	1. 看護サービスのマネジメント 1) 組織として看護サービスのマネジメント 2) 組織としての目的を達成するためのマネジメント 3) 看護サービス提供の仕組みづくり 4) 人材のマネジメント	講義	2
6 回	看護サービスのマネジメント	1. 看護サービスのマネジメント 1) 施設・設備環境のマネジメント 2) 物品のマネジメント 3) 情報のマネジメント 4) 組織におけるリスクマネジメント 5) サービスの評価	講義	2
7 回	組織における看護マネジメント	1. 組織におけるリスクマネジメント 1) 専任リスクマネージャーの役割と実際	講義	2
8 回	中間試験	筆記試験 解答・解説		2
9 回	地域と連携システムとマネジメントシステム	1. 地域と連携システムとマネジメントシステム 2. 看護を取り巻く諸制度 3. 地域におけるマネジメント 1) 地域で働く医療関係者間の多職種連携の実際	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
10 回	特定の診療領域等におけるチーム医療	1. 特定の診療領域等におけるチーム医療 栄養サポートチーム	講義	2
11 回	特定の診療領域等におけるチーム医療	1. 特定の診療領域等におけるチーム医療 褥瘡対策チーム	講義	2
12 回	退院支援における看護師の役割	1. 退院支援チーム 1) 退院支援における看護師の役割 2) 退院支援と退院調整	講義	2
13 回	退院支援における看護師の役割	1. 退院支援提案書の作成	講義	2
14 回	退院支援における看護師の役割	1. 退院支援提案書の発表	講義	2
15 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：系統看護学講座『統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理』，医学書院，2021．第10版第4刷

参考書：上泉和子：新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、第3版第1刷発行

：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 第2版

日本看護協会出版、2020年8月10日 第2版第1刷発行

評価方法：終了筆記試験（70点）・ポートフォリオ（20点）・課題レポート（10点）。

課 題	
時 期	タ イ ト ル
第1回事前課題	「マネジメント」とは何かを調べる
第5回事前課題	「サービス」とは何を調べる
第8回事後課題	「これから求められる看護マネジメント」についてまとめる
第13回事前課題	「ICFとICD」とは何かを調べる

科目名 医療安全と看護 1 単位 15 時間

受講年次： 3 学年 前期

担当：専任教員・外来講師

目的

ヒューマンエラーを前提に看護の法的責任と倫理の理解、医療安全を推進するための組織的な取り組みと事故の分析手法を学ぶ。

目標

1. 医療安全における報告・連絡・相談・確認と安全文化醸成について説明できる。
2. 医療事故の定義を述べ、医療事故と医療過誤の違いを説明できる。
3. 看護職の法的責任の種類と法的責任の範囲を説明できる。
4. 事故を分析する意義と安全に看護を提供する防止策を説明できる。
5. 患者・家族を一員として参画した医療安全の方法を説明できる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	医療事故の基礎的知識	1. ヒューマンエラーと防止策 2. 看護職の法的責任 3. 医療現場における業務上の危険 4. 医療事故の定義と分類 5. 医療事故の2事例の概要	講義 演習	2
2 回	注意義務と回避義務	1. 注意義務と回避義務 2. 事例の時系列の整理	講義 演習	2
3 回	危険予知トレーニング（KYT）	1. 危険予知トレーニング（KYT）の理論と方法 2. 事例の時系列の再確認と事故の事象の特定	講義 演習	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
4 回	なぜなぜ分析	1. なぜなぜ分析 2. 事例の事象に対してのなぜなぜ分析の活用 事故の背景要因	講義 演習	2
5 回	チームSTEP PSとSBAR	1. チーム STEPPS と SBAR 2. 事例の事故の構造の明確化 3. P m-SHELL モデルの活用、対策の立案	講義 演習	2
6 回	事故の事例の 分析	1. P m-SHELL モデルの活用、対策の立案	演習	2
7 回	事故の事例の 分析	1. 分析した事件事例の発表 2. まとめ	演習	2
8 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト：新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全、
メヂカルフレンド社、第3版第1刷発行

参考書：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 第2版
日本看護協会出版、2020年8月10日 第2版第1刷発行

評価方法：終了筆記試験（60点）・ポートフォリオ（20点）・課題レポート（10点）
毎回の講義のコメントシート（10点）

課 題	
時 期	タ イ ト ル
第1回事後	1. 担当する事例の時系列 2. 2事例の①疾患について、②治療、③看護
第3回事前	医療安全のKYTとは（経緯～活用方法など）
第5回事前	P m-SHELL モデルとは（経緯、考案者など）
第7回事後	分析を終えての所感

目的

予測不能な災害によって引き起こされる状況により、人々の生命や健康、生活が脅かされる対象者への看護の役割および看護活動について理解し、多職種との連携・協働しながら看護実践に活用するための基礎的知識を学ぶ。さらに、国際看護の基本的な考え方を理解し、異文化を考慮した看護活動について学ぶ。

目標

1. 災害が与える被災者への影響を理解し、災害看護の役割と倫理的な関わりが説明できる。
2. 災害時の医療や対応の整備を理解し、多職種連携を含めた災害医療活動が説明できる。
3. 各災害サイクルにおける対象者の健康問題を理解し、看護活動内容が説明できる。
4. 被災者および救援者の心理的变化を理解し、こころのケアに必要な知識が説明できる。
5. 国際看護についての基本的な考え方や世界における健康問題の現状について表現できる。
6. 国際的な視野で文化的・社会的背景を考慮した看護の在り方について述べることができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	災害看護の基礎知識	1. 災害看護の歩み 2. 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の定義と役割 2) 災害看護の対象 3) 災害看護の特徴と看護活動 4) 災害時の倫理	講義	2
2 回	災害医療の基礎知識	1. 災害医療の基礎知識 1) 災害の種類と健康被害 2) 災害医療の特徴 3) 災害医療対応の整備 4) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 5) 災害看護と法律	講義	2

回	単元	学習内容	授業形態	時間
3 回	災害サイクルに 応じた活動現場 別の災害看護	1. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 急性期・亜急性期 (1) 被災病院での活動 (2) 避難所・救護所での活動 (3) 現場での活動	講義	2
4 回	災害サイクルに 応じた活動現場 別の災害看護	1. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 1) 慢性期 (1) 仮設住宅での活動 (2) 恒久住宅での活動 2) 静穏期 (1) 病院防災 (2) 地域医療機関との連携 (3) 地域防災・地域減災	講義	2
5 回	災害のこころの ケア	1. 災害とこころのケア 1) 災害がもたらす精神的影響 2) こころのケアとは 3) 被災者のこころのケア 4) 遺族のこころのケア 5) 救援者のストレスとこころのケア	講義	2
6 回	国際看護の概要 と世界の健康問 題	1. 国際看護の概要と世界の健康問題 1) 世界の保健医療の現状と課題 2) 持続可能な開発目標（SDGs）へ 3) 国際協力のしくみ	講義	2
7 回	文化を考慮した 看護	1. 文化を考慮した看護 1) 異文化理解 2) 国際看護の対象 3) 国際看護活動の実際	講義	2
8 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		1

テキスト：竹下喜久子：系統看護学講座『統合分野 災害看護学・国際看護学』，医学書院，2021.
第4版第3刷

参考書：看護学テキストN i C E 災害看護（改訂第3版） 南江堂 改訂第3版発行
系統看護学講座 専門 I 看護学概論 医学書院 2020
外国人患者対応マニュアル 竹中勝信 MEDICAL VIEW2017
国際化と看護 日本と世界で実践するグローバルな看護を目指して 大橋一友 メディ
カ出版 2018

評価方法：終了筆記試験（80点）。課題レポート（20点）。

※那覇空港航空機事故災害訓練・那覇市防災訓練参加

課 題	
時 期	タ イ ト ル
第1回事前課題 (動画視聴)	動画を視聴しレポートにまとめる テーマ「被災者の3側面に対する健康生活への影響」
第2回事後課題	搬送方法を各自で実施してレポート作成 テーマ「救護者側と被災者側からの視点で必要な搬送 技術と配慮」
第3回事前課題	指定されたテキスト範囲内容の読み解き
第4回事前課題	指定されたテキスト範囲内容の読み解き
第5回事前課題	指定されたテキスト範囲内容の読み解き

目的

臨床現場を模擬的に再現した環境下で、専門的な知識・技術・態度を育成する。
さらに看護チームにおける看護実践マネジメントを探求する。

目標

1. 業務遂行のための看護マネジメントの在り方を説明できる
2. 看護実践に必要な臨床判断の方法を実施することができる
3. 看護業務に多く関わる医療機器のトラブル対応を説明することができる
4. 複数患者の安全・安楽・自立・個別性を考えた、1日のケア計画立案ができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	業務遂行のための マネジメント	1. 業務遂行のためのマネジメント 1) 1日の業務の組み立て 2) 多重課題への対処	講義	2
2 回	臨床判断に必要な呼吸器・循環器 の知識	1. 臨床判断に必要な呼吸器・循環器の知識	講義	2
3 ～ 4 回	臨床判断に必要な呼吸器・循環器 の知識	1. 呼吸器疾患の対象者に対する基本的な臨床判断能力	演習	4
5 ～ 6 回	臨床判断に必要な呼吸器・循環器 の知識	1. 循環器疾患の対象者に対する基本的な臨床判断能力	講義 演習	4

回	単元	学習内容	授業形態	時間
7 ～ 8 回	臨床判断に必要な呼吸器・循環器の知識	1. 観察の優先順位のパフォーマンス 1) 呼吸器疾患の対象者 2) 循環器疾患の対象者 2. 知識の定着と確認 1) 呼吸器疾患の対象者 2) 循環器疾患の対象者	講義 演習	4
9 ～ 10 回	医療機器の原理と操作実際	1. 医療機器の原理と操作実際 1) 測定用医療機器の操作の実際 2) 治療用医療機器の操作の実際 3) 医療事故発生との関連 ・アラームやトラブルへの対応	講義 演習	4
11 ～ 14 回	一勤務帯の働き方トレーニング	1. 一勤務帯の病棟の働き方 1) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 2) 初回巡回 3) ケアカンファレンス 4) 優先順位の決定 5) 多重課題 6) 夜勤者への申し送り	演習	8
15 回	終了試験	筆記試験 解答・解説		2

テキスト：新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、第3版第1刷発行

参考書：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 第2版
日本看護協会出版、2020年8月10日 第2版第1刷発行

評価方法：終了筆記試験（70点）・ポートフォリオ（20点）・課題レポート（10点）

課 題	
時 期	タ イ ト ル
第1回事後課題	2事例のケア計画立案
第2回事後課題	呼吸器・循環器に必要な基礎知識を調べ学習
第9・10回事前課題	医療機器の取り扱い方法と事件事例と防止対策を調べる

受講年次： 3学年 後期

担当：専任教員・外来講師

目的

卒業到達度に達しているか他者評価及び自己評価し、技術の課題を明確にした上で看護職に求められる継続教育に繋げる。

目標

1. 自己のキャリアイメージを記述することができる
2. 看護師の臨床判断能力について説明できる
3. 卒業到達度にむけて、計画的に学習を進め準備する
4. 3年間で身に付けた技術の到達度評価を受けて、自己の課題を明確にすることができる

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回	キャリアについての考え方	1. 看護師としてのキャリア 1) ベナーのキャリア発達理論 2) 看護師の臨床判断能力とは 3) 自己のキャリアイメージ	講義	2
2 ～ 3 回	学習計画と技術の確認	1. 学習計画立案 2. 卒業到達度に向けた自己の技術確認	演習	4
4 ～ 7 回	技術試験	1. 卒業到達度の技術評価 2. 臨床判断	演習	8
8 回	看護技術の総合評価	1. 技術経験・評価記録のまとめ 2. 看護師の実践能力と卒業時の到達目標の自己評価	講義	1

テキスト：新体系看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント／医療安全、メヂカルフレンド社、第3版第1刷発行

参考書：学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門 第2版

日本看護協会出版、2020年8月10日 第2版第1刷発行

評価方法：終了筆記試験（70点）・ポートフォリオ（20点）・課題レポート（10点）

目的

1. 看護研究の意義や目的について基礎的知識を学ぶ。
2. 卒業レポートとして位置づけ、臨地実習における自己の看護実践を事例研究・ケーススタディの構成でまとめ、発表することを通して基礎的知識を学ぶ。

目標

1. 看護研究の意義や目的を述べるができる。
2. 臨地実習で体験した看護実践を事例研究・ケーススタディの構成でまとめることができる
3. ケーススタディをまとめる中で自己の看護観に気づき考えを深めることができる。
4. 実践した看護をケーススタディとして発表することができる。

卒業の認定に関する方針（DP：ディプロマポリシー）との関連	
DP. I.	生命の尊厳、人権の尊重に基づき行動する力（人間力・実践力）
DP. II.	根拠に基づいた看護を実践する力（実践力・判断力）
DP. III.	ケアする仲間と協働する力
DP. IV.	看護師として成長し学習し続ける力
DP. V.	地域医療へ貢献する力

授業計画

回	単元	学習内容	授業形態	時間
1 回 ～ 3 回	看護研究とは	1. 看護研究とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究の意義 2) 看護研究の目的 2. 情報の探索と吟味 <ol style="list-style-type: none"> 1) 文献とは 2) 文献検索の方法 3) 文献の読み方 3. 研究における倫理的配慮 <ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理的配慮の原則 2) 依頼書と同意書 4. 研究デザインの種類 <ol style="list-style-type: none"> 1) 量的研究 2) 質的研究 	講義	6

回	単元	学習内容	授業形態	時間
4 回 ～ 6 回	事例研究・ケーススタディの書き方	1. 事例研究とは 2. ケーススタディとは 3. 看護研究計画書 1) 研究計画書の意義 2) 研究計画書の書き方 3) 論文のまとめ方 4. 論文のまとめ方 1) ケーススタディのまとめ方	講義	6
7 回	中間試験	筆記試験 解答・解説	試験	2
8 回 ～ 10 回	事例研究・ケーススタディの書き方	事例研究・ケーススタディ ゼミナール 1) 事例研究計画書の作成 2) 原稿の作成	演習	6
11 回 ～ 15 回	卒業レポート(ケーススタディ)発表	1. 卒業レポート 1) 事例研究・ケーススタディ発表 2. ディスカッション	演習	10

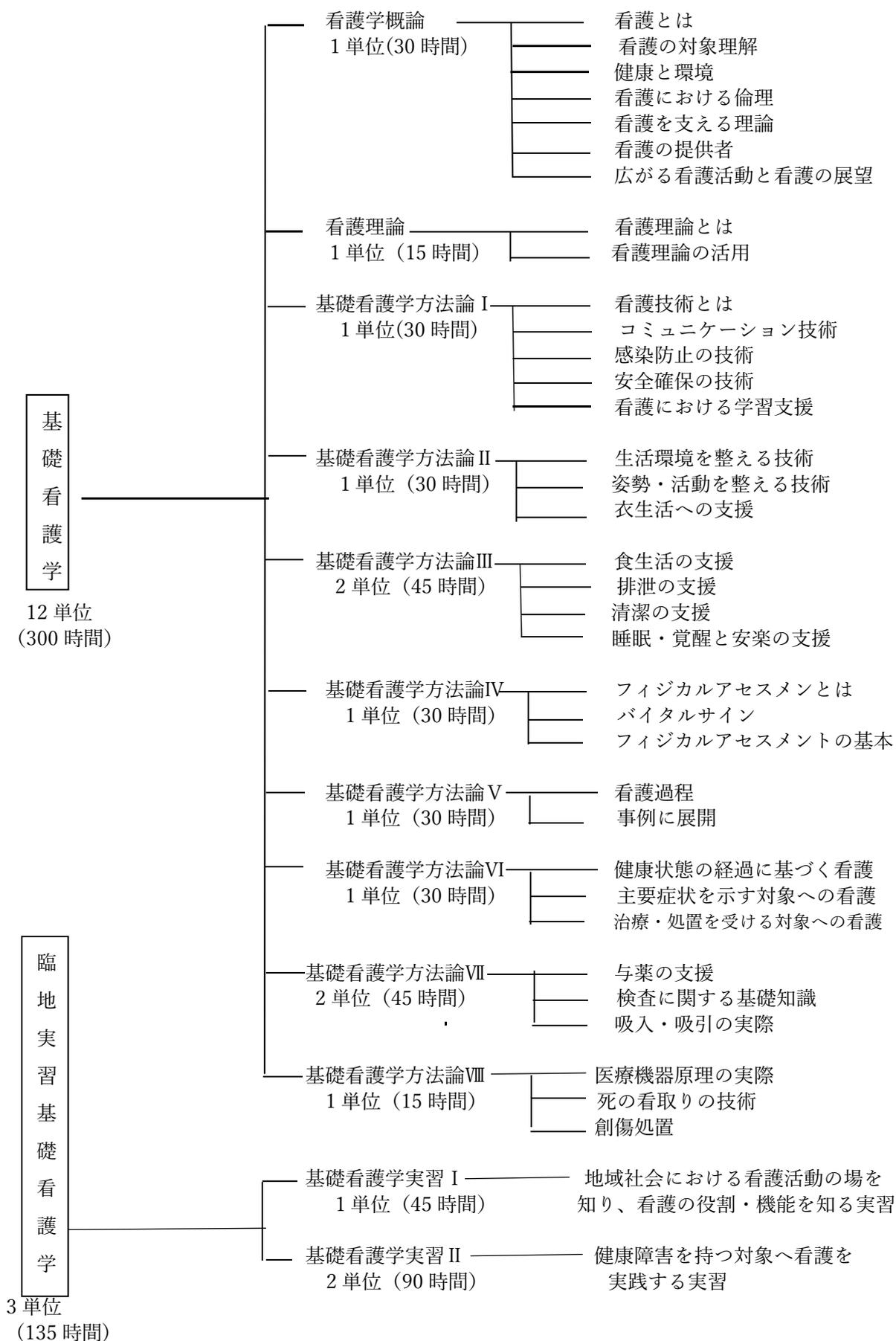
テキスト：系統看護学講座『別巻：看護研究』，医学書院，2021．第1版 第9刷

参考書：看護学生のためのケーススタディの手引き，日総研、根津進

評価方法：中間筆記試験（30点）。レポート発表・抄録・集録・提出（70点）。

臨地実習

I 科目構成



II 基礎看護学実習目的・目標

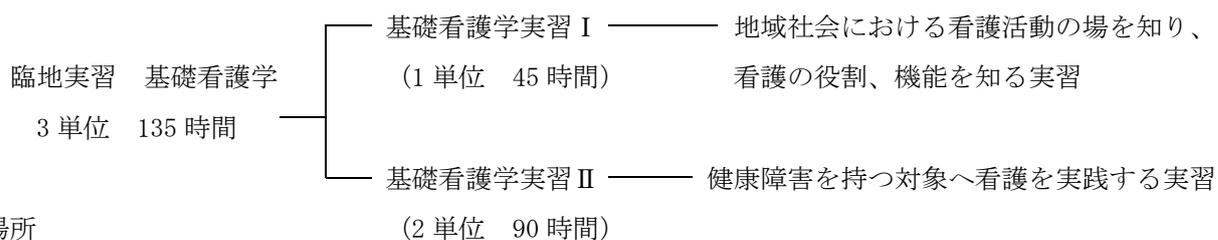
目的

看護の対象と看護活動を知り、対象の健康課題と日常生活上のニーズを把握し日常生活上の基本的ニーズの充足に必要な基礎的能力を培う。

目標

1. 看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる。
2. 看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。
3. 対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。
4. 対象者の日常生活上の課題を解決するための看護を原理・原則に基づいて看護師の指導のもと安全・安楽に実践することができる
5. 対象者への支援を通して看護師としての基本的な態度を学ぶ
6. 看護の魅力を発見し、看護について考えることができる
7. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる

III 実習体系・実習場所



実習場所

1) 病院・外来

- ①社会医療法人友愛会 友愛医療センター
- ②社会医療法人友愛会 豊見城中央病院
- ③医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
- ④沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
- ⑤独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院
- ⑥医療法人 祥杏会 おもろまちメディカルセンター
- ⑦医療法人和の会 与那原中央病院
- ⑧社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院

2) 訪問看護ステーション

- ①友愛会訪問看護ステーション
- ②訪問看護ステーションいこい
- ③訪問看護ステーションおもととよみの杜
- ④訪問看護ステーションにじ
- ⑤訪問看護ステーション名嘉村
- ⑥しなさき訪問看護ステーション

- ⑦ウィル訪問看護ステーション豊見城
- ⑧訪問看護ステーションかみはら
- ⑨大名訪問看護ステーション
- ⑩訪問看護ステーションはいむ
- ⑪訪問看護ステーションひなた
- ⑫新垣病院地域連携部
- ⑬訪問看護ステーションリズム

3) 地域包括支援センター

- ①豊見城市地域包括支援センター（2か所）
- ②糸満市地域包括支援センター（2か所）
- ③那覇市地域包括支援センター（7か所）

実習計画

1. 実習期間 病院：8時00分～15時00分または7時30分～14時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 地域：8時00分～15時00分（実習時間8時間：休憩60分）
 学内（5日目）：9時00分～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）
 学内（6日目）：9時00分～15時00分（実習時間6時間：休憩90分）

2. 実習スケジュール

【基礎看護学実習Ⅰ】

	1日目	2日目	3日目	4日目
場所	病院（病棟）	病院（病棟）	病院（外来） 地域 訪問看護ステーション	病院（外来） 地域 訪問看護ステーション
内容	病棟オリエンテーション シャドウイング カンファレンス	シャドウイング コミュニケーション カンファレンス	オリエンテーション 業務・活動見学 同行訪問	オリエンテーション 業務・活動見学 同行訪問
	5日目	6日目		
場所	学内	学内		
内容	各施設での学びをまとめてプレゼンテーションを行う	学内 学びの共有 カードメソッドにてまとめ発表を行う テーマカンファレンス（看護の機能と役割とは） 実習における課題の明確化（評価返し）		

IV. 基礎看護学実習 I 【実習時間 45 時間：1 単位 1 学年前期】

1. 目的

地域社会において生活者を支えている看護活動の場を知り、体験や見学を通して看護の役割・機能を理解する。

2. 目標

1. 各施設の活動の場と対象者の生活の場を知ることができる
2. 各施設における看護活動の実際を知ることができる
3. 看護の魅力を発見できる
4. コミュニケーションスキルを活用し関係性を築くことができる
5. 自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる

【病棟実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	オリエンテーションを通して病棟の設備・構造について知ることができる	病棟オリエンテーション 1) 病棟の構造や設備、病室環境 2) 病棟の特殊性 3) 入院対象者の特徴・病棟に多い疾患 4) 日課、週間業務 5) 病棟の安全対策（院内感染対策、事故防止対策、災害対策など） 6) 病棟で働く職種と活動内容 7) 病院の理念、看護部の理念、病棟の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習要綱および実習のルーブリック価をもとに必要な学習をして実習に臨む ・事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・疑問に思ったことは質問をして理解を深める ・病棟の安全対策のマニュアルなどの実際を見ながら学ぶ ・病棟の設備・構造等の見学を通して対象者の立場から環境を考える
1-2)	対象者の生活を表現できる	1) 入院前と入院後の日常生活の変化 2) 対象者の1日の過ごし方 3) 在宅での療養生活	<ul style="list-style-type: none"> ・入院によって生活がどのように変化したのかの視点で考える ・入院後対象者が1日の生活をどのように過ごしているのか、入院によってどのように変化したのかを考える ・在宅で療養する生活について考える
2-1)	看護師と共に行動し看護実践の意味を知ることができる	1) 病棟における看護実践（シャドウイング） ・生活の場としての療養環境を整える ・対象者とのかかわり方を見学する ・日常生活支援の見学及び指導者と共に体験 ・バイタルサイン測定や観察の見学 ・治療や処置の見学など	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師の行動を観察しインタビュー、指導者等とともに看護支援の見学や体験を通して学ぶ ・看護師が、対象者をどのように観察し状態を把握しているのか、生活環境をどのように整えているのか見学や体験を通して学ぶ ・ケアの必要性を考えることができる

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
2-2)	看護実践についての学びを具体的に表現できる	1) 病棟でのテーマカンファレンス 実習1日目 『オリエンテーションや病棟見学を通しての気づき』 実習2日目 テーマ『シャドウイングを通して看護について考えたこと』 2) カードメソッド テーマ:「私たちが考える看護とは」	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に運営し、司会を輪番制で行う ・自分の考えや思いを伝えることができる ・学内実習にてカードメソッド技法を用いて学びを共有する
3-1)	看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1) 看護師より看護の役割や看護体験などを聴き、看護に対する考え方を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・聴く姿勢として、目と耳と心で傾聴する ・カンファレンスのテーマについて、自分の考える看護や看護の魅力について主体的に意見を述べる
4-1)	コミュニケーションを図ることができる	1) 対象者とコミュニケーションを図り、対象者の思いに触れる 2) 対象者以外に(指導者、病棟スタッフ、多職種、担当教員、グループメンバー)とのコミュニケーション 3) 教員とのカンファレンス テーマ:『対象者とのコミュニケーションで学んだこと、気づいたこと』	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ、挨拶、丁寧な言葉遣いなど基本的な礼儀を踏まえる ・対象に関心をもつ ・対象との距離を考える ・対象者との関りで気になった場面があれば、カンファレンスで指導者、教員、メンバー共にリフレクションする。
5-1)	実習での学びを表現することができる	1) 実習での学びを記録する 2) 自分の学びをまとめてプレゼンテーションを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日、実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする ・病棟実習最終日には一人ひとり所感を発表する
5-2)	自己の成長と今後の課題を述べることができる	1) 最終カンファレンス ・実習所感の発表 2) 実習に対する自分のビジョン・ゴールと成長報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・学内実習にて各自の学びをまとめプレゼンテーションを行う ・実習を通して学んだこと、実習のビジョン・ゴールを踏まえて今後の課題を具体的に述べる ・基礎看護学実習 I 評価及び Step up スケールを用いて評価と今後の課題を明確にする

【外来見学実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	オリエンテーションを受け外来の設備・構造について知ることができる	外来オリエンテーション 1) 外来の構造や設備、配置について 2) 外来の機能や特殊性 3) 受診から会計までの流れ 4) 外来で働く職種と活動内容 5) 安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染対策など	【事前課題】 ・実習のルーブリック評価をもとに必要な学習をして実習に臨む ・事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・疑問に思ったことは質問をして理解を深める ・外来の安全対策のマニュアルなどの実際を見ながら学ぶ
2-1)	外来における看護師の役割を知ることができる	1) 外来看護師の役割について 2) 外来看護の看護支援の実際 ・外来の環境調整 待合室、診察室の環境や雰囲気、プライバシーをどのように守っているか ・診察までの看護師の活動	・外来の設備・構造等の見学を通して、対象者の立場から環境を考える
3-1)	看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1) 外来看護の役割や看護体験について語り聴く	・指導者と共にコミュニケーションをとることに対する了承を得る ・外来であるため、コミュニケーションの内容や声の大きさなど周りの方への配慮を考えながら行う
4-1)	対象者とコミュニケーションを図ることができる	1) 主に受診の目的 2) 家での生活について 3) 生活や受診で困っていること	・聴く姿勢として、目と耳と心で傾聴する
5-1)	実習での学びを表現することができる	2) 外来でのテーマカンファレンス テーマ『外来での実習を通しての学び・気づき』 1) 実習での学びを記録する	・カンファレンスのテーマについて、自分の考える看護や看護の魅力について主体的に意見を述べる ・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

【訪問看護ステーション内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	オリエンテーションを受け訪問看護ステーションの役割を知ることができる	訪問看護ステーションオリエンテーション 1) 訪問看護ステーションの役割 2) 設置基準・人員基準（職種） 3) 利用者の特徴 4) 訪問看護師の一日の流れ 5) 訪問時の注意事項 など	【事前課題】 ・実習のルーブリック評価をもとに必要な学習をして実習に臨む ・事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・疑問に思ったことは質問をして理解を深める
2-1)	訪問看護ステーションにおける看護活動を知る	1) 看護師と同行訪問を行う ・対象者の生活の環境（療養環境、住環境、人的環境） ・訪問看護で行われている支援 ・対象者とのコミュニケーション場面	・訪問時のマナーに気をつける ・質問は、訪問看護時に行わず、移動時やステーションに戻ってから行う
3-1)	看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1) 訪問看護の役割や看護体験について語り聴く 2) 訪問看護ステーションでのテーマカンファレンス テーマ『訪問看護での大切な視点』	・聴く姿勢として、目と耳と心で傾聴する
4-1)	対象や家族とのコミュニケーションを図ることができる	1) 対象者や家族とのコミュニケーションにて在宅療養について思いを聴く。	・対象の反応をみながらコミュニケーションをとる ・挨拶、お礼などの礼儀、言葉遣いや態度などに気をつける
5-1)	実習での学びを表現することができる	1) 実習での学びを記録する	・カンファレンスのテーマについて、自分の考え主体的に述べる ・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

【地域包括支援センター実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	オリエンテーションを受け地域包括支援センターの役割を知ることができる	地域包括支援センターオリエンテーション 1) 地域包括支援センターの運営・機能・役割、サービス、事業、活動 2) 設置基準・人員基準（職種） 3) 利用者の特徴 5) 実習時の注意事項 など	【事前課題】 ・実習のルーブリック評価をもとに必要な学習をして実習に臨む ・事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・疑問に思ったことは質問をして理解を深める ・地域包括支援センターの目的、役割 ・包括支援センターの所在地の人口、高齢者人口
2-1)	地域包括支援センターの活動を知る	1) 事業内容に参加する 2) 参加した事業における多職種の役割 3) 地域包括支援センターの活動	
3-1)	看護師の語りを聴き、看護の魅力について共有することができる	1) 地域包括支援センターにおける看護の楽しさや喜び、責任について 2) 地域包括支援センターでのテーマカンファレンス	・聴く姿勢として、目と耳と心で傾聴する ・カンファレンスのテーマについて、自分の考える主体的に述べる
4-1)	利用されている対象者とコミュニケーションを図ることができる	1) コミュニケーションをとり、対象者のニーズを知る	・挨拶、お礼などの礼儀、言葉遣いや態度などに気をつける
5-1)	実習での学びを表現することができる	1) 実習での学びを記録する	・実習終了後に学んだことや気づき、考えたこと記録としてまとめる ・実習の目標到達度と課題を明確にする

基礎看護学実習 I の評価規準・基準

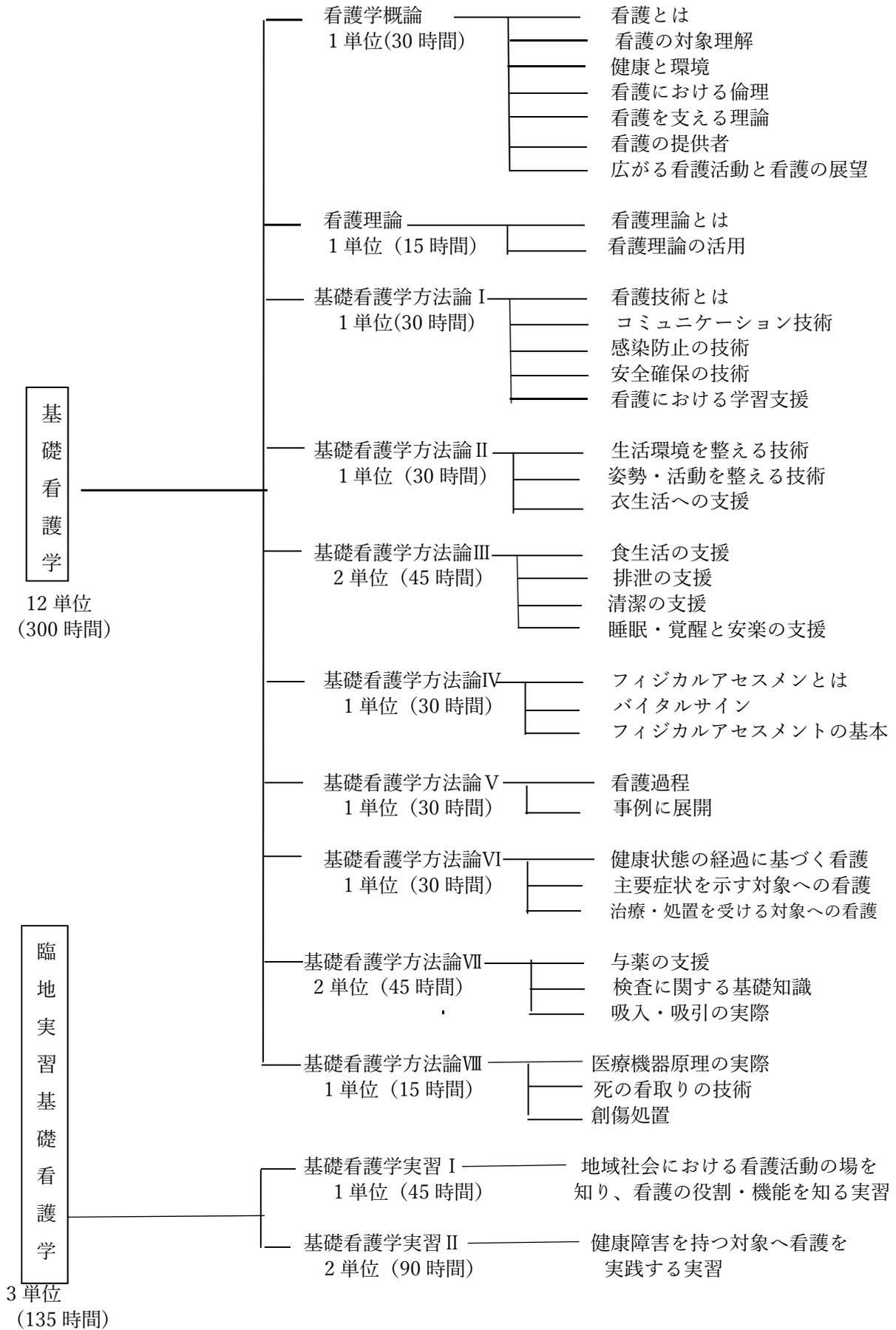
学習活動	評価の視点	学習活動における具体的な評価基準	評価資料	評価基準 A: 5点 B: 3点 C: 1点		
				A: 素晴らしい	B: いいね	C: ふあいと
学びを振り返りまとめることができる	関心・意欲 態度・技能 表現	実習の学びを意味づけて表現できる	リフレクションノート まとめの発表 ポートフォリオ	実習の体験から学びを具体的に事例を挙げて自分の言葉で表現し、根拠を明確にすることができる	実習の学びを表現し、根拠は不十分だが自分なりに説明はできる	実習の学びを表現できない
看護活動を表現できる	知識・判断 関心・意欲	各施設における看護の実際を知り、看護の役割が表現できる	リフレクションノート 実習場面	学んだ看護の実際を述べながら、看護の役割を表現することができる	看護の役割を表現することができる	看護の役割を表現することができない
実習の学びを表現できる	関心・意欲 知識・判断	看護について自分の言葉で表現することができる	リフレクションノート 所感	実習を通して看護の魅力を発見し、自分の目指す看護師像について述べることができる	自分の目指す看護師像について述べることができる	自分の目指す看護師像について述べることができない
関心を持って実習に臨むことができる	関心・意欲 知識・判断	実習に対するビジョン・ゴールを明確にして実習に臨んでいる	ゴールドシート 学習計画	実習の目的・目標を理解し、実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしていない
主体的に学習できる	関心・意欲 知識・判断	事前に必要な学習をして実習に臨んでいる	事前学習 学習計画	実習の目的・目標を達成するための学習計画と事前学習をした上で実習に臨んでいる	実習の目的・目標を達成するための学習計画を立てているが、事前の学習が不足している	事前の計画がたてられていない
対象者の生活環境について知ることができる	関心・意欲 知識・判断	対象者の生活環境を看護の視点で述べるができる	事前学習 記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	対象者の生活環境の変化について述べるができる	対象者の生活環境について述べるができる	対象者の生活環境について述べるができない
各施設の特徴について学習できる	関心・意欲 知識・判断 技能・表現	各施設の役割・機能、活動内容について述べるができる	事前学習 記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	各施設の設置基準、役割・機能について述べるができる。	各施設の役割・機能について述べるができる。	各施設の役割・機能について述べるができない。
コミュニケーションを図る	関心・意欲 態度 知識・理解	実習で関わる全ての人と良好な関係を築くことができる	実習場面 カンファレンス	対象や状況にあった方法でコミュニケーションが図れる	コミュニケーションが図れる	コミュニケーションが図れない

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1) ～4.9.16) A: 5点 B: 3点 C: 1点 その他の項目 A: 3点 B: 2点 C: 1点		
					A: すばらしい	B: いいね	C: ふぁいと
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	関心・意欲・態度	1) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	ゴールドシート 記録物 事前学習	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。
	働きかけ力	技能・表現	2) 対象や家族から、疾患や入院生活・通院、治療などの関する気持ちや思いを引き出す働きかけができる(対象者に入院生活に対する思いを引き出す関りができる)	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象者または、家族より疾患や入院生活、通院・治療などの関する気持ちや思いを、反応をみながら引きだし表現できる。	対象者または、家族より疾患や入院生活、治療などの関する気持ちや思いを引きだし表現できる。	対象者または、家族より疾患や入院生活、治療などの関する気持ちや思いを引きだし表現できない。
		技能・表現	3) 疑問に思ったことはグループダイナミクスを活用して理解を深める	記録物 実習場面 リフレクション場面	疑問などを指導者、教員、メンバーに積極的に相談し、学習を進めることができる	他者に促されて疑問などを指導者、教員、メンバーに積極的に相談し、学習を進めることができる	疑問などを指導者、教員、メンバーに積極的に相談することができない
実行力	技能・表現	4) 日々の行動計画を立案し、計画した支援を実践することができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	技術到達度を把握し、原理原則に基づいて安全・安拓を考えた日常生活支援が実施できる。	原理原則に基づいて日常生活支援が実施できる。	日常生活支援が実施できない。	
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	思考・判断	5) 入院生活で対象者に必要な支援を考えることができる	記録物 リフレクション場面	対象者に必要な看護に気づき表現することができる	対象者に必要な看護に助言を得ながら気づくことができる	対象者に必要な看護に気づくことができない
	計画力	思考・判断	6) 実習の目的・目標にあわせて日々の実習計画を立てることができる	記録物 リフレクション場面	実習の目的・目標や学習内容と照らし合わせながら日々の行動計画を立案することができる	日々の行動計画を立案することができる	助言を得ながら日々の行動計画を立案することができる
	創造力	思考・判断	7) 対象者の看護の意味を考えることができる	記録物 リフレクション場面	対象に行われている看護の必要性を述べることができる。	対象に行われている看護について述べるができる。	対象に行われている看護に気づくことができない。

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A: 素晴らしい	B: いいね	C: ふぁいと
チームで働く力(チーム力)	発信力	思考・判断・技能・表現	8) カンファレンスで発言することができる	実習場面 カンファレンスでの発言	カンファレンスでテーマに対して自分の意見を論理的に整理し、相手が理解しやすいように述べることができる。	カンファレンスでテーマに対して自分の意見を述べるができる。	カンファレンスでテーマに対して自分の意見を述べるができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れるができない。
	状況把握力	思考・判断	11) 連絡・報告・相談ができる	実習場面	自らの判断で適切な時期に、連絡・報告・相談ができる	他者に促されて適切な時期に、連絡・報告・相談ができる	連絡・報告・相談ができない
	規律・責任性	思考・判断	12) 守らなければならないルールや約束マナーを理解し責任ある行動がとれる	実習場面 ヒヤリハット リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べるができない。

能力	能力要素	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1) ~4.9.16) A: 5点 B: 3点 C: 1点 その他の項目 A: 3点 B: 2点 C: 1点		
					A: すばらしい	B: いいね	C: ふあいと
	ストレスコントロール	思考・判断	13) ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる		ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守る事ができる (守秘義務遵守)	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで (コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
学習	自ら学び考える力	関心・意欲	16) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



II 基礎看護学実習目的・目標

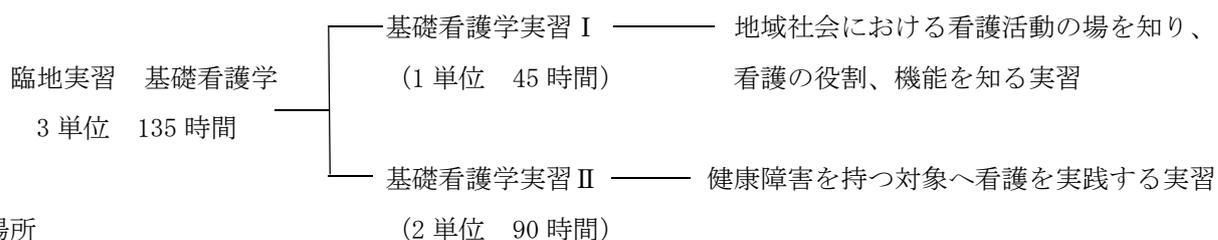
目的

看護の対象と看護活動を知り、対象の健康課題と日常生活上のニーズを把握し日常生活上の基本的ニーズの充足に必要な基礎的能力を培う。

目標

1. 看護師が活動する場を知り、看護の特徴や役割・機能を述べることができる。
2. 看護の対象を身体的・精神的・社会的側面から生活を営む者として捉えることができる。
3. 対象者の日常生活上のニーズを捉えることができる。
4. 対象者の日常生活上の課題を解決するための看護を原理・原則に基づいて看護師の指導のもと安全・安楽に実践することができる
5. 対象者への支援を通して看護師としての基本的な態度を学ぶ
6. 看護の魅力を発見し、看護について考えることができる
7. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし、取り組むことができる

III 実習体系・実習場所



1) 病院

- ①社会医療法人友愛会 友愛医療センター
- ②社会医療法人友愛会 豊見城中央病院
- ③医療法人 沖縄徳洲会 南部徳洲会病院
- ④沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院
- ⑤独立行政法人 国立病院機構 沖縄病院
- ⑥医療法人 祥杏会 おもろまちメディカルセンター
- ⑦医療法人和の会 与那原中央病院
- ⑧社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院

実習計画

1. 実習期間 病院：8時00分～15時00分または7時30分～14時30分（実習時間8時間：休憩60分）
学内：9時00分～14時15分（実習時間5時間：休憩90分）

2. 実習スケジュール

【基礎看護学実習Ⅱ】

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目	5 日目
場 所	病院	病院	病院	学内	病院
内 容	オリエンテーション 対象者選定 情報収集 カンファレンス	情報収集 コミュニケーション ケア見学・実践 カンファレンス	情報収集 コミュニケーション ケア見学・実践 カンファレンス	関連図作成 対象者に必要な日常生活支援の技術練習・文献検索	ケアの実践 ケース カンファレンス
	6 日目	7 日目	8 日目	9 日目	10 日目
場 所	病院	病院	病院	病院	病院
内 容	ケアの実践 カンファレンス 中間評価追加・修正	ケアの実践 カンファレンス 中間評価追加・修正	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス
	11 日目	12 日目			
場 所	病院	学内			
内 容	ケアの実践 最終カンファレンス 最終評価	受け持ち対象者への看護を考えるためのカンファレンス ・実習における課題の明確化（評価返し）			

IV. 基礎看護学実習Ⅱ【実習時間 90 時間：2 単位 2 学年前期】

目的

健康障害をもつ対象の日常生活上のニーズ課題を明確にし、課題解決に向けチームで看護を実践することができる

目標

1. 対象者の療養環境について生活者の視点から述べることができる
2. 対象者の日常生活上のニーズを把握し必要な支援を考えることができる
3. 対象の安全・安楽を考慮して科学的根拠に基づいた看護を看護師の指導のもと実践できる
4. 看護チームの一員として自覚を持ち、報告・連絡・相談しながら看護を実践できる
5. 自己の振り返りができ、課題を明確にして主体的に学習に取り組むことができる

【実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1)	対象者の療養環境を知る	1) 病棟オリエンテーション・見学 <ul style="list-style-type: none"> ・病院の概要、病院理念、看護部理念、病棟目標 ・病棟の構造や設備、物品の場所、病室環境 ・病棟の特殊性 ・看護方式 ・入院対象者の特徴 ・病棟に多い疾患 ・日課、週間スケジュール ・病棟の安全対策（院内感染、事故防止対策、災害対策など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習と照らし合わせながらオリエンテーションを受ける ・対象者に安全・安楽な支援ができるようイメージしながら、病棟オリエンテーションを受ける。 ・入院対象者の療養環境（物理的環境・人的環境）を入院前の環境との違いを考える
1-2)	対象者の環境の変化に気づくことができる	1) 受持ち対象者とのコミュニケーション (1) 入院前と入院後の環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・1日の過ごし方、生活リズム ・生活習慣 ・日常生活 ・職場、家庭での役割など 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾聴、共感、寄り添う姿勢で接する。 ・入院、疾患などによって影響を及ぼしている状況を知る。 ・成人期、老年期で慢性期・回復期にある対象をひとり受けもつ。 ・受け持つことの説明は、看護師、教員と共に行う。 ・メモをとる場合は、対象者に了承を得てからメモする ・情報に関しては個人情報の取り扱いガイドラインの規定を守る
2-1)	対象者のニーズを考える。	・対象者のビジョン・ゴールを明確にする	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールシートに対象者のビジョン・ゴールを発表し、グループメンバーで共有する ・対象者の状況により、ビジョン・ゴールは変更してよい
2-2)	現在の状況が対象者の日常生活に及ぼす影響を表現できる	1) 対象者の全体像を把握するための情報収集と情報の整理 (1) 身体的・精神的・社会的側面 (2) 入院までの経過 (3) 現病歴、診断名、治療、処置疾患状態、機能障害など (4) 日常生活状況 入院前後の日常生活状況・ADL	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患、症状、機能障害、治療・処置などによって日常生活に影響を及ぼしている状況を知る。 ・看護師の助言のもと疾患、症状などの情報を得る。 ・情報収集はカルテ、観察、意図的なコミュニケーションから得る
2-3)	対象者の情報を整理し、アセスメントすることができる	1) 優先順位を考えてアセスメントする ※現状・原因・なりゆき・看護の方向性でアセスメント 2) 分析した情報の統合及び関連図	<ul style="list-style-type: none"> ・V・ヘンダーソンのアセスメントの枠組（14の基本的欲求）でアセスメントする ・関連図を用いて発表する。

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
2-4)	対象者に応じた個別性のある看護計画を立案し追加・修正できる	から課題を導く 3) ケースカンファレンス 1) ビジョン・ゴールを達成するための計画を立案する 2) 対象者の反応から看護計画の検討を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスで看護実践を振り返り、計画の追加・修正を行う ・必要時、グループメンバーで看護計画の検討を行う ・助言、意見を自己の考えと照らし合わせ看護計画に活かす。
3-1)	看護実践を看護師と共に安全・安楽に実施できる	1) 受け持ち対象者の特徴に合わせた看護実践 ①環境整備 ②バイタルサインの測定 ③フィジカルアセスメント ④日常生活支援 ・食事支援 ・排泄支援 ・清潔支援 ・活動と休息 など	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の看護上の課題から導いた支援を看護師と共に安全・安楽に実践する。 ・対象者に特徴に合わせた調べ学習 ・指導者・教員へ支援内容の確認を受けて実施する。 ・単独での行動・判断はしない。 ・病棟の流れに沿った支援のみでなく対象者の立場になって考え、支援を行う
4-1)	チーム内での連携を図る	1) チームメンバーとしての役割を果たす 2) グループメンバーの対象者への看護実践 3) チーム内での「報」「連」「相」	<ul style="list-style-type: none"> ・チームメンバーとしてチーム内でのコミュニケーションを大切にする ・メンバー間で情報を共有し、協力してよりよい看護を提供する ・連絡、報告。相談の必要性を理解し、常に意識する
4-2)	他部門と連携の実際を知る	1) 薬剤部、栄養部、検査部、リハビリ等との連絡調整・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち対象者を通して必要な他部署との連携・協働の必要性と実際を学ぶ
5-1)	より良い実践を目指した振り返りができる	1) 看護実践後の振り返り 2) ビジョン・ゴールの達成度 3) 提案書の発表 (学内最終日) (1) 実践した看護過程の整理 (2) 提案書を作成 (3) 発表 4) 評価 (1) 中間評価 (2) 終了時評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実践後に振り返り、良かったところ、改善点などを表現する。 ・日々、実践した技術を評価していく ・提案書にて行った看護の発表を行う ・Step upスケール、基礎看護学実習Ⅱの評価表を用いて自己評価する。 ・中間で達成状況と後半の課題を確認する。 ・実習終了後に教員と評価の確認をする。
5-2)	自己の成長と今後の課題を述べることができる	1) 最終カンファレンス ・実習所感の発表 2) 実習に対する自分のビジョン・ゴールと成長報告書	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習最終日には一人ひとり所感を発表する ・実習を通して学んだこと、実習のビジョン・ゴールを踏まえて今後の課題を具体的に述べる ・基礎看護学実習Ⅱ評価及びStep upスケールを用いて評価と今後の課題を明確にする

基礎看護学実習Ⅱの評価規準・基準

学習活動	評価の視点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:5点 B:3点 C:1点		
				A:すばらしい	B:いいね	C:ふぁいと
基礎看護学実習Ⅱのビジョン・ゴールを明確にできる	関心・意欲 思考・判断	実習に対するビジョン・ゴールを明確にして実習に臨んでいる	ゴールドシート	実習の目的・目標を理解し、実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしている	実習前にビジョン・ゴールを明確にしていない
ビジョン・ゴール達成のための戦略を立案している	関心・意欲 思考・判断	事前に必要な学習をして実習に臨んでいる	事前学習 ポートフォリオ	実習の目的・目標を達成するための学習計画と事前学習をした上で実習に臨んでいる	実習の目的・目標を達成するための学習計画を立てているが、事前の学習が不足している	事前の計画がたてられていない
「気づき」から対象者へ必要な支援を考える	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	対象者の状況から必要と思われる看護を考え表現することができる	記録物 カンファレンスでの発言 実習場面	対象者に興味・関心を抱き、対象者の必要と考えられる看護について考えることができる	対象者に必要な看護について考えることができる	対象者に必要な看護について考えることができない
対象者に必要な看護技術を実施できる	思考・判断 技能・表現	対象者に必要な看護を原理原則に基づいて実施できる	実習場面	原理原則に基づいた看護支援を学習した上で実施できる	原理原則に基づいた看護支援の学習は十分でないか実施できる	看護支援の学習は十分でなく、実施ができない
対象者の反応に気づくことができる	関心・意欲 思考・判断 技能・表現	対象者の反応を確認しながら看護支援を実施できる	実習場面 リフレクションでの発言 記録物	対象者の反応を観察しながら、安全・安楽を考えた看護が実施できる	安全・安楽を考えた看護が実施できる	安全・安楽を考えた看護が実施できない
コミュニケーションがとれる	関心・意欲 技能・表現	チームメンバーとのコミュニケーションをとることができる	実習場面 リフレクションでの発言 記録物	対象者によりより看護を提供するために、メンバーとディスカッションをとることができる	対象者によりより看護を提供するために、促されてメンバーとディスカッションをとることができる	対象者によりより看護を提供するために、促されてもメンバーとディスカッションがとれない
チーム内の連携を図れる	関心・意欲 技能・表現	看護チームのメンバーとしての役割を果たすことができる	実習場面 リフレクションでの発言	看護チームとしての責任と自覚をもち、メンバーとしての役割を果たすための行動がとれる	看護チームとしての責任と自覚をもち、メンバーとしての役割を果たすための行動がとれる	メンバーとしての役割を促されて果たすための行動がとれる
報告・連絡・相談ができる	思考・判断 技能・表現	必要な事項を適切な時期に報告・連絡・相談することができる	実習場面 リフレクションでの発言	常に適切な時期に報告・連絡・相談ができ、責任をもった行動ができる	報告・連絡・相談ができるが適切な時期ではない	報告・連絡・相談ができない

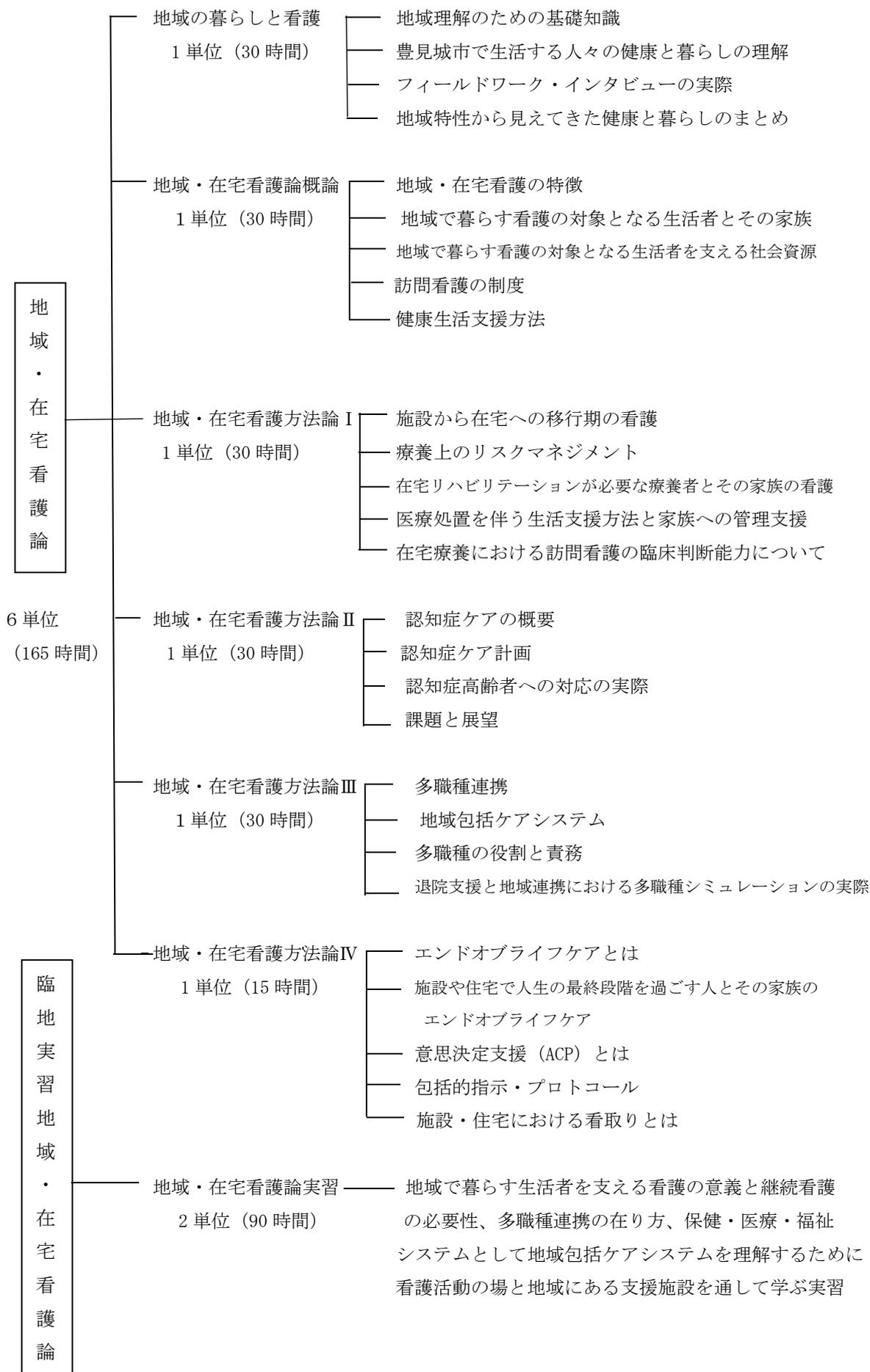
年 組 学籍番号 氏名

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A 素晴らしい \(\circ\)/	B いいね (*^_^*)	C ふぁいと(^_^)
考え抜く力 カシケンケン	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。	
前に踏み出す力 カククケン	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考慮することや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。	
	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。	

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A すばらしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで動く力 チームワーク	発信力	技能・表現 思考・判断	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データ を用いて、伝えることができ る。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こ うとする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができない。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクセシ ビリティ報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい \(\^o\)/	Bいいね(*_*)	Cふぁいと (^_^)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守ることができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

科目構成



II 地域・在宅看護論実習目的・目標

目的

地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性、多職種連携の在り方、保健・医療・福祉システムとして地域包括ケアシステムを理解するために、看護活動の場と地域にある支援施設を通して学ぶ

目標

1. 訪問看護制度や訪問看護ステーションの役割、活動の実際について説明できる
2. 訪問看護に同行し、臨床判断に基づいた看護ケアを実践し、その内容と根拠について説明できる
3. 退院調整や退院前カンファレンスを通し、継続看護の意義とその必要性について説明できる
4. 地域で暮らす生活者を支える地域包括ケアシステムを理解し、多職種連携における看護の役割について説明できる
5. 地域で安心して生活や療養できるための保健・医療・福祉システムを理解し、生活を維持するための社会資源活用方法について理解できる
6. 疾病や障がいをもちながらも地域で自分らしく暮らす人々の自立生活について考え、それを支援する施設役割について理解できる

III 実習体系・実習場所

臨地実習	地域・在宅看護論	——	地域・在宅看護論実習	——	地域で暮らす生活者を支える看護の意義と継続看護の必要性、多職種連携の在り方、保健・医療・福祉システムとして地域包括ケアシステムを理解するために看護活動の場と地域にある支援施設を通して学ぶ実習
			2単位（90時間）		

実習場所

- ・訪問看護ステーション
- ・退院調整部署
- ・地域包括支援センター
- ・居宅介護支援事業所
- ・自立支援施設
- ・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

実習計画

1. 実習時間 訪問看護：8時30分～15時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 退院調整部署①：8時30分～15時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 退院調整部署②：8時30分～14時45分（実習時間7時間：休憩60分）
 学内①：9時00分～12時00分（実習時間4時間）
 学内②：9時00分～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）
 就労支援施設・グループホーム：8時30分～14時45分（実習時間7時間：休憩60分）

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	学内②/訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション	訪問看護ステーション
内容	午前：オリエンテーション 午後：ステーションへの挨拶、オリエンテーション	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 カンファレンス	同行訪問 ケアの実践 最終カンファレンス
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	学内②	退院調整部署①/地域包括支援センター/居宅介護支援事業所	退院調整部署②/地域包括支援センター/居宅介護支援事業所	学内②	学内①
内容	午前：学びの共有に向けての発表準備 午後：学びの共有発表	各施設にて、見学実習やカンファレンス、モニタリングの参加、同行実習	各施設にて、見学実習やカンファレンス、モニタリングの参加、同行実習	午前：学びの共有に向けての発表準備 午後：学びの共有発表	午前：地域実習に向けての事前学習と実習施設の事前確認（場所、交通手段等）
	11日目	12日目	13日目		
場所	就労支援施設	グループホーム	学内①		
内容	体験実習	体験実習	実習のまとめ 評価返し		

1. 【実習内容及び実習方法】

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1	訪問看護ステーションの役割、活動の実際、一日の流れがわかる	1) オリエンテーション ステーションの理念、組織図、勤務体制、利用者情報、介護保険・医療保険の利用状況、緊急時（平時）対応体制、感染対策、個人情報保護、訪問看護指示書、居宅サービス計画書、利用者別訪問看護計画書、利用者別訪問看護記録、指示書の見方 関係機関との連絡方法、社会資源やサービスの活用方法等	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に必要な事前学習は率先して行い、特に訪問看護制度、介護保険法、医療保険については必ず復習し理解して臨む ・利用者の個人情報を知る機会が多くなるため、個人情報保護の重要性を再確認し、取り扱いは厳重に気をつける。 ・感染対策は十分に行い、決して怠らないようにする（手指消毒の徹底、マスクの着用、必要時ガウンも使用する）
2	<p>利用者の情報を把握し同行訪問ができる</p> <p>同行訪問で考え実践した臨床判断について訪問看護師に説明できる</p> <p>地域で生活しながら療養する人とその家族に対する看護の意義について説明できる</p>	<p>1) 訪問看護の実際</p> <p>①当日の訪問看護予定（件数とルートの設定）</p> <p>②アポイントの実際</p> <p>③情報収集の方法とアセスメント（現在の健康状態や前回の訪問看護記録、生活環境等）</p> <p>④看護目標に沿った支援の実際</p> <p>⑤コミュニケーション技術</p> <p>⑥評価方法と再アセスメント</p> <p>⑦介護者や家族支援方法</p> <p>⑧他のサービスの活用状況</p> <p>1) 臨床判断の説明</p> <p>①同行した訪問看護における情報、アセスメント、ケアの判断に至った根拠、ケアの実際、評価、再アセスメント</p> <p>②看護師の判断との違いを知る</p> <p>③助言をもらう</p> <p>1) 地域で生活しながら療養する人とその家族への支援</p> <p>①同行訪問を通し、地域で生活し療養する人とその家族に対する看護の意義を考え、自分の考えをまとめる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同行訪問時の挨拶、自己紹介訪問時のマナーをしっかりと実践する ・看護実践の際は、利用者の情報や状況、手順について同行する看護師と十分に確認を行い実践する ・同行訪問する利用者の疾患については事前に学習を終えておくこと ・臨床判断についても再学習しておく ・訪問看護師への臨床判断の説明は車中で行うこともあるので、説明できるよう準備しておく ・実習期間中にサービス担当者会議や退院調整会議などへの参加の機会が得られる場合は参加をお願いし主体的に学ぶ ・同行訪問させていただいた利用者の状況については、しっかりと記録をまとめておき、「地域で生活し療養する人とその家族に対する看護の意義」がまとめられるようにする

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
3	退院前カンファレンスに参加し、在宅療養を継続するために必要な支援について説明できる	1) 退院支援部署の役割と活動内容 2) 退院支援部署（入退院支援室等）におけるカンファレンス ①本人や家族の意向 ②継続看護について ③関係機関との調整（マネジメント） ④社会資源の活用方法 ⑤学びのまとめ	・退院支援について事前学習を行い臨むこと ・またその病院の特徴についても事前に調べ臨む
4	地域包括ケアシステムにおける多職種連携と看護の役割を説明できる	1) 地域包括支援センターのオリエンテーション 2) センターの活動内容の実際 3) 関係機関や多職種との連携 4) 学びのまとめ	・地域包括ケアシステムや地域包括支援センターについて再度学習し、理解した上で実習に臨むこと
5	居宅介護支援事業所の役割と多職種間での支援の実際、社会資源の活用について説明できる	1) 居宅介護支援事業所のオリエンテーション 2) 事業所の活動内容の実際 3) 多職種連携について 4) サービス担当者会議への参加 5) モニタリングへの同行 6) 学びのまとめ	・居宅介護支援事業所について事前学習を行い臨む ・介護支援専門員（ケアマネジャー）についても復習して実習に臨む
6	自立支援施設での体験を通し、自立生活支援について説明できる	1) 施設オリエンテーション 2) 施設の活動内容の実際と参加 3) 疾病や障がいを持ちながら、住み慣れた地域で自分らしい生活を送っている人への支援 4) 施設利用者や支援スタッフとのコミュニケーション 5) 働くことや自分らしさの考察 6) 学びのまとめ	・施設の活動内容を十分に理解し、積極的に利用者に関わるようにする ・障がい者観について、自分の考えを予めまとめてから実習に臨む
7	グループホームにおけるコミュニケーションとその人の生活を支える支援方法について説明できる	1) 施設オリエンテーション 2) 利用者との時間の共有 3) その人に寄り添うコミュニケーションの実践 4) 生活を楽しむための工夫の実践 5) スタッフの支援方法 6) 認知症高齢者の支援についての考察	・認知症やグループホームについて再学習し実習に臨む ・相手を敬い尊重した態度で接する ・笑顔で接することを心がける（共通事項として） ・個人情報取り扱いについても法令を遵守すること ・看護学生としての実習マナーを守り、利用者やスタッフが不快な思いをしないよう行動する

地域・在宅看護論実習評価表

那覇市医師会那覇看護専門学校

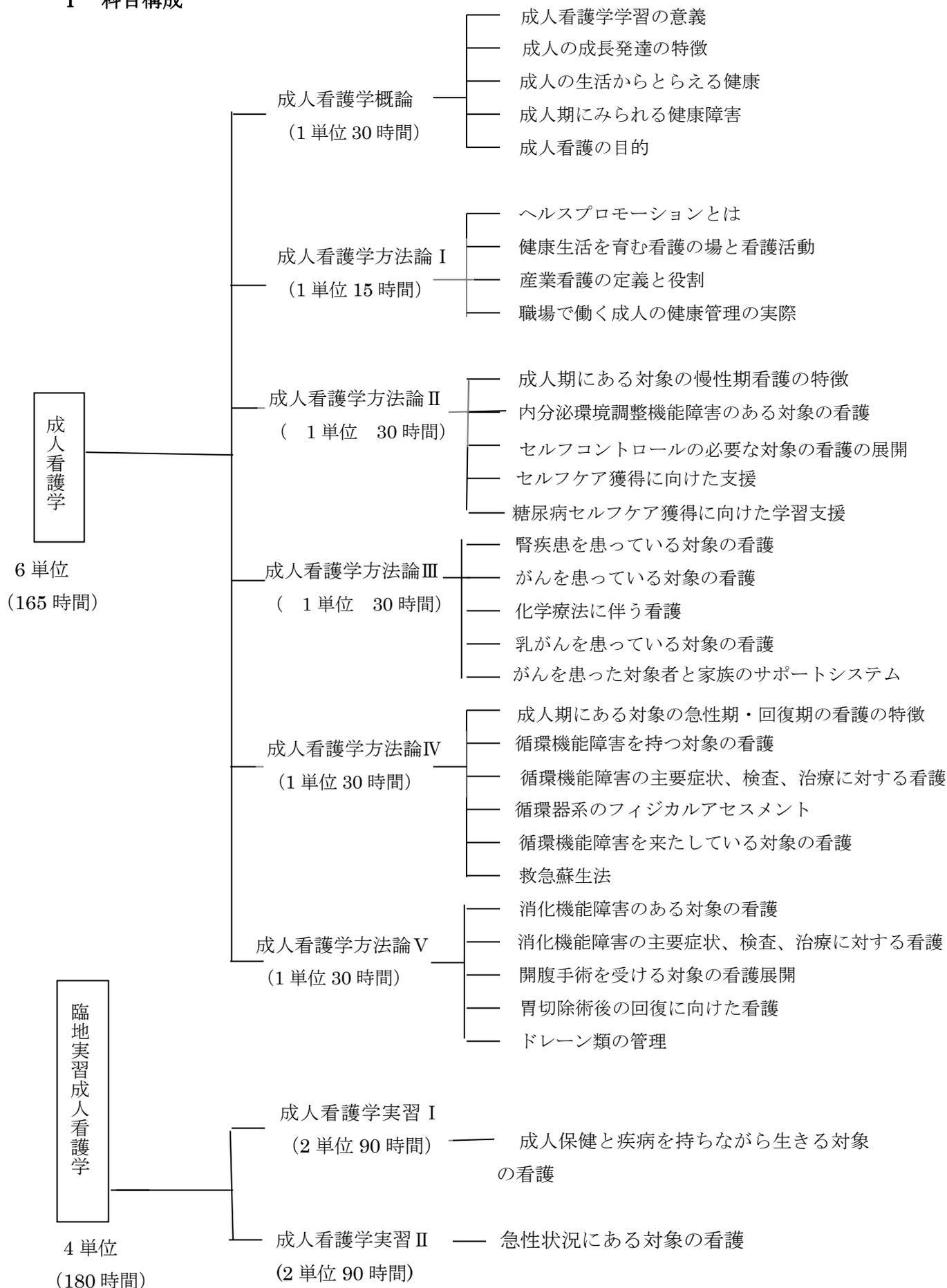
学習課題	学習活動における具体的な評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準			自己評価	指導者評価	教員評価
				A:5点 B:3点 C:1点	A(5) すばらしい	B(3) いいね			
①在宅看護に関する法令や訪問看護の制度についてレポートにまとめる	①在宅看護に関する法令や訪問看護制度について理解できる	知識・理解	自己学習 カンファレンス 日々の記録	在宅看護に関わる法令や訪問看護制度について十分に記述し学習した内容を述べるができる	在宅看護にかかわる法令や訪問看護制度について学習しているが、内容が十分とはいえない	在宅看護にかかわる法令や訪問看護制度について自己学習をしていない			
②臨床判断について事前学習し、訪問看護実習後、実践内容をプレゼンテーションする	②同行訪問時の看護実践を通して、看護師の臨床判断と自己の臨床判断の違いについて理解できる	関心・技能 意欲・態度 思考・判断	訪問場面カンファレンス 日々の記録	臨床判断を活用した看護実践を行い、思考過程と解決策を説明できる	臨床判断を学習し、訪問看護実習時、臨床判断を用いて思考できる	臨床判断について学習しておらず、実習時も活用できない			
③在宅療養に向けた継続看護の意義と必要性をレポートにまとめる	③在宅における継続看護の意義と必要性を理解できる	知識・関心・意欲	自己学習 カンファレンス 日々の記録	継続看護の意義と必要性について学習した内容を述べるができる	継続看護の意義と必要性について学習している	継続看護についての学習をしていない			
④地域包括支援センターの役割と多職種連携についてまとめる	④地域包括ケアシステムと多職種連携における看護の役割が理解できる	知識・関心・意欲	自己学習 カンファレンス 日々の記録	地域包括支援センター、地域包括ケアシステム、多職種連携と看護の役割の学習が行われ、その内容を説明できる	地域包括支援センターについて学習しているが、多職種連携と看護の役割についての学習が行われていない	地域包括支援センターについて学習していない			
⑤居宅介護支援事業所の役割と在宅看護における社会資源活用方法についてまとめる	⑤居宅介護支援事業所の役割や活動内容、在宅看護における社会資源の活用方法について理解できる	知識・関心・意欲	自己学習 カンファレンス 日々の記録	居宅介護支援事業所と社会資源活用方法について学習し、在宅での社会資源活用目的や必要性を述べるができる	居宅介護支援事業所について学習しているが、在宅看護における社会資源活用についての学習が十分でない	居宅介護支援事業所について学習していない			
⑥自立支援施設の役割と活動内容、利用者の自立について考えまとめる	⑥地域で障がいや疾患を持ちながら生活する人の自立について考え、その自立を支える支援方法（自立支援施設を中心）について理解できる	知識・思考・表現	自己学習 カンファレンス 日々の記録	障がいや疾患を持ちながら生活する人の自立や支援方法について考えをまとめ、述べることができる	障がいや疾患を持ちながら生活する人の自立や支援方法について考えている	障がいや疾患を持ちながら生活する人の自立や支援方法について考えていない			
⑦グループホームの役割についてまとめる	⑦地域におけるグループホームの役割が理解できる	知識・思考・表現	自己学習 カンファレンス 日々の記録	グループホームについて学習しその役割を述べるができる	グループホームについて学習しているが十分でない	グループホームについて学習していない			
⑧地域のあらゆる場で暮らす生活者を支える看護の役割についてまとめる	⑧地域のあらゆる場で暮らす生活者を支える看護活動を通して、保健・医療・福祉システムの在り方について理解できる	知識・思考・表現	自己学習 日々の記録、カンファレンス プレゼンテーション	地域で暮らす生活者を支える看護活動の意義、保健・医療・福祉システムについてまとめ、自己の考えも示している	地域で暮らす生活者を支える看護活動の意義はまとめているが保健・医療・福祉システムについては学習していない	地域で暮らす生活者を支える看護活動の意義や保健・医療・福祉システムについてまとめることができない			

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A すばらしい \(\sigma\)/	B いいね (*_*)
考え抜く力 カシキング	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力 アクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考慮することや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:3点 B:2点 C:1点		
					A 素晴らしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで働くカチームワーク	発信力	思考・判断 技能・表現	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データ を用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こ うとする関わりがで きない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができない。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ールカ	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A すばらしい \(\sigma\)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと (\^o^)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



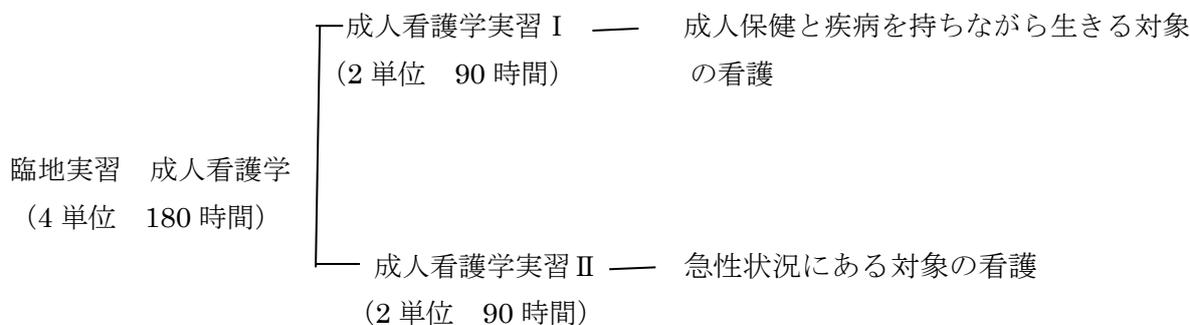
II 成人看護学実習の目的・目標

目的： あらゆる健康状態にある対象の特徴を理解し、基礎的知識、技術、態度を習得し看護展開できる基礎的能力を培う。

- 目標： 1 あらゆる健康状態にある対象の発達段階と発達課題、健康段階、機能障害を理解し、生活者としてとらえることができる。
- 2 あらゆる健康状態にある対象の価値観を尊重し、コミュニケーションが図れ、家族を含め良い人間関係を築くことができる。
- 3 あらゆる健康状態にある対象の健康段階に応じ看護師の指導のもと基礎的な看護が展開できる。
- 4 あらゆる健康状態にある対象の個別性に応じた看護を看護師の指導のもと安全安楽に実施できる。
- 5 あらゆる健康状態にある対象のヘルスプロモーションを支援する活動の場と看護の役割を理解できる。
- 6 保健医療福祉チームの一員として連携、協働を通して看護の役割および継続看護の必要性について理解できる。
- 7 あらゆる健康状態にある対象の意思決定を支援する態度を身につける。
- 8 看護実践を振り返り評価し、自己の課題達成に向けて主体的な学習行動がとれる。

III 実習体系・実習場所

《実習体系》



《実習場所》

1 健診センター

とよみ生協病院健診センター	浦添総合病院健診センター
那覇市医師会生活習慣病検診センター	おもろまちメディカルセンター健康管理センター
与那原中央病院健康管理室	南部徳洲会病院総合健診センター
大浜第一病院総合健康管理センター	西崎病院健康管理センター
ハートライフ病院予防医学センター	中部徳洲会健診センター

2 病棟

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院 浦添総合病院
南部徳洲会病院 おもろまちメディカルセンター

3 透析室及び専門外来・クリニック

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院 南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター
与那原中央病院、西崎病院 とよみ生協病院、
首里城下町クリニック 透析併設のクリニック

成人看護学実習 I

目的 健康生活の保持増進及び治療継続を支援する看護の役割について理解することができる。

- 目標
- 1 発達段階と発達課題をふまえ、ヘルスプロモーションを視座に生活者としてとらえることができる。
 - 2 慢性疾患（健康障害）（機能障害）を有した対象へ看護師の指導のもと基礎的な看護が展開できる。
 - 3 対象の健康課題がわかり、セルフケア行動をとれる基礎的な看護支援を理解できる。
 - 4 家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する活動の場と看護の役割を理解できる。
 - 5 対象の健康観を尊重し意思決定を支援する方法が理解できる。
 - 6 家庭・地域社会における対象の健康行動を支援する保健医療チームの役割が理解できる。
 - 7 看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。

1 実習計画

1) 実習期間 後期 90 時間／クール

2) 対象学年 2 学年

3) 実習施設 1 健診センター

とよみ生協病院健診センター 浦添総合病院健診センター

那覇市医師会生活習慣病検診センター

おもろまちメディカルセンター健康管理センター

与那原中央病院健康管理室 南部徳洲会病院総合健診センター

大浜第一病院総合健康管理センター 西崎病院健康管理センター

ハートライフ病院予防医学センター 中部徳洲会健診センター

2 病棟

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院

南部徳洲会病院 おもろまちメディカルセンター

3 透析室及び専門外来・クリニック

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院

南部徳洲会病院 おもろまちメディカルセンター

与那原中央病院、西崎病院 とよみ生協病院、

首里城下町クリニック 透析併設のクリニック

4) 実習時間

学内①：9時00分～15時00分（実習時間6時間：休憩90分）

学内②：9時00分～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）

病院：8時00分～14時15分（実習時間7時間：休憩60分）

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	学内①	病棟	病棟	病棟	病棟
内容	成人実習Ⅰオリエンテーション	オリエンテーション 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 中間評価
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病棟	病棟	病棟	透析	透析
内容	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 技術評価 中間評価	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 技術評価	対象者への支援 終了カンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	見学実習 カンファレンス
	11日目	12日目	13日目		
場所	外来	健診センター	学内②		
内容	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	実習のまとめと学びの共有 終了時評価		

3 病棟実習

1) 実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1) 対象の発達段階・発達課題がわかり、慢性疾患を有することによる対象の生活の変化が述べられる。	1) 対象の発達段階の特徴と発達課題 ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2) 慢性疾患を有することによる対象の生活変化 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）変化	・対象の特徴と発達課題を復習し、対象と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・生活者として生活の3つの側面からとらえる。
1	2) 対象に関心を向け、理解しようと傾聴することができる。	1) 対象の考えを認め支持し、共感、受容できる	
2	1) 対象の状態をアセスメントすることができる	1) 情報収集と分析 (1) 情報収集 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる。 入院時の症状および検査データ、その後の症状の変化 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション など 疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれについてどの	・日々の実習計画も看護過程である。 ・限られた情報の中でも意味づけし、看護課題やニーズをみつけ実習を行う。実習計画をたて実践し評価に結びつける。 ・基本情報用紙、ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用する。 ・問診の技術を活用したコミュニケーションや対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面と生活の視点から情報を収集する。

		<p>ように考え対処してきたのか(受療に対する対象の思いなど)</p> <p>健康認識(健康への考え方)</p> <p>既往歴(過去の健康歴):年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など</p> <p>生活背景(家族・地域・社会的役割を含む):年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など</p> <p>生活状況:基本的な日常生活活動と1日の過ごし方</p> <p>(2)アセスメント枠組みを用いた情報の分類</p> <p>(3)各アセスメント項目の情報が持つ意味を考える</p> <p>(4)全体像の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントした項目ごとの関連性を確認し、全体像を把握する。 	
2	2)アセスメントに基づき看護上の課題を明確化することができる。	<p>1)現在起こっている、または予測される看護上の課題を明らかにする</p> <p>2)対象者の状態に応じて優先順位を決定しケアの方向性を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。 ・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、変容ステージ(トランスセオレティカルモデル)、コーンの危機障害受容モデル など ・日々の実習の中で、関連図の作成及び看護上の課題の明確化、看護計画の立案を行う。必要時助言を受け、追加修正する。
2	3)看護上の課題ごとの看護計画が立案できる。	<p>1)対象の主体的なセルフケア・セルフマネジメントを促進する支援を立案する。</p>	
2	4)看護計画に基づく実施ができる。	<p>1)看護計画を実施に移す。</p> <p>①日々の行動目標、行動計画を立案する。</p> <p>②日々、対象の状態を把握して行う。</p> <p>③対象の反応や変化に応じ支援方法の変更や調整をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習計画は成人看護学実習ノートの記載ガイド参照

		<p>④実施後の評価</p> <p>⑤記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々、経過記録（SOAP方式）とフローチャートを記載する。 <p>1) 看護計画の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 目標の達成度 (2) 目標の妥当性 (3) 支援内容の妥当性 <p>2) 評価後は看護計画の追加・修正を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護計画立案時に評価日の設定を行う。対象者の容態が変化した場合などは、そのつど評価し、計画の追加修正を行う。
3	<p>1) 対象のセルフケア・セルフマネジメントできるための支援ができる。</p>	<p>1) 意思決定を支える援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 ・インフォームドコンセント ・感情表出を促す心理的援助 <p>2) 病気とともに生きることを支える援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき <p>3) セルフマネジメントを促す援助</p> <p>①セルフケア・セルフマネジメントにおける自己のもてる力への気づき</p> <p>②慢性疾患の急性増悪予防のための教育的支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・急性増悪に対する予防行動や生活上の対処行動 <p>4) 社会生活の拡大を促す支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート（支援者や社会資源） <p>5) 対象の看護についてのディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問点や困難と感じていることなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供する際は、事前に指導者に確認する。 ・初めて実施する支援技術は見学または指導者と共に実施するという段階を踏む。 ・教育指導を行う場合は、事前に指導計画書を作成し、指導内容・方法が適切か指導者に提示し、助言を得る。 ・教育指導は指導者の同席のもと実施する。 ・学生間でディスカッションし、実習指導者や教員の助言を受ける。 ①日々の指導者とのカンフ

3	2) 対象者に行われている治療・処置、検査に伴う看護の方法が説明できる	1) 安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション など 2) 治療・処置、検査などの見学	アレンス時 ②ケースカンファレンス時 ③終了カンファレンス時 ・対象者に行われている治療・処置、検査について目的、方法と対象者に及ぼす影響について学習し、理解する。
4	1) 慢性期にある対象者の療養環境について述べることができる。	1) 病棟の機能、特殊性 ・入院対象者の特徴 ・看護体制 2) 日課・週間予定について 3) 構造および配置について（病室の配置、処置室、準備室、リネン室、配膳室、トイレ、非常口、その他） 4) 器具・物品の置き場所（清潔の物品、排泄の物品等） 5) カルテ、電子カルテ、記録物の取り扱い方法（留意点） 6) 安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策	・病棟のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・病棟内を案内してもらう。
4	2) 慢性期にある対象への看護の役割を述べることができる。	1) 実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、慢性期の看護の意味づけができる。	・日々のリフレクションを成人看護学実習ノートにまとめる ・学内2日目で慢性期の看護のまとめをおこなう。 ・まとめはカードメゾッド技法を用いてグループワークを行い発表・共有する。
5	1) 意思決定を支援する方法を述べることができる。	1) 対象の生活歴や役割、希望などをふまえた情報提供とインフォームドコンセント	事前課題 *慢性の経過をたどる対象のニーズと、意思決定支援のあり方

5	2) 慢性疾患を患った対象のニーズを傾聴することができる。	1) 対象が過ごされてきた環境や経験などにより価値観や人生観を理解し、対象の生き方に関心を持ち傾聴する。	
6	1) 対象に関わる多職種との連携、協働について説明できる。	1) 保健医療チームメンバー (1) 医師 (2) 看護師、認定看護師 (3) 理学療法士 (PT) 作業療法士 (OT) 言語聴覚士 (ST) (4) 栄養士 (5) 医療ソーシャルワーカー (MSW) (6) 薬剤師 (7) 放射線技師 など	・セルフケア・セルフマネジメントが継続可能なようにどのような職種が関わっているかを知る。
7	1) 実習を通して自己の課題を明確化することができる。	1) 実習終了後、自己の課題と学びをまとめる。 2) 実習目標の到達度を実習の中間と終了時に評価する。 3) 自己の課題達成にむけて主体的に学習に取り組む	・終了カンファレンスで発表する所感の中に記述する。 ・成人看護学実習 I 評価及び Step Up スケールを用いて、中間評価及び終了時評価を記入する。 ・実習指導者および担当教員から中間評価と終了時評価を受ける。 ・中間評価：病棟 4～5 日目 ・終了時評価：実習最終日

4 透析室実習

1) 実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1	1) 対象者の発達段階・発達課題がわかり、継続治療が必要な対象者の生活の変化が述べられる。	1) 対象の発達段階の特徴と発達課題 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2) 継続治療が必要な対象者の生活変化 <ul style="list-style-type: none"> ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の特徴と発達課題を復習し、対象と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・生活者として生活の3つの側面からとらえる。
2	1) 対象者の状態をアセスメントすることができる	1) 情報収集と分析 (1) 情報収集 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる。 入院時の症状および検査データ、その後の症状の変化 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーションなど 疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれにつ	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた情報の中でも意味づけし、看護課題やニーズをみつけ実習を行う。実習計画をたて実践し評価に結びつける。 ・基本情報用紙、ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用する。 ・問診の技術を活用したコミュニケーションや対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面と生活の視点から情報を収集する。

3	1) 対象のセルフケア・セルフマネジメントができるための支援が述べられる。	<p>いてどのように考え対処してきたのか(受療に対する対象の思いなど)</p> <p>健康認識(健康への考え方)</p> <p>既往歴(過去の健康歴):年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など</p> <p>生活背景(家族・地域・社会的役割を含む):年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など</p> <p>生活状況:基本的な日常生活活動と1日の過ごし方</p> <p>(2) アセスメント枠組みを用いた情報の分類</p> <p>(3) 各アセスメント項目の情報が持つ意味を考える</p> <p>(4) 全体像の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントした項目ごとの関連性を確認し、全体像を把握する。 <p>1) 意思決定を支える援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供 ・インフォームドコンセント ・感情表出を促す心理的援助 <p>2) 病気とともに生きることを支える援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき <p>3) 社会生活の拡大を促す支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート(支援者や社会資源) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。 ・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、変容ステージ(トランスセオレティカルモデル)、コーンの危機障害受容モデル など <p>*慢性の経過をたどる対象のニーズと、意思決定支援のあり方</p>
---	---------------------------------------	---	---

4	1) 透析を受けている対象者の療養環境について述べるができる。	1) 透析室の機能、特殊性 <ul style="list-style-type: none"> ・透析治療を受ける対象者の特徴 ・看護体制 2) 日課・週間予定について 3) 構造および配置について 4) 透析の原理と機器について 5) 透析開始から終了までの流れ 6) 安全対策について <ul style="list-style-type: none"> 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・透析室のオリエンテーションを主体的に受ける。 事前課題 <ul style="list-style-type: none"> *腎臓の形態と機能について *腎不全について <ul style="list-style-type: none"> ・一般的な症状と発生機序含む *病期分類 *血液透析の前・中・後の看護について *透析の原理 *ブラッドアクセスについて *シャント管理 *慢性腎不全の食事
4	2) 透析を受けている対象者への看護の役割を述べるができる。	1) 透析室における看護の役割 (1)透析中の看護 <ul style="list-style-type: none"> ①身体面への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン、コミュニケーション、観察、日常生活の支援 ②心理・社会面への支援 ③機器トラブルへの対応 ④事故防止 ⑤感染症対策 ⑥災害時対策 (2)自己管理に向けた指導 <ul style="list-style-type: none"> ①シャント管理 ②食事療法 ③水分管理 ④薬物管理 2) 実習での経験を振り返り、透析室における看護の意味づけができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間透析を受けている対象の身体的、精神的、社会的特徴と支援について学ぶ。 ・透析室看護師が行っている看護支援の実際を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後、指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ・学内2日目の慢性期の看護の意味づけにつなげる。

5	1) 看護チームおよび多職種との連携、協働の必要性を述べる ことができる。	1) 外来と透析室との連携 2) 対象が利用できる社会資源	<ul style="list-style-type: none"> ・連携の実際を見学する。 <p>事前課題</p> <ul style="list-style-type: none"> * 透析を受ける対象が利用できる社会資源について ・社会資源について説明を受ける
---	--	----------------------------------	---

5 外来見学実習

1) 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
4	1) 治療継続が必要な対象が受診している外来の治療環境を述べることができる。	1) 外来の機能、特殊性 <ul style="list-style-type: none"> ・専門外来の種類（透析、内分泌、糖尿病、呼吸器、循環器、膠原病など） ・対象者の特徴 ・看護体制 2) 日課・週間予定について 3) 外来の構造および配置について <ul style="list-style-type: none"> ・配置外来の特徴 4) 受診（初診、再診）から会計までの流れ 5) 安全対策について <ul style="list-style-type: none"> 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・外来のオリエンテーションを主体的に受ける。 事前学習 <ul style="list-style-type: none"> * 外来における看護の特徴 ・慢性疾患と付き合いながら生活をしている対象に必要な専門外来がわかる。
4	2) 治療継続できるための外来看護の役割を述べるができる。	1) 外来看護師の役割について <ul style="list-style-type: none"> ・病棟看護と外来看護との違い 2) 外来看護師が行っている支援の実際 <ul style="list-style-type: none"> (1) 診察までの看護師の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・慢性疾患を有した対象者への診察までに必要な情報収集（問診）場面の見学 (2) 対象が自己決定できるように支援する場面の見学。 (3) 自己管理に必要な知識・技術の習得を援助する場面を見学 <ul style="list-style-type: none"> ① 対象の個別性・経済性等を考慮し実生活に適応できる具体的に指導 ② 対象の経験や工夫などを尊重した対応。 (4) 緊急時の対処方法、連絡先などの説明 3) 実習での経験を振り返り、外	<ul style="list-style-type: none"> ・問診を看護師が聴取することの意味を理解する。 ・計測やバイタルサイン測定を実施する対象者がいれば指導者と共に実施する ・対象者と看護者の双方が相互交流を通してセルフマネジメント能力を高めていけるよう支援する。 ・疾患のためにセルフケア行動に制限や変容を迫られる対象がいる事を理解する。 ・実習終了後、指導者との

6	1) 看護チームおよび他職種との連携、協働の必要性を述べることができる。	<p>来における看護の意味づけができる。</p> <p>1) 外来における他職種との連携、協働の実際を見学</p> <p>2) 他施設・医療機関と外来との連携の実際を見学</p>	<p>カンファレンスで学びの振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内 2 日目の慢性期の看護の意味づけにつなげる。 ・検査科、放射線科、医療相談室、栄養相談室など ・検査・治療・処置時の看護 ・施設間の情報共有、紹介等を含めた連携を理解する。 ・地域で生活をする対象者を支える医療の実際を理解する。
---	--------------------------------------	---	---

6 健診センター

1) 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
4	1) ヘルスプロモーション活動の場として健診センターの役割を述べることができる。	1) オリエンテーション ①健診センターの設備、構造 ②事業内容 特定健康診査・特定保健指導の取り組み等 ③保健医療福祉チームの連携、協働(どのような職種が働いているのか) ④健康づくり活動の内容 ⑤健診センター利用者の特徴	
6	1) 健診センターにおける多職種との連携・協働について述べることができる。	1) 健診センター活動を見学 ①活動の場面 ②多職種の活動の場および連携・協働の実際	・活動の場面で説明を受け活動目的を理解する。
4	2) ヘルスプロモーション活動の場として健診センターにおける看護の役割を述べることができる。	1) 活動場面の見学 ①活動場面についての説明 ・特定健康診査 ・特定保健指導 ・検査時の看護 ・受付から終了までの支援 ②活動場面の見学 2) 実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、ヘルスプロモーション活動における看護の意味づけができる。	・保健指導の実際を通して、病棟での教育指導につなげる。 ・検査安心かつ正確に受けられるような支援について、説明を受ける。 ・活動の場面で説明を受け活動目的を理解する。 ・実習終了後、指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。 ・学内2日目にヘルスプロモーション活動での看護の役割をまとめる。
1	1) 成人期にある自己の健康生活を考えることができる。	1) 成人期の健康課題と健診センター見学実習での経験をもとに、自己の健康生活について振り返り、まとめる。	*実習後の課題 ・テーマ「ヘルスプロモーション活動の見学を通して自己の健康生活について考えたこと」を指定用紙にまとめる

成人看護学実習Ⅰ 評価表

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：5点 B：3点 C：1点		
				A	B	C
対象と関わる中で、対象者の健康への願いに寄り添う。	「関心・意欲・態度」	1) 慢性疾患を有することによる対象の生活の変化がわかる。	・基本情報記録 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション	慢性疾患を有することによる対象の生活の変化を3つの側面から述べる。 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景の変化）	慢性疾患を有することによる対象の生活の変化を2つの側面から述べる。	慢性疾患を有することによる対象の生活の変化を1つは側面から述べる。
	「関心・意欲・態度」	2) 対象の語る体験に関心を寄せ、向き合おうとしている。	・対象者との関わり ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション	対象の語る体験に関心を寄せ、理解しようと受容的態度で聴いている。	対象の語る体験に関心を寄せ、受容的態度で聴いている。	対象の語る体験に関心を寄せていない。
	「思考・判断」	3) 慢性疾患を有する対象者の生活と健康状態の関連が分析できる。	・情報分析 ・関連図 ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション	慢性疾患を有する対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、過去、現在、未来の時間軸の中で分析できる。	慢性疾患を有する対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、過去、または未来との時間軸の中で分析できない。	慢性疾患を有する対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し分析できない。
対象の健康に向けた思いや今までの経過を聴き、支援ができる。	「技能・表現」	4) 対象がセルフケア・セルフマネジメントに気づけるための支援がわかる。	・対象者との関わり ・情報分析 ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション ・指導場面	対象が以下に気づけるよう対象の語り聴ける。 ①過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき ②セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート（支援者や社会資源） ③セルフケア・セルフマネジメントにおける自己のもてる力への気づき ④今後のセルフケア・セルフマネジメントの方向性（すべてを満たす）	対象が以下に気づけるよう対象の語り聴ける。 ①過去や現在の健康への思いやセルフケア・セルフマネジメントの経過への気づき ②セルフケア・セルフマネジメントに活用できるサポート（支援者や社会資源） ③セルフケア・セルフマネジメントにおける自己のもてる力への気づき ④今後のセルフケア・セルフマネジメントの方向性（いずれかを満たす）	対象の語りを聴くが、目的なく聞いている。
	「技能・表現」	5) 対象のセルフケア・セルフマネジメントを促すための支援ができる。	・対象者との関わり ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・指導計画書 ・リーフレットなど ・指導場面 ・日々のカンファレンスでの発言 ・リフレクション	慢性疾患の急性増悪予防のための教育的支援を計画し実施している。 ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・急性増悪に対する予防行動や生活上の対処行動	慢性疾患の急性増悪予防のための教育的支援を計画しているが実施まで至っていない。 ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・急性増悪に対する予防行動や生活上の対処行動	慢性疾患の急性増悪予防のための教育的支援が行えない。
実習での経験を振り返り看護の役割を考える。	「知識・理解」	6) 実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、ヘルスプロモーション及び慢性期にある対象の看護の意味づけができる	・リフレクション ・カンファレンスでの発言 ・カードメソッド	実習での経験を振り返り、対象が主体となって健康生活を保持増進する及び療養生活を送ることを支えるための看護の役割を考えて、意味づけできている。	実習での経験を振り返り、対象が主体となって健康生活を保持増進する及び療養生活を送ることを支えるための看護の役割を考えているが、意味づけまでは至っていない。	実習での経験を振り返り、対象が主体となって健康生活を保持増進する及び療養生活を送ることを支えるための看護の役割を考えていない。

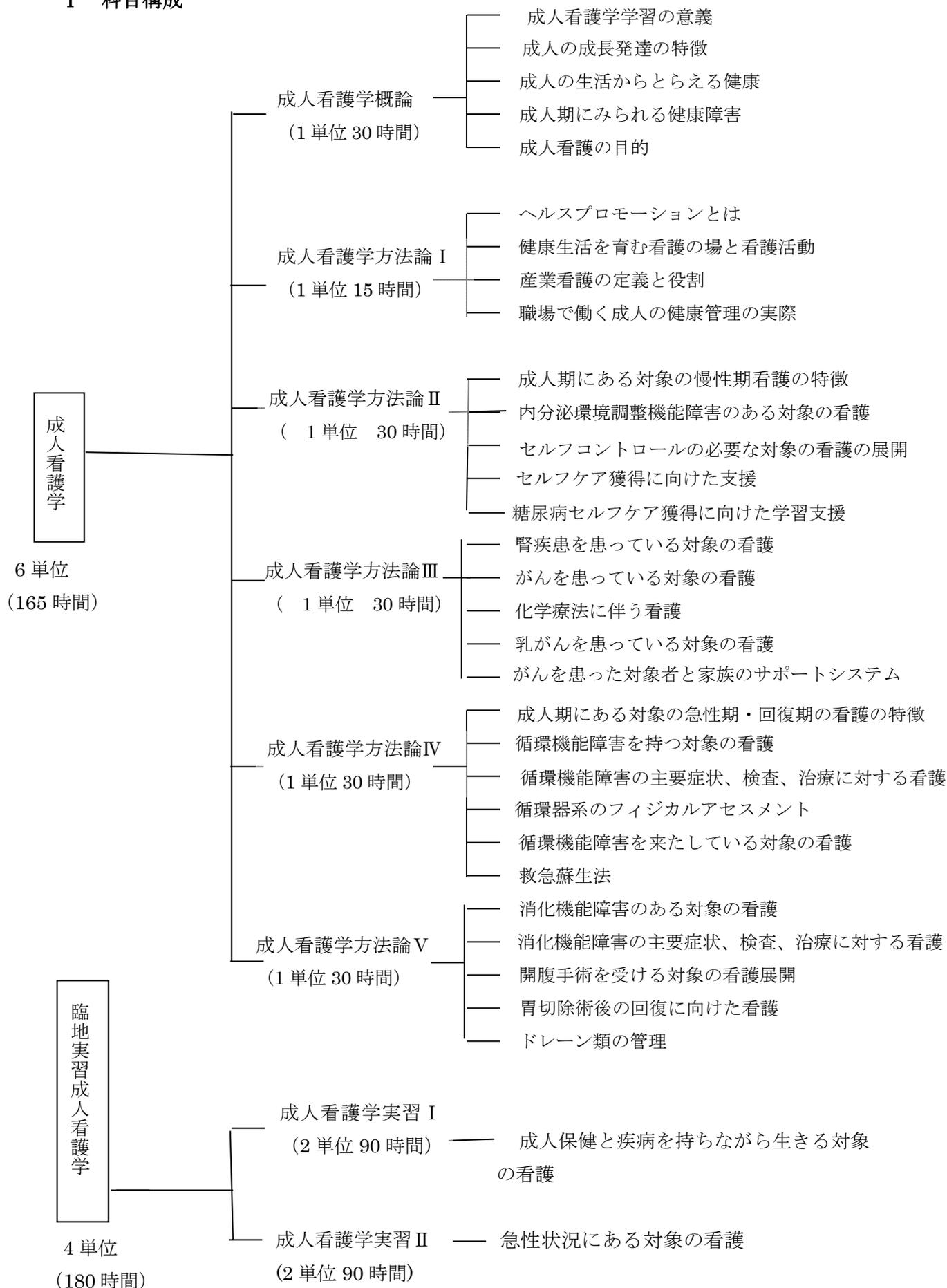
学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：5点 B：3点 C：1点		
				A	B	C
成人期にある対象の健康管理について考える	「関心・意欲・態度」	7) 社会で生きている対象の現状とそれを支える看護の役割について考えている。	透析施設見学実習後の課題レポート	社会で生きている対象の現状とそれを支える看護の役割について記述している。	社会で生きている対象の現状とそれを支える看護の役割のいずれかが記述している。	社会で生きている対象の現状とそれを支える看護の役割について記述していない。
	「思考・判断」	8) 成人期の健康課題がわかり、自己の健康生活をj考えている。	・健診センター見学実習後の課題レポート	成人期の健康課題と健診センター見学実習での経験をもとに、自己の健康生活について振り返り、自己の健康課題と行動変容への取り組みを記述している。	成人期の健康課題と健診センター見学実習での経験をもとに、自己の健康生活について振り返り、自己の健康課題を記述しているが行動変容への取り組み記載されていない。	成人期の健康課題と健診センター見学実習での経験をもとに、自己の健康生活について振り返っていない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	Aすばらしい \ (^o^)/	Bいいね (*^_^*)
考え抜く力(シンキング)	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A すばらしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	思考・判断 技能・表現	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データ を用いて、伝えることができ る。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことができ る	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こう とする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができない。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断・技能・表現	12) 守らなければなら ないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい \(\^o\)/	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (\^o^o)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



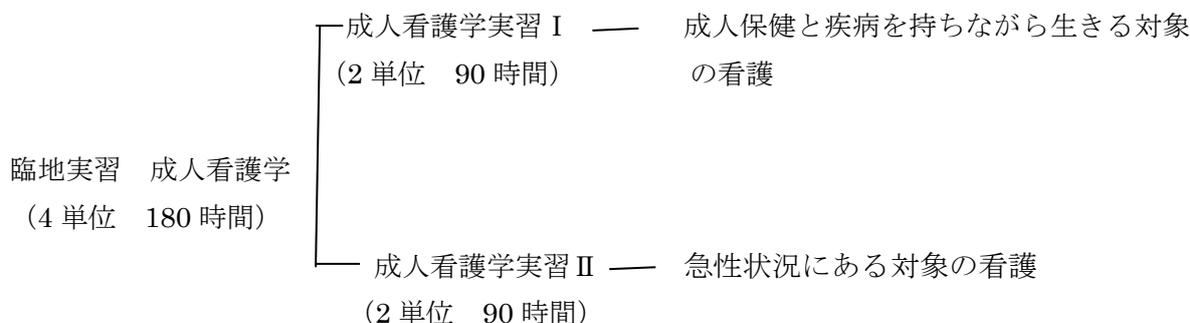
II 成人看護学実習の目的・目標

目的： あらゆる健康状態にある対象の特徴を理解し、基礎的知識、技術、態度を習得し看護展開できる基礎的能力を培う。

- 目標： 1 あらゆる健康状態にある対象の発達段階と発達課題、健康段階、機能障害を理解し、生活者としてとらえることができる。
- 2 あらゆる健康状態にある対象の価値観を尊重し、コミュニケーションが図れ、家族を含め良い人間関係を築くことができる。
- 3 あらゆる健康状態にある対象の健康段階に応じ看護師の指導のもと基礎的な看護が展開できる。
- 4 あらゆる健康状態にある対象の個別性に応じた看護を看護師の指導のもと安全安楽に実施できる。
- 5 あらゆる健康状態にある対象のヘルスプロモーションを支援する活動の場と看護の役割を理解できる。
- 6 保健医療福祉チームの一員として連携、協働を通して看護の役割および継続看護の必要性について理解できる。
- 7 あらゆる健康状態にある対象の意思決定を支援する態度を身につける。
- 8 看護実践を振り返り評価し、自己の課題達成に向けて主体的な学習行動がとれる。

III 実習体系・実習場所

《実習体系》



《実習場所》

1 健診センター

とよみ生協病院健診センター 浦添総合病院健診センター
那覇市医師会生活習慣病検診センター おもろまちメディカルセンター健康管理センター
与那原中央病院健康管理室 南部徳洲会病院総合健診センター
大浜第一病院総合健康管理センター 西崎病院健康管理センター
ハートライフ病院予防医学センター 中部徳洲会健診センター

2 病棟

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院 浦添総合病院
南部徳洲会病院 おもろまちメディカルセンター

3 透析室及び専門外来・クリニック

友愛医療センター病院 沖縄協同病院 豊見城中央病院 南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター
与那原中央病院、西崎病院 とよみ生協病院、沖縄第一病院
首里城下町クリニック 透析併設のクリニック

成人看護学実習Ⅱ

目的： 成人各期の対象の特徴を理解し、急性期から回復期、健康障害に応じた看護を展開ができる基礎的な知識、技術、態度を習得する。

- 目標： 1 対象の発達段階・発達課題をふまえ、急性期から回復期にある対象を生活者としてとらえることができる。
- 2 生命の危機に不安を持つ対象との関係を構築するためのコミュニケーションを図ることができる。
- 3 急性期から回復期にある対象の看護上の課題を明らかにし、課題解決に向け看護師の指導のもと看護が展開ができる。
- 4 急性期から回復期にある対象の安全・安楽を考慮して科学的根拠に基づいた基礎的看護を看護師の指導のもと実践できる。
- 5 急性期から回復期の治療によって異なる療養の場と看護の役割を理解できる。
- 6 保健医療チームの一員として継続看護の必要性が理解できる。
- 7 急性期から回復期にある対象の意思決定を支援する方法が理解できる。
- 8 看護実践を振り返り、自己の課題がわかり、主体的に学習する姿勢が持てる。

1 実習計画

- 1) 実習期間 通年 90 時間／クール
- 2) 対象学年 3 学年
- 3) 実習施設 南部徳洲会病院 浦添総合病院
友愛医療センター

4) 実習時間

学内①：9時00分～15時00分（実習時間6時間：休憩90分）

学内②③：9時00分～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）

病院：8時00分～14時15分（実習時間7時間：休憩60分）

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	学内①	病棟	病棟	病棟	学内②
内容	成人実習Ⅱオリエンテーション	オリエンテーション 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	対象者への支援 情報収集 カンファレンス	関連図作成
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
内容	対象者への支援 情報収集 ケースカンファレンス 技術評価	対象者への支援 情報収集 カンファレンス 技術評価 中間評価	対象者への支援 カンファレンス 技術評価 中間評価	対象者への支援 カンファレンス 看護サマリー発表 技術評価	対象者への支援 終了カンファレンス
	11日目	12日目	13日目		
場所	ICU・HCU	手術室	学内③		
内容	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	オリエンテーション 見学実習 カンファレンス	実習のまとめと学びの共有 終了時評価		

3 病棟実習

1) 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	1) 対象の発達段階・発達課題がわかり、急性状態から回復過程にある対象の生活の変化を述べることができる。	1) 対象の発達段階の特徴と発達課題 <ul style="list-style-type: none"> ・身体的特徴 ・精神・社会的特徴 2) 急性状態から回復過程にある対象の生活変化 <ul style="list-style-type: none"> ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景）の変化 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の特徴と発達課題を復習し、対象者と関連させて考える。 ・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。 ・生活者として生活の3つの側面からとらえる。
2	1) 対象の不安に関心に向け、理解しようと傾聴することができる。	1) 対象の不安に共感でき、傾聴する <ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容で接する。 ・理解的態度で接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者とよい関係を結ぶことに焦点をあて、コミュニケーションを図ることから始める。 ・一般的に急性期に対象とその家族が精神的にどのような体験をするか復習をしておく。
3	1) 対象の状態をアセスメントすることができる。	1) 情報採取と分析 (1) 情報収集 主訴（自覚症状）：対象者が最もつらいと感じる症状や気になる症状 現病歴：症状出現から現在に至るまでの経緯全体を把握する。 症状の変化やそれへの対処、受療（検査・治療）の有無、受療過程（内容と期間）とその効果について時系列にとる 入院時の症状および検査データ、その後の症状の変化 治療方針・治療内容：安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、手術療法、リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の実習計画も看護過程である。 ・限られた情報の中で意味づけをして、看護課題やニーズを1つでもみつけ実習で行う計画をたて実践し評価に結びつける。 ・基本情報用紙、ヘンダーソンのアセスメント枠組みを活用する。 ・問診の技術を活用したコミュニケーションや対象の支援、多職種との連携・協働、電子カルテなどを通して三側面から情報を収集する。

		<p>など</p> <p>疾病認識：最初に変調を自覚したときからそれについてどのように考え対処してきたのか（受療に対する対象の思いなど）</p> <p>健康認識（健康への考え方）</p> <p>既往歴（過去の健康歴）：年齢と疾患名、継続的な通院、入院や手術など</p> <p>生活背景（家族・地域・社会的役割を含む）：年齢、性別、配偶者の有無や家族構成、職業、社会保険の種類など</p> <p>生活状況：基本的な日常生活活動と1日の過ごし方</p> <p>(2) アセスメント枠組みを用いた情報の分類</p> <p>(3) 各アセスメント枠組みの情報が持つ意味を考える</p> <p>(4) 全体像の把握</p> <p>・アセスメントした項目ごとの関連性を確認し、全体像を把握する。</p>	
3	2)アセスメントに基づき看護上の課題を明確化することができる。	<p>1) 現在起こっている、または予測される看護上の課題を明らかにする</p> <p>2) 対象者の状態に応じて優先順位を決定しケアの方向性を考える</p>	<p>・対象の疾患、症状、検査、治療と看護について学習し、対象と関連させて考える。</p> <p>・対象の心理・社会面の反応を理解するのは難しい。様々な理論を活用する。</p> <p>・対象理解に有用な理論 セルフケア理論、自己効力理論、ラザルスらによるストレスコーピング、コーンの危機障害受容モデル等</p> <p>・学内2日目に、関連図の作成及び看護上の課題の明確化、看護計画の立案を行う。必要時助言を受け、追加修正する。</p>
3	3)看護上の課題ごとの看護計画が立案できる。	<p>1) 対象者のセルフケア再獲得にむけた支援を立案する。</p>	<p>・病棟4日目のケースカンファレンスで関連図と看護計画を用いて発表し対象の看護を明確にする。</p>

3	4)看護計画に基づく実施ができる。	<p>1) 看護計画を実施に移す。</p> <p>①日々の行動目標、行動計画を立案する。</p> <p>②日々の対象の状態を把握して行う。</p> <p>③対象の反応や変化に応じ支援方法の変更や調整をする。</p> <p>④実施後の評価</p> <p>⑤記録</p> <p>・日々、経過記録 (SOAP 方式) とフローチャートを記載する。</p>	<p>・日々の実習計画は成人看護学実習ノートの記載ガイド参照</p>
3	5)看護介入の結果を評価することができる。	<p>1) 看護計画の評価</p> <p>(1) 目標の達成度</p> <p>(2) 目標の妥当性</p> <p>(3) 支援内容の妥当性</p> <p>2) 評価後は看護計画の追加・修正を行う</p>	<p>・看護計画立案時に評価日の設定を行う。対象者の容態が変化した場合などは、そのつど評価し、計画の追加修正を行う。</p>
4	1)対象者がセルフケア再獲得できるための支援ができる	<p>1) 対象者の合併症や二次障害をおこさずに回復できるための支援</p> <p>①正確なモニタリングとフィジカルアセスメントによる状態の判断</p> <p>②症状コントロール (症状緩和)</p> <p>③セルフケア能力の維持・向上を考えた早期リハビリテーション</p> <p>④合併症や二次障害に対する予防行動や生活上の新たなる変化とその対処行動への教育指導</p> <p>⑤不安、自尊心低下など心理的反応への支援</p> <p>⑥看看連携の看護サマリー</p> <p>⑦多職種との連携</p> <p>2) 対象の看護についてのディスカッション</p> <p>・疑問点や困難と感じていること</p>	<p>・教育指導を行う場合は、事前に指導計画書を作成し、指導内容・方法が適切か指導者に提示し、助言を得る。</p> <p>・教育指導は指導者の同席のもと実施する。</p> <p>・学生間でディスカッションし、実習指導者や教員の助言を受ける。</p>

		など	<p>①日々の指導者とのカンファレンス時</p> <p>②ケースカンファレンス時</p> <p>③終了カンファレンス時</p>
4	2)対象者に行われている治療・処置、検査に伴う看護の方法が説明できる。	<p>1) 手術療法、安静療法、食事療法、薬物療法、酸素療法、リハビリテーション など</p> <p>2) 治療・処置、検査などの見学</p>	<p>・対象者に行われている治療・処置、検査について目的、方法と対象に及ぼす影響について学習し、理解する。</p>
5	1) 急性期から回復期にある対象者の療養環境について述べることができる。	<p>1) 病棟の特殊性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院対象者の特徴、 ・看護体制 <p>2) 日課・週間予定について</p> <p>3) 構造および配置について（病室の配置、処置室、準備室、リネン室、配膳室、トイレ、非常口、その他）</p> <p>4) 器具・物品の置き場所（清潔の物品、排泄の物品等）</p> <p>5) カルテ、電子カルテ、記録物の取り扱い方法（留意点）</p> <p>6) 安全対策について</p> <p>事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策</p> <p>7) 急変時の対応</p> <p>(1)CPR の説明</p> <p>(2)救急カートの説明</p> <p>8) 関連部署の見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急外来、ICU・HCU・観察室 など 	<p>・病棟のオリエンテーションを主体的に受ける。</p> <p>・病棟内を案内してもらう。</p>
5	2)急性期から回復期にある対象への看護の役割を述べるができる。	<p>1) 実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、急性期から回復期の看護の意味づけができる。</p>	<p>・日々の指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。</p> <p>・日々のリフレクションを成人看護学実習ノートにまとめる</p> <p>・学内3日目の学内実習で急性期から回復期の看護のまとめをおこなう。</p>

6	1)対象者に関わる多職種との連携、協働に参加できる。	1) 保健医療チームメンバー (1)医師 (2) 看護師 認定看護師、 (3)理学療法士 (PT) 作業療法士 (OT) 言語聴覚士 (ST) (4)栄養士 (5)医療ソーシャルワーカー (MSW) (6)薬剤師 (7)臨床心理士 (8)家族 (9)ケースワーカー (10)ケアマネージャー (11)地域包括支援センター 等 2) 多職種カンファレンスへの参加 ・対象者のケースカンファレンスへの参加	・まともはカードメゾッド技法を用いてグループワークを行なう。 ・リハビリ見学 ・栄養指導の見学 ・服薬指導の見学 ・リハビリカンファレンス ・退院支援カンファレンス など
6	2)対象者に必要な社会資源活用方法が述べられる。	1) 医療相談室 各種制度の案内、サポートの説明 など 2) 医療保険 高額医療費制度、高額医療費の貸与制度 訪問看護 など 3) 介護保険法 施設サービス、在宅サービス、訪問介護サービス 4) 身体障害者手帳 など	・対象者が利用できる社会資源について学習する。 ・対象が利用できる社会資源について、医療ソーシャルワーカーなどから説明を受ける。
6	3)対象者の受け持ち期間中の看護サマリーをまとめることができる。	1) サマリイの記録用紙を用いて、看護計画の評価を行い、継続看護を目標とした情報の伝達	・対象者にとって必要なケアが継続されるように記載する。 ・病棟最終日の前日に看護サマリ

		を行う。	ーを用いての発表を行う。 ・発表の前日に教員へ提出する (教員がコピーする)
6	4) チームメンバーと協働できる	1) 対象によりよい看護を提供するために、チームメンバーと協力する。	・タイムスケジュールを活用してグループメンバーで協力する。
7	1) 急性期から回復期にある対象のニーズを傾聴することができる。	1) 対象が過ごされてきた環境や経験などにより、対象の生き方に関心をもち傾聴する。 ・共感、受容で接する。 ・理解的態度で接する。 ・生活史 (対象者の歩んできて歴史) ・対象の現状に対する思い ・ライフスタイル変化への受け入れ など	
7	2) 意思決定を支援する方法を述べることができる。	2) 意思決定を支援する方法 ・診療情報の提供等に関する指針 (厚生労働省) ・インフォームドコンセント ・アドバンスケアプランニング ・QOL など	
8	1) 実習を通して自己の課題を明確化することができる。	1) 実習終了後、自己の課題と学びをまとめる。 2) 実習目標の到達度を実習の中間と終了時に評価する。 3) 自己の課題達成にむけて主体的に学習に取り組む	・終了カンファレンスで発表する所感の中に記述する。 ・成人看護学実習Ⅱ評価表及び Step Up スケールを用いて、中間評価及び終了時評価を記入する。 ・実習指導者および担当教員から中間評価と終了時評価を受ける。 ・中間評価：病棟 5~6 日目 ・終了時評価：実習最終日

4 ICU・HCU 見学実習

1) 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
5	<p>1) 集中治療を受ける対象者の療養環境について述べることができる。</p> <p>2) 集中治療を受ける対象の看護の役割を述べるができる。</p>	<p>1) ICU・HCU の機能、特殊性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中治療を受ける対象者の特徴 ・看護体制 <p>2) 日課・週間予定</p> <p>3) 設備・構造</p> <p>4) 安全対策について</p> <p>事故防止対策、災害対策、感染予防対策</p> <p>1) 集中治療を受ける対象への援助の実際</p> <p>(1) 生命の危機に対する援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察とモニタリング ・治療・処置、検査の援助 <p>(2) 日常生活行動への援助</p> <p>(3) 対象者の不安・苦痛への援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションへの援助 ・環境への配慮 <p>(4) 家族への援助</p> <p>2) 実習での経験を振り返り、ICU・HCU における看護の意味づけができる。</p>	<p>* 集中治療を受ける対象者への看護について学習して臨む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床看護総論参照 ・ICU・HCU のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・ICU・HCU 内を案内してもらう。 <p>・ICU・HCU 看護師が行っている看護支援の実際を担当看護師に同行し学ぶ。</p> <p>・実習終了後、指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。</p> <p>・学内 3 日目の急性期から回復期の看護の意味づけにつなげる。</p> <p>・実際の見学を通して、学ぶ。</p>
6	<p>1) 集中治療室における看護職と多職種との連携・協働について述べるができる。</p> <p>2) 集中治療室における継続看護の必要性を述べるができる。</p>	<p>1) 多職種の活動及び連携・協働の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の関わり ・多職種連携・協働における看護職の役割 <p>1) 集中治療室における継続看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退室時の看看連携 	<p>・看護サマリーなどをみせてもらい説明を受ける。</p> <p>・集中治療室での入退室があれば見学をする。</p>

5 手術室見学実習

1) 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
5	<p>1) 手術療法を受ける対象者の療養環境について述べるができる。</p> <p>2) 手術療法を受ける対象の看護の役割を述べるができる。</p>	<p>1) 手術室の機能、特殊性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術療法を受ける対象者の特徴 ・看護体制 <p>2) 日課・週間予定</p> <p>3) 設備・構造</p> <p>4) 安全対策について 事故防止対策、災害対策、院内感染予防対策</p> <p>1) 手術室における看護の実際</p> <p>(1) 手術にかかわる看護師の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接介助看護師 ・間接介助看護師 <p>(2) 麻酔導入前後の看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理（患者確認、ガーゼ遺存の防止 など） ・精神的援助 ・麻酔に対する援助 ・手術体位に対する援助 <p>2) 実習での経験を振り返り、手術室における看護の意味づけができる。</p>	<p>*手術療法を受ける対象者への看護について学習して臨む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床看護総論参照 ・手術室のオリエンテーションを主体的に受ける。 ・手術室内を案内してもらう。 <p>・手術見学を通して学ぶ</p> <p>・手術がない場合などは、外科的手洗いやガウンテクニックなどの体験、手術がない時の看護師の業務について説明を受ける。</p> <p>・実習終了後、指導者とのカンファレンスで学びの振り返りを行う。</p> <p>・学内 3 日目の急性期から回復期の看護の意味づけにつなげる。</p> <p>・実際の見学を通して学ぶ。</p> <p>・手術チェックリストなどをみせてもらい説明を受ける。</p> <p>・手術室での入退室があれば見学をする。</p>
6	<p>1) 手術室における看護職と多職種との連携・協働について述べるができる。</p> <p>2) 手術室における継続看護の必要性を述べるができる。</p>	<p>1) 多職種の活動及び連携・協働の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の関わり ・多職種連携・協働における看護職の役割 <p>1) 手術室における継続看護の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退室時の申し送り 	<p>・実際の見学を通して学ぶ。</p> <p>・手術室での入退室があれば見学をする。</p>

成人看護学実習Ⅱ 評価表

学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:5点 B:3点 C:1点		
				A	B	C
対象の健康回復へのニーズ寄り添う。	「関心・意欲・態度」	①急性状態から回復過程にある対象の生活の変化がわかる。	・基本情報記録 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	急性状態から回復過程にある対象の生活の変化を3つの側面から述べる。 ①生命の維持（健康状態）の変化 ②その人らしい生活（日常生活）の変化 ③暮らしをたてる（家族関係、職業的・経済的背景の変化）	急性状態から回復過程にある対象の生活の変化を2つの側面から述べる。	急性状態から回復過程にある対象の生活の変化を述べられない。
	「関心・意欲・態度」	②対象者の不安に関心を寄せ、寄り添おうとしている。	・対象との関り ・基本情報記録 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	対象者の不安に関心を寄せ、理解しようと受容的態度で聴いている。	対象者の不安に関心を寄せ、受容的態度で聴いている。	対象者に寄り添い、対象の不安に関心を寄せていない。
	「関心・意欲・態度」	③対象がどのように意思決定をしたかわかろうとしている。	・対象との関り ・基本情報記録 ・情報分析 ・関連図 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	対象がどのように意思決定をしたか、そのプロセスと意思決定の内容が述べられる。	対象がどのように意思決定をしたか、そのプロセスと意思決定の内容のいずれかが述べられる。	対象がどのように意思決定をしたか、そのプロセスと意思決定の内容のいずれも述べられない。
	「関心・意欲・態度」	④対象者に必要な社会資源活用方法がわかる。	・基本情報 ・情報分析 ・関連図 ・看護計画 ・行動計画 ・リフレクション ・カンファレンスでの発言	対象者に必要な社会資源内容がわかり活用方法が述べられる。	対象者に必要な社会資源内容か活用方法のいずれかが述べられる。	対象者に必要な社会資源内容と活用方法のいずれも述べられない。
	「思考・判断」	⑤急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状態の関連を分析し、ニーズがわかる。	・情報分析 ・関連図 ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、過去、現在、未来の時間軸の中で分析し、ニーズを明らかにしている。	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）、過去、現在、未来の時間軸いずれか2つ以上の中で分析でき、ニーズを明らかにしている。	急性状態から回復過程にある対象者の生活と健康状態の関連を既習の知識を活用し（疾患・症状・検査・治療を関連づけて）ているが、時間軸の中で分析できておらず、ニーズも明らかにしていない。
健康回復への支援を行う。	「技能・表現」	⑥セルフケア再獲得できるための支援をしている	・対象との関り ・看護計画 ・日々の行動目標、行動計画 ・指導計画書 ・パンフレット/リーフレット ・指導場面 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクション	セルフケア再獲得のための教育的支援を計画し実施している。 ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・セルフケアの変化に対する生活上の対処行動（生活上の新たな変化）	セルフケア再獲得のための教育的支援を計画しているが実施まで至っていない。 ・セルフモニタリング ・症状マネジメント ・セルフケアの変化に対する生活上の対処行動（生活上の新たな変化）	セルフケア再獲得のための教育的支援が行えない。

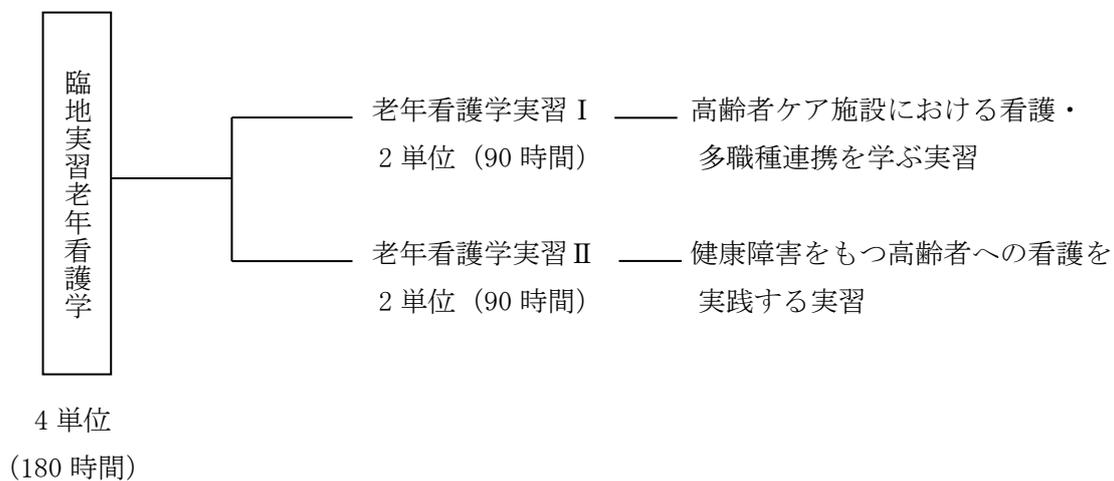
学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:5点 B:3点 C:1点		
				A	B	C
健康回復への支援を行う。	「思考・判断」	⑦看護サマリーをまとめることができる。	看護サマリー	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記すべてを満たしている。	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記2つを満たしている。	受け持ち対象者にとって必要なケアが継続される内容が記載されている。 ・入院に至るまでの経過と受け持ち期間中の経過の要約を行っている ・受け持ち期間中の看護上の課題と実践・評価を行っている ・今後新たに出現すると予測される課題をまとめている。 上記1つを満たしている。
実習での経験を振り返り看護の役割を考える。	「知識・理解」	⑧実習での経験を振り返り、エビデンスを確認し、急性期から回復期にある対象の看護の意味づけができる。	・リフレクション ・カンファレンスでの発言 ・カードメゾッド	実習での経験を振り返り、急性状態からセルフケア再獲得を支えるための看護の役割を考えて、意味づけできている。	実習での経験を振り返り、急性状態からセルフケア再獲得を支えるための看護の役割を考えている。	実習での経験を振り返り、急性状態からセルフケア再獲得を支えるための看護の役割を考えておらず、意味づけも出来ない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	Aすばらしい \ (^o^)/	Bいいね (*^_^*)
考え抜くカシンキング	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合せて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントできない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出すカアクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。	

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A 素晴らしい(〇)／	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(〃)♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	技能・表現 思考・判断	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データ を用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こ うとする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができない。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクセシ ビリティ報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい \(\sigma\)/	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (\`ノノ)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



Ⅱ 老年看護学実習の目的・目標

目的

老年期にある対象を統合的に理解し、人権を尊重しながら、対象に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。

目標

1. 老年期にある対象を、身体的、精神的、社会的側面から統合された生活者として捉えることができる。
2. 対象を尊重した共感的行動がとれ、人間関係を築くことができる。
3. 対象の健康課題や生活課題について、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。
4. 対象のQOL向上・個別性を考慮した支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
5. 老年期にある対象の、療養の場や生活の場における看護の役割を理解できる。
6. 保健医療福祉の各専門職の連携を知り、チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
7. 倫理に基づき、対象の人権を尊重した態度を身につける。
8. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

Ⅲ 実習体系・実習場所

実習体系

臨地実習 老年看護学 4単位 180時間	老年看護学実習Ⅰ (2単位 90時間)	高齢者ケア施設における看護・ 多職種連携を学ぶ実習
	老年看護学実習Ⅱ (2単位 90時間)	健康障害をもつ高齢者への看護を 実践する実習

実習場所

老人福祉センター	<ul style="list-style-type: none">・那覇市末吉老人福祉センター・那覇市壺川老人福祉センター・那覇市小禄老人福祉センター・那覇市識名老人福祉センター・那覇市金城老人憩いの家・那覇市安謝老人憩いの家・糸満市社会福祉センター・宜野湾市赤道老人福祉センター・宜野湾市伊利原老人福祉センター
介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none">・社会医療法人 友愛会 介護老人保健施設「友愛園」・沖縄医療生活協同組合 介護老人保健施設「かりゆしの里」・医療法人 天仁会 介護老人保健施設「パークヒル天久」・社会医療法人 仁愛会 介護老人保健施設「アルカディア」・特定医療法人 葦の会 介護老人保健施設「オリブ園」・医療法人 以和貴会 介護老人保健施設「サクラビア」・医療法人 愛和会 介護老人保健施設「池田苑」・医療法人 信和会 介護老人保健施設「おおざと信和苑」・医療法人 おもと会 介護老人保健施設「ぎのわんおもと園」・社会福祉法人まつみ福祉会 介護老人保健施設「桜山荘」
医療施設（病院）	<ul style="list-style-type: none">・沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院・医療法人祥杏会 おもろまちメディカルセンター・医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院・社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

IV 実習内容および方法

老年看護学実習 I

1) 目的・目標および実習内容

目的 老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者ケア施設における看護を学ぶ。

- 目標
1. 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的側面を理解し、生活者として捉えることができる。
 2. 高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、尊重した態度がとれる。
 3. 老人福祉センターと介護老人保健施設の機能と役割について理解できる。
 4. 施設利用者の日常生活に視点をあて看護師の指導のもと看護の展開ができる。
 5. 施設で生活している高齢者に対して対象に応じ、看護師の指導のもと日常生活の支援が実施できる。
 6. 利用者を支える多職種の役割を理解し、連携・協働について学ぶ。
 7. 高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。
 8. 自己の高齢者観を再考すると共に、実習を振り返り課題を明確にできる。

介護老人保健施設実習

- 目的
1. 介護老人保健施設の機能と役割を理解し、施設における看護の役割について学ぶ。
 2. 施設で生活している高齢者の生活機能に焦点をあて、看護師の指導のもと看護の展開ができる。

- 目標
1. 介護老人保健施設の機能と役割について理解できる。
 2. 介護老人保健施設における看護の役割について理解できる。
 3. 対象を総合的にアセスメントし対象の課題（ニーズ）を把握できる。
 4. 対象のもてる力を生かした日常生活支援を看護師の指導のもと実施できる
 5. 利用者の生活を支える多職種の役割を理解し、連携・協働について理解できる。
 6. 高齢者の人格、信条、価値観を尊重した態度がとれる。

1) 実習計画

実習時間 介護老人保健施設：8：00～15：00（実習時間8時間：休憩60分）
 老人福祉センター：9：00～14：30（実習時間6時間：休憩60分）
 学内：9：00～15：45（実習時間7時間：休憩90分）

実習スケジュール

		1日目	2日目	3日目	4日目
場所		介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設	学内
内容		施設 オリエンテーション 情報収集 カンファレンス	通所実習 看護業務実習 情報収集 カンファレンス	通所実習 看護業務実習 情報収集 カンファレンス	関連図作成 文献検索 看護計画立案 技術練習
	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
場所	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設	介護老人保健施設
内容	ケアの実際 ケース カンファレンス サービス担当者会議	ケアの実際 ケース カンファレンス サービス担当者会議	ケアの実際 サービス担当者会議 カンファレンス	ケアの実際 サービス担当者会議 アクティビティケア カンファレンス	ケアの実際 終了 カンファレンス
	10日目	11日目	12日目		
場所	老人福祉センター	老人福祉センター	学内		
内容	施設 オリエンテーション 高齢者との交流 カンファレンス	高齢者との交流 カンファレンス	最終カンファレンス 評価返し		

※サービス担当者会議、アクティビティケアは、日程調整を行う。

2) 介護老人保健施設実習 実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
1-1)	介護老人保健施設の機能と役割について述べることができる。	1) 施設の概要、サービス内容 2) 施設の特徴 3) 利用者の概要 (年代、介護度、障害の程度など) 4) 施設見学	①介護保険制度の創設と理念、仕組み等について学習して臨む。(介護保険制度の施設サービスについて学習を深める。施設の関係法規・機能人員基準を理解する。) ②介護老人保健施設の理念と役割について学習して臨む。 ③施設のオリエンテーションを受け、理解を深める。
1-2)	施設の中で暮す高齢者の生活の場について理解することができる。	1) 医療施設との違い 2) 環境調整の工夫点、留意点 3) 生活の場としての居室	①施設見学を通して、医療施設とは異なる生活空間づくりについて理解を深める。
2-1)	施設における看護の役割について述べるができる。	1) 看護の理念(方針) 2) 施設における看護業務・役割 3) 多職種との連絡調整の必要性及び方法 4) 家族への支援、連携	①介護老人保健施設で求められている看護師の役割について学習し臨む。 ②入所者の健康管理、高齢者の意思の尊重、介護職との連携・協働・安全に配慮した環境づくりを意識する(リスクマネジメント) ③入所及び通所の看護師と共に行動する。または、説明を受ける。 ④利用者の健康管理の方法や、医療的処置の見学を行い施設における看護師の役割について学ぶ。
3-1)	受け持ち対象者の情報を整理し、アセスメントすることができる。	1) 受け持ち対象者の状態把握 ①入所の目的 ②生活史 ③健康状態 ④障害の程度 (介護度・自立度など) ⑤もてる力(セルフケア能力) ⑥日常生活状況 (現在のADLの把握) ※生活行動モデルの三側面及び6つの生活行動を参考に把握する。	①入所では、受け持ちを1名決め看護を展開する。 ②看護の展開に必要な情報を生活機能の観点から収集し整理する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
3-2)	対象の課題（ニーズ）を明確にすることができる。	1) アセスメントをもとに対象のビジョン・ゴールを考える。	①ケアカンファレンスで、対象の課題（ニーズ）を明確にする。
4-1)	受け持ち対象者のもてる力を活かした支援を計画できる。	1) 受け持ち対象者の日常生活支援計画の立案 ・食事、摂取行動への支援 ・排泄の支援・脱水予防 ・活動と休息への支援 （移動・移乗） ・身じたくの支援 ・コミュニケーション ・アクティビティケア など	①日常生活の支援に焦点をあて、もてる力を活かした計画を立案する。
4-2)	受け持ち対象者の日常生活支援を、安全・安楽に実施できる。	1) 安全・安楽、自立を踏まえた支援を実施する。 2) 実施の際は、事故防止や対象者のもてる力を活用する。 3) アクティビティケアの企画・運営	①安全・安楽に注意し日常生活の支援を指導者と共に実施する。 ②配膳・下膳・誘導などの全体ケアは、指導者の指導のもと実施する。 ③アクティビティケアの必要性について学習し『アクティビティケア計画書』を作成する。 ④グループで施設利用者の状況に合わせた計画を立案し、アクティビティケアを企画・運営する。
4-3)	実施した支援を振り返り、自己評価をすることができる。	1) 日々のリフレクションを活用し看護を振り返る。 2) 看護実践の評価を行い、支援計画の最終評価を行う。	①実践の評価を記録する。 ②実習最終日には、看護計画の最終評価を行う。
5-1)	利用者の生活を支える職種とその役割について述べるができる。	1) 高齢者の生活場面を支えている職種の種類と役割 ・社会福祉士 ・介護福祉士 ・介護支援専門員 ・相談員 ・医師 ・理学療法士 (PT) ・作業療法士 (OT) ・言語聴覚士 (ST) ・歯科衛生士 ・管理栄養士	①職種の役割、チームとしての連携について事前学習を行い、オリエンテーションや実際を通して学びを深める。

目標	行動目標	実習内容	実習方法及び留意点
5-2)	入所や通所の実際の場面を通して、チームの連携を学ぶことができる。	1) 多職種の連携・調整方法を学ぶ。	①通所リハビリテーションに参加して、チームの連携の実際について学ぶ。 ②通所リハビリテーションの送迎を通して、家族への関わりについて学ぶ。 ③サービス担当者会議に参加し、連携の実際を学ぶ。
6-1)	高齢者の人生観、価値観を尊重した態度がとれる。	1) 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション 2) 対象者の趣味、関心事への配慮 3) 人生の先輩に対する言動 4) 高齢者の個人史への尊重	①高齢者の人格、信条、価値観を尊重し、言葉づかい、態度に配慮する。 ②看護師になる者として、倫理綱領に基づき行動する。

老人福祉センター実習

目的 老人福祉センターの機能と役割を知るとともに、地域で生活し施設を利用している高齢者との交流を通して対象理解を深める。

- 目標
1. 老人福祉センターの機能と役割について理解できる。
 2. 地域で暮らす高齢者を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
 3. 高齢者の生涯学習や生きがいについて考えることができる。
 4. 高齢者への関心を持ち、個人として尊重した態度がとれる。
 5. 自己の高齢者観を再考することができる。

1) 実習計画

実習時間 9:00～14:30

対象学年 2 学年

実習施設 老人福祉センター及び社会福祉協議会 (9 施設)

2) 老人福祉センター実習 実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1)	老人福祉センターの法的根拠がわかり、施設の機能と役割について説明できる。	(1) 施設の概要、事業内容 (2) 施設の特徴 (3) 利用者の概要	①事前に施設の法的根拠を学習し実習に臨む。 ②施設のオリエンテーションを受け、理解を深める。
2-1)	加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化を説明できる。	(1) 加齢に伴う身体的変化 (2) 加齢に伴う精神的変化 (3) 加齢に伴う社会的変化 (4) 発達課題 (5) 老年期における個人差	①事前に「老年看護学」を基に復習し、実習に望む。 ②利用者と共にセンターの教室や講座に参加し、積極的に多くの利用者と接する。
2-2)	老年期の発達課題を説明できる。		
3-1)	高齢者の生涯学習の意義や学習能力の可能性が説明できる。	(1) 活動に参加し以下について学ぶ。 ・交流の様子(家族、友人、知人) ・生活の楽しみを知る (趣味、おしゃれ、活動) ・利用者の自己表現、自己実現	①講座への参加や利用者との交流を通して「生涯学習」、「高齢者の生きがい」等について考える。
3-2)	高齢者の生きがいやQOLについて考えることができる。	(2) 生涯学習や生きがい (3) 高齢者の学習の可能性 (4) 高齢者のQOL	②講座の参加や利用者との交流を通して、学んだことを記述し整理する。
4-1)	高齢者への関心を持ち、個人として尊重した態度がとれる。	(1) 利用者の趣味、関心事への配慮 (2) 人生の先輩に対する言動 (3) 高齢者の生きてきた個人史への尊重	①高齢者の人格、信条、価値観を尊重し、言葉づかい、態度に配慮する。 ②看護師になる者として、倫理綱領に基づき行動する。
5-1)	自己の高齢者観を再考することができる。	(1) 高齢者像 (2) 高齢者の潜在能力や可能性	①既習の老年期の特徴や、高齢者疑似体験を通して抱いた「高齢者」のイメージを見つめなおし、自己の高齢者観をまとめる。

学内実習：実習 12 日目 9：00～16：30

目的：実習を通して看護実践を振り返り、今後の看護に活かすことができる。

	実習内容
学内実習	午前 ・各自、提案書の作成を行い、発表の準備を行う 午後 ・各グループに分かれ、提案書を発表し学びの共有を行う。 ・他の学生より、発表に対する意見をもらい、追加・修正を行いまとめる。 ・記録物の整理を行う。 ※実習ファイル提出時間 15：30

【記録物と提出物の綴り方】

介護老人保健施設実習（初日）	介護老人保健施設実習（2・3日目）	介護老人保健施設実習（4日目）	介護老人保健施設実習（5日目）
<p>【オリエンテーション】</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ・実習終了後は「オリエンテーションを受けての学び・気づき」「カンファレンスでの学び」 	<p>【看護業務実習・ダイケア実習】</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ・実習終了後は「看護業務実習を通しての学び・気づき」 ・「ダイケア実習を通しての学び・気づき」 ・「対象者の気づき」「カンファレンスでの学び」を記録する ・必要な事前・事後学習 	<p>【学内実習】</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理 ・疾患アセスメント ・6つの生活行動のアセスメント ・関連図 ・対象者のビジョン・ゴール（理由） ・個別性やもてる力を活かした看護計画の立案 ・必要な事前・事後学習 	<p>【フロア実習】</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ※行動計画には、根拠や留意点も書く。 ・実習終了後は、看護計画に沿った実践に対しての記録（SOAP）と看護実践の場面を取り上げたリフレクションを行う。 ・必要な事前・事後学習
<p>介護老人保健施設実習（6・7・8日目）</p> <p>【フロア実習】</p> <p>実習5日目に準ずる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8日目には、技術経験録の「所感」を書き、終了カンファレンスに臨む <p>※所感には、技術経験・評価記録のP1に準じて記入する。</p>	<p>介護老人保健施設実習（最終日）</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ※行動計画には、根拠や留意点も書く。 ・実習終了後は、看護計画に沿った実践に対しての記録（SOAP）と看護実践の場面を取り上げてリフレクションを行う。 	<p>介護老人保健施設実習（最終日）</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ・実習終了後は行動日程に準じて日々記録を行う。 	<p>介護老人保健施設実習（最終日）</p> <p>老年看護学実習 I ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標・計画 ※行動計画には、根拠や留意点も書く。 ・実習終了後は行動日程に準じて日々記録を行う。

ファイルの綴り方：1. ゴールシート 2. 工程表 3. インパクトシート（1枚ずつ入れる） 4. 成長報告書 3/3（実習俯瞰） 5. 成長報告書（成長エントリー）
6. 成長報告書（価値ある成長と展望） 7. 使用した資料 8. 評価表 9. 提案書 10. リターンシート 11. 実習ノート

※提出物：実習ファイル・技術経験録・Step Up スケール

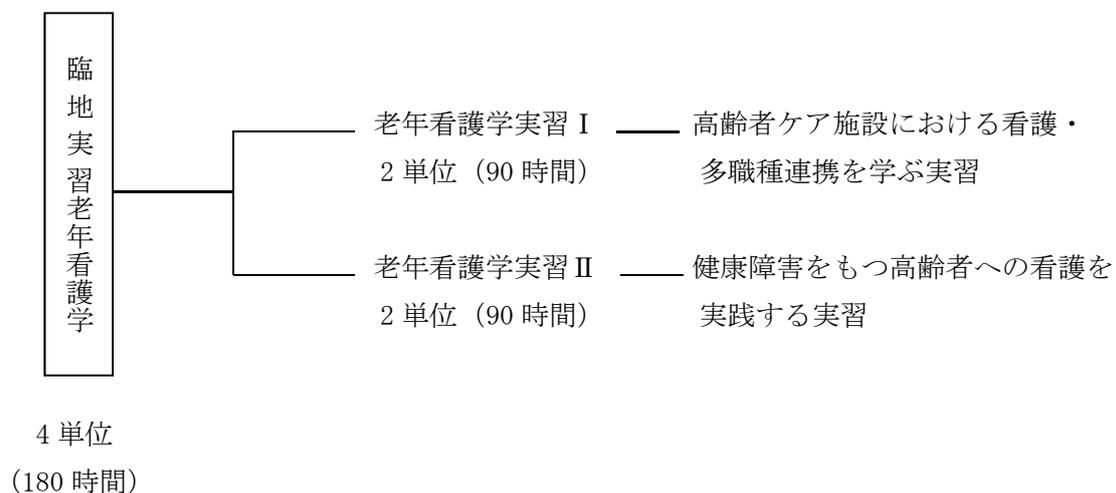
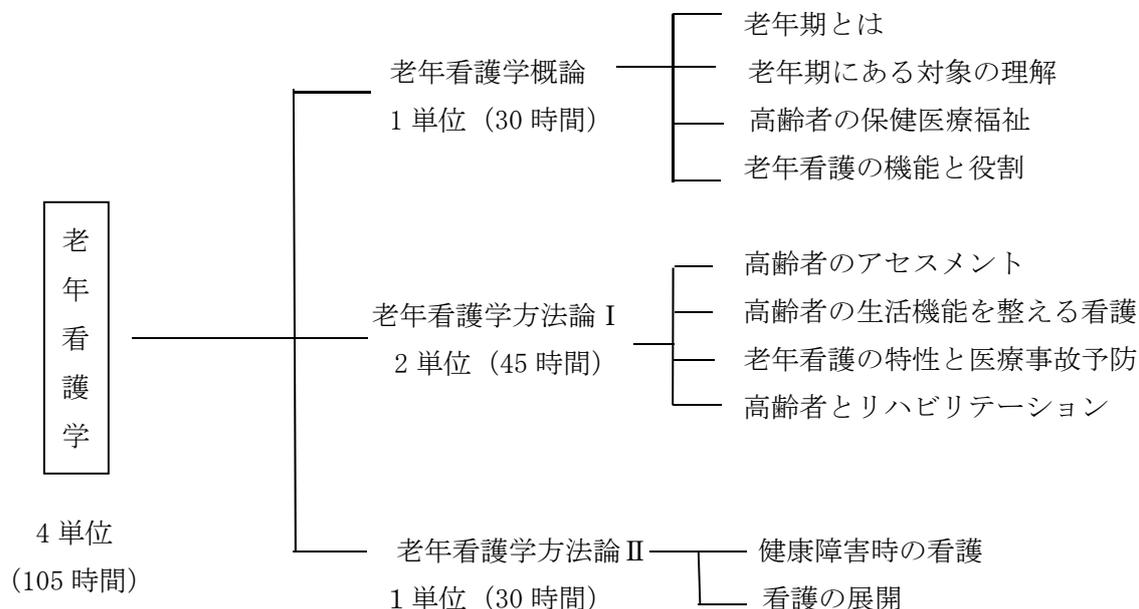
	学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A:4点 B:2点 C:1点		
					A	B	C
介護老人保健施設	1. オリエンテーションや施設見学を受ける	知識・理解	介護老人保健施設の機能・役割について述べる事ができる	・ポートフォリオ ・自己学習 ・カンファレンスやオリエンテーションでの発言 ・リフレクションノート	介護老人保健施設について、介護保険制度の仕組みや歴史的背景を踏まえて施設の役割・機能、サービス内容を述べる事ができる。	実習施設のサービス内容を述べる事ができる。	実習施設のサービス内容を述べる事ができない。
	2. 受け持ち対象者を決定し必要な支援を考える	関心・意欲・態度	高齢者の特徴を捉え、コミュニケーションをとることができる。	・実習場面 ・リフレクションノート ・カンファレンスでの発言	高齢者に対して個別的なコミュニケーションの方法で積極的に会話している。	対象に合ったコミュニケーションの方法で会話している。	対象に合ったコミュニケーションの方法で会話していない。
		思考・判断	対象のもてる力を活かした支援計画を考えることができる	・自己学習 ・リフレクションノート ・カンファレンスでの発言 ・支援計画	対象者のもてる力(残存機能)を具体的に支援計画に取り入れている。	対象者のもてる力(残存機能)を支援計画に取り入れている。	対象者のもてる力(残存機能)を支援計画に取り入れている。
		関心・意欲・態度	高齢者にあつたアクティビティケアの企画・運営ができる	・企画書 ・実習場面 ・リフレクションノート ・カンファレンスでの発言	アクティビティケアの必要性が理解でき、グループメンバーと協力しながら集団にあつた企画・運営ができる。	アクティビティケアの企画・運営をグループメンバーと協力しながらできる。	アクティビティケアの企画・運営に参加することができる。
	3. 介護老人保健施設における看護師の役割や多職種との連携を考える	知識・理解	介護老人保健施設における看護師の役割について述べる事ができる	・ポートフォリオ ・カンファレンスやオリエンテーションでの発言 ・リフレクションノート	施設における看護師の役割と病院での役割の違いを述べる事ができる。	施設における看護師の役割を述べる事ができる。	施設における看護師の役割を述べる事ができない。
		知識・理解	対象者の生活を支える多職種の役割や連携について考える事ができる	・ポートフォリオ ・カンファレンスやオリエンテーションでの発言 ・リフレクションノート	対象者に関わっている多職種の役割、連携・協働の必要性と方法について考えている。	対象者に関わっている多職種について考えている。	対象者に関わっている多職種について考えていない。
	4. 高齢者へ関心を示し、個人として尊重した態度がとれる	関心・意欲・態度	高齢者へ関心を示し、尊重した態度で接することができる	・実習場面 ・リフレクションノート ・カンファレンスでの発言	思いやりのある言葉遣いや丁寧な言葉、敬語を用い、相手に不快感を与えない態度で接している。	丁寧な言葉や敬語を用いているが、腕組みや大柄な態度がみられる。	馴れ馴れしい言葉遣いや態度で接している。
老人福祉センター	1. オリエンテーションや施設見学を受ける	関心・意欲・態度	老人福祉センターの役割や機能を法的根拠も踏まえて関心を向けている	・ポートフォリオ ・自己学習 ・カンファレンスやオリエンテーションでの発言 ・リフレクションノート	老人福祉センターの役割や機能を法的根拠も踏まえて関心を向けている。	老人福祉センターの役割や機能に関心を向けている。	老人福祉センターの役割や機能に関心を向けていない。
	2. 利用者との交流を通して高齢者の特徴を考える	知識・理解	高齢者の生涯学習や生きがいについて考える事ができる	・ポートフォリオ ・自己学習 ・カンファレンスでの発言 ・リフレクションノート	高齢者の生涯学習や生きがいについて自分の考えも含めて理解している。	高齢者の生涯学習や生きがいについて理解している。	高齢者の生涯学習や生きがいについて理解していない。
	3. 自己の高齢者親をまとめる	知識・理解	高齢者親を具体的にまとめる	・実習後レポート課題	実習を通しての高齢者親が具体例を用いてまとめられている。	実習を通しての高齢者親がまとめられている。	実習を通しての高齢者親がまとめられていない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \(\o\)/	B いいね (*^_^*)
考え抜く力(シンキング)	課題発見力	患者・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		患者・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	患者・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい\(^o^)/	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと(^^♪)
チームで働く力 チームワーク	発信力	技能・表現 思考・判断	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを 伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを 伝えることができない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちをうち、相手の話しを素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
	状況把握力	思考・判断	11) 周りの状況を判断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物理的環境）を判断し、どのように行動すべきなのかを考えて状況が良くなるように行動することができる。	周囲の状況を判断し、どのように行動すべきか理解しているが、行動に移せない。	周囲の状況を判断することができない。
	規律・責任性	思考・判断 技能・表現	12) 守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べることができない。
	ストレスコントロール力	思考・判断	13) ストレスを成長の機会と前向きに捉え、克服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替え対処し、成長に繋げることができる。	ストレスの原因を見つけ、自力で、または、他人の力を借りて、気持ちを切り替えることができる。	ストレスを対処することができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A 素晴らしい \ (^o^)/	B いいね (*^_^*)	C ふぁいと (^^♪)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象者の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象者の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象者の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象者の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象者に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



Ⅱ 老年看護学実習の目的・目標

目的

老年期にある対象を統合的に理解し、人権を尊重しながら、対象に応じた看護を展開できる基礎的能力を養う。

目標

1. 老年期にある対象を、身体的、精神的、社会的側面から統合された生活者として捉えることができる。
2. 対象を尊重した共感的行動がとれ、人間関係を築くことができる。
3. 対象の健康課題や生活課題について科学的根拠に基づいた基礎的看護の展開方法を理解できる。
4. 対象のQOL向上・個別性を考慮した支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
5. 老年期にある対象の、療養の場や生活の場における看護の役割を理解できる。
6. 保健医療福祉の各専門職の連携を知り、チームの一員としての看護師の役割を理解できる。
7. 倫理に基づき、対象の人権を尊重した態度を身につける。
8. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

Ⅲ 老年看護学実習Ⅱの目的・目標

目的

健康障害のある高齢者を支援するための基本的な知識・技術・態度を習得する。

目標

1. 健康障害のある高齢者の身体的、精神的、社会的側面を理解し、統合された高齢者像を捉えることができる。
2. 高齢者の特徴をふまえてコミュニケーションを図り、家族を含め人間関係を築くことができる。
3. 対象の健康上の課題達成に向けて、科学的根拠に基づいた看護の展開方法を理解できる。
4. 対象の健康段階、機能障害に応じた支援技術を、看護師の指導のもと安全・安楽に実施できる。
5. 療養生活（治療）の場における看護の役割や継続看護について理解できる。
6. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を認識し、自覚をもって行動できる。
7. 倫理に基づき、高齢者の人権、価値観を尊重した態度がとれる。
8. 自己の看護実践を評価し、課題を明確にし取り組むことができる。

IV 実習内容及び実習方法

1. 進め方

- 1) 実習時間 病棟：8：00～14：15（実習時間7時間：休憩60分）
 学内①②：9：00～15：45（実習時間7時間：休憩90分）
 学内③：9：00～15：00（実習時間6時間：休憩90分）

2) 実習方法

- (1) 配置された病棟において原則として1名の対象者を受け持ち実習する。
 (但し、対象者が途中で退院した場合は複数受け持つ場合もある。)
- (2) 受け持ち対象者とのコミュニケーションを深め、人間関係を発展させるよう努力する。
- (3) 受け持ち対象者を把握し、看護の展開を指導者と共に行う。
- (4) 病棟実習終了後、毎日カンファレンスを行い、学んだ知識と実践の統合をはかる。
 また、実習の場面での疑問や課題について話し合いを行う。

3) スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	病院	病院	病院	学内①	病院
内容	オリエンテーション 対象者決定 情報収集 カンファレンス	情報収集 ケアの実践 カンファレンス	情報収集 ケアの実践 カンファレンス	関連図作成 文献検索 看護計画立案 技術練習	ケアの実践 ケース カンファレンス
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病院	病院	病院	病院	学内②
内容	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 技術確認 カンファレンス	ケアの実践 技術確認 カンファレンス 中間評価・修正	ケアの実践 技術確認 カンファレンス 中間評価・修正	受け持ち対象者に関するカンファレンス
	11日目	12日目	13日目		
場所	病院	病院	学内③		
内容	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	最終カンファレンス 評価返し		

4) 実習内容および実習方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1)	健康障害のある高齢者の全体像を把握するために、必要な情報収集ができる。	<p>1) 健康障害のある対象の全体像を把握するための情報収集・情報整理</p> <p>(1) 身体的側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別 <p>(病態生理学的因子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患の病態、特徴、原因、誘因 ・既往歴、合併症・家族歴 <p>(症状的因子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現れている身体的反応 ・現れている精神的反応 <p>(治療的因子)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康回復に向けて行われている治療、検査、処置 <p>(健康レベル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院前～現在～将来の健康状態 <p>(2) 精神的側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値観、物事への取り組み、信条、自己概念 <p>(3) 社会的側面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的役割、生き様 ・発達段階に応じた身体的、精神的、社会的特徴及び発達課題 <p>(人的・物理的環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭的環境、住居環境 ・経済的環境 ・入院後の物理的環境への適応 ・入院後の人的環境への適応 <p>(対象者－看護者関係)</p> <p>(4) 日常生活状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院前～現在～将来の日常生活 ・活動、休息、食事、排泄 身じたく、コミュニケーション ・もてる力 <p>※生活行動モデルの3側面及び6つの生活行動を参考に把握する。</p>	<p>①気づきをもとに必要な情報や看護を考える。</p> <p>②看護の展開に必要な情報を生活機能の観点から収集し整理する。</p> <p>③年齢や性に応じた発達課題達成状況、家族内の役割、キーパーソンの存在、家族間の人間関係やサポートシステムを把握する。</p> <p>④社会的役割の変化、家族関係の変化を観察する。</p> <p>⑤疾患の病態生理、診断、治療、看護について教科書や参考書を活用し学習する。</p> <p>⑥健康障害や治療・処置が及ぼす影響や日常生活における制限を把握する。</p> <p>⑦症状が出現しても対象者が自覚しない場合があるので、注意して観察する。</p>

目標	行動目標	実習内容	実習方法
2-1)	高齢者の特徴を踏まえてコミュニケーションを図ることができる。	1) 老年期の特徴を踏まえたコミュニケーション ・加齢に伴う聴力・視覚への配慮 ・認知の変化への配慮 ・個別性・生活背景・価値観 ・傾聴・共感・受容的態度	①受け持ちの対象者に挨拶をし、指導者と共に受け持つことの説明と同意を交わす。
2-2)	受け持ち対象者および家族との信頼関係を築くことができる。	2) 対象と周囲の人々との意図的なコミュニケーションを図る。 ・受け持ち対象者の家族 ・病室の同室者	①受け持ち対象・家族とのコミュニケーションを取りながら情報を収集していく。 ②家族の面会時への配慮を行う。 ③受け持ち対象の同室者への配慮を行う。
3-1)	受け持ち対象の情報を整理し、アセスメントすることができる。	1) 対象のビジョン・ゴールを考える。 2) 分析した情報の統合及び関連図 ・課題の原因や理由、要因の関連性	①テキストや文献を活用して情報の持つ意味を考えてアセスメントする。
3-2)	受け持ち対象の看護上の課題を明確にできる。	3) 看護上の課題を明確にする。 ※対象に応じた看護上の課題の表現 4) 看護上の課題の優先順位の決定	①受け持ち対象の加齢現象と健康障害の情報から考えられる課題を抽出し看護の方向性を考える。 ②関連図及び看護上の課題リストを発表し、検討及び指導を受け修正する。
3-3)	受け持ち対象に応じた個別の看護計画を立案できる。	5) 対象に応じた目標設定・達成可能な目標の表現 6) 目標達成に有効な具体策 ・生活史、生活環境、価値観、人生観を考慮した計画 ・意思表示・意思決定を支える計画 ・その人らしさやもてる力・資源を活かした計画	①解決可能な目標を設定し対象に応じた具体的実践的な看護計画を立案。 ②目標は、対象の状況・状態を考慮しながら対象のもてる力を含めて設定する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
3-4)	受け持ち対象に実施した看護の評価、計画の修正ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生理的な機能低下の遅延と疾病予防のための実践可能な計画 ・廃用症候群を予防するための計画 7) 立案した計画に基づく実施 <ul style="list-style-type: none"> ・実施した看護の評価から翌日の目標、行動計画の立案 8) 必要に応じて計画を修正 <ul style="list-style-type: none"> ・実施した看護を対象の反応などから評価、追加・修正を行う。 	①立案した計画を発表し、検討及び指導を受け修正する。 ②看護上の課題ごとにSOAPで記載し、追加修正があれば、その時点で計画を修正する。 ③リフレクションを行い、翌日の看護に繋げる。
4-1)	受け持ち対象の健康段階に応じた支援を学ぶことができる。	1) 急性期の支援の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・救命、生命の維持、管理 ・症状に伴う苦痛の軽減 ・不安の軽減 ・合併症の予防 ・日常生活の支援 ・治療、処置、検査時の支援 ・対象者、家族に対する配慮 ・急変時の対応 2) 回復期の支援の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・症状の悪化予防 ・日常生活行動自立への支援 ・合併症、二次的障害の予防 ・家族に対する配慮 3) 慢性期の支援の視点 <ul style="list-style-type: none"> ・症状の軽減と合併症予防 ・治療、処置、検査時の支援 ・自己管理のための指導 ・療養に伴う対象者、家族の理解 ・社会資源の活用 	①手術療法を受ける対象者を受け持った場合は、術前、術後の対象のニーズに即した看護を展開。 ②受け持ち対象者の手術見学を行う場合は、指導者に許可を得て、事前学習を行い臨む。 ③リハビリテーション関連職（PT・OT・ST）と情報を共有し支援に活かす。事故予防に注意する。（転倒・転落） ④対象へ指導を行う場合は、指導者及び教員に指導を受け、監視下で実施する。 ⑤指導案は、看護計画の教育計画（EP）から作成。

目標	行動目標	実習内容	実習方法
5-1)	病棟における看護の役割や継続看護について理解できる。	<p>4) 終末期の支援の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 苦痛の緩和 ・ 快適な生活のための支援 ・ 精神的苦痛の軽減 ・ 自分の人生を語る時間の確保 ・ 家族の悲嘆への支援 (疲労の予防) <p>1) 病棟における看護の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護方針および看護体制 ・ 日課・週間・月間の予定 <p>2) 継続看護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 看護サマリーの活用 ・ 社会資源の活用 ・ 退院調整や退院指導の見学 	<p>⑥対象の QOL を考慮する。</p> <p>⑦尊厳を重んじる対応と謙虚な態度で接する。</p> <p>⑧家族がゆっくりと高齢者と会話する時間が持てるよう配慮する。</p> <p>①病棟オリエンテーションを受け、治療の場としての病棟の特徴及び看護の役割を理解する。</p> <p>②受け持ち対象への看護を通して、病棟における看護の役割を理解する。</p> <p>③看護サマリーを参考に継続看護について学ぶ。</p> <p>④機会があれば退院調整の実際を見学する。</p>
6-1)	保健医療福祉チームの一員として、行動できる。	<p>1) 対象を支える保健医療福祉チーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連部署との連携・調整 ・ 他職種との連携・調整 	<p>①チームの一員として、受け持ち対象の情報の提供、ケアの協働を行う。</p>
7-1)	高齢者の人権、価値観を尊重した行動がとれる。	<p>1) 高齢者の権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のための国連原則 自立の原則 参加の原則 ケアの原則 自己実現の原則 尊厳の原則 <p>2) 個人情報保護法に基づいた行動</p> <p>3) 看護・医療事故予防に基づいた行動</p>	<p>①高齢者に対し、人生の先輩として尊重し、言語・礼節に配慮した態度や行動をとる。</p> <p>②看護専門職者を志す者として倫理綱領に基づいて行動する。</p> <p>③ヒヤリ・ハットやアクシデントが生じた場合は、速やかにリスクマネジメントガイドラインに基づき、指導者及び教員へ報告し報告書を作成する。</p>

目標	行動目標	実習内容	実習方法
8-1)	自己の看護実践を振り返り、課題達成に向けて取り組むことができる。	1) 看護実践の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・日々の実践の振り返り ・短期目標の到達度評価 ・実習を通しての学び 2) 課題達成に向けての自己学習 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書・文献の活用 3) 受け持ち対象者の主疾患の病態・症状・治療、看護など病棟で体験・見学したことについてエビデンスを確認し再学習する。	①日々の看護実践の評価を踏まえ、翌日の計画立案を行い目標達成に向け取り組む。 (午後のカンファレンスで検討、指導を受ける)

6) 記録物と提出物の綴り方

実習初日	実習2日目	実習3日目	実習4日目
<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後は「オリエンテーションを受けての学び・気づき」「カンファレンスでの学び」 ・受け持ち対象者の「気づき」 	<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後は、支援に対しての看護記録としてSOAPと看護実践の場面を取り上げてリフレクションを行う。 	<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後は、支援に対しての看護記録としてSOAPと看護実践の場面を取り上げてリフレクションを行う。 	<p>【学内実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント ・関連図及び課題リスト
<p>実習5日目～11日目</p>	<p>実習12日目</p>	<p>※看護過程の展開に必要な記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体像（情報の整理） ・疾患と6つの生活行動のアセスメント ・関連図 ・看護計画 	
<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後は、支援に対しての看護記録としてSOAPと看護実践の場面を取り上げてリフレクションを行う。 ・個別性を考慮した看護計画の実践・評価（中間評価） 	<p>【病棟実習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習終了後は、支援に対しての看護記録としてSOAPと看護実践の場面を取り上げてリフレクションを行う。 	<p>ファイルの綴り方：1. ビジョン・ゴール 2. インパクトシート（1枚ずつ入れる） 3. 成長報告書3/3（実習俯瞰）</p> <p>4. 成長報告書（成長エントリリー） 5. 成長報告書（価値ある成長と展望） 6. 使用した資料 7. 評価表</p> <p>8. 個人のプレゼンテーション資料 9. 実習ノート</p> <p>※技術経験・評価記録もファイルにはさみ一緒に提出する。</p>	

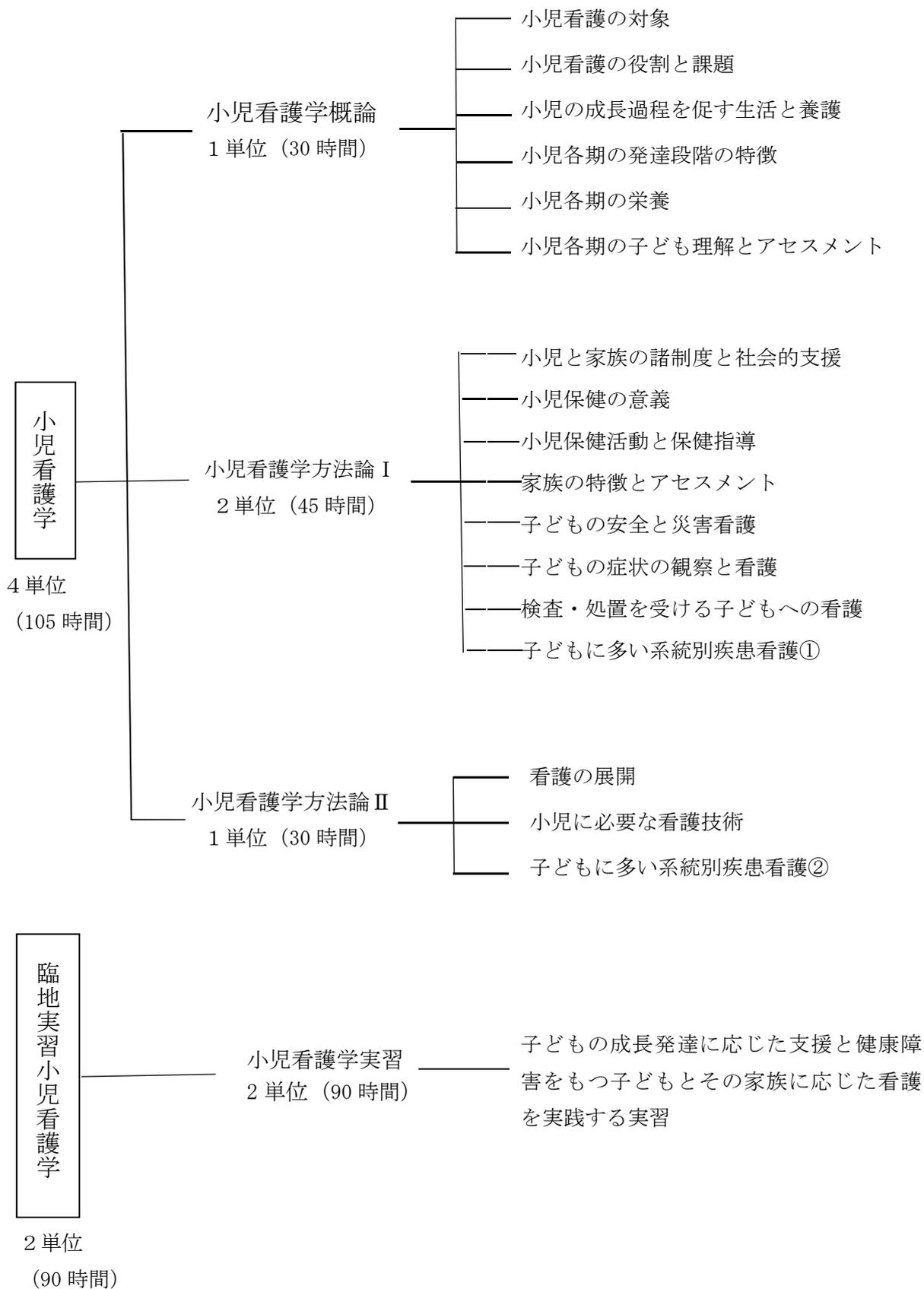
学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価の観点	評価資料	評価基準		
				A：5点 B：3点 C：1点		
				A	B	C
実習の目的・目標と照らし合わせ実習ビジョンを明らかにし、自己の学習計画を立てる	1. 事前に必要な学習をして実習に臨もうとしている。	意欲・関心・態度	ビジョン・ゴールシート 工程表 記録物	実習の目的・目標を達成するための学習計画と事前学習をしたうえで実習に臨んでいる。	実習の目的・目標を達成するための学習計画をたてているが、事前の学習が不足している。	学習計画がたてられない
対象の状況に応じた看護が実践できる	2. 高齢者の特徴を捉えコミュニケーションをとることができる。	意欲・関心・態度	実習場面 カンファレンス 記録物	高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション方法がとれ、周囲の人々（家族・同室者）とも積極的に会話している。	高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション方法で会話をしている。	高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーション方法で会話をしていない。
	3. 高齢者へ予防・予測の視点から支援することができる。	思考・判断	実習場面 カンファレンス 記録物	高齢者の加齢に伴う機能低下や二次障害の予防の視点から支援計画を立案し実施することができる。	高齢者の加齢に伴う機能低下や二次障害の予防の視点から支援計画を立案することができる。	高齢者の加齢に伴う機能低下や二次障害の予防の視点から捉えられない。
	4. 健康障害に伴う治療が対象者の生活に及ぼす影響について理解できる	思考・判断	実習場面 記録物 カンファレンス	対象者の健康障害や行われている治療が、日常生活にどのように影響を及ぼしているのかアセスメントすることができる。	対象者の健康障害や行われている治療が、日常生活に及ぼす影響についてアセスメントしているが不足している。	対象者の健康障害や行われている治療が、日常生活にどのような影響を及ぼしているのかアセスメントできない。
	5. 対象者の健康レベルに応じた支援を考えることができる。	思考・判断		入院前・受け持ち期間の健康レベルが理解でき、退院後の社会資源の活用を踏まえたアセスメントができる。	入院前・受け持ち期間の健康レベルが理解でき、どの段階に向かっているか考えている。	受け持ち期間の健康レベルが理解できる。
	6. 対象者のもてる力を活かした支援計画を考えることができる	思考・判断	記録物 実習場面 カンファレンス	対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れ、反応を観ながら潜在能力を引き出そうとしている。	対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れている。	対象者のもてる力を日常生活支援に取り入れていない。
対象の状況に応じた看護が実践できる	7. 看護上の課題に対する目標を設定し、目標達成に向けて主体的に取り組むことができる	技能・表現	実習場面 記録物 カンファレンス	対象に必要な支援をエビデンスに基づき実施し、リフレクションを行い、翌日の看護に活かすことができる。	対象に必要な支援をエビデンスに基づき実施することができるが、リフレクションを行うことができる。	対象に必要な支援を実施することはできるが、意味づけを行うことができない。
老年看護の意義（役割）について、考えることができる。	8. 対象への看護実践を通して、老年看護の意義（役割）について考えることができる。	技能・表現	実習場面 記録物 カンファレンス	対象への看護実践を通して、老年看護に必要な予防・予測の看護、観察、家族を含めた看護について述べる可以通过して体験を通して述べる可以通过する。	老年看護に必要な予防・予測の看護、観察、家族を含めた看護について述べる可以通过する。	老年看護に必要な予防・予測の看護、観察、家族を含めた看護について述べる可以通过できない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \(\(^o^)/	B いいね (*^_^*)
考え抜く力(シンキング)	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントできない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力(アクション)	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A ずばらしい(°o°)／	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(°_°)♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	技能・表現 思考・判断	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的デー タを用いて、伝えることが できる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思 いを伝えることができ ない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こ うとする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができな い。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断・技能・表現	12) 守らなければなら ないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \(\^o\)/	B いいね(*^_^*)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象者の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象者の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象者の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象者の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象者に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I. 科目構成



II. 小児看護実習の目的・目標

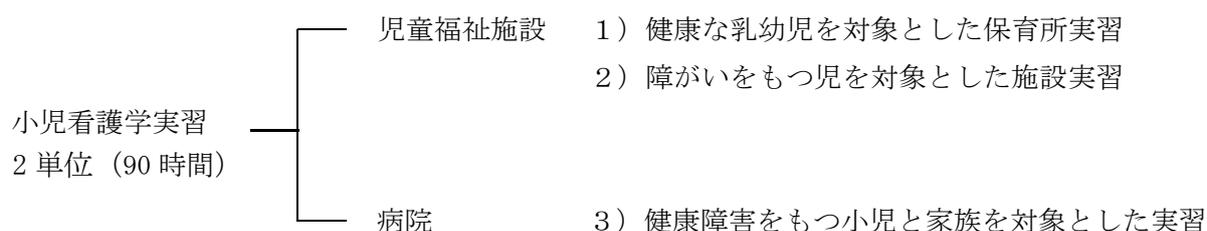
目 的

小児の特徴を理解し、小児をとりまく環境と社会状況から、小児の発達段階、健康段階に応じて健康生活をアセスメントし、小児およびその親、家族に対して個別的な看護を実践するための基礎的知識、技術、態度を養う。

目 標

1. 小児を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 小児及び家族をとりまく環境と健康生活に向けたアセスメントができる。
3. 小児の発達段階、健康段階に応じて家族を含めた個別的な看護過程の展開ができる。
4. 小児の臨床看護について知識を深め、看護師の指導のもと看護技術を安全に実践できる。
5. 小児看護の役割について考え子ども観を育むことができる。
6. 小児の継続看護の必要性を理解できる。

III. 実習体系・実習場所



実習場所

- | | |
|-----------|---|
| 1) 児童福祉施設 | 保育所 (園)、こども園 13 施設、沖縄南部療育医療センター |
| 2) 病院 | 沖縄赤十字病院、沖縄協同病院、友愛医療センター
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター |

実習計画

1. 実習時間 保育所：8時30分～15時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 入所型医療施設：7時30分～14時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 病棟：8時～15時または7時30分～14時30分（実習時間8時間：休憩60分）
 外来：8時～11時45分（実習時間5時間）
 NICU：8時～11時45分（実習時間5時間）
 学内：9時～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	保育所	保育所	保育所	入所型医療施設	学内
内容	オリエンテーション 子どもとの関わり カンファレンス	子どもとの関わり カンファレンス	子どもとの関わり 所感発表	施設見学 シャドーイング カンファレンス	看護の展開 アセスメント 知識の確認
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病棟	病棟	病棟	病棟	学内
内容	オリエンテーション 患者選定 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 所感発表 カンファレンス	シミュレーション
	11日目	12日目			
場所	外来 or NICU	学内			
内容	シャドーイング カンファレンス	実習のまとめ 評価返し			

IV. 児童福祉施設 — 保育所（園）こども園 実習

1. 目的・目標

【目的】

保育所での子どもとの関わりから、子どもの成長発達や基本的な生活習慣確立過程を理解する。

【目標】

1. 保育所の目的を理解し、集団の中での子どもの生活への関わりを体験する。
2. 健康な乳幼児の保育環境と成長発達の特徴を理解する。
3. 健康な乳幼児の成長発達を促すための基本的な生活習慣への働きかけを理解する。
4. 子どもをとりまく家族および社会的環境について知る。
5. 見学・体験した子ども支援に関してエビデンスを確認し再学習する。

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1	保育所（園）概要および保育方針が理解できる。	1) 施設オリエンテーション (1) 保育所の理念 (2) 施設の概要構造と機能 (3) 保育内容 (4) 注意事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の特徴について事前学習し、実習に臨む。 ・3日間、異なるクラスに入り各発達段階の違いを理解する。 ・各施設における事故・災害対策について理解する。 ・子どもの健康を守るための取り組みについて知る。 ・乳幼児期の成長・発達について再学習し、環境による違いを理解する。 ・年齢差、月齢差を理解する。
2	各期における保育環境と成長発達の特徴が理解できる。	1) 乳幼児の保育環境を理解する。 (1)ハード面 ①乳幼児が過ごすための構造、設備、物品 ②事故防止 (2)ソフト面 ①乳幼児への言葉かけ ②乳幼児と接する態度 ③健康管理 2) 乳幼児における成長発達の違いを理解する。 (1) 言葉の発達 (2) 認知の発達 (3) 情緒の発達 (4) 運動機能の発達 (5) 社会性の発達	

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
3	保育士の働きかけから発達段階に応じた関わり方が理解できる。	<p>1) 基本的な生活習慣の自立への働きかけの方法について学ぶ。</p> <p>(1) コミュニケーション (促し方)</p> <p>(2) 食事への働きかけ</p> <p>(3) 排泄への働きかけ</p> <p>①オムツ交換 ②トイレトレーニング</p> <p>(4) 睡眠への働きかけ</p> <p>①午睡への援助 ②環境の整え方</p> <p>(5) 衣服の着脱への働きかけ</p> <p>①衣服着脱時の待つ姿勢</p> <p>②履物着脱への働きかけ</p> <p>(6) 清潔への働きかけ</p> <p>①歯磨き ②手洗い</p> <p>2) 小児にとっての遊びの意義と発達段階による遊びの違いを理解する。</p> <p>3) 発達段階の特徴を考えたレクを実践する。 実習前までに発達や健康増進に向けたレク企画案を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表情や行動をよく観察し、集団における成長・発達の違いまとめる。 ・保育士指導のもと、食事への支援を行う。 ・衛生面を考慮し、昼食時間はエプロン、三角巾を着用する。 ・乳児クラスでは、エプロンを着用する。 ・エプロンには氏名がひらがなで表示する。 ・疑問や困ったことがあれば保育士へ相談する。 ・発達段階を意識し、発達段階の特徴を捉え子どもの自立を考え子どもと関わる。 ・企画した内容を学生担当者に伝え実施する日程や必要物品の調整を行う。
4	保育所が地域の子育て支援に果たす役割が理解できる。	<p>1) 家族との連携、毎日の健康管理における園の取り組みを理解する。</p> <p>2) 地域で暮らす子どもと家族に対する支援について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・送り迎えをする家族の表情や会話などを観察する。 ・学生全員がカンファレンスに参加できるよう時間を調整する。 ・学生が主体となりカンファレンスを実施する。
5	保育所実習から小児観をまとめることができる。	<p>1) 日々の体験を振り返り、感じたことや気づいたこと等カンファレンスを通して学びを深める。</p> <p>2) 3日間の学びをまとめ所感を発表する。 テーマ 「健康な乳幼児との関わりを通して学べたこと」 実習3日間の学びをまとめる。</p> <p>3) 成長発達の知識確認及び見学・体験した子ども支援に関してエビデンスを確認し再学習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習3日目に所感発表が行えるように時間調整する。 ・600～800字で所感をまとめる。表紙なし、タイトル、施設名、月日を記入する。 ・学生が主体となって所感発表を進める。 ・翌日に所感を提出する。

V. 児童福祉施設 — 医療型障害児入所施設見学実習

1. 目的・目標

【目的】

障がいのある小児の療育環境を理解し、子どもの成長発達に応じた個別性の看護を学ぶ。

【目標】

1. 施設の特徴を理解し、施設で生活する児の成長・発達の特徴を理解する。
2. 施設における看護の役割や多職種連携を理解する。
3. 子どもの特性に応じた看護を理解する。
4. 見学・体験した子ども支援に関してエビデンスを確認し再学習する。

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1	施設の特徴と施設で生活する児の成長・発達の特徴について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施設の構造や機能、看護体制、看護基準、施設における連携を理解する。 2) 児の表情や反応、看護師との関わりの様子から成長・発達の個別性を理解する。 3) 支援学校に向かう子ども達の身支度の様子や申し送りの場面を見学する。 4) 入所児の一日の過ごし方を知る。 5) 食事支援のポイントを知り、昼食時の介助もしくは見学を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設には10分前の到着を心掛ける。 ・医療型入所施設の特徴についてオリエンテーション内容を照らし事前学習して実習に臨む。 ・施設到着後、指定の実習着に着替え身なりを整える。 ・実習記録へ体温・健康状態を記入し報告する。
2	施設における看護の役割や多職種連携について理解できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 多職種との連携 子どもの成長発達を支えるにはどのような職種が関わっているのか学ぶ。 リハビリテーション ショートステイ 未就学児保育 支援学校 2) 地域社会との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防対策を心掛ける。 ・1病棟、2病棟に分かれ実習を行う。 ・シャドーイングから子どもへの関わり方について知る。 ・担当看護師の技術支援の見学を通して、児のにとっての安全、安楽への支援の在り方を理解する。
3	児の特性に応じた看護を知る。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの個別性に合わせた医療的ケア及び看護の実際を見学する。 ・吸引・吸入、体位変換 ・食事支援、内服管理など 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象に同意を得て介助を行う。 ・児のペースに応じて実施する。
4	見学・体験したことをまとめ発表することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) カンファレンス テーマ 「実習での学びと今後の課題」 2) 見学・体験した子ども支援に関してエビデンスを確認し再学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちの変化や気づき、学びを言葉で表現する。 ・疑問や学びなど共有していく。 ・学生が主体となって進行する

VI. 小児（科）病棟実習

1. 目的・目標

【目的】

小児期にある対象と家族へ成長発達・健康段階に応じた個別的な看護を安全に実践する。

【目標】

1. 健康上の課題をもつ小児や付き添う家族が過ごす入院環境について理解する。
2. 入院による小児と家族に及ぼす身体的・精神的・社会的影響について考え、看護師の指導のもと看護を展開する。
3. 小児の成長発達や健康段階、健康状態をふまえた看護技術の実践について理解する。
4. 子どもの権利を考えた看護行為のあり方について理解する。
5. 看護チームと連携し、小児看護の役割を理解する。
6. 小児の継続看護について理解する。

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1	小児病棟の特殊性について理解できる。	1) 小児病棟概要オリエンテーション (1) オリエンテーション内容 ①病棟構造、設備、安全対策、災害対策、感染対策 ②看護体制、病床数、在院日数、看護方式 ③疾患の特徴、治療・検査・処置内容 ④主に使用する薬剤と与薬時の留意点 ⑤小児救急カート ⑥家族の付き添い、面会時間 ⑦小児の食事箋（アレルギー対応） 2) 受け持ち患児の決定 (1) 担当者と一緒に受け持ち対象及び家族に挨拶をする。 (2) アセスメントに必要な情報をベットサイド及び電子カルテから情報収集する	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習と組み合わせ実習に臨む。 ・実習展開に必要な物品や場所など質問で確認する。 ・小児科病棟と小児病棟の違いについて調べる。 ・病棟構造を把握し、緊急時に備え、迅速な行動が行えるようにする。 ・急変時対応に必要な救急体制や物品、薬剤管理について実際に物品をみながら学ぶ。 ・電子カルテ使用時は、指導者もしくは教員の許可を得る。 ・電子カルテから離れる際にはカルテをログアウトする。
1-2	健康障害をもつ小児や家族への環境整備が実施できる。	1) 受け持ち患児の環境整備を行う。 (1) 小児と家族が過ごすための環境整備 ①病室の温度・湿度、採光・証明、換気 ②昨日の睡眠状態の把握 ③感染症のある病室の環境整備 (2) 小児や家族が安心して入院生活を過ごすための環境について話し合う。 ①ベットの種類、柵、周囲の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・環境整備を行う時、家族の同意を得て行う。 ・睡眠が取れていない小児や家族がいることを考慮し、足音や私語に留意する。 ・カンファレンスで、発達段階や健康レベルに応じた環境について考える。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
2-1	受け持ち小児や家族を理解するために必要な情報を収集できる。	<p>1) 実習1日目、受け持ち児を決定する。</p> <p>2) 指導者より、受け持ち児や家族の状態について大まかな説明を受ける。</p> <p>(1) 小児の状態</p> <p>①受け持つまでの症状、治療、検査、看護</p> <p>②現在の症状、治療方針、看護方針</p> <p>(2) 家族の状態</p> <p>①付き添いの有無</p> <p>②付き添い状況、面会状況</p> <p>③家族の疲労度</p> <p>3) 小児と家族の承諾後、指導者、教員とともに挨拶に伺う。</p> <p>(1) コミュニケーションやカルテから情報収集を行う。</p> <p>①形態的成長（身体的） 体重、身長、頭蓋、頭囲、胸囲、胸囲脊柱、身体各部のつきあい、生歯等</p> <p>②機能的発達（身体的） 呼吸、循環、血液、体温、消化、水分と電解質、神経系、免疫</p> <p>③精神運動機能の発達（身体的） 微細運動、粗大運動、頸定、お座りはいはい、歩行の有無</p> <p>④認知・情緒の発達（精神的） 言葉の発達、学習能力、論理的思考感情</p> <p>⑤社会性の発達（社会面） 環境（人的・社会）の適応状態等</p> <p>4) 成長発達、疾病、環境、日常生活の視点で情報収集を行う。</p> <p>(1) 入院による小児や家族が身体的に影響を受けていること</p> <p>(2) 入院による小児や家族が心理的に影響を受けていること</p> <p>(3) 子どもの入院による家族が社会的に影響を受けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち対象に必要な、病態、治療、処置・検査について文献を活用して調べる。 ・情報は、左記3) 4) の①～⑤項目を意識して収集する。 ・入院中だけでなく、入院前後の情報収集も行う。 ・発達段階における言語発達、認知発達と病気理解の特徴を事前学習しコミュニケーションを図る。 ・病気や入院が小児や家族に与える影響を対象の反応から考える。 ・小児や家族の状態を理解し、対象の立場に立ち声かけを行う。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
2-2	受け持ち小児と家族に必要な看護を実践できる。	<p>1) 小児および家族とコミュニケーションを図る。</p> <p>(1) コミュニケーションの視点</p> <p>①発達段階に応じたコミュニケーション</p> <p>②小児や家族の身体・心理・社会的側面を理解した声かけ(共感、受容)</p> <p>2) バイタルサインの測定</p> <p>(1) バイタルサインの順序性</p> <p>(2) 発達段階に応じた方法の選択</p> <p>(3) 児及び家族への説明と同意</p> <p>3) 身体計測</p> <p>(1) 発達段階に応じた方法の選択</p> <p>(2) 児及び家族への説明と同意</p> <p>(3) 安全の確保</p> <p>4) フィジカルアセスメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサイン測定方法と基準値、身体計測と発達評価について事前学習し実習に臨む。 ・初めて実施する看護技術は、指導者と共に行う。 ・指導者より1人で実施して良いと許可を受けたら実施前に確認し、実施後は報告を行う。 ・児の状態を考え、バイタルサインの順序性を意識して測定を行う。 ・バイタルサイン測定後は、速やかに、指導者へ報告する。 ・基準値が逸脱していれば、状態観察を観察しながら再測定を行う。 ・実習期間中、血圧を1回測定できるとよい。 ・血圧測定の再測定は2回までとする。
2-3	受け持ち児と家族のアセスメントができる。	<p>1) 枠組みに沿ってデータの分類を行う。</p> <p>2) 枠組みに沿ってデータの分析を行う。</p> <p>(1) データの解釈・分析</p> <p>①逸脱した情報の意味づけ</p> <p>②逸脱した情報の原因・誘因の記述</p> <p>③考えられる看護上の課題の記述</p> <p>④課題に対する支援内容</p> <p>1) 全体像を捉える。</p> <p>(1) 情報の関連性を捉える。</p> <p>①成長発達や発達課題</p> <p>②病態のメカニズム、治療、検査・処置</p> <p>③子ども家族を取り巻く環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階の特徴を踏まえアセスメントを行う。 ・受け持ち児の発達段階の特徴を捉え、症状の訴え方、病気の理解について考える。 ・枠組みに沿ってアセスメントした情報を統合する。 ・疾患によって引き起こされる症状のメカニズムや解剖生理学的な特徴を踏まえ児の状態をアセスメントする。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
2-4	受け持ち小児の全体像が理解できる。	④日常生活行動 ※現在起こっている症状からの課題、予測される課題における根拠を考え看護を導く (2) 看護上の課題の明確化 ①関連因子から原因・誘因 ②不足しているデータの把握	を把握する。 ・児の状態から健康段階の根拠を示す。 ・家族に対する課題については、その課題が小児にどのような影響を及ぼすかという視点から考える。
2-5	受け持ち小児や家族に応じた看護上課題の抽出ができる。	1) 看護上の課題の抽出 (1) 優先順位の決定 ①健康段階からの視点 ②発達段階からの視点 ③問題の因果関係からの視点 ④小児や家族の欲求からの視点 ⑤退院後の生活からの視点	・優先順位は、①～⑤の視点で考え、現在、子どもが示している症状を優先に考える。
2-6	受け持ち小児や家族の課題に応じた目標の設定ができる。	1) 到達目標の設定 (1) 到達度が測定できる目標設定 ①対象が主体 ②主語、期限、状態、尺度の記述 ③評価日の設定 2) 発達段階、成長発達考慮した目標設定	・到着目標には、①～③の視点で記述する。 ・目標は対象が主語となるように考える。 ・到達可能な目標を設定する。
2-7	受け持ち小児や家族の看護計画の立案ができる。	1) 看護計画立案 (1) 個別性、具体性のある計画 成長発達、生活の視点、安全・安楽	・看護計画は、実践可能な内容を具体的に記述する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
3-1	成長発達や健康状態理解して日常生活の支援が実施できる。	<p>1) 発達段階に応じ小児の自立を促した日常生活の支援ができる。</p> <p>①食事→摂取行動、食習慣、自立度 乳児期→栄養評価の算出 幼児期→離乳状況や摂取状況、おやつ 学童期→治療食の意義</p> <p>②排泄→排便行動、習慣、自立度</p> <p>③清潔→清潔行動、習慣 自立度</p> <p>④睡眠→睡眠行動、習慣、起床就寝時間</p> <p>⑤衣服の着脱</p> <p>⑥遊び→児の好みや発達段階に応じた遊び 健康レベルに応じた遊び</p> <p>⑦学習→健康状態に応じた学習支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・技術を行う際には、小児の負担が最小限になるように準備を整え行う。 ・保育所実習で学んだ日常生活の援助を活かす。 ・健康な小児と健康障害をもつ小児の日常生活援助の相違点を考える。
3-2	成長発達を促す健康生活に向けた看護支援ができる。	<p>1) 健康障害の経過に応じた看護の理解</p> <p>(1) 急性期に必要な看護</p> <p>①苦痛の緩和 ディストラクション</p> <p>②安全の確保</p> <p>③状態に応じた日常生活</p> <p>④合併症予防のための支援</p> <p>(2) 回復期に必要な看護</p> <p>①再発予防のための支援</p> <p>②退院指導への参加</p> <p>(3) 周手術期に必要な看護</p> <p>①術前管理 プリパレーション</p> <p>②術後管理</p> <p>(4) 慢性期に必要な看護</p> <p>①QOL維持・向上、健康管理のための支援</p> <p>②セルフケアに向けての支援</p> <p>③社会生活に向けての支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち児の健康段階に応じた看護支援を考える。 ・児だけでなく家族から情報収集を行い、児の状態を把握する。 ・児の仕草や行動を意識し、子どもが示す反応に疑問をもち子どもと関わる。 ・発達段階に応じた支援方法の違いについて理解する。 ・子どもとその家族が安心して過ごすためには、どのような職種が関わるのか考える。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
3-4	小児の治療、処置・検査に伴う看護技術が理解できる。	<p>1) 治療・検査に伴う看護技術の見学、介助</p> <p>(1) 小児の治療・検査取り組みへの援助</p> <p>①安全に実施する支援</p> <p>②不安・恐怖を最小限とする支援</p> <p>③治療・検査への支援</p> <p>(2) 与薬</p> <p>①経口薬、②点眼薬、③坐薬、</p> <p>④注射（輸液管理）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点滴ルートの固定 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの留意点 <p>(3) 検体採取</p> <p>①採尿、②採便、③採血、④骨髄穿刺</p> <p>⑤腰椎穿刺</p> <p>(4) 経管栄養</p> <p>(5) 酸素療法</p> <p>(6) 喀痰喀出法</p> <p>(7) 導尿、浣腸</p> <p>(8) 活動制限</p> <p>(9) 隔離</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず指導者とともに行う。 ・技術内容によって、標準予防策を確実に実施する。 ・受け持ち対象以外の処置・検査の見学については、同意が得られれば積極的に見学する。 ・見学ができるか指導者に確認する。 ・見学、介助につく際は、左記(1)の①～③の視点を考える。 ・技術実施する前は、小児看護技術アドバンスを確認する。
4	子どもを尊重した看護について理解できる。	<p>1) 説明と同意</p> <p>(1) 小児と家族への病状説明に付き添う。</p> <p>2) 最小限の侵襲</p> <p>(1) 小児が受ける治療・処置が最小限となる方法を考える。</p> <p>3) プライバシーの保護</p> <p>(1) 守秘義務を守る。</p> <p>(2) 小児が治療や看護を受ける際、身体の露出を最小限にする。</p> <p>(3) 羞恥心を考えた援助を行う。</p> <p>4) 抑制と拘束</p> <p>(1) 安全のために、一時的にやむをえず身体の抑制拘束を行う場合は、説明を行い最小限になる方法を考える。</p> <p>(2) 意思の伝達</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に子どものアドボカシーを意識して看護支援にあたる。 ・小児や家族の発言や表情を観察する。 ・小児や家族からの同意を得ての側に付き添う。 ・家族から質問等があれば、看護師に報告する。 ・安易に約束はしない。 ・子どもの気持ちを考え行動がとれるようにする。 ・身体拘束と抑制の違いを理解する。 ・小児の訴えを理解し、可能な限りその要求に答える。

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
5	他部門との連携について理解できる。	<p>6) 家族からの分離の禁止 (1) 付き添いや面会について考える。</p> <p>7) 教育・遊びの機会の保証 (1) 学習や遊びへの支援 (2) 健康障害をもつ小児への学習や遊びの支援について考える。</p> <p>8) 養育者の責任 (1) 養育者の適切な行動</p> <p>1) 小児外来の特徴について理解する。 (1) トリアージ (2) 外来で行われる処置・検査の実際 (3) 継続看護の必要性 (4) 地域連携の必要性 (5) 家族への支援</p> <p>2) 病棟との連携について理解する。 (1) 入院調整 (2) 継続した健康管理</p> <p>3) 他科との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本小児学会の小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針を照らし合わせ、小児看護における倫理について考える。 ・付き添い、面会制限の必要性について、発達段階、健康レベルによって異なる意味を理解する。 ・看護師のシャドーイングから小児とその家族に対する看護について学ぶ。 ・発達段階に応じた関わりについて学ぶ。 ・状態が著しく変化する子どもに対する看護を理解する。 ・子どもの状態変化に伴う家族に対する看護について理解する。
6	実習で学んだことをまとめることができる。	<p>1) 実習での学びを発表する。 テーマ 「病棟実習を通して学んだこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち対象とその家族との関わりを通しての学び ・今後の自己の課題 上記をまとめたものを所感とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習4日目に所感発表を行う。 ・学生が主体となり司会、発表順番を決定し進行する。 ・リーダーは、所感発表時間を事前に調整する。

VII. 小児（科）外来実習

1. 目的・目標

【目的】

小児外来の特徴を知り、小児外来における看護の役割を学ぶ。

【目標】

1. 小児科外来の特徴を理解する。
2. 小児外来における看護技術を理解する。
3. 小児外来における保健指導を理解する。
- 4.

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1	小児科外来の特徴を理解できる。	1) 小児外来オリエンテーションを受ける。 ・構造・機能について 診察室、隔離室、処置室、観察室 授乳室、計測室、待合室	・構造・機能について説明を受ける。
2	小児外来における看護技術を理解できる。	外来看護師の子どもと家族への支援場面を見学し説明を受ける。 1) 外来におけるトリアージ ・問診と診察前の情報 ・健康段階の把握、観察 2) チーム間での情報共有 ・安全対策、感染対策 3) 看護支援技術 ・バイタル測定、身体計測、検体採取 ・処置、検査 ・診療・診察の補助	・外来における、問診から診察、検査、処置の一連の流れを理解し看護師の役割を知る。 ・苦痛を最小限とした看護技術について考える。 ・看護支援時の安全・安楽に留意しながら見学する。 ・発達段階に応じた関わりの違いを理解する。 ・入院時の外来と病棟との連携を理解する。
3	小児外来における保健指導を理解できる。	1) 多職種や地域連携の実際を見学 ・病棟間、地域間との情報共有 ・小児看護における多職種連携 ・予防接種、検診 ・継続看護	・地域で生活する小児への必要な支援方法の見学をする。 ・医療的ケアが必要な子どもへの支援方法への見学をする。
4.	カンファレンスに積極的に参加できる。	1) 学生カンファレンス テーマ 「外来実習での気づきと学び」	・カンファレンスのテーマ通して看護に対する考えを深める。 ・実習での学びを共有し、エビデンスに基づき学びを深める。

VIII. NICU 実習

1. 目的・目標

【目的】

NICU の構造と機能、看護の役割について学ぶ。

【目標】

1. NICU の特徴を理解し看護師の役割について考える。
2. NICU に入院している子どもと家族への看護について考える。
3. 見学したことをエビデンスに基づき再学習できる。

2. 実習内容及び方法

目標	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1.	施設の構造的、機能的特徴を理解できる。	1) 施設オリエンテーションを受ける。 ・構造、設備、管理、日課 ・看護方針、看護体制 ・入室時の心得、注意事項 ・安全・感染対策、災害対策	1) 実習前オリエンテーションを振り返り実習に臨む。 2) 事前学習と照らし合わせながら学びを深める。
2.	低出生体重児の特徴と看護支援を理解できる。	1) NICUへ入室となる児の特徴を理解する ・在胎週数 ・出生時体重、児の状態 2) 体温、呼吸、循環の管理について理解する。 ・全身状態の観察 ・保育器。人工呼吸器管理 3) ディベロップメンタルケアの特徴を理解する。 ・外的ストレスを最小限にしたケア ・ポジショニング、タッチング ・栄養 ・児との触れ合い（面会、メッセージノート）	・低出生体重児の定義を理解しておく。 ・低出生体重児の生理的機能的特徴を再学習し理解を深める。 ・閉鎖型・開放型保育器の特徴の違いを理解する。 ・先天性奇形をもつ親の心的変化を事前学習し、親の気持ちを考えた行動がとれるようにする。
3.	カンファレンスに積極的に参加できる。	4) 多職種連携 ・退院支援、周産期ネットワーク 学生カンファレンス テーマ 「実習での学びと気づき」	・学びを共有しNICU看護について理解を深める。 ・見学したことをエビデンスに基づいた再学習する。

NICU 見学実習項目

1. 施設の構造・機能的特徴
①室温 ②湿度 ③採光 ④騒音 ⑤緊急対応 ⑥感染対策 ⑦安全対策
2. 低出生体重児の特徴と生命管理
①週数 ②体重 ③体温 ④保育器 ⑤人工呼吸器 ⑥循環管理
3. ディベロップメンタルケア
①ポジショニング ②タッチケア ③母乳栄養 ④音環境、光環境
4. 児および家族への看護
①児との面会 ②オムツ交換 ③清拭・沐浴 ④栄養管理 ⑤体位変換 ⑥メッセージノート ⑥育児指導
5. 多職種連携
①退院支援 ②地域連携 ③周産期ネットワーク

IX. 学内実習

1. 目的・目標

【目的】

事例から看護過程の展開ができる。

【目標】

1. 事例を発達段階、疾病、環境、日常生活行動の4つの視点から看護を展開できる。
2. 対象の発達段階や健康段階に応じた看護を考える。
3. 小児看護学で学んだ知識をエビデンスに基づき再学習する。

2. 実習内容及び方法

目的	行動目標	実習内容	実習方法および留意点
1.	4つの視点で状態をアセスメントできる。	視聴覚教材による事例展開を行う。 4つの視点から情報分析できる。 「気管支喘息で入院した子どもと家族」 情報分析 ① 成長・発達（疾病認識も含む） ② 環境 ③ 疾病（健康段階、治療、検査・処置） ④ 日常生活行動 看護上の課題の明確化 看護計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> ・気管支喘息の病態、治療、検査・処置、看護について事前学習し実習に臨む。 ・視聴覚教材で示している子どもや家族の反応をメモしアセスメントに活用する。 ・健康段階を考え、看護上の課題を抽出する。 ・子ども、家族の視点で個別性のある看護計画を立案する。
2.	状況に応じた看護を考えることができる。	子どもとその家族に対する場面シミュレーションを通し、状況に応じた看護を考えることができる。 1. 児の状態の観察 2. 発達段階と場面に応じたコミュニケーション 3. バイタル測定とフィジカルアセスメント 4. 急変する子どもへの看護	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階を意識し、子どもの関わり方について考える。 ・自己の思いや考えをメンバーへ伝え対象に必要な看護を考える。 ・活発な質疑応答を行う。 ・情報共有し支援を考える。
3.	児看護学で学んだ知識をエビデンスに基づき再学習できる。	カンファレンス 「シミュレーションでの学び」 知識の確認問題 解答・解説	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを共有し学びを深める。 ・自己の課題を明確にし今後の看護実践に活かせるよう再学習する。

X. 実習要領

1. 実習ファイルについて

1) ファイルの綴じ方

- ・実習記録には、インデックスを付け新しい日付が上になるように綴る。
- ・技術経験録、Step up スケールは、実習ファイルと別に提出すること。

【実習記録】

1. 小児看護学実習自己評価表
2. こども園・保育所（園）実習記録
3. 医療型障害児入所施設実習記録
4. 病棟実習記録
5. 看護過程（基本情報、関連図、看護計画）
6. 指導計画書および作成した成果物
7. 外来実習記録
8. 事前、事後学習
9. 学内で使用した資料等

2) ファイル提出

- ・2週目が病棟実習の場合は、領域実習終了日の17:00までに提出。
- ・3週目が病棟実習の場合は、次の領域実習初日の17:00までに提出。

XI. 小児看護学実習評価

組 学籍番号

氏名

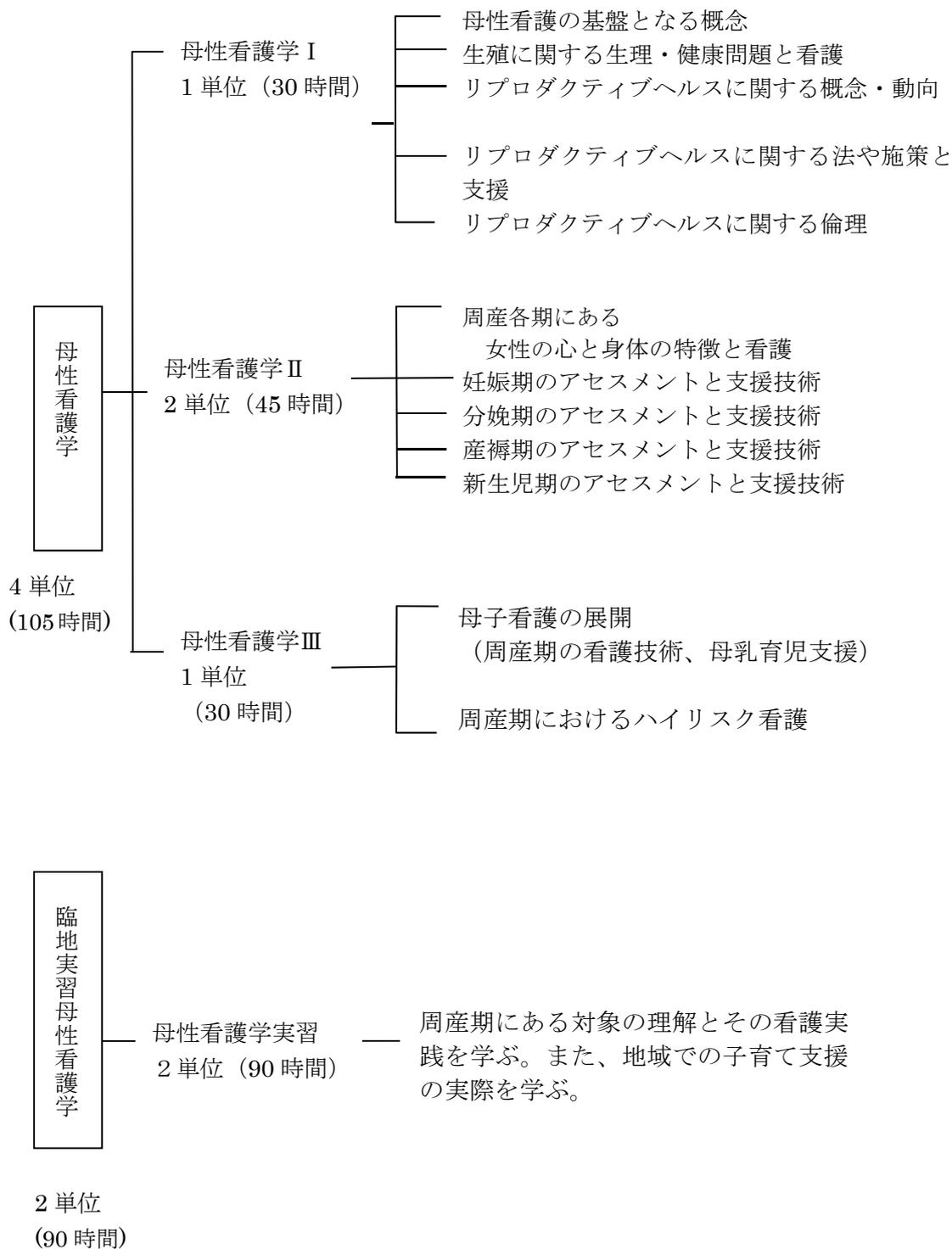
学習活動	評価の観	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A	B	C
子どもの成長発達と日常生活支援 (食事・排泄 清潔・睡眠 活動・休息)	関心 意欲 態度	1) 乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、生活習慣確立に向けた支援ができる。	事前学習 記録物 実習場面 レク企画 レクレーション リフレクション	乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、生活習慣確立に向けた支援ができる。	乳幼児期の成長発達の特徴を理解し、助言のもと生活習慣確立に向けた支援ができる。	乳幼児期の成長発達の特徴を理解しているが、生活習慣確立に向けた支援ができない。
		2) 医療型障害児入所施設における子どもの発達の個別性と看護の役割が理解できる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	医療型障害児入所施設における子どもの発達の個別性を考え看護の役割について理解する。	子医療型障害児入所施設における子どもの発達の個別性と看護の役割のいずれかが理解できる。	子医療型障害児入所施設における子どもの発達の個別性と理解と看護の役割が理解できない。
子どもとのコミュニケーション	表現 思考 判断	3) 発達に応じた子どもとのコミュニケーションを図り、関わりができる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション 自作エプロン レク企画	子どもとのコミュニケーションを図り発達や個性に応じた関わりができる。	支援を受け子どもとのコミュニケーションを発達や個性に応じた関わりができる。	子どもと関わりやコミュニケーション図れない。
子どもの安全管理	関心 思考 判断	4) 子どもの安全・安楽、自立を配慮した安全管理ができる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	子どもの事故防止・安全対策・感染予防を理解し実践できる。	子どもの事故防止・安全対策・感染予防を理解できる。	子どもの事故防止・安全対策・感染予防を実践できない。
小児と家族への支援	知識 思考 判断	5) 小児の身体的、精神的、社会的側面の特徴を理解し、日常生活の支援ができる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	小児の身体的、精神的、社会側面を理解し、個性を踏まえた日常生活の支援ができる。	小児の身体的、精神的、社会側面を理解し、日常生活の支援ができる。	小児の身体的、精神的、社会側面の理解及び、日常生活の支援ができない。
	知識 思考 判断	6) 小児の健康段階を捉え家族を含めた支援ができる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	小児の健康段階を捉え、意識し家族を含めて支援できる。	小児の健康段階を捉えた支援ができる。	小児の健康段階を捉えた支援ができない。
多職種との連携	知識 関心 理解	7) 小児保健医療福祉チームの中で、多職種との連携を理解できる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	小児保健医療福祉チームの中で、他職種との連携がわかる。	小児保健医療福祉チームの中で、他職種との連携を考慮することができる。	小児保健医療福祉チームの中で、他職種との連携を理解できない。
子どもを取り巻く社会資源	知識 理解 態度	8) 子どもを取り巻く法制度と社会資源について理解できる。	事前学習 記録物 実習場面 カンファレンス リフレクション	子どもを取り巻く社会資源や法制度について理解できる。	子どもを取り巻く社会資源について理解できる。	子どもを取り巻く社会資源について理解できない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	Aすばらしい \ (^o^)/	Bいいね (*^_^*)
考え抜くカシキンケン	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出すカアクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A ずばらしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで動くカチームワーク	発信力	技能・表現 思考・判断	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的データ を用いて、伝えることができ る。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思 いを伝えることができ ない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こ うとする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができな い。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断・技能・表現	12) 守らなければなら ないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A 素晴らしい \(\sigma\)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと (\^o^)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



II 母性看護学実習の目的・目標

目的

母子保健医療活動から、周産期における対象の健康課題を理解し、支援できる基礎的能力を培う。また、地域における母子の特徴を理解し、健康生活支援の実際から、母子保健医療チームの一員としての役割を学ぶ。

目標

- 1 妊婦・産婦・褥婦および新生児の変化を総合的に捉え、看護師の指導のもと基本的支援の実践ができる。
- 2 妊娠・分娩・産褥期における母子関係及び、家族の役割獲得の支援について理解を深める。
- 3 生命誕生への畏敬の念、自己の母性・父性意識を発展させ、看護職としての自己の成長につなげる。
- 4 妊産褥婦および新生児の安全・事故予防に配慮し看護師の指導のもと技術の実践ができる。
- 5 保健医療福祉チームの支援体制を理解し、チームの一員としての役割を理解することができる。

III 実習体系・実習場所

実習体系

臨地実習 母性看護学 — 母性看護学実習 — 周産期にある対象の理解とその看護実践を学ぶ。また、地域での子育て支援の実際を学ぶ。
2単位 90時間 2単位 (90時間)

実習場所

病院実習

- ・友愛医療センター
- ・沖縄赤十字病院
- ・糸数病院
- ・南部徳州会病院
- ・たから産婦人科

地域実習

- ・子育て支援センター ぬくぬく
- ・子育て支援センター ふれんど
- ・子育て支援センター ていんさぐ
- ・子育て支援センター ほるとの家
- ・子育て支援センター 柿の実ひろば
- ・子育て支援センター うえばる一む
- ・子育て支援センター 南風
- ・子育て支援センター ぬくぬく
- ・子育て支援センター ぽかぽか
- ・子育て支援センター まかべ
- ・母子未来センター

実習計画

1. 実習計画

病院：8時00分～15時00分（実習時間8時間：休憩60分）

学内：9時00分～15時45分（実習時間7時間：休憩90分）

母子未来センター：9時00分～12時45分（実習時間5時間）

子育て支援センター：9時00～16時00分（実習時間8時間：休憩60分）

※施設の状況, 実習内容により、実習開始時間が異なることもある。

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	学内	病棟	病棟	病棟	病棟
内容	オリエンテーション 技術練習 シミュレーション 学習	オリエンテーション シャドウイング 情報収集 カンファレンス	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病棟	外来	外来	母子未来センター	子育て支援センター
内容	情報収集 ケアの実際 カンファレンス 看護展開	ケアの実際 保健指導 カンファレンス 看護展開 外来	ケアの実際 保健指導 カンファレンス 看護展開 外来	地域の母子保健活動 の実際	子育て支援の実際
	11日目	12日目			
場所	学内	学内			
内容	子育て支援実習の まとめ	グループディスカ ッション 終了カンファレン ス			

※施設の状況により、外来・子育て支援センターの曜日については、変更あり。

2. 実習行動目標及び実習内容

1) 産婦人科病院実習

①妊娠期

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1 4-1 5-1	外来オリエンテーションを受け、妊婦の看護に必要な支援方法を知ることができる。	1) 産科外来オリエンテーションを受ける。 施設・構造・業務の流れ・外来診察の特殊性と援助時の留意点など	・実習前講義において、産科外来の概要を理解する。他施設との連携を知る。
1-2	妊娠各期の妊婦の定期健康診査の目的・内容・方法を理解し説明できる。	(2) 妊婦の観察と計測により母体の変化や胎児の発育を知り、正常な妊娠経過を理解し、援助する。	・健診に訪れた正常な経過をたどる妊婦（初期、中期、後期）を来院時から健診終了まで受け持ち、支援の実際を学ぶ。
1-3	妊娠月数に伴う生理的变化を説明できる。	①母体の変化：皮膚、姿勢の変化 循環・浮腫、血液・血圧、呼吸、消化器、泌尿器・尿検査、内分泌・体重・生殖器・腹囲・子宮底	・母子健康手帳、外来カルテから妊娠週数を確認し、妊娠の経過を確認する。（異常の有無、合併症や感染症の有無）
1-4	妊婦に行われる検査の必要性と生殖器に関わる支援方法への羞恥心への配慮の必要性が理解できる。	②胎児の発育：胎位胎向、児心音の聴取など ③血液検査：血液型、血液検査、梅毒血清反応、HB 抗原、風疹抗体 ④超音波検査：胎児画像、子宮内胎児の位置、胎児数、羊水量、頸管長	・実践する看護技術については、事前学習及びモデル人形で練習してから実施する。 ・支援の実施時は妊婦に負担をかけないように手早く行う。
1-5	胎児の発育状況の説明を受け、学習した技術については一部実施できる。	⑤腹部触診（レオポルド触診法） ⑥妊娠線、腹直筋の離開、母体の腹部の観察	・診察台への昇降時は安全と不要な露出がないように配慮する。
1-6	妊婦の心身へ配慮しながら診察時の補助と一部支援の実施ができる。	⑦胎児心拍の聴取：数・リズム ⑧内診の介助（ビショップスコア） ⑨分娩監視装置の装着 （目的・留意点・装着の仕方・判読）	・カーテン越しでの不要な会話やヒソヒソ声、笑い声は慎む。 ・モニター装着時の留意点を踏まえての観察する。 （仰臥低血圧症候群に注意する）
1-7	妊婦の心理・社会的特徴を理解し、母親役割受容過程を理解できる。	(3) 妊娠各時期（初期・中期・後期）の妊婦を来院から健診終了までを受け持ち、妊娠経過の判断、ハイリスク因子の有無を知る。 (1) 妊婦の心理的特徴を知る。 ①肯定的感情、②否定的感情 (2) 母親役割受容に及ぼす因子 ①妊娠の社会、文化的因子 （望まない妊娠・経済的影響・家族関係）	・妊婦の母親役割受け入れ状態、妊婦の反応等の精神的ニードを、コミュニケーションを通して把握する。

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-8	妊婦の生活上の留意点を述べることができる。	(1) 日常生活行動について: 食事、排泄、清潔、服装、履物、運動、労働、体位、姿勢、睡眠、休息、性生活、嗜好品、学習	・妊婦の日常生活に問題はないか、得られた情報から考える。
1-9	妊婦に応じた保健指導の必要性と指導方法について理解できる。	(2) 妊娠各期の妊婦の保健指導見学 ①妊婦健康診査の必要性と妊娠の届け出、母子手帳の交付および活用法の説明(公費による妊婦健診、妊娠証明書) ②生活指導 ③不快症状(マイナートラブル) ④分娩に向けて物品の準備・心の準備 育児経験の有無、育児用品の準備、出産後のソーシャルサポート、勤労、経済 ⑤集団指導(両親学級・安産学級・母乳学級)を見学・参加する(目的・指導内容の理解)	・見学前にあいさつと自己紹介を行い承諾を得てから見学する。 ・指導者と対象者との関わり場面を通してコミュニケーション方法について学ぶ。 ・妊婦健康診査について事前に学習して臨む。
1-10	母子健康手帳意義・使用方法が理解できる。		・妊娠中のマイナートラブルや異常について事前に学習して臨む。
1-11	正常から逸脱した妊娠が母児に及ぼす影響が理解できる。	(3) 異常妊婦への保健指導を見学 ①妊娠悪阻、妊娠性高血圧症、多胎妊娠、妊娠性糖尿病、骨盤位妊娠、妊婦貧血、妊娠中の出血、切迫流早産 ②医師やスタッフの対応から、妊婦への心理的援助を捉える。	・機会があれば、切迫流早産や胎盤位置異常、妊娠性高血圧症、多胎妊娠などの妊婦の看護を事前に学習して臨む。
1-12 5-1	産褥1ヶ月の母体の変化を知り、妊娠から産褥期までの継続看護の必要性が理解できる。	(1) 産後1カ月健診や母乳外来等の見学	・退院後の母子への支援について事前に学習して臨む。 ・入院中の経過や、退院後の経過を情報収集し、どのような支援が提供されているか意識して臨む。 【事前学習】 ・妊娠期ノートの整理および追加

②分娩期の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-13	産婦・及び胎児の分娩経過を理解し、観察と支援方法が理解できる。	(1) 分娩開始の徴候について学ぶ：胎児子宮底の下降感、胎動減少、頻尿、子宮頸部の熟化頸管の分泌物増加、前駆陣痛、産徴	・正常分娩経過について事前学習のノート、資料は整理し、必要に応じ提出する。
1-14	産婦の分娩の前兆と分娩の3要素、分娩の転機について述べることができる。	(2) 分娩の3要素（娩出力、娩出物、産道） (3) 第1期・第2期の産婦の観察と援助 ①入院時の問診，前処置（半剃毛，浣腸）の見学 ②陣痛の測定，児心音聴取，羊水の観察 ③分娩機転と胎児の娩出様式，産婦の怒責，体位・短息呼吸の時期，一般状態や産婦の心理的变化，胎盤娩出後の子宮の状態，精神的慰安，産痛の緩和，水分補給など ④産婦に対して呼吸指導，補助動作など	・可能であれば分娩第1期から受け持ち，産婦の看護を学ぶ。 ・分娩参加は，学生の立つ位置を考え，産婦の羞恥心に配慮する。 ・分娩の進行状態や把握に関しては，モニターやパルトグラムから情報を得て，わからない点は積極的に質問し理解を深める。
3-1	分娩見学を通して分娩の喜びを共有・共感・支援することができる。	(4) 分娩第3期の産婦観察と援助をする。 ①胎盤剥離徴候，胎盤娩出時刻の確認と娩出後の子宮収縮，一般状態，胎盤の観察と計測 ②子宮収縮，輪状マッサージ，冷罨法 ③産婦へねぎらいの言葉かけ	・産婦や夫、家族への分娩進行状態の説明場面を見学し、対象及び対象者と関わり方を学ぶ。
3-2	分娩参加を通して母性・父性について、また生命の尊さについて考えることができる。	(5) 分娩第4期の産婦観察と援助をする。 ①子宮収縮，出血，裂傷の有無と部位，外陰部，肛門部の状態，後陣痛，産婦の一般状態 ②冷罨法，全身清拭，導尿，帰室時のオリエンテーション，疲労回復のための援助の方法 ③分娩に関する諸記録	・分娩に参加させていただいた感謝の表現と，産婦へのねぎらいを忘れない。また，産婦に自信を持たせることが，母親役割への動機づけとなる

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-15	分娩経過に応じて産婦の基本的ニーズの充足への支援方法を知ることができる。	(6) 分娩経過は順調か判断の根拠がわかる (7) 産婦及び家族の言動, 表情, 態度から分娩経過中の心理的状态を推察できる。	・分娩経過に応じた産婦の行動範囲について学習する。 (就床時間、体位と姿勢、食事、清潔、排泄、衣服、睡眠と休息、補助動作、リラックス法)
2-1	母子関係の形成への支援ができる。	(8) 母子関係, 親子関係がよりよく発展するための援助について知る。 ①分娩直後の早期母子接触 ②褥室移動前の母子接触 ③父親および家族と児の接触 (9) 夫・家族への配慮	・母子早期接触の場面の見学, 指導者の援助場面から学ぶ。 【事後課題】 ・分娩参加後の感想の提出 (原則として翌日、800以上1000字以内・表紙なし) *参加していない学生は、受け持ち褥婦との <u>コミュニケーション</u> や <u>助産録</u> を通して分娩期の支援を記載する(インタビューではない) 実習最終日提出

③褥婦の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-16	褥婦の情報収集ができる。	1) 褥婦とのコミュニケーション及び病棟申し送りやカルテなどから情報収集をする。	妊婦期（胎児）・分娩期及び産褥早期・新生児の情報を踏まえ情報収集を行う。 初回の訪室は、指導者又は教員と行き、アセスメントにつなげる。
1-17	褥婦の情報からアセスメントすることができる。 褥婦が正常な経過をたどれるように個別に応じた看護計画の立案ができる。	2) 授乳場面や指導者の関わりを見学し、観察点や支援を考える。 3) 予め、立案したスタンダードプランを、受け持ち褥婦にあったプランに修正・追加し実施する。 4) 正常な産褥経過の理解と経日的観察 ①退行性変化：子宮の変化、後陣痛の有無、悪露の変化、外陰部および縫合部の変化、痔、腹壁の変化、早期離床の意義、授乳と子宮復古との関連 ②進行性変化：乳頭・乳房の変化、乳汁分泌の機序、授乳間隔、乳管開通・乳房マッサージ法、搾乳法 ③全身の変化：疲労度、睡眠、栄養、活動 ④心理状態：心理変化を捉える（エジンバラ産後うつ病調査表・マタニティーブルスコア）、母子関係	<受け持ち選定> ・褥婦を4～5日間受け持つ。（可能であれば分娩第1期から受け持つ） ・支援および実施については、バイタル以外の観察・支援技術は指導者・教員と共に実施する。 ・ケースカンファレンスを通して学習を深める（実習2日目） ・ケアプランにおいて、効果が見られない計画については、再度アセスメントし計画の修正を図る。 ・看護上の課題はウェルネス型とリスク型を中心に考える。 ・ルービンの適応過程（受容期・保持期・開放期）から考える。
1-18 2-2	母児関係成立に向けて母親役割適応への支援ができる。	5) 褥婦への援助を見学および実施 ①母乳育児支援：乳汁分泌促進の援助 早期授乳、乳頭、乳房マッサージ、授乳姿勢、乳頭の含ませ方 ②早期離床、悪露交換、温座浴、腹帯、産褥体操 ③ 日常生活への援助：睡眠、食事、排泄、活動、清潔 ④ 褥婦の育児技術の観察と支援 ・授乳、抱き方、衣類の着脱、清潔、環境調整 ⑤母児相互作用：みつめる、触れる、話しかけ、表情やしぐさの観察、母児の接触などの場面での支援	・褥婦の反応や状態変化を経日的に捉える。 ・母子関係については、ボウルビーの愛着（アタッチメント）、クラウスとケネルの絆形成から考える。

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-19	褥婦への保健指導を見学・実施することができる。	<p>⑥退院後のサポート（夫や家族の支援）、育児環境（上の子の世話、住居環境など）</p> <p>6）保健指導の見学及び一部実施をする。</p> <p>①個別・集団指導の見学 調乳指導，初回授乳指導，産褥体操，退院指導，家族計画指導，育児指導</p> <p>（6）保健指導の実施 対象者に合った方法（パンフレット・リーフレット・説明など）で、適切な時期に保健指導を計画・実施する。</p> <p><項目> 乳頭・乳輪マッサージ、乳房マッサージ、授乳、搾乳、温座浴、社会資源、新生児の生理、沐浴、育児技術、家族計画、退院後の生活など</p>	<p>・母児関係成立に向けての支援を見学し、看護としての役割を考える。</p> <p>・指導者の場面の見学及び指導者・教員と共に行う。</p> <p>・褥婦のセルフケア能力に応じた内容を考える。（家族のサポート力の把握）</p> <p>・褥婦の状況に応じた適切な時期に実施できるようにする。</p> <p>・学内で作成したパンフレットを用いて個別に応じた内容に修正し、実施する。（一部コピーし、保管）</p> <p>【事前学習】 ・産褥期ノートの整理および追加</p> <p>【事後課題】 母性実習を終えて、母性、父性意識がどう変化したかについて体験から得られたことをまとめる。（実習終了後のファイル提出時。A4レポート用紙、表紙付き2枚以内）</p>

④新生児の看護実習目標および実習内容

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-20	新生児室の特殊性を理解し、生活環境を整えることができる。	<p>(1) 新生児のオリエンテーションを受け、生活環境としての新生児室の特殊性を理解する。</p> <p>①新生児室の構造設備、管理 ②入室時の心得、留意点</p> <p>(2) 生活環境を整える ①室温、湿度、採光、騒音、塵埃等 ②新生児のベッド作成</p> <p>(3) 新生児の看護の原則・根拠 ①保温、②感染予防、③呼吸の確立、④愛護、⑤異常の早期発見 ⑥安全・感染予防</p>	<p>・オリエンテーションを受け、翌日からの実習計画につなげられるようにする。</p> <p>・褥婦と共に受け持ち新生児を選定する。(1日目)</p> <p>・一処置一手洗いの励行</p> <p>・新生児室の日課にそって計画した内容を見学あるいは実施する。(2日目～)</p>
1-21	新生児の生理的特徴を理解し、観察ができる。	<p>(4) 新生児の生理的特徴を理解し、観察する。 姿勢、体温、心拍、呼吸、生理的体重減少、生理的黄疸、排尿、哺乳、溢乳、原始反射など</p> <p>(5) 全身状態の観察を行う。 バイタルサイン測定、身体計測、哺乳量測定、黄疸計測など</p>	<p>・新生児を養護し尊重されるべき人として援助する</p> <p>・援助技術については、担当者または教員の指導の下で行う。</p>
1-22	新生児の胎外生活への適応過程を促す支援方法が理解できる。	<p>(6) 新生児の胎外生活への適応過程を観察する。</p> <p>①肺呼吸の確立、 ②循環の変化(胎児循環から新生児循環へ変化) ③体温調節(熱喪失など) ④新生児の感染防御力など</p>	<p>・安全・安楽に留意して行う。</p> <p>・援助の際は語りかけ、児の反応に関心を向け、タッチングを心がける。</p> <p>・熱喪失が、どういう状況でみられるか考える。</p>
1-23 4-1	新生児への日常生活支援ができる。	<p>(7) 新生児への日常生活の援助</p> <p>①寝かせ方、抱き方、 ②清潔保持：おむつ交換、沐浴、臍処置、衣服着脱 ③栄養：初回授乳、排気のさせ方、生後日数にあった哺乳量 哺乳量の算出 ④保育環境の調節：室温、湿度 ⑤安全の確保：窒息防止、転落防止、取り違え防止、感染予防</p>	<p>・児の日常生活支援の際や、褥婦への児の受け渡し時は、ネームバンドとコットの名札の確認を行う。</p>

目標	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-24	出生直後の新生児への援助が理解できる。	<p>(8) 光線療法時の看護。</p> <p>(9) ガスリー検査, 採血の場面, ビタミンK²投与、聴覚スクリーニング検査を見学する。</p> <p>(10) 出生直後の新生児の援助を見学する。 気道確保, 臍帯の結紮・切断, アプガースコア, 新生児識別表の装着、沐浴, 点眼, 早期母児接触, 父親、家族との対面の援助など</p>	<p>・光線療法時の看護を見学・実施の機会があれば行う。</p> <p>・新生児の観察表, 新生児の入室時の観察については、出生直後の観察をする機会があれば活用する。</p> <p>【事前学習項目】 1) 新生児ノートの整理および追加</p>

2) 地域実習

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1-1	地域の子育て支援に関わる施設と活動の実際を知ることができる。	<p>1. オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターの概要及び役割、機能 ・母子未来センターの概要及び理念、役割、機能、活動内容 ・それぞれの施設の概要、理念、役割、機能、活動内容 <p>2. 施設の活動の実際を見学及び関わりを通して学ぶ。</p> <p><子育て支援センター実習> 施設スタッフと母子との関わり方</p> <p><母子未来センター実習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健診、分娩の実際 ・産後ケア事業の実際 ・指導場面（関わり場面）の見学 ・離島における母子保健活動 	<p>各施設の概要及び役割機能を事前学習し臨む。</p> <p>・実習当日の活動内容を聞き、本日の行事に積極的に参加する。</p>
2-1	施設を利用している対象への思いを知ることができる。	<p>3. 施設を利用する対象の特殊性について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で生活する対象者の思いをコミュニケーションを通して理解し、退院後の母子への支援を考える。 ・施設利用に至った経緯や対象のおかれた環境を理解する。 	<p>利用者と積極的にコミュニケーションを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活環境および育児環境について聞く。 ・質問攻めにならないようにする。 ・コミュニケーションがうまくいかないときは指導者やスタッフから助言を得る。
2-2	母子やその家族の健康な生活と看護の役割を考えることができる。	<p>4. 母子への関わり方や支援方法について見学または実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフと母子との関わり方を見学し、実践する。 ・見学したことを深め、リフレクションする。 	<p>・目的意識をもって見学する。</p>

4. 母性看護学実習の進め方

1) 事前・事後学習

- ・事前学習は教科書や講義内容を基本にし、看護展開に応じた学習が確認できるよう準備する。
- ・Step up スケール及び母性看護学実習評価表の内容を熟読し、必要な学習（知識・技術・態度）を進める。
- ・Web サイトは以下のサイトを参照する
 - ・日本健康教育学会 <http://nkkgeiyo.ac.jp/portfolio/pg367.html>
 - ・週刊医学界新聞 <http://www.igaku-shoin.co.jp/paperTop.do>
 - ・日本産婦人科学会 <http://www.jsog.or.jp/>
 - ・厚生労働省 www.mhlw.go.jp/index.html
 - ・沖縄県庁 <https://www.pref.okinawa.jp/>
 - ・日本周産期・新生児医学会 <https://www.jspnm.com/aboutgakkai/gaiyo.aspx>
 - ・日本母乳哺育学会 <http://square.umin.ac.jp/bonyuu/>

2) 実習時間

病棟実習	8:00～15:00 (7:30～14:30)
地域実習	9:00～16:00 (※施設の状況に応じて変更あり)

3) オリエンテーション

- ①事前オリエンテーション（学内）において、実習施設の概要、産科病棟の特殊性および、実習実施時の留意点について説明を受ける。
- ②病棟・外来の実習初日オリエンテーションは、各施設の計画に準じる。
- ③地域実習初日のオリエンテーションは、各施設の計画に準じる。

4) 実習時の留意点

- ①母性看護の特殊性を理解し、羞恥心の配慮や秘密の保持について遵守し支援する。
- ②プライバシーに深くかかわる実習であることから、実施内容を明確にし、指導者・教員と共に相談しながら進める。
- ③新生児の事故防止に留意し、日常生活支援の際は、指導者・教員と共に行う。

5) 実習方法

[病棟]

- ・5日間で母子を受け持つ。男子学生の場合や状況に応じ、ペアでの受け持ちも可能
- ・分娩参加の機会があれば実習期間内に1回参加する。また、受け持ち対象者で見学できない場合は、産褥期の受け持ち対象者の看護展開状況を考慮し、ペアが重ならないよう調整する。
- ・受け持ち選定に際しては、指導者が対象者との事前調整を行い、受け入れを考慮する。
- ・対象者が受け持ちを拒否、または対象者の心身への負担が大きいと、指導者・教員が判断した場合は、速やかに別の対象者を選定する。
- ・産褥期にある対象者を受け持てない場合は、指導者・教員と相談し入院している妊産婦を受け持ち、その看護を学ぶ。

[外来]

- ・外来実習は、午前実習。午後に、見学・体験したい内容があれば指導者・教員と相談して進める
- ・機会があれば、婦人科健診及び病棟との連携なども見学する。

[地域実習]

- ・地域で子育てをする母子に必要な健康情報をまとめ、利用者の生活体験を聞き、情報提供をする。

[カンファレンス]

- ・ケースカンファレンスは、褥婦受け持ち2日目に設定する。
- ・日々のカンファレンスは原則として30分は設ける。個人の体験内容を発表し、グループで共有することでグループ全体の知識を深め、体験の意味づけをする。
- ・最終カンファレンスは、実習目標及び個人目標の到達できたか、母性の特徴をどのように理解したかについて自己を振り返りこれからの看護に活かせる視点を深める。

[学内実習]

<シミュレーション学習>

- ・実習初日は、産褥2日目の褥婦に対する看護についてシミュレーション学習を行い、看護についてエビデンスを確認する再学習日とする。

<子育て支援センター再学習>

- ・子育て支援センター実習で体験・見学した支援について、文献検索やDVD（動画など）用いて再学習日とする。

<ビデオ学習>

- ・母性看護技術の再学習や知識の整理を行う。

<学びの発表>

- ・最終日は、病院実習で受け持った対象に関連した看護について、学生間で学びの共有を図る。

6) 記録物・提出物

(1) 母性看護実習ノートの記録内容

1. 母性看護学Ⅲ学内実習についてのリフレクション
2. 学内実習オリエンテーション内容
3. 病院実習の行動計画、経過記録 (SOAP)、リフレクション
4. 外来実習の行動計画、リフレクション、アセスメント
5. 事前、事後学習

※ノート・ファイルともにインデックスを付け、わかりやすく表示する

(2) ファイルの綴じ方

1. ビジョンゴール
2. 自己評価表
3. レポート 下記の3つのテーマ全て
 - ・母性・父性意識の変化
 - ・分娩参加を通しての所感
 - ・地域実習を通して考えた子育て中の母子への支援
4. アセスメント・関連図・看護計画
5. 情報提供パンフレット（リーフレット）のコピー
6. 地域実習の記録用紙

1) 地域実習の行動計画は、日付の新しいのが先頭になるように綴る。

2) 子育て情報誌のコピー

※技術経験録+Step up スケールはファイルには綴らずに、同じBOX内へ提出。

※技術経験・評価記録の、「受け持ち対象一覧表」は母児それぞれで記載し、看護展開がわかるように記載

(3) ファイルの提出 : 原則として 実習終了後

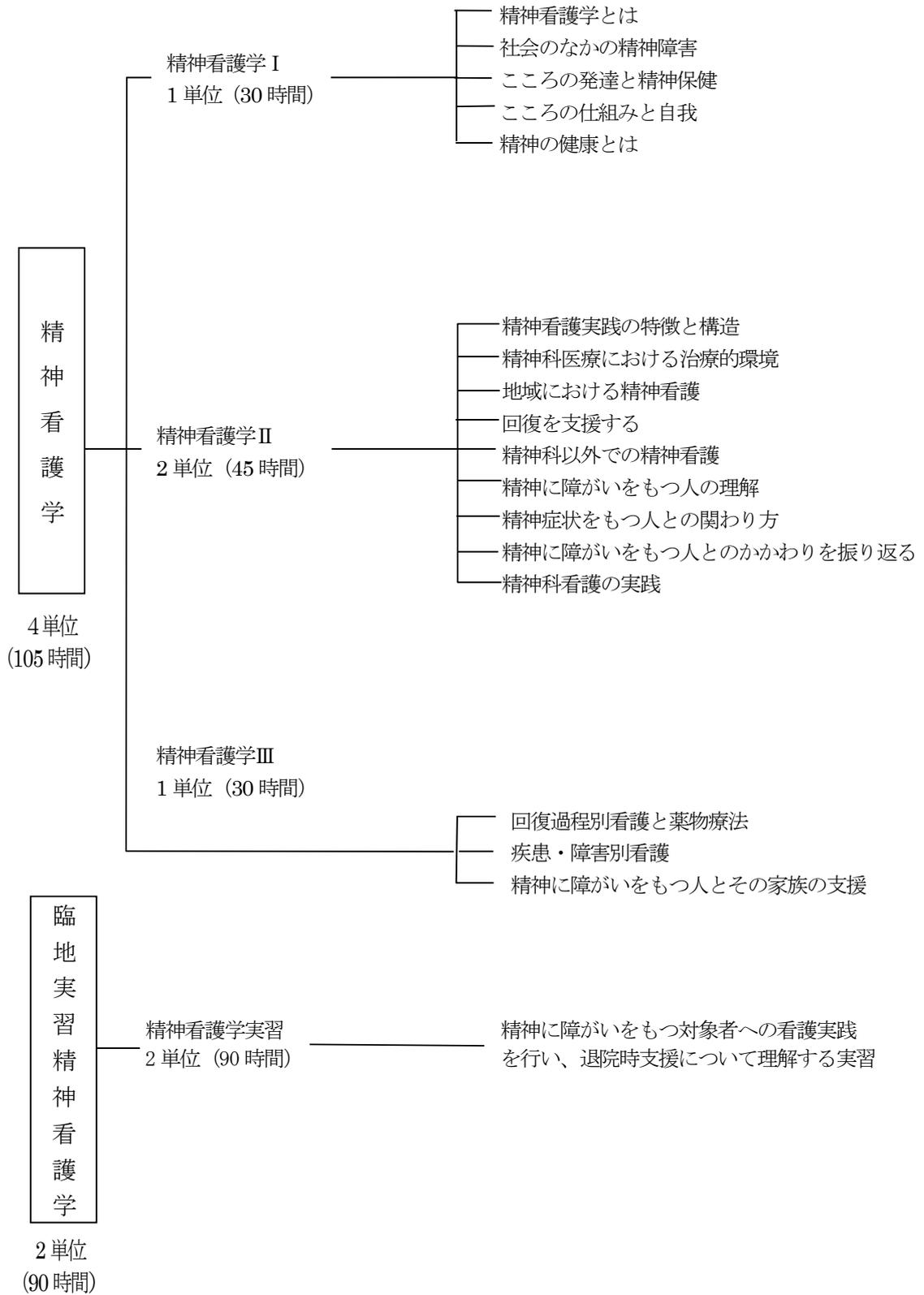
学習活動	評価の観点 関心・意欲・態度 技能・表現 思考・判断	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料 記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	評価基準 A: 5点 B: 3点 C: 1点		
				A	B	C
地域母子支援	関心・意欲・態度 技能・表現 思考・判断	1) 地域の女性および母子の生活に関心を持ち、健康生活への支援を実施できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にし、健康生活支援のための知識の提供の必要性を理解できる。	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にし、健康生活支援のための知識の提供の必要性を理解しようとしている。	地域の女性および母子の生活上の課題を明確にすることができない。
妊娠期の支援	思考・判断	2) 妊娠各期の経過に応じた変化を理解できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	妊婦・胎児の経過について理解し、述べることができる。	妊婦・胎児の経過について理解し、述べようとしている。	妊婦・胎児の経過について述べることができない。
	技能・表現 思考・判断	3) 妊婦の特性を理解し、各期に応じた保健指導が理解できる。	実習場面 記録物 リフレクション場面・記録	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べることができる。	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べようとしている。	妊婦・胎児の特性を理解し、妊娠各期の保健指導の必要性を述べることができない。
分娩期の支援	技能・表現 思考・判断	4) 分娩各期の生理に応じた、安全分娩への支援を理解できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を理解し、その支援を述べることができる。	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を理解し、その支援を述べようとしている。	分娩各期の生理に応じて、苦痛緩和、環境（人的・物的）調整をする必要性を述べることができない。
褥婦の支援	技能・表現 思考・判断	5) 褥婦の心身の変化に応じた、セルフケア確立への支援の実施ができる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	褥婦の経日的な心身の変化を理解し、セルフケア確立の視点で、支援ができる。	褥婦の経日的な心身の変化を理解し、セルフケア確立の視点で、支援をしようとしている。	褥婦の心身の変化に応じた支援ができない。
		6) 褥婦の思いに寄り添い、関わることができる。	実習場面 記録物	褥婦の子育てに対する思いを受容・傾聴し、関係づくりができる。	褥婦の思いを受容・傾聴し、関係づくりをしようとしている。	褥婦の思いを受容・傾聴できない。
新生児の支援	関心・意欲・態度	7) 新生児を養護し尊重されるべき人として理解し、関わるができる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことをしている。	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことをしようとしている。	新生児に、優しい口調で声かけ、抱く、あやすことができない。
	技能・表現 思考・判断	8) 新生児のフィジカルアセスメントを行い、日常生活支援が実施できる。	記録物 実習場面 リフレクション場面・記録	新生児のフィジカルアセスメントをし、それに応じた日常生活支援を安全・安楽にできる。	新生児のフィジカルアセスメントの必要性を理解し、それに応じた日常生活支援を安全・安楽にしようとしている。	新生児のフィジカルアセスメントができず、それに応じた日常生活支援ができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \ (^o^)/	B いいね (*^_^*)
考え抜く力 カシンキング	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントできない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力 アクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。	

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A すばらしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	思考・判断 技能・表現	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的デー タを用いて、伝えることが できる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思 いを伝えることができ ない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こう とする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができな い。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断・ 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい \(\sigma\)/	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (\^_^)
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

I 科目構成



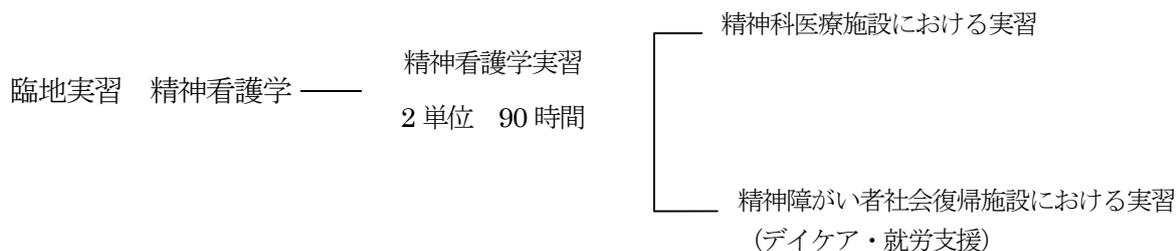
II 目的

精神に障がいをもつ人との信頼関係を構築し、成長発達・精神状態およびセルフケア、対象を取り巻く環境のアセスメントを通して、退院後の地域生活に必要なセルフケアへの看護支援方法について理解し実践できる。さらに、対象者の回復への支援とその過程を通して自己洞察力を養う。また、地域生活に必要な制度や社会資源を理解し、多職種連携のもとに必要な支援を検討し、看護の役割・機能を理解する。また対象者を支える家族の役割の理解し、家族への支援を理解する。

目標

1. 精神科医療の治療的環境の意味や精神看護の特徴についての理解し説明できる。
2. 精神看護の対象者と治療的関わりのプロセスを振り返り自己洞察を深めるとともに、治療的援助関係の構築ができる。
3. 精神看護が必要な対象者の健康状態をアセスメントし、看護師の指導のもと対象者に必要なセルフケア支援が展開できる。
4. 精神保健医療福祉チームの中で看護の役割と対象者の地域生活を支える地域包括ケアシステムについて説明できる。

III 実習体系・実習場所



実習場所

医療法人へいあん	平安病院 就労支援わくわく 自立訓練事業所経塚苑 平安デイケア
医療法人天仁会	天久台病院 指定障害福祉サービス事業所 天樹苑 天久台デイケア アルファ
社会医療法人葦の会	オリブ山病院 デイケアがじゅまる 就労施設わきみず

実習計画

1. 実習時間 病院：8時00分～15時00分（実習時間8時間：休憩60分）
 学内：9時00分～16時30分（実習時間8時間：休憩90分）
 地域：8時30分～12時15分（実習時間5時間）

2. 実習スケジュール

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	病院	病院	病院	学内	病院
内容	オリエンテーション 患者選定 情報収集 カンファレンス	情報収集 コミュニケーション ケア見学、同行 カンファレンス	情報収集 コミュニケーション ケア実践、同行 プロセスレコード検 討会（1回目） カンファレンス	ケアの根拠を明らか にするための文献検 索 カンファレンス	ケアの実践 ケースカンファレン ス
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病院	病院	病院	地域	地域
内容	ケアの実践 カンファレンス	ケアの実践 プロセスレコード検 討会（2回目） カンファレンス	ケアの実践 カンファレンス	デイケア体験見学 就労支援体験見学	デイケア体験見学 就労支援体験見学
	11日目	12日目			
場所	病院	病院			
内容	ケアの実践 地域連携図の発表 カンファレンス	病棟交換実習 最終カンファレンス カンファレンス			

IV 精神看護学実習

【実習内容及び実習方法】

	行動目標	実習内容	実習方法・留意点
1-1)	精神に障がいを持つ対象を取り巻く治療的環境の意義や看護の特性について説明できる。	<u>病院のオリエンテーション</u> 1) 病院の理念・役割と機能 2) 病院全体の構造 3) 各病棟の概要 4) 各部署との連携 <u>病棟のオリエンテーション</u> 1) 看護体制 2) 病棟の構造・配置・役割 3) 物品の配置場所 4) 閉鎖・開放・健康の段階との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習「法的根拠に基づいた入院形態や精神科病院における処遇」、また、オリエンテーションと事前学習を照らし合わせて理解を深める。 ・治療環境、人的環境について調べる。 ・精神科における医療安全や治療環境の繋がりを調べる。
1-2)	精神科における権利擁護に関する法律と制度の重要性について説明できる。	1) 人権への保護の方法と体制 2) 行動制限、代理行為 3) 安全面 施設 危険物の管理と種類 保護（隔離）室 事故防止対策（離院、自傷他害） 4) 信書（電話・書簡）の自由 5) プライバシーの保護	<ul style="list-style-type: none"> ・初日に精神科や各病棟の特殊性「精神科病院の入院・治療、看護ケアのに必要な説明は、倫理・尊厳・人権に対する行為であり、障害者基本法の重要な要件」についてカンファレンスを行う。 ・精神科における人的環境について理解し実践に反映する。
1-3)	精神科における治療的環境や人的環境が精神に障がいをもつ対象に及ぼす様々な影響について説明できる。	1) 看護者や医師・コメディカルスタッフの対象関わり方と関係性 2) 入院患者・同室者などとの関係性 3) 家族との関係性 4) チーム医療のもつ人的環境の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・入院している方々との関わり方や個別的関わり方の意図を考える ・看護師や医療従事者の関わり方を観察し、倫理的思考や配慮・態度とは何かを考える。
1-4)	精神科における、障害者基本法に基づいた倫理・尊厳・人権を理解し、倫理的思考、態度の重要性について説明できる。	1) 入院時の病棟看護師の対応 2) 入院時のオリエンテーション 3) 保護室における看護 (1)入室時の説明と同意 (2)看護ケアの説明と同意 (3)法に定められた健康観察と看護支援の意味や意図 4) 病棟入室・外出時の対応 (1)健康状態 (2)健康段階 (3)個人 (4)病棟（病棟の特徴と特性）	<ul style="list-style-type: none"> ・誠意ある態度で接し、対象を尊重し、関心を持って関わる。

2-1)	受け持ち対象者を健康回復支援のパートナーとしての関係性を構築することができる。	1) 境界線（バウンダリー）の理解 (1)距離感を探りながら関わる (2)意図的な対象者と位置関係 (3)パーソナルスペース 2) コミュニケーション技術 (1)傾聴 受容 共感 間 沈黙 3) 反応を観察する。 言動 行動 表情 主体性 受動性 会話の内容 4) 受け持ち患者の発する言葉 行動の意味 5) 説明と同意 6) 共感的理解 (1)感情と言葉と行動の一致	・第一印象を大切に関わる。 ・対人関係論：対人関係援助技術の冊子の内容を活用し、原理原則を基本に関わる。 ・受け持ち患者と関わり相互作用意識して関わる。 ・日々のかかわりの中でも感情と言動、行動を意識する。 ・プロセスレコードの評価を活かし関わる。
2-2)	精神に障がいをもつ対象者に関心を持ち、倫理的態度で関わるができる。	1) 対象者の考えや変化、自己決定健康回復のため支援 2) 対象者と一緒に、問題解決に対する、目標や解決策を考え支援 3) 対象者の日課の把握 4) スケジュール調整	・対象者との関わりや同行する時、身体に触れる際などは必要性を説明や確認を行い、同意を得る。 ・対象者の生活リズムや日課を把握し、スケジュール調整は相手の意見をくみ取り実施する。
2-3)	プロセスレコードを通して自己洞察・自己理解を深めることができる。	1)患者と看護者の相互作用の分析 (1) 関わりの変化 (2) 互いの変化 2)自己のコミュニケーション特徴	・プロセスレコード検討会は実習3日目に実施する。プロセスレコード検討会マニュアルに準じて、進行する。
2-4)	受け持ち対象者のその日、その時、その状況の言動の意味をアセスメント、治療的コミュニケーションを実施できる。	1)対象者の言動の理由を考察し、症状や病態、提供されている治療と看護と関連づけてアセスメント (1)対象者の状態観察(発言と行動) (2)生活療法(生活支援) (3)生理的ニーズの充足 2)チームの意見・アセスメント・ 3)看護判断と具体的なTPの実践 4)治療的コミュニケーション (1)傾聴.幅のある切り出し.反復換言.明確化.焦点化.探索.現実の指摘・沈黙・自己開示	・対象者との関わりの中で感じた「異和感」「気づき」を大切に理論を活用し分析する。 ・検討会を通して、一致しない原因を分析し、指導や助言などのサポートを受ける。 ・偏見があったとしても、ありのままの自分を受け入れる。 ・対象者の生きにくさは何か、その要因を考え支援する。

3-1)	対象者の精神状態を把握し、経過を述べることができる。	1) 入院の目的 2) 病態 症状 検査 治療 看護の経過と現在の状態 3) 現在の精神・薬物・作業療法の効果 4) 家族の意向や関係性	〈対象者に行われている治療〉 ・受け持ち患者に処方されている薬物について、作用・副作用を調べる。 ・精神科におけるや作業療法、SST、IMR、ピアカウンセリングなどの治療やリハビリの目的や治療効果について調べる。
3-2)	精神に障がいをもつ対象者の健康状態に必要な情報をもとにアセスメントできる	1) 生育歴 性格 認識の特徴 人的環境 生活環境 2) 生活行動パターン 距離感 3) 価値観 (こだわりや習慣) 4) セルフケア能力 (オレム・アンダーウッド6つの能力) 5) 対象者の状態観察および情報収集 (1)夜間の睡眠 (2)食事摂取量 排泄状況 体重 (3)バイタルサインの測定 (4)精神状態(MES) (5)対象者の様子や環境の変化 6)生活療法(生活支援) (1) 食事、清潔、(洗面、入浴、) 排泄、身の回りの整理、整頓 7)作業療法時の観察(直接的・間接的) (1)リハビリの目的・内容・方法 (2)参加状況・様子 (3)人間関係・関係性の育み方 (4)リハビリに対する認識・思いなど	・対象者の生育歴や疾患や発達に与えた影響をとらえる。 ・情報の繋がりを考えて、対象を理解する上で重要な情報をまとめる。(実習ノート) ・情報の整理やアセスメントの視点は、看護過程の講義資料を活用する。 ・対象者のアセスメントなどで困ったときは、メンバー間で意見やアドバイス、気づきを検討する。 ・「生物・心理・社会モデル」BPSの視点で分析する。 ・情報の整理からアセスメント、看護過程の内容は実習ノートに記述する。
3-3)	対象者の全体像を把握し、課題を説明することができる。	1) ストレngths (1)顕在 (2)潜在する能力 (3)レジリエンス (7つの力) 発見 ・洞察・独立性・関係性・イニシアティブ・創造性・ユーモア・モラル 2) セルフケアレベルの査定結果 3) 精神状態の査定 (MSE) 4) 健康の段階に応じた看護課題またはニーズ 5) 対象者の状態に応じて優先順位を決定	・全体像から見えてきた看護課題やニーズを抽出する。 ・対象者の看護課題や計画は実習ノートの行動目標や計画に記載し、実践する。ケースカンファレンスの翌日からはSOAPで記録する。 ・オレム・アンダーウッド6つのセルフケアレベルに基づいて計画を立てる。
3-4)	回復 (リカバリ) に向けたセルフケアレベルに合わせた看護支援計画を立案し、支援できる。	1) 回復 (リカバリ) 支援の計画立案 (1) 健康状態別看護支援 ・急性期：ニーズの充足、症状コントロール ・慢性期：生活・社会機能の回復および維持、促進	・講義の資料を活用し、看護課題やニーズは受け持ち対象者の「健康段階」に沿うように選択する。 ・看護計画の評価日や目標の評価指標は具体的に記載する。

		<p>(2)疾病および症状の基本的看護支援 (2) レジリエンスの活用 (3) セルフケアレベルに合わせた内容・方法 ・対象者自身がすること ・看護師がすること (4)具体的な支援内容：5W1H (5)個別性や対象特性を明確化した根拠</p> <p>1) 多職種それぞれの役割と機能 ・医師・看護師・薬剤師・栄養士 ・精神保健福祉士 ・社会福祉士 ・作業療法士 ・介護福祉士 ・理学療法士 ・公認(臨床)心理士 ・退院後生活環境相談員(コーディネーター)</p> <p>2) 多職種と看護の連携の必要性と看護の役割 3) 主治医の治療方針や予後、方向性 4) 対象者の作業療法の目的 対象者が抱えている社会的現状 生活実態や生活上の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像を拡大コピーし、ケースカンファレンスで発表する。 ・個人情報取り扱いのガイドライン、看護職の秘守義務を遵守し、個人識別情報は伏せ字で記載する。(臨地実習概要を必ず確認する) ・許可を得て対象者の診察の同席やリハビリの同行、カンファレンスに参加する。 ・担当の精神保健福祉士と調整し入院前・退院の方向性・家族などの情報を得る。 <p>事前学習：精神障がい者の社会復帰を支える制度 〈事前学習：精神障がい者の社会復帰を支える制度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉) ・「障害者総合支援法」における指定障害者福祉サービス事業所 ・社会復帰施設に関すること(制度などを含む) ・「地域連携図」の作成 受け持ち対象者の退院を見据えたイメージマップ 「対象者と家族に必要な制度や地域移行システムおよびサービス」 〈オリエンテーションを受ける〉 ・社会復帰施設の見学 ※学生同士で群がらない。利用者に不快感を与えないよう行動する。 ・利用者との交流 ・社会参加の実際の見学・同行 ※事前学習とオリエンテーション・見学実習を通しての学びをまとめ記載する。 ・社会復帰施設に通所あるいは入所している対象者と、医療施設入院患者との
4-1)	精神科における対象者の健康回復や地域移行における多職種の役割・機能と看護との連携について説明できる。	<p>1) 多職種それぞれの役割と機能 ・医師・看護師・薬剤師・栄養士 ・精神保健福祉士 ・社会福祉士 ・作業療法士 ・介護福祉士 ・理学療法士 ・公認(臨床)心理士 ・退院後生活環境相談員(コーディネーター)</p> <p>2) 多職種と看護の連携の必要性と看護の役割 3) 主治医の治療方針や予後、方向性 4) 対象者の作業療法の目的 対象者が抱えている社会的現状 生活実態や生活上の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体像を拡大コピーし、ケースカンファレンスで発表する。 ・個人情報取り扱いのガイドライン、看護職の秘守義務を遵守し、個人識別情報は伏せ字で記載する。(臨地実習概要を必ず確認する) ・許可を得て対象者の診察の同席やリハビリの同行、カンファレンスに参加する。 ・担当の精神保健福祉士と調整し入院前・退院の方向性・家族などの情報を得る。 <p>事前学習：精神障がい者の社会復帰を支える制度 〈事前学習：精神障がい者の社会復帰を支える制度〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」(精神保健福祉) ・「障害者総合支援法」における指定障害者福祉サービス事業所
4-2)	精神に障がいを持つ対象者の自律と社会生活支援を支える社会資源と地域包括ケアシステムについて理解する。	<p>1) 「精神保健福祉法」 (1)地域生活に関連する主な4つの法制度 ・精神保健福祉センター ・精神障害者保健福祉手帳 ・精神保健福祉相談員 ・精神障害者社会復帰促進センター</p> <p>2) 「障害者総合支援法」精神に障がいをもつ方の自立と地域生活を支えるための社会資源 (1)福祉サービスの分類とサービス (2)自立支援医療の制度目的と3区分 (3)相談支援の3区分</p> <p>3) 各サービスやサービス施設の見学 ・就労支援としての障害者授産施設 ・精神障害者生活訓練施設</p> <p>4) 社会復帰施設を利用している対象者の活動状況と生活状況</p> <p>5) 地域移行・地域定着における対象者および家族に対する様々な連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会復帰施設に関すること(制度などを含む) ・「地域連携図」の作成 受け持ち対象者の退院を見据えたイメージマップ 「対象者と家族に必要な制度や地域移行システムおよびサービス」 〈オリエンテーションを受ける〉 ・社会復帰施設の見学 ※学生同士で群がらない。利用者に不快感を与えないよう行動する。 ・利用者との交流 ・社会参加の実際の見学・同行 ※事前学習とオリエンテーション・見学実習を通しての学びをまとめ記載する。 ・社会復帰施設に通所あるいは入所している対象者と、医療施設入院患者との

		<p>(1)関連機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携 ・地域支援機関との連携 ・継続看護の方法 <p>(2)行政・事業所間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所・市町村・相談支援事業所 ・障害福祉サービス事業所 ・圏域障害者地域生活支援センター <p>(3)関連機関との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療的側面を支える医療機関との連携の方法 ・社会で自立していく為の地域支援機関との連携の方法 <p>(3)医療機関から地域へと移行していく為の継続看護の必要性</p> <p>3) 就労支援としての精神障害者授産施設や、生活支援としての援護寮・グループホームなどの概要</p> <p>4) 社会復帰施設を利用している対象の活動状況、生活状況</p>	<p>違いを理解し、精神障がい者に対して認識を深める。</p>
--	--	--	---------------------------------

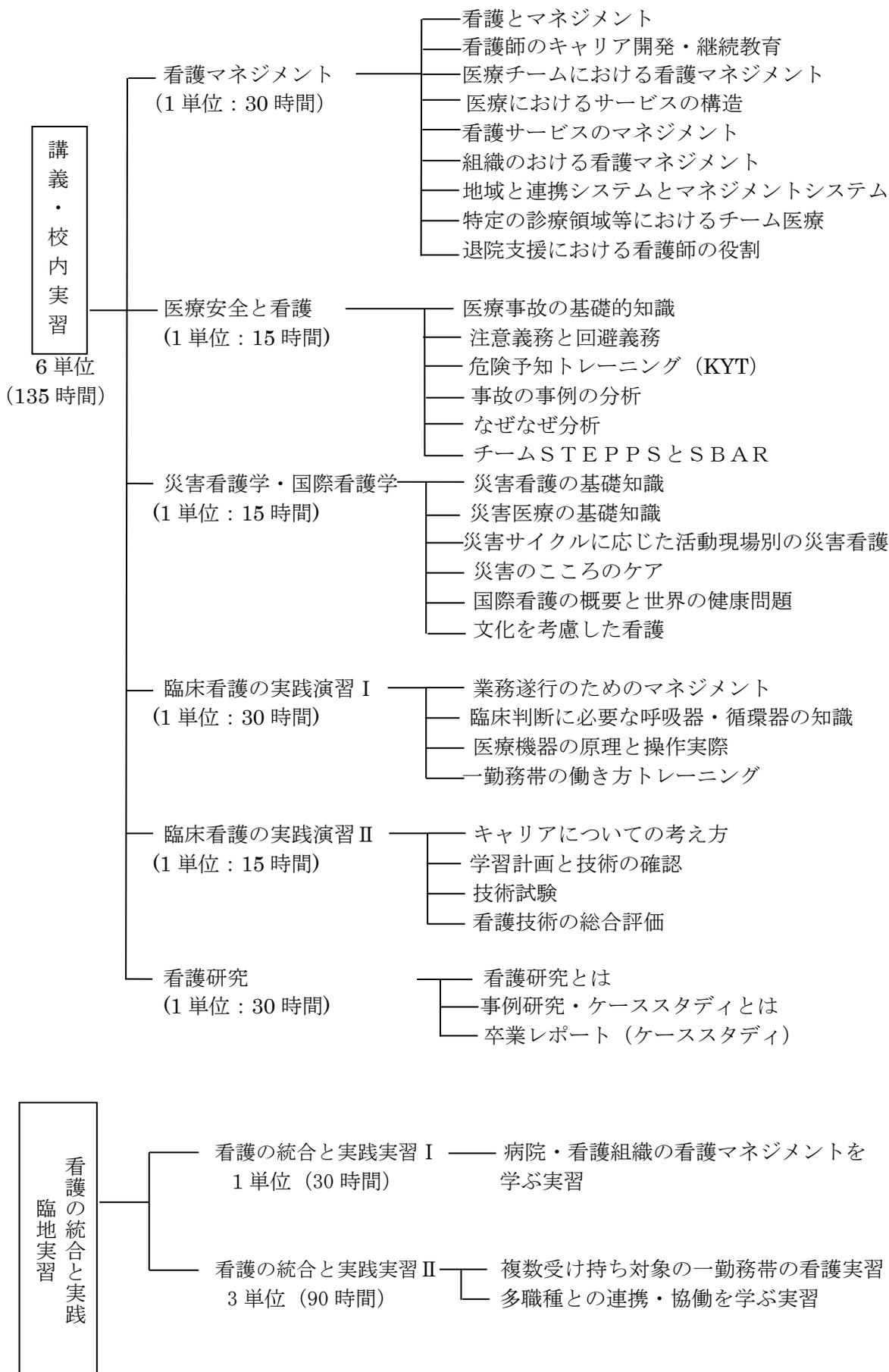
学習活動	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準			
				A	B	C	
				1)~6) A:5点 B:3点 C:1点 7) A:4点 B:3点 C:1点 8)~9) A:3点 B:2点 C:1点			
<p>1. 実習前の精神科について思っている素直な気持ちとこの実習で学びたいことを明確にする。</p> <p>2. 看護の実践 <1週目> (1) 病院・病棟オリエンテーションを受け、治療的環境と精神保健福祉法との関連の理解を深める。</p> <p>(2) 受け持ち患者を決め、コミュニケーションを取り交流を図る。受け持ち患者を理解するための情報収集を行う。</p> <p>(3) 自己のコミュニケーションをプロセスレコードで振り返り、自己洞察を深める。</p> <p>(4) 受け持ち患者に現在なされている治療や看護、日常生活や基本的ニーズの充足状況やストレスを把握する。</p> <p>(5) カンファレンスでお互いの体験を共有し、検討する。</p> <p><2・3週目> (6) 受け持ち患者と関わり関係性を深める。</p> <p>(7) 対象者の三側面の健康回復やセルフケアの自立に向けた看護展開を実施する。</p> <p>(8) 精神に障がいをもつ対象者やその家族の回復支援や社会復帰に必要な多職種連携と精神科における看護の役割について学ぶ。</p> <p>(9) 精神に障がいをもつ方々が住み慣れた地域で自立した生活を継続するための、地域包括支援や地域移行・地域定着支援について学ぶ。</p> <p>3. 実習のまとめ (1) 精神科看護を実践する上で大切なことをテーマに実習を通しての学び、成長をグループでまとめ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>(2) 学内に評価基準に沿って、自己の成長や課題を明確にする。</p>	<p>関心・意欲・態度(1)</p>	<p>1) 精神に障がいがあるという先入観にとられず対象者のありのまま受け入れようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションノート ・場面観察 ・関連図 ・ケースカンファレンス ・プロセスレコード ・所感 	<p>関わりや場面の観察を通して、対象者の言動、行動、表情、生活態度を受け入れ、自己の先入観や偏見を認め、積極的に関わる姿勢がある。</p>	<p>関わりや場面の観察を通して、対象者の言動、行動、表情から対象者の思いを理解し、受け入れる姿勢や積極的に関わりようとする姿勢はある。</p>	<p>障害の言動に捉われ対象者との時間や空間を直接共有することに消極的で難しい。</p>	
		<p>2) 対象者の精神疾患がその人の生活や生き方にどのような影響を受けたか関心を持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションノート ・場面観察 ・関連図 ・ケースカンファレンス ・所感 	<p>対象者の発達段階の特徴や成育歴、家族関係、疾病が、対象者の生活過程にどのような影響を与えているか積極的に理解しようとしている。</p>	<p>対象者の発達段階の特徴や成育歴、家族関係、疾病が、対象者の生活過程にどのような影響を与えているか理解しようとしている。</p>	<p>対象者の発達段階の特徴や成育歴、家族関係、疾病や生活過程に与えている影響に関連づけて理解しようとする姿勢がない。</p>	
		<p>3) 自己を客観視することで自己理解を深めることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プロセスレコード ・アピルカード 検討会 ・リフレクションノート ・実習前の気持ち(ビジョン・ゴール) ・場面観察 ・カンファレンス ・所感 	<p>自己のコミュニケーションの傾向を分析し自身と対象者との相互関係に影響していることに気づき、次の関わりに繋げて言語化(書く・説明する)できる。</p>	<p>自己のコミュニケーションの傾向を分析でき、自身と対象者との相互関係に影響していることに気づいているが、書くまたは説明することのどちらかができない。</p>	<p>自らの言動が他者との関係性に影響していることに気づくことはできるが、思い込みや勘違いのまま、自己を客観視(分析)できない。</p>	
	<p>技能・表現(3)</p>	<p>思考・判断(2)</p>	<p>4) 対象者のその日、その時、その状況の言動の意味をアセスメントし、治療的コミュニケーションを実施できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションノート ・プロセスレコード ・場面観察 ・カンファレンス ・所感 	<p>治療的コミュニケーションの技法を活用し対象者や家族のニーズや悩み、苦しみなどを感じ取り、または引き出しながら、客観的に思考する、また認識のズレを修正しながら、安心感や信頼感を獲得し、健康の維持・回復に繋がるコミュニケーションができる。</p>	<p>コミュニケーションの中で、対象者のニーズや悩み、苦しみなどを感じ取り、客観的に思考する、または認識のズレを修正しながら、健康回復・促進に繋がるコミュニケーションができる。</p>	<p>コミュニケーションの中で、対象者のニーズや悩み、苦しみなどを主観的受け止め、同情または同調となり、治療的なコミュニケーションを活用した支援ができない。</p>
			<p>5) 対象者の回復(リカバリ)段階に合わせ、ストレスやセルフケアレベルを活かした、看護計画が立案できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面観察 ・コミュニケーション ・リフレクションノート ・プロセスレコード ・ケースカンファレンス ・所感 	<p>対象者・および対象者の精神状態や、取り巻く環境に合わせ、ストレスとセルフケアの査定を活かした、看護計画の立案や評価・修正および変更が適切なタイミングでできる。</p>	<p>ストレスまたは、セルフケアの査定のどちらかを活かした看護計画の立案はできるが、対象者の精神状態および対象者を取り巻く環境の評価および修正や変更が適切なタイミングではできない。</p>	<p>ストレスや、セルフケアの査定を活かした看護計画の立案や変更が難しい。</p>
			<p>6) 対象者の健康状態に合わせた、セルフケア能力の維持向上、回復を引き出す支援ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面観察 ・コミュニケーション ・リフレクションノート ・プロセスレコード ・ケースカンファレンス ・カンファレンス ・所感 	<p>その時々精神症状と精神状態の観察をもとに健康状態の判断を行い、対象者と共に到達可能な目標を思考し、セルフケアレベルの維持・向上、回復(リカバリ)を引き出す支援ができる。</p>	<p>その時々精神症状と精神状態の観察や意思の確認を行いながら健康状態を判断し、対象者の生活行動パターンに合わせた、セルフケアの支援はできる。</p>	<p>その時々精神症状や精神状態を気にしているが、必要な観察や判断が曖昧なまま、対象者の生活行動パターンに合わせた支援を実施している。</p>
	<p>知識・理解(4)</p>	<p>関心・意欲・態度(1)</p>	<p>7) 入院施設における治療的環境の特徴と、権利擁護や倫理的思考・態度の関連について理解を深め、精神看護の特性について説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションの内容 ・リフレクションノート ・カンファレンス ・学内実習での学びの発表内容 ・事前学習 ・所感 	<p>精神科病棟に特徴的な構造、また入院形態や処遇の必要性や意味、倫理的配慮の重要性について述べることで、さらなる精神保健福祉法と照らし合わせ、病棟運用と関連づけて説明できる。</p>	<p>精神科病棟に特徴的な構造、また入院形態や処遇の必要性や意味、倫理的配慮について述べることで、さらなる精神保健福祉法と照らし合わせ、病棟運用と関連づけが一部不足している。</p>	<p>精神科病棟に特徴的な構造、また入院形態や処遇の必要性や意味、倫理的配慮について精神保健福祉法と照らし合わせ、病棟運用と関連づけが一部不足し、言語化(書く・説明する)ができない。</p>
			<p>8) 対象者の健康回復や地域移行における多職種の役割・機能と看護との連携について説明できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションノート ・場面観察 ・ケースカンファレンス ・事前学習 ・所感 ・地域連携図 	<p>対象者の退院後の生活を見据えた、看護師と多職種の連携の必要性やそれぞれの役割が理解し言語化できる。</p>	<p>対象者の退院後の生活を見据えた看護師と多職種の連携の必要性は理解できるが、それぞれの役割の理解が不十分なため言語化も不足している。</p>	<p>多職種連携の必要性は理解しているが、対象者の退院後の生活と関連づけやそれぞれの役割が理解できない。</p>
			<p>9) 精神に障がいをもつ対象の自律と、社会生活支援の制度について、理解し説明することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションノート ・カンファレンス ・見学実習を通しての学びのまとめ ・地域連携図 ・所感 	<p>対象や家族を地域で継続的に支える精神保健福祉法と障害者総合支援法の制度の違いや、包括的ケアシステムを理解し説明できる。</p>	<p>対象や家族を地域で継続的に精神保健福祉法と、障害者総合支援法の支える制度、包括的ケアシステムのどちらかは理解し説明できる。</p>	<p>対象や家族を地域で継続的に支える精神保健福祉法と、障害者総合支援法の制度や包括的ケアシステムの理解が繋がらない。</p>

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \(\^o^)/	B いいね (*^_^*)
考え抜く力 シンキング	課題発見力	患者・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		患者・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができる。
	計画力 創造力	患者・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出す力 アクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A すばらしい\(^o^)/	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^_^)♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	思考・判断 技能・表現	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的デー タを用いて、伝えることが できる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思 いを伝えることができ ない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴こう とする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができな い。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断・ 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出欠席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					Aすばらしい \(\^o\)/	Bいいね(*^_^*)	Cふぁいと (\^_^)♪
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。

科目構成



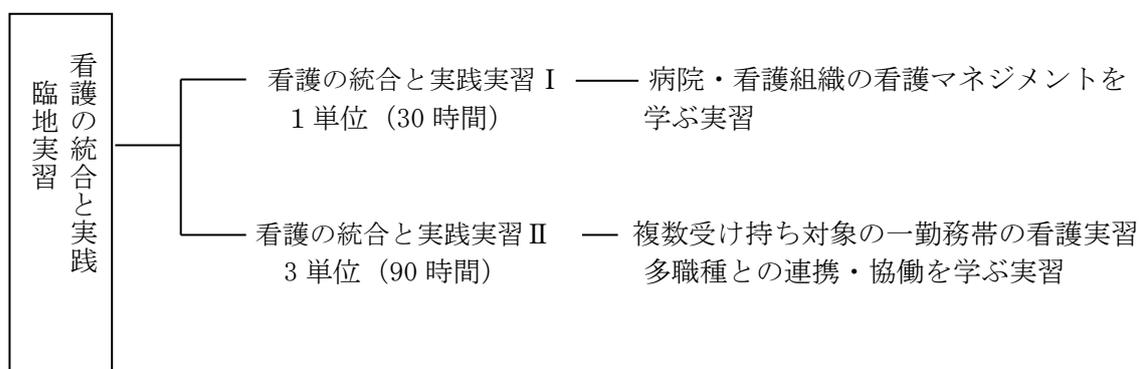
II 看護の統合と実践実習 I 目的・目標

目的：各専門領域の実習を踏まえ、病院組織や看護マネジメントを理解し、看護師の指示のもと実務に即した看護実践を行う。さらに地域でその人らしく生きるために保健・医療・福祉を視野にいれた多職種連携の看護実践に必要な基礎を学ぶ。

目標：

1. 病院組織の理念や概要をマネジメントの視点で理解することができる。
2. 看護組織を理解し、看護マネジメントに必要な要素を説明することができる。
3. 病棟組織を理解し、病棟管理者及び病棟リーダーの働きから安全な看護実践に必要な連携・協働の在り方を述べる事ができる。

III 実習体系・実習場所



実習場所

沖縄協同病院
 友愛医療センター
 豊見城中央病院
 与那原中央病院
 浦添総合病院
 南部徳洲会病院
 おもろまちメディカルセンター

実習計画

1. 実習時間

学内：9時00分～15時00分	(実習時間6時間：休憩90分)
病院：8時00分～15時00分	(実習時間8時間：休憩60分)

2. 実習スケジュール

看護の統合と実践実習 I (1単位 30時間)

	1日目	2日目	3日目	4日目
場所	学内	病院	病院	病院
内容	・オリエンテーション ・看護マネジメントの 文献検索	・病院の概要	・看護組織のマネジメント	・病棟マネジメント ・看護体験の語り

IV 実習内容及び実習方法

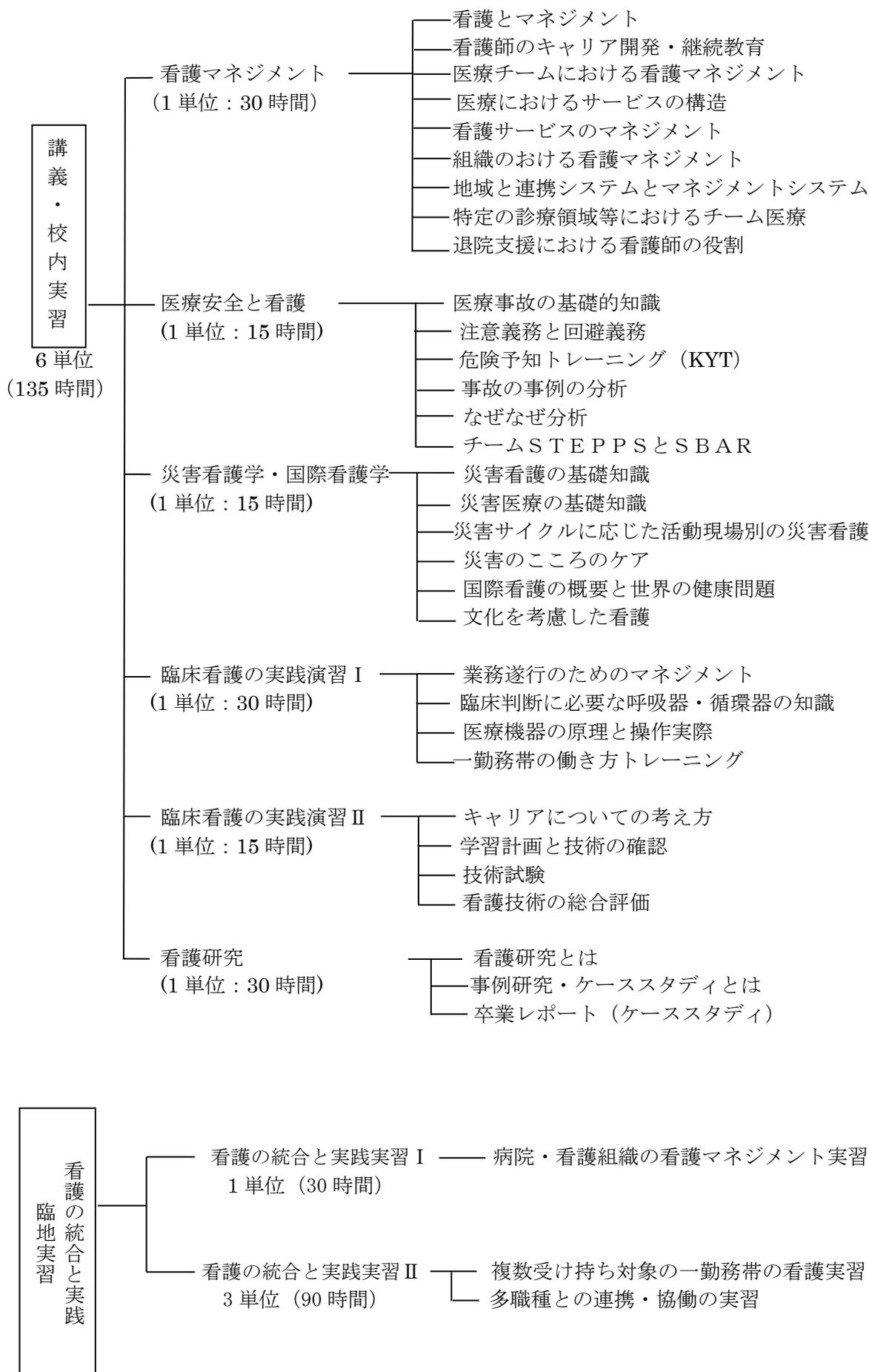
目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	1) 病院のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	<p>3. 施設の概要</p> <p>1) 病院の理念、組織の構成</p> <p>2. 病院の安全管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理者（セーフティーマネージャー） <p>3. 危機管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災体制・設備・訓練・災害時の初期対応 ・感染管理に関する取組 <p>4. 医薬品安全管理</p> <p>5. 診療情報の取り扱い</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療情報の開示 2) セカンドオピニオン 3) 感染症届出 <p>6. 各部署との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部、栄養部、検査部、放射線、外来、医事課、ME、リハビリなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の設備・構造の見学 討議の進め方 1) 全員で討議を進める。 2) 設定されたテーマで進める。 3) 当日の実習内容により、設定テーマを選定する。 4) これまでに体験した実習内容も含め意見を述べる。 ・調べ学習 実習施設の医療施設の類型 実習施設の地理的な特徴 地域の人口および地域の高齢化率 ・チームの一員であることを認識する。 ・多職種との連携協働を考える。 ・各部署の視点から看護師に求められる役割を理解する ・設置主体である医療法人の理念と目標、看護組織の理念と目標の関連性や一貫性について考える。
2	1) 看護組織のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	<p>1. 看護組織の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護部の理念と組織構成 2) 看護職員数 3) 看護単位と特徴 4) キャリア開発ラダーの活用 5) 専門看護師・認定看護師の種類と人数 6) 病院看護評価（患者満足度） 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部中央の活動と病棟における管理との連携と役割を考える。 ・救急入院の割合 ・クリティカルパスの運用状況 ・平均在院日数・病床利用率・在宅復帰率 ・入院患者の疾患の特徴、入院患者の平均年齢 ・看護師の配置数と年齢構成 ・卒業後をイメージし看護職のキャリア発展支援、卒後教育について情報を得る。 ・看護師長に同行実習しベッドコントロール状況を知る。
3	1) 病棟管理者及び病棟リーダーの役割を知り、病棟のマネジメントに必要な視点をもつことができる。	<p>1. 病棟管理の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者情報管理 2) 入退院情報管理（病床数および診療科構成） 3) 重症度、医療・看護必要度管理 4) 職員情報管理 5) 看護提供方法管理（プライマリー、固定チーム、PNSなど） <p>2. 病棟管理者の役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護部と現場との連携 2) 病棟の組織と構成メンバー 3) ベッドコントロール 4) 病棟組織における労務管理 5) 看護業務遂行のための業務管理 6) 看護業務遂行のための物的資源管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部中央の活動と病棟における管理との連携と役割を考える。 ・救急入院の割合 ・クリティカルパスの運用状況 ・平均在院日数・病床利用率・在宅復帰率 ・入院患者の疾患の特徴、入院患者の平均年齢 ・看護師の配置数と年齢構成 ・卒業後をイメージし看護職のキャリア発展支援、卒後教育について情報を得る。 ・看護師長に同行実習しベッドコントロール状況を知る。

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
	<p>2) 看護体験の語りを聞き、看護師の心構えをもつことができる</p> <p>3) 病棟に潜むリスクに気づくことができる</p>	<p>7) 看護業務遂行のための医薬品管理</p> <p>8) タイムマネジメント</p> <p>9) ストレスマネジメント</p> <p>2. 病棟リーダーの役割</p> <p>1) 指示受け</p> <p>2) チームの遂行状況の把握</p> <p>3) チーム間調整</p> <p>1. 看護体験の語りテーマ</p> <p>『1年目の看護師のリアリティーショック時の対応』</p> <p>『3年目以降の看護師の心が揺さぶられた看護体験』</p> <p>1. 看護組織内の報告・連絡</p> <p>(1) 看護部全体の管理に必要な報告</p> <p>(2) 医療事故発生や発生時対応に対する報告</p> <p>(3) 職員に関する報告</p> <p>2. P m S H E L Lモデルを活用しレポート作成</p>	<p>リーダー業務に同行実習する。指示受け業務など。</p> <p>・安全な看護実践のための連携・協働と関連させる</p> <p>・これまでの実習のヒヤリハット体験を基にP m S H E L Lモデルを活用し、環境要因、患者要因、看護師要因のどちらかのリスクの背景要因、対策を考える。</p> <p>①実習終了後にレポート提出</p> <p>②A4サイズのレポート用紙</p> <p>③組、学籍番号、氏名の記入</p> <p>④パソコン可</p>

	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A:10点	B:8点	C:5点
				A 素晴らしい \(\circ\)/	B いいね (*^_^*)	C ふぁいと(^_^)
主体性	関心・意欲・態度	1) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。
発信力	思考・判断 技能・表現	2) 他者へ自分の考えや思いを分かりやすく伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	他者へ自分の考えや思いを具体的な事例や客観的データを用いて、伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができる。	他者へ自分の考えや思いを伝えることができない。
傾聴力	興味・関心	3) 相手の意見や考えを丁寧に聴くことができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発言	視線を合わせて相づちをうつなど、自らの表情や聴く姿勢を配慮して内容の確認や質問などを行いながら丁寧に聴くことができる。	視線を合わせて相づちをうち、相手の話を素直に聴くことができる。	相手に関心を持つことやその人の意見を聴こうとする関わりができない。
柔軟性	思考・判断	4) 他者の意見や助言を理解し、活かすことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発言	他者の意見や助言を受け入れて理解し、次の行動に活かすことができる。	他者の意見や助言を受け入れ、その意味を理解することができる。	自分のやり方に固執し、意見や助言を受け入れることができない。
規律・責任性	思考・判断 技能・表現	5) 守らなければならないルールや約束・マナーを理解し責任ある行動がとれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒヤリハット、アクシデント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、それを規範に責任ある行動がとれる。	臨地実習の心得を理解しているが、それを規範とした責任ある行動はとれない。	臨地実習の心得を理解することができず、行動の規範について述べる事ができない。
自ら学び考える力	判断・関心・意欲・態度 技能・表現・思考	6) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。
病院組織	興味・関心 思考・判断 表現、態度	7) 集団討議で設定されたテーマで意見交換し、病院における組織の理解を深めることができる	記録用紙 病院の説明 集団討議	討議に積極的に意見交換し、病院組織、看護部、病棟の構成内容の記述と、これまでの実習の体験を関連させた新たな気づきの所感を表現できる	討議に積極的に意見交換し、病院組織、看護部、病棟の構成内容と所感を表現できる	討議で促されて発言し、病院組織、看護部、病棟の構成内容の記述のみとなっている。
看護組織のマネジメント	興味・関心 思考・判断 表現、態度	8) 集団討議で設定されたテーマで意見交換し、看護組織のマネジメントの理解を深めることができる	記録用紙 看護部の説明 集団討議	討議に積極的に意見交換し、看護組織に必要なマネジメントの内容記述と、これまでの実習の体験を関連させた新たな気づきの所感を表現できる	討議に積極的に意見交換し、看護組織に必要なマネジメント内容と所感を表現できる	討議で促されて発言し、看護組織に必要なマネジメント内容の記述のみとなっている。

病棟のマネジメント	興味、関心 思考、判断 表現、態度	9) 集団討議で設定されたテーマで 意見交換し、病棟のマネジメントの 理解を深めることができる	記録用紙 看護部の説明 集団討議	討議に積極的に意見交換 し、病棟のマネジメント の内容記述と、これまでの 実習の体験を関連させ た新たな気づきの所感を 表現できる	討議に積極的に意見交 換し、病棟のマネジメン ト内容と所感を表現で きる	討議で促されて発言し、 病棟のマネジメント内 容の記述のみとなって いる。
リスクの分析	興味、関心 思考、判断	10) 病棟に潜むリスクに気づき、 レポートで報告できる	レポート	事象が分かるように記述 し、PmSHELL を活用し て解決策が考えられ、所 感も記述されている。	事象が分かるように記 述し、PmSHELL を活 用して解決策が記述さ れている。	事象が不明確のまま PmSHELL のみで記述 されている。

科目構成



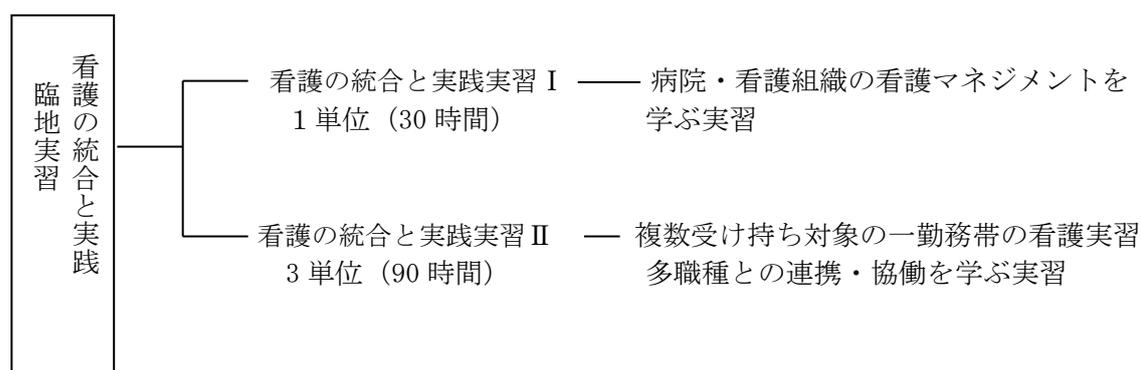
II 看護の統合と実践実習Ⅱ 目的・目標

目的：各専門領域の実習を踏まえ、病院組織や看護マネジメントを理解し、看護師の指示のもと実務に即した看護実践を行う。さらに地域でその人らしく生きるために保健・医療・福祉を視野にいたした多職種連携の看護実践に必要な基礎を学ぶ。

目標：

1. 複数受け持ちの対象の一勤務帯の日常生活の援助を実施することができる。
2. 専門チームと退院支援の働きを理解し、チーム医療の役割を述べることができる。
3. 保健・医療・介護を視野に入れて地域でその人らしく生活していくための支援を述べることができる。

III 実習体系・実習場所



実習場所

沖縄協同病院
友愛医療センター
豊見城中央病院
与那原中央病院
浦添総合病院
南部徳洲会病院
おもろまちメディカルセンター

実習計画

1. 実習時間 学内①：9時00分～15時00分（実習時間6時間：休憩90分）
 学内②：9時00分～12時00分（実習時間4時間）
 病院：8時00分～15時00分（実習時間8時間：休憩60分）

2. 実習スケジュール

看護の統合と実践実習Ⅱ（3単位 90時間）

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
場所	学内①	病院	病院	病院	病院
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・看護マネジメントの文献検索 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者選定 ・情報収集 ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加
	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
場所	病院	病院	病院	病院	病院
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加 ・関連図の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの実践 ・チーム医療へ参加 ・関連図の発表 ・所感の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療へ参加（NST、褥瘡等） ・専門チームへ参加（各認定看護など） ・地域連携室へ参加 ・退院支援室へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援情報収集 ・チーム医療へ参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援情報収集 ・チーム医療へ参加
	11日目	12日目			
場所	病院 (チーム医療室) (地域連携室) (退院支援室)	学内②			
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援情報収集 ・チーム医療へ参加 ・提案書の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマカンファレンス 			

IV 実習内容及び実習方法

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
1	<p>1) 一勤務帯のケア計画を立案することができる</p> <p>2) 看護実践を指導者・教員の監視下で、一勤務帯の看護実践ができる</p> <p>3) 病棟の退院支援の活動を説明できる</p>	<p>1. 情報収集</p> <p>1) 記録物（電子カルテ）からの情報収集</p> <p>2) 本人からの情報収集</p> <p>3) フローチャートや検査データの情報収集</p> <p>2. ケア計画の立案</p> <p>3. タイムスケジュールの立案</p> <p>4. 立案したケア計画のスケジュールの共有</p> <p>5. 全体申し送りへの参加</p> <p>6. ケアカンファレンスへ参加</p> <p>1. 複数受け持ちの対象の看護実践</p> <p>1) ケアの実践</p> <p>2) 業務遂行の確認</p> <p>3) リーダーへの報告・相談</p> <p>2. チームで動く業務への参加</p> <p>1) 病棟スタッフ間のチーム</p> <p>2) 学生間のチーム</p> <p>3. 夜勤者への伝達</p> <p>1. 退院カンファレンス</p> <p>1) 参加職種</p> <p>2) カンファレンスの進め方</p> <p>3) 各職種の役割</p> <p>4) 職種間の関係方法</p> <p>5) 対象者と家族との関わり方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象を二人受け持つ。 ・退院支援提案書に必要な情報収集をしておく ・基礎情報用紙を活用する。 ・受け持ちの説明と同意を忘れない。 ・病棟で立案されたケア計画を基に立案する。 ・病棟の週間業務も参考にする。 ・日々、受け持ちとグループ全体のタイムスケジュールを計画する。 ・ケア計画・タイムスケジュールを調整する。 ・学生スケジュール表を活用しメンバー全員のケアを共有する。 ・ケアの優先順位や時間配分を考えて実施する。 ・対象の状況に合わせ、個別的なケアを実施する。 ・チームの業務へ主体的に参加し、学生間でも協力・連携する。 ・各自が夜勤者への伝達を1回実施する。 ・受け持ち対象の状態、検査の状況、ケア計画の達成状況、ケアなどの実施状況、家族や医師からの情報、他部門から得られた情報などのアドバイスを受けて実施する。 ・受け持ち以外でも退院カンファレンスに1回は参加する。

目標	行動目標	実習内容	方法及び留意点
2	1) 多職種の仕事の説明ができる	<p>1. チーム医療の仕事 (NST・褥瘡・転倒転落など)</p> <p>1) チームの名称 2) カンファレンスの進め方 3) チームを形成する目的 4) チームによって得られる効果 5) 関係する職種とチームにおける役割 6) チームの運営に関する事項</p> <p>2. 専門チームのラウンド (各認定看護師など)</p> <p>1) チームの名称 2) カンファレンスの進め方 3) チームを形成する目的 4) チームによって得られる効果 5) 関係する職種とチームにおける役割 6) チームの運営に関する事項</p> <p>3. 地域連携室の仕事</p> <p>1) チームの名称 2) チームを形成する目的 3) チームによって得られる効果 4) 関係する職種とチームにおける役割 5) チームの運営に関する事項</p> <p>4. 退院支援室の仕事</p> <p>1) チームの名称 2) チームを形成する目的 3) チームによって得られる効果 4) 関係する職種とチームにおける役割 5) チームの運営に関する事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間のシャドーイング ・ チームカンファレンスへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間のシャドーイング ・ チームカンファレンスへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間のシャドーイング ・ チームカンファレンスへの参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4日間のシャドーイング ・ チームカンファレンスへの参加
3	1) 受け持ち対象の全体像を捉え退院支援の提案ができる	1. 関連図・退院支援提案書の発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICF と ICD の視点をもつ ・ 学生と教員・指導者で関連図・退院支援提案の発表をする。
	2) 地域包括ケアシステムの課題を考えることができる	1. レポート作成 テーマ 『地域包括ケアシステムの課題』 実習の実践内容や考察を報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習終了後に提出 ① A4サイズのレポート用紙 1枚にまとめる (PC可) ② 表紙なし 上部に組、学籍番号、氏名の記入 ③ 上段の中心にレポートのタイトル
	3) カードメゾットを活用して学びの共有をすることができる	1. カードメゾット作成 (テーマ) 『その人がその人らしく生活していくために必要な支援』について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学内まとめにむけて、テーマを意識して付箋紙を作成しておく。

	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
				A 素晴らしい \(\sigma^o\)/	B いいね (*^_^*)	C ふぁいと(^.^)♪
				1) A: 5点 B: 3点 C: 1点 2) ~6) A: 7点 B: 5点 C: 3点		
ケア計画の立案	興味、関心 思考、判断	1) 複数受け持ち対象のケア計画の立案ができる。	実習ノート 実習場面 ワークシート ケアカンファレンス 関連図	コミュニケーションを活かしたフィジカルイグザミネーションで情報収集し、対象に必要なケア計画立案ができる	コミュニケーションを活かして情報収集し、対象に必要なケア計画立案ができる	コミュニケーションを活かして情報収集しているが、病棟のルーチン業務的なケア計画立案している。
ケアの実践	興味、関心 思考、判断 表現、態度	2) 複数の対象の一勤務帯の看護実践ができる	実習ノート 実習場面 ケアカンファレンス カンファレンス 報告	助言を得て適切な対象の状況判断からケアの優先順位を考え、時間管理しながら日常生活のケアが実施できる。	助言と実践サポートを得る事で対象の状況判断からケアの優先順位を考え、時間管理しながら日常生活のケアが実施できる。	助言と実践サポートを得る事で対象の状況判断からケアの優先順位を考え、日常生活のケアが実施できる。
看護チームの連携・協働	興味、関心 思考、判断 表現、態度	3) チームワークを活用し業務遂げることができる	実習ノート 実習場面 ケアカンファレンス カンファレンス 報告 記録	助言を得て報告・相談・連絡・確認し、主体的に病棟のチームおよび学生間で業務を調整しながら連携・協働できる。	助言と実践サポートを得て報告・相談・連絡・確認し、主体的に学生間で業務を調整しながら連携・協働できる。	助言と実践サポートを得て報告・相談・連絡・確認し、促されて学生間で業務を調整しながら連携・協働できる。
多職種連携・協働	興味、関心 思考、判断 表現、態度	4) 多職種連携・協働の構成と活動を説明できる	実習ノート 実習場面 カンファレンス 記録	事前に疑問を持ってシャドーイングに参加し、積極的に質問などをして活動内容を記述できる	シャドーイングに参加し、積極的に質問などをして活動内容を記述できる	シャドーイングに参加し、活動内容を記述できる
退院支援提案書	興味、関心 思考、判断	5) 対象が地域でその人らしく生活していくための支援を考えることができる	退院支援提案書	ICFの視点を持ち、退院支援提案書の枠組みを活用し、実現可能な目標設定で退院後の生活を考慮した提案ができる	退院支援提案書の枠組みを活用し、実現可能な目標設定で退院後の生活を考慮した提案ができる	退院支援提案書の枠組みを活用し、退院後の生活を考慮した提案ができる
保健・医療・介護の取り組み	興味、関心 思考、判断	6) 地域包括ケアシステムの現状を理解し地域包括ケアシステムの課題をレポートで報告できる	レポート	事前の課題・文献を調べ学習と実際の多職種連携・協働の活動内容を踏まえ、適切な文章表現で地域包括ケアシステムの課題を考察し記述できる	事前の課題・文献を調べ学習と実際の多職種連携・協働の活動内容を踏まえ、地域包括ケアシステムの課題を記述できる	事前の課題・文献を調べ学習と実際の多職種連携・協働の関連が浅く、地域包括ケアシステムの課題が不十分のまま記述している

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					1)～3) A:5点 B:3点 C:1点 4)～18) A:3点 B:2点 C:1点	A 素晴らしい \ (^o^)/	B いいね (*^_^*)
考え抜くカシンキング	課題発見力	思考・判断	1) アセスメントに必要な情報を三側面と生活者の視点から収集することができる	記録物 (対象の情報用紙) リフレクション場面	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し、対象の反応に合わせて追加することができる。	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から整理し収集することができる	アセスメントに必要な情報を身体的・精神的・社会的側面と生活者の視点から収集できない。
		思考・判断	2) 対象を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を明確にすることができる。	記録物 (対象の全体像・解決すべき課題) リフレクション場面	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、優先順位を考えた対象の看護上の課題を明確にすることができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントし、看護上の課題を抽出することができる。	対象の反応を三側面と生活者の視点からアセスメントすることができない。
	計画力 創造力	思考・判断	3) 対象の個性を踏まえた看護計画を立案することができる	記録物 (行動計画・看護計画) リフレクション場面 ケースカンファレンス	対象の安全、安楽、個性を活かして、創意工夫した看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画を立案することができる。	対象の安全、安楽を考えた看護計画の立案ができない。
前に踏み出すカアクション	働きかけ力	技能・表現	4) 対象のセルフケア能力を考え、自立を目指した働きかけができる	記録物 実習場面 リフレクション場面	対象のセルフケア能力を評価し、対象の自立を目指して、目標に向かって意図的に働きかけることができる。	対象のセルフケア能力を考え、対象の自立を目指して働きかけているが、目的・方向性について明確に説明できない。	対象のセルフケア能力を考えることや自立を目指した働きかけの必要性について説明できない。
		技能・表現	5) 対象の健康回復のために周りの支援を受ける行動がとれる。	看護実践 リフレクション場面 グループ活動 能動的学習	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、医師、コメディカル、チームメンバーに声をかけ、支援を受ける行動ができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーに声をかけ、支援を受けることができる。	対象によりよい看護を提供するために、臨床指導者、教員、チームメンバーの支援を必要とすることを説明できない。
	実行力	技能・表現	6) 対象の問題解決に向けて、目標や計画を評価・修正しながら看護を実践し解決するまで取り組むことができる	記録物(看護計画) 実習場面 リフレクション場面	対象の個別状況に即して目標や計画を評価・修正し、課題達成するまで看護を実践できる。	対象の個別状況に即して計画を評価・修正し、看護を実践できる。	対象の課題達成に向けて、計画に沿って、看護を実践することができない。
	主体性	関心・意欲・態度	7) 看護の知識や技術を向上させるため、自らの意思で積極的に学習を進め、実習に取り組むことができる	記録物 知識・技術の事前・事後学習 実習場面 リフレクション場面	実習の目的や目標・自己の課題達成に向けて、自らの意思で積極的に学習に取り組むことができる。	実習の目的や目標、自己の課題は明確にしているが、達成に向けて主体的に学習に取り組むことができない。	実習の目的や目標、自己の課題達成を明確にできず、学習に取り組むことができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評価基準 A：3点 B：2点 C：1点		
					A ずばらしい(〇)／	B いいね(*^_^*)	C ふぁいと(^^♪♪
チームで働く力 チームワーク	発信力	思考・判断 技能・表現	8) 他者へ自分の考えや 思いを分かりやすく 伝える事ができる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	他者へ自分の考えや思いを 具体的な事例や客観的デー タを用いて、伝えることが できる。	他者へ自分の考えや思い を伝えることができる。	他者へ自分の考えや思 いを伝えることができ ない。
	傾聴力	興味・関心	9) 相手の意見や考え を丁寧に聴くことが できる	記録物 実習場面 カンファレンスでの発 言	目線を合わせて相づちをう つなど、自らの表情や聴く 姿勢を配慮して内容の確認 や質問などを行いながら丁 寧に聴くことができる。	目線を合わせて相づちを うち、相手の話しを素直に 聴くことができる。	相手に関心を持つこと やその人の意見を聴く ようとする関わりができ ない。
	柔軟性	思考・判断	10) 他者の意見や助 言を理解し、活かす ことができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	他者の意見や助言を受け入 れて理解し、次の行動に活 かすことができる。	他者の意見や助言を受け 入れ、その意味を理解する ことができる。	自分のやり方に固執 し、意見や助言を受け 入れることができな い。
	状況把握 力	思考・判断	11) 周りの状況を判 断し、行動ができる	記録物 実習場面 リフレクション場面 カンファレンスでの発 言	周囲の人の状況（人的・物 理的環境）を判断し、どの ように行動すべきなのかを 考えて状況が良くなるよう に行動することができる。	周囲の状況を判断し、どの ように行動すべきか理解 しているが、行動に移せな い。	周囲の状況を判断する ことができない。
	規律・ 責任性	思考・判断 技能・表現	12) 守らなければな らないルールや約 束・マナーを理解 し責任ある行動が とれる	記録物 実習場面 連絡・相談・報告、ヒ ヤリハット、アクシデ ント報告書 リフレクション場面	臨地実習の心得を理解し、 それを規範に責任ある行動 がとれる。	臨地実習の心得を理解し ているが、それを規範とし た責任ある行動はとれな い。	臨地実習の心得を理解 することができず、行 動の規範について述べ ることができない。
	ストレス コントロ ール力	思考・判断	13) ストレスを成長の 機会と前向きに捉え、克 服することができる	出席席 健康状態（食事、睡眠） リフレクション場面 実習態度 課題遂行状況	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 え対処し、成長に繋げるこ とができる。	ストレスの原因を見つけ、 自力で、または、他人の力 を借りて、気持ちを切り替 えることができる。	ストレスを対処するこ とができない。

能力	能力要素	評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A：3点	B：2点	C：1点
倫理	倫理性	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	14) 対象者の知る権利を保障することができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を対象が理解し納得できる様、説明することができる。	看護支援を実施する前にその根拠と実施方法を説明することは理解しているが、対象者が納得できるような説明はできない。	看護支援を実施する前に支援の実施方法について説明する責任があることを理解していない。
			15) 対象の意思決定を尊重し、看護支援に反映できる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物	対象の意思決定を尊重し、看護支援を修正・変更し実施できる。	対象の意思決定を尊重することはできるが、それに応える支援の修正・変更ができない。	対象の意思決定を尊重して看護支援の修正・変更が必要であることを説明できない。
			16) 実習で関わる施設及び対象に関する情報の秘密を守ることができる (守秘義務遵守)	実習場面 リフレクション場面 記録物 (レポート作成)	看護者の守秘義務を理解し、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を意識することで(コントロール)、守る事ができる。	看護者の守秘義務を理解しているが、実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動が伴わない。	看護者の守秘義務を理解することができず実習で関わる施設及び対象の私事に関する情報を守る行動ができない。
			17) 対象に公平に向き合うことができる	実習場面 リフレクション場面 記録物	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解し行動できる。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解しているがその行動ができない。	受け持ち対象・その他の対象へ向き合うことを理解できず、その行動ができない。
学習	自ら学び考える力	技能・表現・思考・判断・関心・意欲・態度	18) 自らの行為を振り返り、成長へつなげることができる	実習場面 カンファレンスでの発言 記録物 評価表 リフレクション場面 技術経験・評価 記録	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し課題を見つけ、成果を褒め表現することができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価し、課題を見つけることができる。	スケールや評価表を用いて自分を客観的に評価することができない。